

兵庫県立 こども病院 年報 2015 VOL.46

兵庫県立こども病院年報

2015 VOL.46



HYOGO PREFECTURAL
KOBE CHILDREN'S HOSPITAL ANNUAL REPORT 15 VOL.46

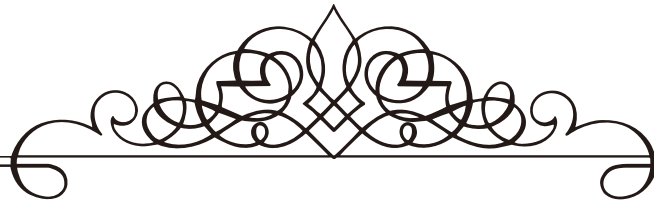


基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

基本方針

- 1 患者の権利を尊重した医療の実践
- 2 安全・安心と信頼の医療の遂行
- 3 高度に専門化されたチーム医療の推進
- 4 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
- 5 親とこどもが一体となった治療の推進
- 6 こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
- 7 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
- 8 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

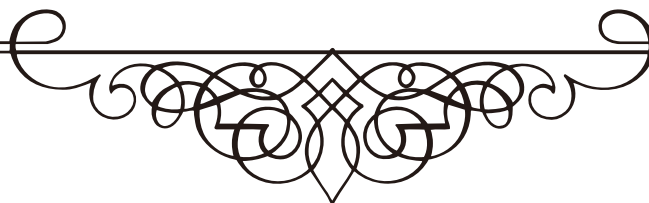


患者の権利

- 1 あなたはひとりの人間として尊重され、おもいやりのある医療を受ける権利があります。
- 2 あなたとご家族は、理解しやすい言葉や方法で十分な説明と情報を得て、治療計画に参加する権利があります。
- 3 あなたとご家族には、治療方針について同意や拒否する権利及びセカンドオピニオンを受ける権利があります。
- 4 あなたとご家族のプライバシーは守られます。

みなさまと私たちがお互いを尊重しあい、良質な医療を実現していけるよう次のことにご協力ください。

- 病気について理解し、安心して医療が受けられるよう。今までの経過・病状の変化や問題について詳しく正確にお知らせください。
- 病院のきまりや約束ごとをお守りください。



はじめに

兵庫県立こども病院
病院長 長嶋 達也

はじめに、兵庫県立こども病院に期待を寄せ、見守り応援してくださるすべての皆様に感謝申し上げます。2015年度の歩みを記録した年報をお届けいたします。年報を通じて当院の活動へのご理解が深まり、一層のご支援、ご指導を賜ることができれば幸いに存じます。

新病院の整備も予定通り進み、2016年5月1日に移転・開院を迎えます。2014年4月に「小児がん医療センター」と「小児心臓センター」を新たに開設し、総合周産期母子医療センターが加わり、4本の大黒柱になりました。

両センターも軌道に乗り、これらの疾患の包括的な治療体制の整備が進みました。2015年10月には、こども病院に隣接した「小児がん重点を置いた新しい粒子線治療施設」の起工式が執り行われ、建設が予定通り進みつつあります。2016年4月には小児がんに対する陽子線治療の保険適用が認められて、期待が高まっていることを感じます。

一方、兵庫県下の総合周産期母子医療センターが6カ所になるという大きな変化がありました。当院では極めてリスクの高い新生児の治療やあらゆる困難な外科的治療が可能であるという、他にはない特性を生かして、広域を支える「最後の砦」として機能してまいります。また、小児救急医療センターは、新病院におけるヘリポートの整備を見据えて、より広範囲から重症の救急症例を受け入れる準備を進めています。また、「断らない」救急を目指して体制整備を急いでいます。隣接して整備を進めていた家族滞在施設は(財)「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ」にその運営を委託し、日本の11番目のマクドナルドハウスとなります。「神戸ハウス」と名付けられて、すでに200名を超えるボランティアの登録が進んでいます。ご家族を支える心強い味方となってくれるものと信じています。3月末現在、新しい医療情報システムの整備も最終段階に至り、2回目のリハーサルを行っています。人工呼吸器が必要な小さな赤ちゃん達の引っ越しのリハーサ

ルも入念に行っているところです。多くの期待を担って素晴らしいこども病院となるよう力を尽くしたいと存じます。

こども病院は、多くの方々の温かい支援を得ることにより初めてその力を発揮いたします。本年度を通じて当院の医療を支えてくださった皆様に心より御礼申し上げます。間もなく始まる2016年度は、新病院で迎える特別な1年となります。一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

I 病 院 概 要

1 兵庫県立こども病院の設立目的	1
2 沿 革	1
3 業 務 図	4
(1) 機構一覧表	4
(2) 担当医師表	5
(3) 外来診療スケジュール	6
4 職 員	7
(1) 職種別人員表	7
5 近畿厚生局長への届出に関する事項	8
6 研修・教育認定施設内容	9
7 委員会一覧	10

II 医 事 経 理 関 係

15

III 診 療 統 計

1 総合診療科	31
2 救急集中治療科	32
3 代謝・内分泌科	36
4 リウマチ科・アレルギー科	37
5 脳神経内科	38
6 血液・腫瘍内科	40
7 循環器内科	43
8 腎臓内科	45
9 精神神経科	47
10 小児外科	49
11 心臓血管外科	55
12 脳神経外科	58
13 形成外科	60
14 整形外科	61
15 眼科	62

16	耳鼻咽喉科	64
17	泌尿器科	68
18	小児歯科	69
19	麻酔科	70
20	新生児科	72
21	産科	75
22	放射線科	81
23	病理診断科	83
24	看護部	84
25	薬剤部	95
26	検査・放射線部（検査部門）	99
27	検査・放射線部（放射線部門）	107
28	栄養管理部	111
29	指導相談・地域医療連携部	116
30	ME室	122
31	理学療法	123
32	医療安全管理室	124
33	感染対策管理室	126
34	褥瘡管理室	129
35	がん相談支援室	130

IV 学会・研究・教育活動

1	書籍	131
2	雑誌	132
3	学会発表	150
4	報道関連	175
5	実習生・研修生受け入れ状況	176
6	長期院外研修	179

V	ボランティア	203
---	--------	-----

I 病 院 概 要

1. 兵庫県立こども病院の設立目的

こども病院は、小児治療が内科疾患を除いては、成人と同じ環境で診療が行われている現状と、ますます進展しつつある専門化、細分化した医学を基礎とした小児特有の検査、診断、治療を行いうる小児専門病院の設置を望む社会的要請に応えて、県政100年の記念事業の一環として、昭和45年に開設されました。これは、小児病院の業務に加え、異常児の出生予防、小児の精神保健、各科医療に伴う訓練部門等の医療行政もあわせて行う、小児メディカルセンターでもあります。

具体的には、

- (1) 近代小児医療の進歩、在り方に則し、小児疾患の診断と治療に関する高度に専門化、細分化した機能を総合的に発揮できること。
- (2) 小児に関する医療相談機関であること。
- (3) 小児の保健衛生に関する行政分野に対して、あらゆる面で協力機関であること。
- (4) 小児医療従事者の育成研修期間であること。

などがあります。

平成6年10月には、ハイリスク母子の救命を図ることを目的とし、ハイリスク母子の24時間体制受け入れ、妊産婦、胎児、新生児の管理を連続かつ一体的に行うことのできる周産期医療センターをオープンしました。

また、平成14年10月より県下の第3次小児救急の拠点として救急医療室を開設し、その後、平成19年10月に、機能を一層充実させた小児救急医療センターを新たにオープンしました。

2. 沿革

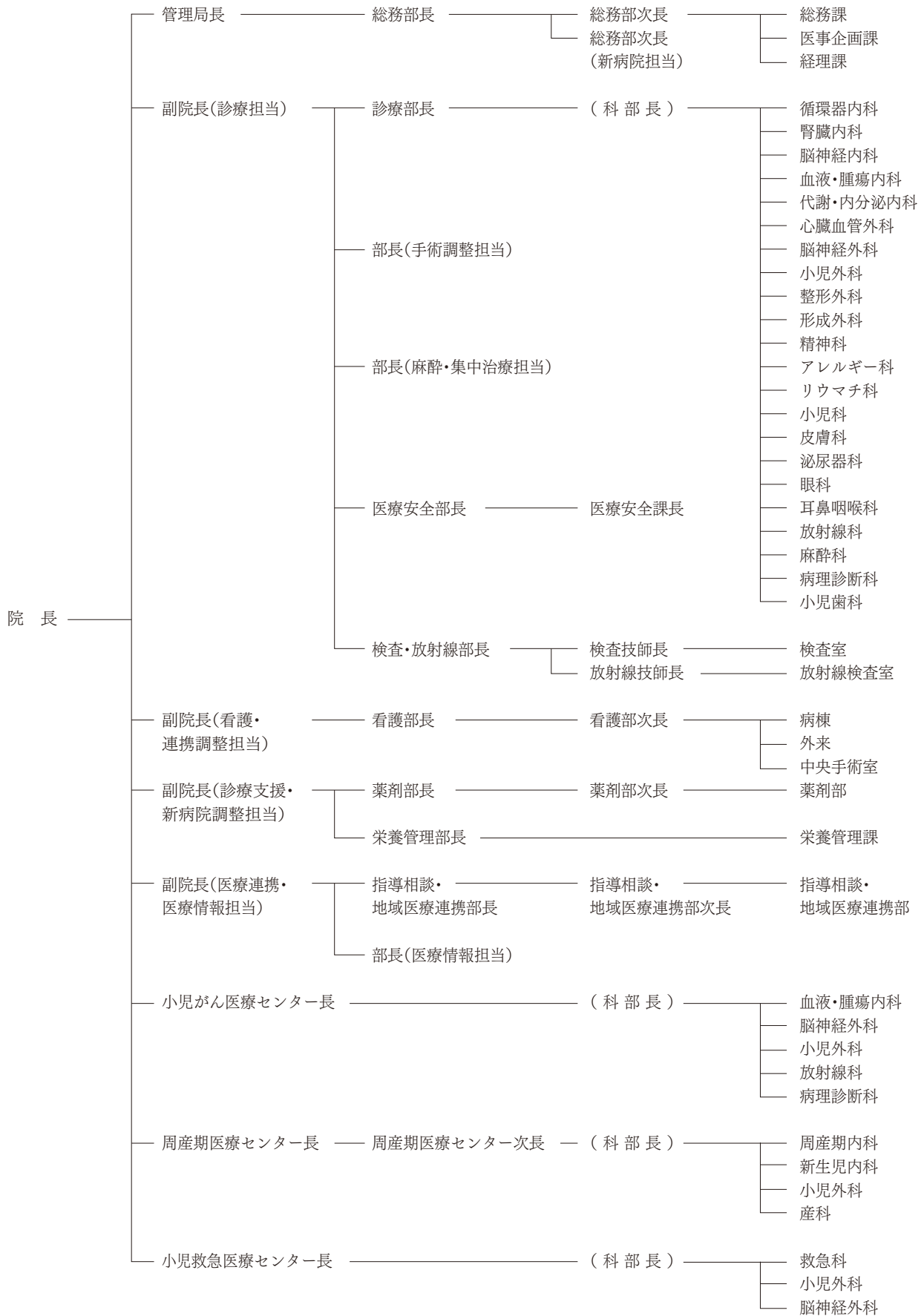
- | | | |
|-------|-------------|---|
| (1) 名 | 称 | 兵庫県立こども病院 |
| (2) 開 | 設 | 昭和45年4月1日（現管理者 長嶋 達也） |
| (3) 所 | 在 | 地 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1 TEL 078-732-6961（代表） |
| (4) 診 | 療 | 科 目 精神科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、循環器内科、腎臓内科、脳神経内科、血液・腫瘍内科、代謝・内分泌内科、周産期内科、新生児内科、整形外科、形成外科、脳神経外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、心臓血管外科、産科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科、小児歯科 |
| (5) 病 | 床 | 数 一般290床（稼働266床） |
| (6) 沿 | 革 | |
| | 昭和45年4月1日 | 病院開設（管理者 平田 美穂） |
| | 昭和45年4月30日 | 病院本館完成 |
| | 昭和45年5月8日 | 診療開始 |
| | 昭和45年7月23日 | 基準寝具実施（寝第295号） |
| | 昭和45年9月17日 | 基準給食実施（食第307号）基準看護実施（看第130号） |
| | 昭和46年12月28日 | 母と子の指導教室完成現在は母と子の教室と呼称 |
| | 昭和47年2月1日 | 基準看護一般特類変更承認（険第98号） |
| | 昭和47年12月1日 | 基準看護精神特類変更承認（険第219号） |

昭和 49 年 10 月 1 日	基準看護一般特二類変更承認（険第 108 号）基準看護精神特一類変更承認（険第 108 号）
昭和 50 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 児嶋 喜八郎）
昭和 54 年 3 月 31 日	全館防災設備工事完成
昭和 54 年 8 月 2 日	日本脳神経外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 55 年 4 月 1 日	昭和 55 年 3 月 26 日兵庫県条例第 11 号兵庫県病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例により診療科目改正、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科を追加
昭和 56 年 5 月 5 日	シアトル小児整形外科病院医療センターとの間に姉妹病院提携
昭和 56 年 10 月 7 日	日本外科学会認定医制度による指定訓練場所として認定される
昭和 56 年 10 月 12 日	日本麻酔学会認定医制度による指導病院として認定される
昭和 56 年 12 月 6 日	日本胸部外科学会認定医認定制度による指定訓練場所として認定される
昭和 57 年 4 月 1 日	日本小児外科学会認定医制度による認定医育成施設として認定される
昭和 58 年 4 月 1 日	日本病理学会認定病理医制度による認定病院として認定される
昭和 58 年 4 月 11 日	日本整形外科学会認定医制度研修施設として認定される
昭和 58 年 10 月 1 日	日本眼科学会専門医制度による研修施設として認定される
昭和 60 年 3 月 18 日	プリンセス・マーガレット小児病院との間に姉妹提携
昭和 60 年 3 月 28 日	日帰り手術棟完成
昭和 60 年 4 月 3 日	日本形成外科学会認定医研修施設として認定される
昭和 60 年 4 月 15 日	日帰り手術棟手術開始
昭和 61 年 3 月 31 日	日本小児科学会認定医制度による研修施設として認定される
昭和 61 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 玉木 健雄） 日本泌尿器科学会専門医教育施設として認定される
昭和 61 年 10 月 1 日	日本医学放射線学会専門医制度規定による修練機関として認定される
昭和 62 年 1 月 22 日	自家発電設備改良工事完成
平成元年 2 月 1 日	外国医師臨床習練制度による研修施設として認定される
平成 3 年 5 月 1 日	基準看護一般特三類（一部）変更承認（険第 220 号）
平成 4 年 4 月 1 日	基準看護一般特三類（260 床に）変更承認（険第 363 号）医事会計システムの電算化開始、医療業務・事務当直・警備の全面委託開始
平成 4 年 5 月 9 日	週 40 時間制試行
平成 4 年 5 月 18 日	病床数 260 床に変更承認（精神病棟廃止）
平成 4 年 7 月 6 日	病床数 290 床に変更承認（兵庫県指令医第 1 - 67 号）
平成 4 年 7 月 29 日	周産期医療センター安全祈願祭
平成 4 年 11 月 7 日	週 40 時間制本格実施
平成 5 年 4 月 1 日	管理者変更受理（管理者 竹峰 久雄）
平成 6 年 7 月 20 日	周産期医療センター定礎式
平成 6 年 9 月 1 日	管理者変更受理（管理者 小川 恭一）
平成 6 年 9 月 30 日	ドクターズカー購入 周産期医療センター完成
平成 6 年 10 月 1 日	行政組織規則の改正（兵庫県規則第 66 号）により、周産期医療センターを設置

平成6年 10月 3日	周産期医療センター開設記念式典
平成6年 10月 4日	周産期医療センター診療開始
平成7年 1月 17日	阪神・淡路大震災
平成7年 9月 1日	本館改修工事に着手
平成8年 4月 1日	日本産科婦人科学会認定医制度による卒後研修指導施設として指定される
平成10年 6月 30日	本館改修工事完了
平成11年 4月 2日	管理者変更受理（管理者 山本 節）
平成12年 3月 1日	総合周産期母子総合医療センターとして指定される
平成12年 4月 24日	慢性疾患児家族宿泊施設（ファミリーハウス）を開設
平成13年 10月 10日	駐車場立体化工事に着手
平成14年 2月 28日	立体駐車場完成
平成14年 4月 1日	臨床研修病院指定（厚生労働省発医政第 0401006） 地方公営企業法の財務適用から全部適用に移行
平成14年 10月 15日	第3次小児救急開設（稼働病床 260床）
平成15年 4月 2日	管理者変更（管理者 中村 肇）
平成15年 10月 30日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1030005号 -511,519,526,533）
平成15年 11月 28日	臨床研修病院指定（厚生労働省医政発第 1128007号 -330）
平成16年 3月 22日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.3.1）
平成16年 4月 1日	アレルギー科追加
平成18年 4月 1日	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設として認定される 日本気管食道科学会専門医研修施設（咽喉系）として認定される
平成19年 10月 1日	小児救急医療センターを開設（稼働病床 266床）
平成20年 4月 1日	管理者変更（管理者 丸尾 猛）
平成21年 4月 1日	医療法施行令の改正に伴う診療科目標榜名変更
平成21年 7月 3日	（財）日本医療機能評価機構による病院機能評価認定（ver.5.0）
平成21年 12月 16日	地域医療支援病院の名称使用承認
平成21年 1月 4日	「母と子の指導教室」を「研修センター」に改修して供用開始
平成22年 4月 1日	駐車場の拡張（北駐車場増設）と有料化
平成23年 1月 4日	本館玄関周辺及び玄関ロビーを改修して供用開始
平成24年 4月 9日	中国福利会国際和平婦幼保健院と交流協定締結
平成25年 2月 8日	小児がん拠点病院として指定される
平成25年 4月 1日	管理者変更（管理者 長嶋 達也）
平成26年 4月 1日	小児がん医療センター設置
平成26年 12月 8日	新生児専用ドクターズカー運行開始

3. 業務図

(1) 機構一覧表 (2015.12.31 現在)



(2) 担当医師表 (2015.12.31 現在)

- (1) 小児科 宅見晃子、笠井正志、山崎武美 (非常勤)
- (2) 新生児内科 中尾秀人、芳本誠司、坂井仁美、秋田大輔、大久保沙紀、玉置祥子
浅野貴大 (非常勤)
- (3) 脳神経内科 丸山あずさ、豊嶋大作、藤田杏子
- (4) 循環器内科 城戸佐知子、田中敏克、藤田秀樹、富永健太、小川禎治、亀井直哉
- (5) 腎臓内科 田中亮二郎、中川拓
- (6) 代謝・内分泌内科 郷司克己、尾崎佳代
- (7) 血液・腫瘍内科 小阪嘉之、川崎圭一郎、長谷川大一郎、石田敏章、神前愛子
齋藤敦郎
- (8) 救急科 上谷良行、福原信一、竹田洋樹、山口善道、黒澤寛史、神田杏子、
椎間優子、梶原伸介、楠元真由美
- (9) アレルギー・リウマチ科 中岸保夫、笠井和子、三好麻里 (非常勤)
- (10) 小児外科 前田貢作、横井暁子、福澤宏明、遠藤耕介、久松千恵子、大片祐一、
森田圭一
- (11) 心臓血管外科 大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典
- (12) 脳神経外科 長嶋達也、河村淳史、小山淳二、阿久津宣行
- (13) 形成外科 大山知樹、池村光之介
- (14) 整形外科 薩摩眞一、小林大介、坂田亮介、衣笠真紀
- (15) 泌尿器科 杉多良文、中川賀清
- (16) 耳鼻咽喉科 大津雅秀、阪本浩一 (兼務)
- (17) 眼科 野村耕治、柳沢翠芳
- (18) 精神科 関口典子、玉岡文子
- (19) 小児歯科 小本由美子
- (20) 産科 船越徹、佐本崇、喜吉賢二、高松祐幸、牧志綾、南谷智之、森下紀
- (21) 放射線科 赤坂好宣、上原栄理子
- (22) 麻酔科 香川哲郎、鈴木毅、高辻小枝子、大西広泰、池島典之、三浦由紀子、
舟井優介、末田グリンドロド彩、黒田光朗、藤原孝志
- (23) 病理診断科 吉田牧子
- (24) フェロー・専攻医 武岡恵美子、生田寿彦、角建司、田中司、三木康暢、祖父江俊樹、
福田旭神、谷口由記、平海良美、白鳥孝俊、日外祐理、二野菜々子、
高藤哲、植村優、横井健人、石田悠介、上村和也、山口宏、橋本興人、
瓦野昌大、神納幸治、上月愛瑠、稲熊洋祐、谷澤直子 (小児科)
玉城昭彦、三島泰彦 (小児外科)
岩城隆馬、松島峻介、山本真由子 (心臓血管外科)
山口陽二 (脳神経外科)
進來墨 (形成外科)
茨木一行 (整形外科)
清末晶子 (泌尿器科)
福永とも子、徳永敬司 (眼科)
中澤浩志、河崎あさひ、金子めぐみ (産科)
加藤啓洋、拓植江里香、森悠、松波小百合、國友亜紗子、
福岡明子 (麻酔科)

(3) 外来診療スケジュール (2015.12.1)

科目	曜日	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
内科	総合診療	◎神田	担当医	◎上谷	担当医	◎笠井	担当医	1・3・5週 ◎宅見 2・4週 ◎山崎	担当医	神前	
	アレルギー			◎笠井					笠井		
	リウマチ			中岸		◎中岸	中岸		中岸		
	予防接種	笠井									
	脳神経	◎豊嶋	豊嶋		丸山			◎田中(司) 児玉		◎丸山	
	循環器	田中(敏)	城戸	◎田中(敏)	検査	城戸 ◎藤田	藤田	◎城戸 田中(敏) (予約外来)	城戸	◎富永	富永
	腎臓	中川(拓) (神田)	検査	◎田中(亮) ◎中川(拓)		◎田中(亮) ◎中川	神田				◎田中(亮) ◎中川(拓)
	代謝内分泌		検査			◎郷司		◎郷司		◎尾崎	
	新生児				◎大久保 ◎玉置 ◎芳本		◎中尾 ◎秋田		◎中尾 ◎芳本		◎秋田 ◎芳本
血液	◎小阪	川崎		◎小阪 化学療法のみ			◎石田		◎川崎 化学療法のみ	長谷川	
外科	一般	1.3.5週◎前田 2.4週◎横井	横井	◎福澤	福澤	◎大片	大片	◎前田	前田	◎横井	
	ヘルニア外来	1.3.5週◎前田 2.4週◎横井						1.3.5週◎大片 2.4週◎福澤			
	特殊外来		ストマ 尾藤(大片)		在宅療法						
	心臓		◎大嶋 松久 圓尾				◎大嶋 圓尾 長谷川				◎大嶋 長谷川 松久
	脳神経	◎小山	◎小山			◎長嶋	1・3週 ◎阿久津 2・4・5週 ◎河村			◎河村	◎河村 1・3週 二春(長嶋) 2・4週 二春(担当医)
	形成			◎大山 池村 進来 言語療法				◎大山 池村 進来 言語療法			
	整形		◎薩摩 ◎小林	◎薩摩 ◎坂田	◎小林 ◎坂田 (2週側溝外来)	◎薩摩 ◎小林					二分脊椎
放射線科										副島	
眼科	◎野村 柳沢 福永 徳永			コンタクト 外来		◎野村 柳沢 福永 徳永	検査	◎野村 柳沢 福永 徳永	検査		
泌尿器科	◎担当医		◎杉多 中川(賀) 春名	検査	◎担当医			検査	◎中川(賀) 杉多 賀来	二分脊椎	
耳鼻咽喉科	◎大津	大津 1週・2週 補聴器	◎阪本	阪本 3週・4週 補聴器				◎大津	大津	◎阪本	阪本
	言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		言語聴覚		
歯科	◎曾根	◎曾根	◎曾根	曾根				3週 曾根	3週 曾根	◎本郷	本郷
精神科	◎長谷川(弘)	関口	関口	関口	◎関口			関口	関口	関口	関口
	◎玉岡	◎玉岡	玉岡	◎玉岡	◎玉岡	◎玉岡				◎松川	◎玉岡
卒煙外来							休診				
発達行動							休診				
産科	◎船越 佐本	超音波 検査	◎高松 喜吉	超音波 外来	◎佐本 牧志	超音波 検査	◎喜吉 高松	超音波 外来	◎牧志 船越 南谷	超音波 検査	

※急な学会・主張等で休診・代診になる場合がありますのでご了承下さい。◎印は新患受付曜日となります。

兵庫県立こども病院

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1-1-1

代表 TEL078-732-6961

予約センター直通 FAX 078-732-6980 (24時間対応)

4. 職 員

(1) 職種別人員表 (2015.12.31 現在)

職 種 別		現 員 [人]
事 務 職		20
技 術 職	医 師 ・ 歯 科 医 師	87 (44)
	薬 剤 師	13 (1)
	診 療 放 射 線 技 師	12
	臨 床 検 査 技 師	14
	栄 養 士	2
	看 護 師	498 (7)
	視 能 訓 練 士	3
	心 理 判 定 員	2
	精 神 保 健 福 祉 士	1
	医 療 福 祉 相 談 員	2
	保 育 士	7
	言 語 聴 覚 士	3
	臨 床 工 学 技 士	4
	理 学 療 法 士	1
小 計	664 (52)	
技 能 労 務 職	調 理 員	10
合 計		674 (52)

注1 「医師・歯科医師」の現員数は、非常勤医師、研修医師を除く。

2 () 外書きは、臨時的任用職員

5. 近畿厚生局長への届出に関する事項（平成27年4月1日現在）

当院は診療報酬の請求に関し、近畿厚生局長へ以下の事項について届出を行っています。

【入院基本料等の施設基準】

一般病棟(7対1)入院基本料 (一般入院)第32号

【入院基本料等加算の施設基準】

臨床研修病院入院診療加算(協力型) (臨床研修)第95号

救急医療管理加算 (救急加算)第46号

妊産婦救急搬送入院加算 (妊産婦)第41号

診療録管理体制加算2 (診療録)第52号

医師事務作業補助体制加算2(25対1) (事務補助)第63号

急性期看護補助体制加算(25対1、5割以上) (急性看護)第100号

看護職員夜間配置加算 (看夜配)第12号

無菌治療室管理加算1 (無菌1)第8号

重症者等療養環境特別加算 (重)第30号

医療安全対策加算1 (医療安全)第428号

感染防止対策加算1 (感染防止1)第5号

感染防止対策加算地域連携加算 (感染防止1)第5号

患者サポート体制充実加算 (患サポ)第25号

褥そうハイリスク患者ケア加算 (褥創ケア)第35号

ハイリスク妊娠管理加算 (ハイ妊娠)第36号

ハイリスク分娩管理加算 (ハイ分娩)第3号

新生児特定集中治療室退院調整加算1,2,3(新生児退院)第13号

救急搬送患者地域連携紹介加算 (救急紹介)第152号

救急搬送患者地域連携受入加算 (救急受入)第151号

データ提出加算2 (データ提)第10号

【特定入院料の施設基準】

特定集中治療室管理料1 (集1)第11号

特定集中治療室管理料2 (集1)第6号

総合周産期特定集中治療室管理料 (周)第1号

母体・胎児集中治療室管理料 (周)第1号

新生児特定集中治療室管理料 (周)第1号

小児入院医療管理料1 (小入1)第1号

食事療養費1 (食)第119075号

【医学管理等】

高度難聴指導管理料 (高)第124号

がん性疼痛緩和指導料 (がん疼)第276号

がん患者指導管理料1 (がん指1)第55号

がん患者指導管理料2 (がん指2)第8号

夜間休日救急搬送医学管理料 (夜救管)第169号

開放型病院共同指導料 (開)第58号

薬剤管理指導料 (薬)第253号

医療機器安全管理料1 (機安1)第93号

持続血糖測定器加算 (持血測)第16号

【検査】

造血器腫瘍遺伝子検査 (血)第34号

検体検査管理加算(IV) (検IV)第43号

心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算

(血内)第2号

埋込型心電図検査 (埋心電)第44号

胎児心エコー法 (胎心エコ)第16号

ヘッドアップティルト試験 (ヘッド)第44号

皮下連続式グルコース測定 (皮グル)第23号

補聴器適合検査 (補聴)第15号

小児食物アレルギー負荷検査 (小検)第45号

【画像診断】

画像診断管理加算2 (画2)第82号

CT撮影(64列以上)及びMRI撮影(1.5以上3テスラ未満)

(C・M)第487号

冠動脈CT撮影加算 (冠動C)第54号

大腸CT撮影加算 (大腸C)第5号

心臓MRI撮影加算 (心臓M)第5号

【投薬】

抗悪性腫瘍剤処方管理加算 (抗悪処方)第54号

【注射】

外来化学療法加算1 (外化1)第99号

無菌製剤処理料 (菌)第55号

【リハビリテーション】

脳血管疾患等リハビリテーション料(I)(脳I)第332号

集団コミュニケーション療法料 (集コ)第38号

【処置】

一酸化窒素吸入療法 (NO)第5号

【手術】

頭蓋骨形成手術 (頭移)第4号

上顎骨形成術・下顎骨形成術 (顎移)第2号

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

(ペ)第85号

埋込型心電図記録計移植術及び埋込型心電図記録計摘出術

(埋記録)第36号

大動脈バルーンパンピング法 (大)第53号

経皮的動脈遮断術 (大遮)第13号

ダメージコントロール手術 (ダメ)第17号

胎児胸腔・羊水腔シャント術 (胎羊)第1号

手術の通則の5及び6に掲げる手術 (通手)第23号

胃瘻造設術 (胃瘻造)第28号

輸血管理料I (輸血I)第269号

人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算 (造設前)第39号

【麻酔】

麻酔管理料(I) (麻管I)第15号

麻酔管理料(II) (麻管II)第2号

【放射線治療】

高エネルギー放射線治療 (高放)第83号

【歯科関係】

歯科外来診療環境体制加算 (外来環)第303号

歯科矯正診断料 (矯診)第131号

6. 研修・教育認定施設内容

厚生労働省認定病院等	<p>◆ [厚生労働省認定] 厚生労働省認定臨床研修指定病院（小児） 厚生労働省認定外国医師臨床研修施設</p> <p>◆ [専門医教育病院学会指定] 日本小児科学会専門医研修施設 日本外科学会外科専門医訓練施設 日本脳神経外科学会専門医訓練施設 日本泌尿器科学会専門医教育施設 日本整形外科学会専門医研修施設 日本眼科学会専門医研修施設 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 日本病理学会登録施設 日本麻酔学会麻酔指導病院 日本医学放射線学会専門医修練機関 日本胸部外科学会認定医指定施設 日本気管支学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本形成外科学会認定医指導施設 日本小児外科学会認定施設 日本産科婦人科学会専門医研修指導施設 日本内分泌代謝科専門医認定教育施設 日本気管食道科学会認定日本気管食道科専門医研修施設 日本周産期新生児医学会専門医研修施設 日本小児循環器学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本小児血液・がん専門医研修施設 日本小児神経学会専門医研修施設</p>
姉妹提携・交流協定病院	<p>シアトル小児病院（アメリカ合衆国） プリンセスマーガレット小児病院（オーストラリア） 中国福利会国際和平婦幼保健院（中華人民共和国）</p>

7. 委員会一覧（平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月）

委員会名	開催回数	活動内容と結果
幹部会	毎月第2月曜日	病院の管理及び運営に関する基本方針等を審議
運営協議会・経営計画推進委員会	毎月第4月曜日	幹部会からの指示事項の調査、検討と職員への周知
保険診療対策委員会	毎月第4金曜日	減点内容の検討、返戻に対する対応の検討
作業部会	1回	在宅気管切開患者の気切カニューレについて
医療事故防止対策委員会	毎月第2月曜日	リスクマネジメント部会からの報告、事故等案件の状況報告
リスクマネジメント部会	毎月第2火曜日	①各部門の毎月のヒヤリハット発生状況の報告 ②医療安全研修会の開催 ③医療安全推進週間の啓蒙 ④平成25年度の重点取り組み課題の決定と実施、評価
医療事故対策部会	事故発生時	①事故原因の追及 ②再発防止策の策定
院内感染対策委員会	毎月第2金曜日	①病院の感染対策に関する審議 ②院内外における感染微生物の発生状況の把握 ③院内発生時の早急な対応と拡大防止
ICT	毎週木曜日	①院内感染に関する情報収集・相談・対策検討・評価 ②感染予防における職員への教育 ③院内ラウンド
衛生委員会	月1回	職員の健康障害の防止対策等について審議
仕様策定委員会	2回	200万円以上の医療機器特定
診療材料委員会	6回	①新規診療材料採用申請の審議 ②JITSシステムデータに基づく診療材料変更提案の審議
薬事委員会	3回	採用・中止薬品の検討、薬剤情報提供内容の追加 新規医薬品（28品目）、中止医薬品（36品目）
手術運営委員会	隔月第4水曜日	①手術件数報告 ②効率的な手術室運営について ③機種保守点検、更新について ④安全、感染について
医療用ガス安全管理委員会	1回	医療用ガス設備に係る定期点検の報告
放射線安全委員会	1回	①放射線業務従事者管理状況について ②放射線安全研修会開催について
倫理委員会	7回	詳細は別紙のとおり
虐待防止委員会	事例発生時	処遇検討
	定例 3回	活動方針確認と結果報告
治験審査委員会	5回	詳細は別紙のとおり
化学療法レジメン委員会	2回	①新規化学療法レジメンについて ②化学療法レジメン委員会設置要項変更について ③新規レジメンの取り扱いを含む委員会運営に関する事項の取り決めについて
褥瘡対策委員会	12回	①院内の褥瘡に関する状況の報告 ②褥瘡に関する研修 ③褥瘡対策患者対象の回診 ④褥瘡に関するデータの共有とケアの評価や対策の検討。
輸血療法委員会	隔月第1水曜日	①血液製剤の使用状況報告 ②輸血に関連した副作用報告 ③安全な輸血に関する取り決め ④輸血に関する諸問題の対応
検査委員会	2回 不定期	①検査項目、運用等の変更に関する承認 ②検査に関する諸問題の解決 ③検査に関する要望

栄養給食委員会 NST部会	1回	①平成26年度給食及び栄養指導実施状況報告 ②本年度の標準濃厚流動食の採用について ③平成26年度栄養サポート件数及びNST勉強会実施報告
防災対策委員会	1回	防災対策の推進について審議
省エネルギー推進委員会		日常の省エネルギー活動の推進と活動結果の検証
医師の負担軽減等推進委員会	1回	負担軽減計画の策定
広報委員会	6回	①ニュースレター「がんきカエル」の発行（年4回） ②2014年報の発行 ③ホームページの再構築 ④移転記念誌の発行
研修教育委員会	4回	①各研修部会の前年度活動報告 ②研修教育委員会の新年度活動計画 ③新病院の研修室使用
診療記録等管理委員会	2回	診療録記載ガイドラインの改定 看護記録などの様式変更
外来運営委員会	3回	耳鼻科外来の午後枠の造設 ヘッドアップティルト試験の運用 循環器移行期外来などの診察枠の増設
病棟運営委員会	3回	①夏休みのベッドコントロールについて ・各診療科のめやすベッドについて ・入院キャンセル等の対応について ②血液腫瘍科のベッドコントロールについて ・入院部署について ・日帰り手術室を使用するの処置実施の検討 ③HCUの病棟運営について
クリニカルパス委員会	11回	①クリニカルパスの広報・作成・運用・管理 ②院内クリニカルパス大会2回開催 ③新規クリニカルパス作成・改訂 ④地域医療連携パスカンファレンス3回
国際交流推進委員会	9回	①シアトル小児病院研修派遣について ・第8回シアトル小児病院派遣研修について ・シアトル小児病院派遣研修申請・報告について
緩和ケアチーム	13回	緩和ケアチームの立ち上げ 緩和ケアマニュアルの作成、ポスター作成 症例検討
在宅推進委員会	5回	①在宅推進委員会の立ち上げ ②在宅推進委員会の活動内容の検討・計画実施 ・地域関係機関との連携、在宅医療の情報整理 ・退院支援システムの周知に関連する業務整理 ・地域連携パス委員会との連携

各種委員会（別紙）

名 称	委員長	開催日時	場 所	出席者数	議 題
倫理委員会	上谷 良行	4月23日 9:30～	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> 1 小児難治性頻回再発型／ステロイド依存症ネフロローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフエノール酸モフェチルの薬物動態試験 (JSKDC09) <田中腎臓内科部長> 2 薬物代謝に関与する酵素遺伝子(UGT1A1,RFC1,MTHFR,TRMT 等)の多型・変異が及ぼす臨床経過への影響に関する研究<小阪血液・腫瘍内科部長> 3 ビタミンD 欠乏症くる病に対して天然型ビタミンD サプリメントを用いた治療研究<尾崎代謝内分泌科医長>
倫理委員会	上谷 良行	5月28日 9:30～	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> 1 難治性全身型若年性突発性関節炎に対するアバタセプト治療<中岸リウマチ・アレルギ科医長> 2 内分泌関連単一遺伝子疾患における臨床的遺伝子診断<郷司代謝内分泌科部長> 3 家族性骨髄異形成症候群の遺伝子解析研究（多施設共同研究）<小阪血液・腫瘍内科部長> 4 小児固形腫瘍観察研究実施計画<同上> 5 再発・治療抵抗性リンパ芽球性リンパ腫 Stage III / IVに対する Dex-ICE 治療の有効性及び安全性を検証する多施設共同第II相臨床試験（JPLSG ALB-R13）<同上>
倫理委員会	上谷 良行	6月25日 9:30～	応接室	6	<ol style="list-style-type: none"> 1 分子遺伝学的完全寛解を達成した小児慢性骨髄性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害薬中止試験（STKI-14）<小阪血液・腫瘍内科部長>
倫理委員会	上谷 良行	8月20日 9:30～	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> 1 胎児下部尿路閉塞の胎児治療<喜吉産科医長> 2 ミダゾラム静注薬の院内調剤製剤を用いた経口麻酔前投薬<三浦麻酔科医長>
倫理委員会	上谷 良行	10月22日 9:30～	応接室	7	<ol style="list-style-type: none"> 1 同種組織（心臓弁・血管）の凍結保存組織の臨床応用<大嶋心臓血管外科部長>
倫理委員会	上谷 良行	1月28日 9:30～	応接室	6	<ol style="list-style-type: none"> 1 肺動脈狭窄、肺静脈狭窄、腎動脈狭窄、人工血管内狭窄などに対する薬剤溶出性ステント留置術<田中循環器内科部長> 2 動脈管開存に対する Amplatzer Vascular Plug II を用いた閉鎖術<同上>

倫理委員会	上谷 良行	2月25日 9:30～	応接室	8	<ol style="list-style-type: none"> 1 薬剤溶出性バルーンを用いた肺静脈狭窄に対するカテーテル治療<田中循環器内科部長> 2 閉鎖してしまつた穴あき心房中隔パッチに対するNykanen radiofrequency wireを用いた穿通術<同上>
治験審査委員会	中尾 秀人	4月17日	応接室	9	現在進行中の治験3課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	6月26日	応接室	7	現在進行中の治験2課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	8月28日	応接室	9	現在進行中の治験1課題の継続について審議、また1課題の終了を報告した
治験審査委員会	中尾 秀人	10月16日	応接室	9	現在進行中の治験1課題の継続について審議した
治験審査委員会	中尾 秀人	2月26日	応接室	10	現在進行中の治験3課題の継続について審議した

II 医事経理関係

第1節 患者数統計

1. 総括

(1) 年度別

区 分				23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度
外 来	a	診 療 日 数	日	244	245	244	244	243
	b	新 患 者 数	人	7,696	7,631	8,032	7,744	7,687
	c	一日平均新患者数	人	31.5	31.1	32.9	31.7	31.6
	d	延 患 者 数	人	86,464	86,902	87,254	85,527	86,135
	e	一日平均延患者数	人	354.4	354.7	357.6	350.5	354.5
	f	平均通院日数	日	11.2	11.4	10.9	11.0	11.2
入 院	g	稼 働 日 数	日	366	365	365	365	366
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266
	I	入 院 患 者 数	人	5,425	5,290	5,271	5,406	5,546
	j	一日平均入院患者数	人	14.8	14.5	14.4	14.8	15.2
	k	退 院 患 者 数	人	5,422	5,302	5,279	5,392	5,580
	l	一日平均退院患者数	人	14.8	14.5	14.5	14.8	15.2
	m	延 入 院 患 者 数	人	88,849	88,036	86,385	83,845	83,583
	n	一日平均延患者数	人	242.8	241.2	236.7	229.7	228.4
	o	病 床 利 用 率	%	91.3	90.7	89.0	86.4	85.9
	p	病 床 回 転 数	回	20.4	19.9	19.8	20.3	20.9
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	122	88	120	237	371
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	1,011	963	1,009	961	933
	t	平均在院日数	日	15.4	15.6	15.4	14.5	14.0
	u	外 来 入 院 比 率	%	97.3	98.7	101.0	102.0	103.1
v	入 院 率	%	70.5	69.3	65.6	69.8	72.1	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/ (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100							

(2) 月別患者統計

H27 年度

区 分				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
外 来	a	診 療 日 数	日	21	18	22	22	21	19	21	19	19	19	20	22	243
	b	新 患 者 数	人	644	620	728	729	652	569	647	614	637	606	571	670	7,687
	c	一日平均新患者数	人	30.7	34.4	33.1	33.1	31.0	29.9	30.8	32.3	33.5	31.9	28.6	30.5	31.6
	d	延 患 者 数	人	7,395	6,195	7,090	7,633	8,371	6,915	6,994	6,499	7,114	6,870	6,687	8,372	86,135
	e	一日平均延患者数	人	352.1	344.2	322.3	347.0	398.6	363.9	333.0	342.1	374.4	361.6	334.4	380.5	354.5
	f	平均通院日数	日	11.5	10.0	9.7	10.5	12.8	12.2	10.8	10.6	11.2	11.3	11.7	12.5	11.2
入 院	g	稼 働 日 数	日	30	31	30	31	31	30	31	31	31	31	29	31	367
	h	稼 働 病 床 数	床	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	266	3,192
	I	入 院 患 者 数	人	490	419	466	491	478	441	459	447	434	478	448	495	5,546
	j	一日平均入院患者数	人	16.3	13.5	15.5	15.8	15.4	14.7	14.8	14.4	14.0	15.4	15.4	16.0	15.1
	k	退 院 患 者 数	人	476	460	428	480	508	426	487	443	495	412	455	510	5,580
	l	一日平均退院患者数	人	15.9	14.8	14.3	15.5	16.4	14.2	15.7	14.3	16.0	13.3	15.7	16.5	15.2
	m	延 入 院 患 者 数	人	7,263	7,149	7,065	7,553	7,353	6,548	7,070	6,653	6,932	6,757	6,535	6,705	83,583
	n	一日平均延患者数	人	242.1	230.6	235.5	243.6	237.2	218.3	228.1	214.6	223.6	218.0	225.3	216.3	227.7
	o	病 床 利 用 率	%	91.0	86.7	88.5	91.6	89.2	82.1	85.7	83.4	84.1	81.9	84.7	81.3	85.6
	p	病 床 回 転 数	回	1.8	1.7	1.7	1.8	1.9	1.6	1.8	1.7	1.7	1.7	1.7	1.9	1.7
	r	日 帰 入 院 患 者 数	人	32	23	33	30	37	29	31	29	25	31	33	38	371
	s	N I C U ・ G C U 入 院 患 者 数	人	90	85	69	89	71	67	74	66	89	84	75	74	933
	t	平 均 在 院 日 数	日	14.1	15.2	14.8	14.6	13.9	14.1	13.9	14.0	13.9	14.3	13.5	12.3	14.0
	u	外 来 入 院 比 率	%	101.8	86.7	100.4	101.1	113.8	105.6	98.9	97.7	102.6	101.7	102.3	124.9	103.1
v	入 院 率	%	76.1	67.6	64.0	67.4	73.3	77.5	70.9	72.8	68.1	78.9	78.5	73.9	72.1	
計 算 式	f 平均通院日数 = d/b o 病床利用率 = (m/ (h × g) × 100 p 病床回転率 = ((I+k) /2) /h t 平均在院日数 = (m-k) / ((I+k) /2) u 外来入院比率 = (d/m) × 100 v 入院率 = (I/b) × 100															

2. 月別科別外来患者数

H27 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新患者数	47	47	64	51	46	47	50	25	36	38	28	40	519
	再来患者数	790	595	621	747	919	750	657	616	700	662	653	928	8,638
	延患者数	837	642	685	798	965	797	707	641	736	700	681	968	9,157
腎臓内科	新患者数	2	11	16	29	22	15	8	9	4	8	6	5	135
	再来患者数	236	212	250	320	331	276	234	224	281	281	240	312	3,197
	延患者数	238	223	266	349	353	291	242	233	285	289	246	317	3,332
脳神経内科	新患者数	13	7	16	14	10	4	19	21	18	6	13	8	149
	再来患者数	300	234	312	279	332	238	236	222	222	242	228	289	3,134
	延患者数	313	241	328	293	342	242	255	243	240	248	241	297	3,283
血液内科	新患者数	5	14	11	6	6	7	6	7	9	11	2	5	89
	再来患者数	339	276	286	341	394	276	294	262	331	294	276	347	3,716
	延患者数	344	290	297	347	400	283	300	269	340	305	278	352	3,805
代謝・内分泌内科	新患者数	17	9	17	22	7	10	10	4	11	9	7	18	141
	再来患者数	438	421	368	468	460	418	417	412	391	408	412	535	5,148
	延患者数	455	430	385	490	467	428	427	416	402	417	419	553	5,289
新生児内科	新患者数	48	56	36	50	39	38	42	40	45	42	50	45	531
	再来患者数	275	177	208	223	196	230	229	222	217	218	232	282	2,709
	延患者数	323	233	244	273	235	268	271	262	262	260	282	327	3,240
心臓血管外科	新患者数	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	1	1	7
	再来患者数	134	139	126	126	149	144	116	139	100	127	141	169	1,610
	延患者数	134	139	126	126	149	144	119	139	101	128	142	170	1,617
脳神経外科	新患者数	34	27	35	39	28	32	37	24	39	33	36	30	394
	再来患者数	311	284	277	385	359	337	319	242	349	316	296	354	3,829
	延患者数	345	311	312	424	387	369	356	266	388	349	332	384	4,223
小児外科	新患者数	55	57	61	60	55	47	46	58	49	45	60	44	637
	再来患者数	432	395	429	496	530	456	451	425	444	445	408	552	5,463
	延患者数	487	452	490	556	585	503	497	483	493	490	468	596	6,100
整形外科	新患者数	75	52	72	66	66	41	65	64	74	78	67	87	807
	再来患者数	456	260	452	393	570	428	375	355	405	411	364	559	5,028
	延患者数	531	312	524	459	636	469	440	419	479	489	431	646	5,835
形成外科	新患者数	33	29	41	43	37	28	39	39	40	29	24	51	433
	再来患者数	291	203	281	271	333	246	270	303	343	287	261	378	3,467
	延患者数	324	232	322	314	370	274	309	342	383	316	285	429	3,900
精神科	新患者数	10	11	9	12	14	6	13	4	10	10	9	11	119
	再来患者数	305	290	317	316	353	292	309	280	289	262	304	369	3,686
	延患者数	315	301	326	328	367	298	322	284	299	272	313	380	3,805

アレルギー科 内	新患者数	4	3	4	5	5	5	7	3	5	5	3	5	54
	再来患者数	132	92	122	118	152	105	128	99	122	130	122	183	1,505
	延患者数	136	95	126	123	157	110	135	102	127	135	125	188	1,559
小児科	新患者数	11	16	20	15	20	19	14	18	20	12	10	23	198
	再来患者数	97	82	113	131	106	116	110	91	90	99	107	129	1,271
	延患者数	108	98	133	146	126	135	124	109	110	111	117	152	1,469
泌尿器科	新患者数	58	57	69	60	66	48	55	59	59	46	59	48	684
	再来患者数	372	338	384	408	497	379	364	318	360	334	317	392	4,463
	延患者数	430	395	453	468	563	427	419	377	419	380	376	440	5,147
産科	新患者数	49	42	44	35	29	39	33	31	33	41	28	30	434
	再来患者数	202	211	161	189	173	188	194	169	194	186	157	124	2,148
	延患者数	251	253	205	224	202	227	227	200	227	227	185	154	2,582
眼科	新患者数	35	39	59	45	44	38	38	43	32	41	40	48	502
	再来患者数	828	716	832	855	951	758	847	800	843	810	820	976	10,036
	延患者数	863	755	891	900	995	796	885	843	875	851	860	1,024	10,538
耳鼻咽喉科	新患者数	40	30	44	44	45	24	42	45	35	31	31	30	441
	再来患者数	503	377	524	566	617	451	510	419	513	488	512	537	6,017
	延患者数	543	407	568	610	662	475	552	464	548	519	543	567	6,458
放射線科	新患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再来患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	0	2	0	1	0	2	2	1	2	2	2	2	16
	再来患者数	85	71	95	84	97	79	92	93	71	78	80	101	1,026
	延患者数	85	73	95	85	97	81	94	94	73	80	82	103	1,042
救急科	新患者数	41	61	49	48	42	63	54	50	48	55	45	60	616
	再来患者数	76	86	64	72	57	69	72	82	76	57	67	74	852
	延患者数	117	147	113	120	99	132	126	132	124	112	112	134	1,468
歯科	新患者数	67	50	61	84	71	56	64	69	67	63	50	79	781
	再来患者数	149	116	140	116	143	110	123	112	136	129	119	112	1,505
	延患者数	216	166	201	200	214	166	187	181	203	192	169	191	2,286
合計	新患者数	644	620	728	729	652	569	647	614	637	606	571	670	7,687
	再来患者数	6,751	5,575	6,362	6,904	7,719	6,346	6,347	5,885	6,477	6,264	6,116	7,702	78,448
	延患者数	7,395	6,195	7,090	7,633	8,371	6,915	6,994	6,499	7,114	6,870	6,687	8,372	86,135

3. 月別科別入院患者数

H27 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	新規入院患者数	38	34	39	36	37	34	42	34	39	30	40	37	440
	退院患者数	41	40	38	40	45	37	50	39	52	32	40	41	495
	延患者数	724	820	787	736	775	710	749	611	573	622	662	750	8,519
腎臓内科	新規入院患者数	5	6	5	8	10	2	4	5	8	3	8	12	76
	退院患者数	9	4	7	8	13	2	3	3	13	5	9	12	88
	延患者数	96	96	157	106	76	33	56	147	233	151	123	120	1,394
脳神経内科	新規入院患者数	3	3	4	0	1	3	2	5	0	1	2	0	24
	退院患者数	9	4	7	6	4	7	10	10	12	5	6	10	90
	延患者数	112	94	136	195	154	205	171	223	158	91	93	90	1,722
血液内科	新規入院患者数	59	52	52	56	62	54	54	51	48	65	57	62	672
	退院患者数	61	64	56	54	62	55	56	60	66	55	61	67	717
	延患者数	1,079	1,003	926	947	998	996	1,081	1,029	1,062	1,019	1,017	1,009	12,166
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	3	0	3	4	4	2	3	2	3	5	2	4	35
	退院患者数	4	3	6	6	5	3	2	3	3	4	5	7	51
	延患者数	43	21	60	41	46	15	22	18	37	47	39	58	447
新生児内科	新規入院患者数	42	54	38	46	39	38	44	37	45	49	45	40	517
	退院患者数	35	57	40	48	41	42	56	35	37	37	48	50	526
	延患者数	1,681	1,901	1,636	1,661	1,514	1,293	1,273	1,155	1,431	1,476	1,517	1,362	17,900
心臓血管外科	新規入院患者数	9	3	12	14	7	12	9	12	10	14	15	16	133
	退院患者数	11	4	14	13	11	13	9	14	10	12	15	17	143
	延患者数	345	267	367	417	384	328	320	331	405	413	396	463	4,436
脳神経外科	新規入院患者数	10	12	14	14	18	16	8	13	13	17	17	19	171
	退院患者数	12	23	14	20	16	25	13	15	17	18	23	20	216
	延患者数	318	246	212	283	211	280	222	222	217	232	214	211	2,868
小児外科	新規入院患者数	90	60	72	85	88	76	69	64	52	64	58	78	856
	退院患者数	86	80	68	94	103	83	87	66	67	65	73	82	954
	延患者数	666	719	627	720	798	697	735	760	578	619	638	657	8,214
整形外科	新規入院患者数	28	11	19	23	25	16	18	20	14	24	16	25	239
	退院患者数	30	11	16	21	28	12	21	24	21	19	17	20	240
	延患者数	213	165	301	426	387	346	448	278	243	222	215	338	3,582
形成外科	新規入院患者数	17	16	24	23	23	19	29	27	21	22	21	27	269
	退院患者数	22	17	22	21	31	15	35	26	24	20	21	24	278
	延患者数	155	130	147	174	146	89	207	130	142	148	107	147	1,722
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

アレルギー内科	新規入院患者数	2	2	2	1	1	4	3	5	4	5	6	5	40
	退院患者数	5	3	3	4	2	3	4	6	8	5	4	9	56
	延患者数	25	23	19	6	2	5	34	26	24	45	70	64	343
小児科	新規入院患者数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	5
	退院患者数	1	2	2	0	0	0	0	0	2	1	0	0	8
	延患者数	175	151	140	124	124	120	124	120	113	98	87	93	1,469
泌尿器科	新規入院患者数	24	20	31	24	27	19	21	16	18	25	18	21	264
	退院患者数	28	19	30	25	28	18	24	15	19	24	18	22	270
	延患者数	119	116	153	134	148	97	95	73	137	134	91	97	1,394
産科	新規入院患者数	42	34	42	43	30	40	34	31	35	32	26	26	415
	退院患者数	33	45	31	42	36	35	36	28	40	32	33	31	422
	延患者数	788	717	781	947	972	794	921	919	939	844	654	624	9,900
眼科	新規入院患者数	34	28	30	36	38	26	38	35	38	35	35	34	407
	退院患者数	34	31	28	34	38	29	35	37	41	31	36	33	407
	延患者数	152	128	132	151	189	120	152	147	188	143	153	135	1,790
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	12	12	11	10	11	8	11	13	9	12	11	8	128
	退院患者数	13	11	11	12	10	8	10	13	11	12	13	6	130
	延患者数	99	73	77	90	81	53	75	98	57	84	61	45	893
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数	71	71	67	68	57	72	70	77	77	73	71	81	855
	退院患者数	42	42	35	32	35	39	36	49	52	35	33	59	489
	延患者数	473	479	407	395	348	367	385	366	395	369	398	442	4,824
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	490	419	466	491	478	441	459	447	434	478	448	495	5,546
	退院患者数	476	460	428	480	508	426	487	443	495	412	455	510	5,580
	延患者数	7,263	7,149	7,065	7,553	7,353	6,548	7,070	6,653	6,932	6,757	6,535	6,705	83,583

4. 年度別科別外来患者数

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
循環器内科	新患者数	454	430	454	512	519
	再来患者数	7,107	7,301	7,749	8,451	8,638
	延患者数	7,561	7,731	8,203	8,963	9,157
腎臓内科	新患者数	163	152	157	138	135
	再来患者数	2,739	2,896	3,124	3,168	3,197
	延患者数	2,902	3,048	3,281	3,306	3,332
脳神経内科	新患者数	157	185	174	138	149
	再来患者数	3,315	3,512	3,515	3,573	3,134
	延患者数	3,472	3,697	3,689	3,711	3,283
血液内科	新患者数	79	70	64	80	89
	再来患者数	3,198	3,721	3,763	3,567	3,716
	延患者数	3,277	3,791	3,827	3,647	3,805
代謝・内分泌内科	新患者数	154	142	156	167	141
	再来患者数	4,741	4,668	5,091	4,933	5,148
	延患者数	4,895	4,810	5,247	5,100	5,289
新生児内科	新患者数	664	598	617	541	531
	再来患者数	3,042	3,213	3,160	2,653	2,709
	延患者数	3,706	3,811	3,777	3,194	3,240
心臓血管外科	新患者数	6	3	5	5	7
	再来患者数	1,484	1,530	1,509	1,509	1,610
	延患者数	1,490	1,533	1,514	1,514	1,617
脳神経外科	新患者数	270	223	301	328	394
	再来患者数	3,696	3,712	3,573	3,812	3,829
	延患者数	3,966	3,935	3,874	4,140	4,223
小児外科	新患者数	636	606	634	634	637
	再来患者数	5,212	5,486	5,239	5,223	5,463
	延患者数	5,848	6,092	5,873	5,857	6,100
整形外科	新患者数	819	835	868	871	807
	再来患者数	5,171	5,336	5,313	5,167	5,028
	延患者数	5,990	6,171	6,181	6,038	5,835
形成外科	新患者数	441	482	449	437	433
	再来患者数	3,504	3,620	3,272	2,976	3,467
	延患者数	3,945	4,102	3,721	3,413	3,900
精神科	新患者数	123	106	79	87	119
	再来患者数	2,583	2,859	3,273	3,598	3,686
	延患者数	2,706	2,965	3,352	3,685	3,805

アレルギー内科	新患者数	95	73	62	72	54
	再来患者数	2,687	1,447	1,383	1,424	1,505
	延患者数	2,782	1,520	1,445	1,496	1,559
小児科	新患者数	294	255	228	164	198
	再来患者数	1,599	1,556	1,614	1,280	1,271
	延患者数	1,893	1,811	1,842	1,444	1,469
泌尿器科	新患者数	776	724	710	714	684
	再来患者数	5,375	5,060	4,844	4,694	4,463
	延患者数	6,151	5,784	5,554	5,408	5,147
産科	新患者数	521	515	536	539	434
	再来患者数	2,967	2,773	2,987	2,526	2,148
	延患者数	3,488	3,288	3,523	3,065	2,582
眼科	新患者数	578	565	587	517	502
	再来患者数	10,226	10,502	10,049	9,888	10,036
	延患者数	10,804	11,067	10,636	10,405	10,538
耳鼻咽喉科	新患者数	442	436	437	436	441
	再来患者数	5,255	5,438	5,602	5,720	6,017
	延患者数	5,697	5,874	6,039	6,156	6,458
放射線科	新患者数	1	0	0	0	0
	再来患者数	4	0	0	0	0
	延患者数	5	0	0	0	0
麻酔科	新患者数	9	8	3	10	16
	再来患者数	947	952	952	976	1,026
	延患者数	956	960	955	986	1,042
救急科	新患者数	645	632	591	586	616
	再来患者数	1,131	1,008	795	825	852
	延患者数	1,776	1,640	1,386	1,411	1,468
歯科	新患者数	369	591	920	768	781
	再来患者数	2,785	2,681	2,415	1,820	1,505
	延患者数	3,154	3,272	3,335	2,588	2,286
合計	新患者数	7,696	7,631	8,032	7,744	7,687
	再来患者数	78,768	79,271	79,222	77,783	78,448
	延患者数	86,464	86,902	87,254	85,527	86,135

5. 年度別科別入院患者数

		23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
循環器内科	新規入院患者数	318	321	327	367	440
	退院患者数	346	369	391	443	495
	延患者数	9,210	9,198	8,880	8,993	8,519
腎臓内科	新規入院患者数	73	84	81	63	76
	退院患者数	103	100	87	80	88
	延患者数	1,288	1,302	1,591	1,238	1,394
脳神経内科	新規入院患者数	31	42	56	45	24
	退院患者数	117	120	138	135	90
	延患者数	2,229	2,102	1,833	1,961	1,722
血液内科	新規入院患者数	566	581	606	569	672
	退院患者数	604	634	650	591	717
	延患者数	10,908	10,881	10,736	10,559	12,166
代謝・内分泌内科	新規入院患者数	38	29	45	41	35
	退院患者数	42	35	51	48	51
	延患者数	302	306	357	337	447
新生児内科	新規入院患者数	663	631	650	542	517
	退院患者数	612	582	595	539	526
	延患者数	23,512	22,868	22,769	19,549	17,900
心臓血管外科	新規入院患者数	147	145	138	136	133
	退院患者数	178	165	155	150	143
	延患者数	4,457	3,845	3,850	3,654	4,436
脳神経外科	新規入院患者数	152	165	150	180	171
	退院患者数	219	221	213	247	216
	延患者数	3,204	3,353	3,382	3,399	2,868
小児外科	新規入院患者数	580	586	541	741	856
	退院患者数	670	687	669	833	954
	延患者数	9,627	9,073	8,273	8,035	8,214
整形外科	新規入院患者数	232	239	228	249	239
	退院患者数	243	247	236	256	240
	延患者数	2,586	2,998	2,950	3,500	3,582
形成外科	新規入院患者数	270	259	242	257	269
	退院患者数	282	268	248	265	278
	延患者数	1,856	1,563	1,607	1,747	1,722
精神科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0

アレルギー内科	新規入院患者数	73	29	16	22	40
	退院患者数	76	28	24	48	56
	延患者数	283	354	152	374	343
小児科	新規入院患者数	4	3	5	7	5
	退院患者数	54	4	5	6	8
	延患者数	419	32	53	1,839	1,469
泌尿器科	新規入院患者数	315	260	272	266	264
	退院患者数	326	263	279	276	270
	延患者数	1,652	1,316	1,508	1,408	1,394
産科	新規入院患者数	587	524	523	508	415
	退院患者数	589	519	534	509	422
	延患者数	10,472	11,345	10,848	9,916	9,900
眼科	新規入院患者数	472	478	436	436	407
	退院患者数	476	477	433	438	407
	延患者数	2,284	2,193	2,002	1,954	1,790
耳鼻咽喉科	新規入院患者数	106	112	138	128	128
	退院患者数	108	113	137	131	130
	延患者数	845	836	960	948	893
放射線科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
麻酔科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
救急科	新規入院患者数	798	802	817	849	855
	退院患者数	377	470	434	397	489
	延患者数	3,715	4,471	4,714	4,432	4,824
歯科	新規入院患者数	0	0	0	0	0
	退院患者数	0	0	0	0	0
	延患者数	0	0	0	0	0
合計	新規入院患者数	5,425	5,290	5,271	5,406	5,546
	退院患者数	5,422	5,302	5,279	5,392	5,580
	延患者数	88,849	88,036	86,385	83,843	83,583

6. 年齢別患者状況

H27 年度

年齢区分	外 来		入 院	
	患者数 (人)	構成比 (%)	患者数 (人)	構成比 (%)
0 歳～1 歳未満	2,510	10.6%	984	24.2%
1 歳以上～3 歳未満	3,261	13.8%	648	15.9%
3 歳～6 歳未満	4,347	18.4%	702	17.3%
6 歳～13 歳未満	8,547	36.1%	977	24.0%
13 歳以上～16 歳未満	2,593	10.9%	229	5.6%
16 歳以上	2,428	10.3%	523	12.9%
合 計	23,686	100.0%	4,063	100.0%

7. 地域別患者状況

(1) 外来

区 分	26 年度		27 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	11,054	46.9%	11,184	47.2%
	姫路市	1,181	5.0%	1,156	4.9%
	尼崎市	343	1.5%	315	1.3%
	明石市	2,273	9.6%	2,334	9.9%
	西宮市	799	3.4%	814	3.4%
	洲本市	170	0.7%	169	0.7%
	芦屋市	247	1.0%	225	1.0%
	伊丹市	201	0.9%	203	0.9%
	相生市	57	0.2%	60	0.3%
	豊岡市	252	1.1%	262	1.1%
兵 庫 県	加古川市	849	3.6%	802	3.4%
	赤穂市	126	0.5%	125	0.5%
	西脇市	164	0.7%	158	0.7%
	宝塚市	308	1.3%	319	1.3%
	三木市	399	1.7%	385	1.6%
	高砂市	298	1.3%	281	1.2%
	川西市	99	0.4%	106	0.4%
	小野市	217	0.9%	231	1.0%
	三田市	454	1.9%	518	2.2%
	加西市	113	0.5%	138	0.6%
兵 庫 県	篠山市	171	0.7%	175	0.7%
	養父市	86	0.4%	86	0.4%
	丹波市	344	1.5%	321	1.4%

(1) 入院

区 分	26 年度		27 年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	
兵 庫	神戸市	1,900	46.5%	1,972	48.5%
	姫路市	189	4.6%	160	3.9%
	尼崎市	48	1.2%	42	1.0%
	明石市	364	8.9%	357	8.8%
	西宮市	130	3.2%	149	3.7%
	洲本市	31	0.8%	30	0.7%
	芦屋市	36	0.9%	41	1.0%
	伊丹市	29	0.7%	25	0.6%
	相生市	8	0.2%	10	0.2%
	豊岡市	47	1.1%	47	1.1%
兵 庫 県	加古川市	145	3.6%	119	2.9%
	赤穂市	17	0.4%	17	0.4%
	西脇市	34	0.8%	26	0.6%
	宝塚市	48	1.2%	54	1.3%
	三木市	74	1.8%	70	1.7%
	高砂市	47	1.1%	36	0.9%
	川西市	22	0.5%	13	0.3%
	小野市	42	1.0%	37	0.9%
	三田市	78	1.9%	104	2.6%
	加西市	19	0.5%	23	0.6%
兵 庫 県	篠山市	46	1.1%	32	0.8%
	養父市	16	0.4%	10	0.2%
	丹波市	58	1.4%	46	1.1%

兵	南あわじ市	197	0.8%	190	0.8%
	朝来市	114	0.5%	115	0.5%
	淡路市	227	1.0%	234	1.0%
	宍粟市	89	0.4%	81	0.3%
	加東市	199	0.8%	201	0.9%
	たつの市	185	0.8%	165	0.7%
	猪名川町	24	0.1%	16	0.1%
	多可町	79	0.3%	65	0.3%
	稲美町	116	0.5%	117	0.5%
	播磨町	148	0.6%	146	0.6%
	市川町	29	0.1%	26	0.1%
	福崎町	53	0.2%	47	0.2%
	神河町	22	0.1%	25	0.1%
	太子町	76	0.3%	70	0.3%
	上郡町	27	0.1%	26	0.1%
	佐用町	26	0.1%	24	0.1%
	香美町	46	0.2%	45	0.2%
	新温泉町	31	0.1%	25	0.1%
	その他	5	0.0%	4	0.0%
計	21,894	92.9%	21,989	92.8%	
近畿圏	854	3.6%	881	3.7%	
近畿圏外	813	3.5%	816	3.4%	
総計	23,562	100.0%	23,686	100.0%	

兵	南あわじ市	50	1.2%	36	0.9%
	朝来市	16	0.4%	16	0.4%
	淡路市	44	1.1%	37	0.9%
	宍粟市	12	0.3%	7	0.2%
	加東市	30	0.7%	27	0.7%
	たつの市	27	0.7%	25	0.6%
	猪名川町	1	0.0%	6	0.1%
	多可町	12	0.3%	13	0.3%
	稲美町	18	0.4%	16	0.4%
	播磨町	15	0.4%	22	0.5%
	市川町	3	0.1%	2	0.0%
	福崎町	4	0.1%	8	0.2%
	神河町	1	0.0%	3	0.1%
	太子町	10	0.2%	10	0.2%
	上郡町	3	0.1%	6	0.1%
	佐用町	3	0.1%	5	0.1%
	香美町	8	0.2%	9	0.2%
	新温泉町	7	0.2%	5	0.1%
	その他	1	0.0%	0	0.0%
計	3,691	90.3%	3,669	90.3%	
近畿圏	168	4.1%	176	4.3%	
近畿圏外	227	5.6%	218	5.4%	
総計	4,086	100.0%	4,063	100.0%	

※実患者数

8. 公費負担患者状況

H27年度

公費負担制度	件数	構成比
1. 小児慢性特定疾患	1,105	50.5%
2. 育成医療	94	4.3%
3. 養育医療	179	8.2%
4. 児童福祉（措置）	47	2.1%
5. 特定疾患	4	0.2%
6. 生活保護	41	1.9%
7. 精神保健	77	3.5%
8. 自費	643	29.4%
合計	2,190	100.0%

9. 時間外患者状況

H27 年度

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
循環器内科	外来				1	3	1		1	1	5		1	13
	入院	2		2		1	2			2			1	10
	計	2	0	2	1	4	3	0	1	3	5	0	2	23
腎臓内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳神経内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液内科	外来	1								1	1	1	0	4
	入院													0
	計	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4
代謝・ 内分泌内科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新生児内科	外来											1		1
	入院	5	9	13	16	17	16	15	15	20	15	14	9	164
	計	5	9	13	16	17	16	15	15	20	15	15	9	165
心臓血管外科	外来									1	1			2
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
脳神経外科	外来			1	1			1		1	1			5
	入院										1			1
	計	0	0	1	1	0	0	1	0	1	2	0	0	6
小児外科	外来	1	2	1		3	2			1	2	2		14
	入院				1				1		1			3
	計	1	2	1	1	3	2	0	1	1	3	2	0	17
整形外科	外来									1				1
	入院				1									1
	計	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2
形成外科	外来						4		1	2				7
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	4	0	1	2	0	0	0	7
精神科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

アレルギー科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小児科	外来							1						1
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
泌尿器科	外来	2	2	3	5	2	6		2	2	1		2	27
	入院						1							1
	計	2	2	3	5	2	7	0	2	2	1	0	2	28
産科	外来	6	5	4	6	3	3	3	8	4	1	2	2	47
	入院	6	5	8	2	2	5	5	2	2	9	3	1	50
	計	12	10	12	8	5	8	8	10	6	10	5	3	97
眼科	外来		1					1		1				3
	入院													0
	計	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
耳鼻咽喉科	外来				1									1
	入院													0
	計	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
放射線科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻酔科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科	外来	53	82	45	59	50	61	53	57	66	56	53	62	697
	入院	18	27	21	22	20	34	17	24	15	21	19	27	265
	計	71	109	66	81	70	95	70	81	81	77	72	89	962
歯科	外来													0
	入院													0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	外来	63	92	54	73	61	77	59	69	81	68	59	67	823
	入院	31	41	44	42	40	58	37	42	39	47	36	38	495
	計	94	133	98	115	101	135	96	111	120	115	95	105	1,318

区 分		単 位	26年度 決 算	27年度				決算評価		
				計 画	決 算	計画対比	前年対比	計画対比	前年対比	
業務量	入院	許 可 病 床 数	床	290	290	290	0	0		
		稼働病床数	床	266	266	266	0	0		
		病床利用率	%	86.4	82.7	85.9	3.2	△ 0.5	○	×
		延入院患者数	人	83,843	80,506	83,583	3,077	△ 260	○	×
		1日当たり患者数	人/日	230	220	228	8	△ 2	○	×
		新規入院患者数	人	5,406	5,000	5,546	546	140	○	○
		平均在院日数	日	14.5	15.1	14.0	△ 1.1	△ 0.5	○	○
	外来	入院単価	円	88,548	85,409	86,189	780	△ 2,359	○	×
		延外来患者数	人	85,527	86,508	86,135	△ 373	608	×	○
		1日当たり患者数	人/日	351	356	354	△ 2	3	×	○
		外来単価	円	20,122	20,569	20,689	120	567	○	○
		新規外来患者数	人	7,744	7,800	7,687	△ 113	△ 57	×	×
		紹介 介 率	%	96.5	96.6	96.7	0.1	0.2	○	○
	手術件数	件	3,747	3,600	4,052	452	305	○	○	
救急車搬送患者数	人	607	550	621	71	14	○	○		
収支	入院収益	百万円	7,424	6,876	7,204	328	△ 220	○	×	
	外来収益	百万円	1,721	1,779	1,782	3	61	○	○	
	その他医業収益	百万円	108	97	102	5	△ 6	○	×	
	* 医業収益 *	百万円	9,253	8,752	9,088	336	△ 165	○	×	
	医業外収益等	百万円	430	382	385	3	△ 45	○	×	
	* * 収益計 * *	百万円	9,683	9,134	9,473	339	△ 210	○	×	
	給 与 費	百万円	6,659	6,574	6,740	166	81			
	(うち退職給与金)	百万円	184	117	165	48	△ 19			
	材 料 費	百万円	2,176	2,030	2,312	282	136			
	(うち薬品費)	百万円	1,377	1,249	1,459	210	82			
	(うち診療材料費)	百万円	729	708	782	74	53			
	経 費	百万円	1,505	1,540	1,493	△ 47	△ 12			
	減 価 償 却 費	百万円	590	437	437	0	△ 153			
	その他の医業費用	百万円	60	65	55	△ 10	△ 5			
	* 医業費用 *	百万円	10,990	10,646	11,038	392	48			
	医業外費用等	百万円	208	208	180	△ 28	△ 28			
	* * 費用計 * *	百万円	11,198	10,854	11,218	364	20			
	差 引 損 益	百万円	△ 1,515	△ 1,720	△ 1,745	△ 25	△ 230			×
一般会計繰入金	百万円	1,831	1,786	1,768	△ 18	△ 63	-	-		
当期純損益	百万円	316	66	23	△ 43	△ 293	×	×		
資 金 収 支	百万円	1,063	503	617	114	△ 446	○	×		
経営指標	医業給与費比率	%	72.0	75.1	74.2	△ 0.9	2.2	○	×	
	医業材料費比率	%	23.5	23.2	25.4	2.2	1.9	×	×	
	(うち薬品費比率)	%	14.9	14.3	16.1	1.8	1.2	×	×	
	(うち診療材料費比率)	%	7.9	8.1	8.6	0.5	0.7	×	×	
	経 費 比 率	%	16.3	17.6	16.4	△ 1.2	0.1	○	×	
医業収支比率	%	84.2	82.2	82.3	0.1	△ 1.9	○	×		
経常収支比率	%	103.0	100.8	100.3	△ 0.5	△ 2.7	×	×		

※紹介率＝地域支援病院の紹介率

決算の推移

入院日数
外来日数

366
244

365
244

365
244

365
244

365
244

(単位:床、%、人、千円)

区分	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度		平成27年度		前年度差引
	決算	平 算	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	前年比	医業比	
業 務 量	稼働病床数	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	100.0	266	0
	病床利用率	91.3	100.2	99.6	99.6	89.0	97.5	86.4	95.3	85.9	△ 3.1
	平均在院日数	15.4	97.5	98.7	100.0	15.4	100.0	14.5	92.9	14.0	△ 1.4
	人間ドック	0				0		0		0	0
	延入院患者数	88,849	100.4	99.5	86,385	97.2	83,843	95.2	83,583	99.7	△ 2,802
	(1日当り)	243	100.4	99.6	237	97.5	230	95.4	228	99.1	△ 9
	新規入院患者数	5,425	103.1	100.6	5,271	97.2	5,406	102.2	5,546	102.6	275
	延外来患者数	86,464	100.2	100.7	87,254	100.9	85,527	98.4	86,135	100.7	△ 1,119
	(1日当り)	354	99.7	100.0	358	101.1	351	98.9	354	100.9	△ 4
	新規外来患者数	7,696	97.1	96.3	8,032	104.4	7,744	101.5	7,687	99.3	△ 345
収 益	入院収益	7,049,609	79.6	102.5	7,235,953	79.4	7,156,347	80.2	7,203,916	79.3	47,569
	(1日1人)	79,344	102.1	105.7	82,842	104.4	88,548	107.7	86,189	97.3	3,347
	外来収益	1,691,258	19.1	112.2	1,755,701	19.3	1,725,720	18.6	1,782,031	19.6	56,311
	(1日1人)	19,560	111.9	115.6	19,778	101.1	20,121	99.6	20,689	102.8	911
	その他医業収益	111,725	1.3	100.5	119,905	1.3	134,832	1.5	107,974	1.2	94.4
	* 医業収益計*	8,852,592	100.0	104.2	9,111,559	100.0	9,016,899	100.0	9,253,008	101.6	70,994
	医業外収益	151,667	1.7	89.0	138,529	1.5	155,866	1.7	429,262	4.6	226,300
	特別利益	27	0.0	4.5	43,082	0.5	7,192.3	0.0	1,263	0.0	2,737
	** 収益合計**	9,004,286	101.7	103.9	9,293,170	102.0	9,174,691	101.7	9,683,533	104.7	216.7
	給与費	6,203,528	70.1	102.7	6,685,902	73.4	6,455,660	71.6	6,658,655	72.0	284,764
費 用	うち退職給与金	(274,709)	3.1	68.9	(168,081)	1.8	(193,264)	2.1	(186,486)	2.0	11.2
	うち退職給与引当金	(189,709)			(178,185)		(157,000)	1.7	(157,000)	1.7	21,185
	材料費	2,192,863	24.8	110.0	2,179,583	23.9	2,176,781	24.1	2,176,205	23.5	134,822
	経費	1,417,049	16.0	105.0	1,430,088	15.7	1,465,310	16.3	1,505,218	16.3	28,032
	減価償却費	483,749	5.5	96.5	506,104	5.6	517,497	5.7	590,150	6.4	80,245
	資産減耗費	22,258	0.3	114.1	28,132	0.3	5,575	0.1	2,101	0.0	4,993
	研究研修費	54,752	0.6	117.7	59,989	0.7	67,032	0.7	57,766	0.6	12,319
	* 医業費用計*	10,374,199	117.2	104.3	10,889,798	119.5	10,687,855	118.5	10,990,095	118.8	350,061
	医業外費用	210,858	2.4	99.3	196,638	2.2	196,811	2.2	182,173	2.0	27,821
	特別損失	26,142	0.3	1,217.6	43,505	0.5	27,670	0.3	26,161	0.3	16,906
** 費用合計**	10,611,199	119.9	104.4	11,129,941	122.2	10,912,336	121.0	11,198,447	121.0	305,334	
差引損益	△ 1,606,913	△ 18.2	107.4	△ 1,886,771	△ 20.2	△ 1,797,645	△ 19.3	△ 1,514,914	△ 16.4	7,229	
一般会計繰入金	1,731,266	19.6	91.1	1,810,684	19.9	1,781,957	19.8	1,830,581	19.8	13,590	
当期純損益	124,353	1.4	30.9	△ 26,087	△ 0.3	44,312	0.5	315,667	3.4	20,819	

※平成24年度賞与引当金270,000千円を給与費に計上

※外書き

(注1) 延入院患者数欄上段は、人間ドック分を外書き

経常収支比率	101.4	97.5	99.8	100.6	99.2	103.0	100.3	97.3	-
医業収支比率	85.3	99.9	83.7	84.4	98.9	84.2	82.3	97.8	-

III 診 療 統 計

1. 総合診療科

総合診療科は(1) 専門各科における診療になじまない紹介患者への対応、(2) 院内各科からの相談対応、(3) セカンドオピニオンに準じた相談に応じることなどが主な業務である。症例としては発育・発達障害や感染症を中心に、各診療科にまたがるような疾患の全身管理や、様々な特殊な問題を抱えた common disease 症例が数多く紹介されてくる。

担当スタッフは2名である。研修医や専攻医の研修の受け皿となり、研修計画の立案や実際の研修を担当し、コーディネートする役割も担っている。

入院患者はスタッフの関係上、救急集中治療科スタッフが担当する体制になっている。多くが基礎疾患を持った児の合併症、特に感染症である。

新しい病院では、総合診療科は救急部門と連携して、救急総合診療という大きな枠組みの中で救急外来対応と院内の患者の内科的管理を担当することになっている。

我が国のみならず世界中の小児科が抱えている大きな問題として小児期に発症した疾患が治癒せずそのまま成人まで医療を必要とする患者が年々増加しており、所謂小児期発症疾患を有する患者の移行期医療の問題が深刻になっている。内科で管理するにしても全くこれまで経験がなく、小児科が継続して管理するにしても成人期に特有の疾患についての経験がほとんどないことから、どこでだれが管理するのが最も良いのか答えの出ない状況である。おそらく全く新しい分野として取り組んでいかねばならない問題である。いずれにしてもその受け皿を整備する必要がある、そこに総合診療科がタッチしていくことが求められている。そのための環境整備を進めていくことが喫緊の課題である。

また在宅移行支援も大きな問題であり、そこにも総合診療として多くの診療科がタッチしていく必要がある。

当院は各専門診療科に細分化されており、各々の診療科でのサブスペシャリティ研修を目的に応募する専攻医が多くを占めるが、専門医制度の大幅な改革に対応するためにも専攻医はまず小児医療の基礎を身につけることが先決であり、その意味で総合診療の重要性をアピールし、研修体制を充実する必要があると思っている。

外来担当スタッフ:上谷良行、宅見晃子、山崎武美 (阪神北広域こども急病センター)、笠井和子、森永杏子、神前愛子

2. 救急集中治療科

1. 診療活動

小児救急医療センターが平成19年10月1日に開設以来8年、当センターの前身である救急医療室が平成14年10月に開設され、三次救急医療がスタートしてから13年が経過した。当センターで診療の中心を担っているのは救急集中治療科である。

当センターは院外からの重症患者の受入や院内の急変患者、術後患者の受入など、多岐にわたる分野の患者を受け入れており、他院の医師をはじめ各関連診療科との連携と調整をおこないしなやかに対応している。

少子化に伴う小児入院患者の減少はあるものの、外来経由の重症患者の入院は増えており、他院では対応できない患者の受け入れは多く行われているといえる。

近隣の小児関連医療施設から当院への重症患者搬送の際に医師が同乗できないことから、重症にもかかわらず公的救急車による搬送を断られる例もある。安全な重症患者搬送のために、全日ではないが症例によっては当院ドクターカーによる迎え搬送する体制を組んでおり、その体制を24時間365日の体制でおこなえる様に整備している。

また成人救急に比べ機会の少ない高エネルギー外傷等の小児重症患者初療スキルアップのため看護師とも協力し定期的にシミュレーションをおこなっている。シミュレーションに限らず、普段の診療でも医師看護師間の連携を深め互いの役割を確認しつつチーム医療の文化を醸成している。

2. スタッフ

救急集中治療科：上谷良行、竹田洋樹、福原信一、山口善道、中岸保夫、神田杏子、楠元真由美、梶原伸介

兼任：三好麻里（部長・免疫アレルギー科）、田中亮二郎（腎臓内科）、永瀬裕朗（脳神経内科）

長谷川大一郎（血液腫瘍科）、尾崎佳代（代謝内分泌科）、丸山あずさ（脳神経内科）

笠井和子（免疫アレルギー科）、藤田杏子（脳神経内科）、中川拓（腎臓内科）

フェロー：石田悠介

専攻医：山口 宏（平成27年1月～3月）

稲熊洋祐（平成27年4月～平成27年9月）

上月愛瑠（平成27年9月～）

谷澤直子（平成27年4月～7月）

上村和也（平成27年10月～12月）

初期研修医：

織辺圭太	県立西宮病院	9月～10月	救急集中治療科
------	--------	--------	---------

小児外科、脳神経外科、整形外科、形成外科など外科系各科は on call で back up 体制をとっている。

3. 診療統計

兵庫県立こども病院 小児救急医療センター 統計 2015年1月～12月

【1】救急医療センター 来院患者 全体統計

2015年 1月～12月	外来のみ				本館入院				救急センター入院				小計				合計			
	時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外		時間内		時間外					
	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診	初診	再診				
救急集中 治療科 Dr 外来診察	55	252	132	621	9	50	9	47	96	106	244	397	19	33	160	427	385	1098	2070	
	307	753	59	56	202	641	52	895	587	1483										
小計	1060	1175	115	895	277	120	864	2467	1603	2467	1603	2467	1603	2467	1603	2467	2467	2467	2467	
外科系	小児外科	1	28	2	18	6	10	2	5						7	38	4	23	72	
	脳外科	1	31	1	4	3	5	1	2						4	36	2	6	48	
	泌尿器科	3	15	8	15	4	4	0	3						7	19	8	18	52	
	形成外科	0	28	0	13	0	0	0	0						0	28	0	13	41	
	その他	1	1	0	3	0	0	1	1						1	1	1	4	7	
心外・循環器科	0	35	0	14	2	22	1	15						2	57	1	29	89		
新生児科	0	9	0	4	0	2	0	1						0	11	0	5	16		
他の内科系	2	41	0	4	8	15	1	1						10	56	1	5	72		
小計	8	188	11	75	23	58	6	28						31	246	17	103			
	196	86	81	34										277	120					
	282	397	115	895	277	120	864	2467	1603	2467	1603	2467	1603	2467	1603	2467	2467	2467		
合計	63	440	143	696	32	108	15	75	96	106	244	397	19	33	864	1603	2467	2467	2467	

【2】救急センター外来・入院患者の内訳（救急集中治療科診察）2015年1月～12月

1) 総内訳

外来患者	1175（本館入院115 帰宅1060）
------	----------------------

入院患者	死亡	21	PICU	304
	最重症	264		
	重症	610	救急病棟	591
	計	895	計	895

2) 来院患者重症度別

① 重症度

来院患者		初診	再診	計	%
	死亡	9	12	21	1.0
	最重症	132	132	264	12.8
	重症	199	411	610	29.5
	外来	205	970	1175	56.8
	計	545	1525	2070	100

② 事故・疾病別重症度

来院患者		事故	%	疾病	%	計	%
	死亡	3	14.3	18	85.7	21	1.0
	最重症	42	15.9	222	84.1	264	12.8
	重症	102	16.7	508	83.3	610	29.5
	外来	195	16.6	980	83.4	1175	56.8
	計	342	16.5	1728	83.5	2070	100.0

3) 来院方法別

		小計	計	%
自家用車・タクシー・徒歩		1713	1713	69.4
救急車	公共	661	693	28.1
	Dr car	8		
	災害医療	7		
	中央市民	7		
	その他	10		
ヘリ		9	9	0.4
転棟		52	52	2.1
計		2467		100.0

ヘリでの搬送例

- 3/5 3y 呼吸不全、両側気胸、18トリソミー
市立西脇病院より
- 7/18 9y 喉頭異物
災害医療センターヘリにて現場搬送
- 8/8 3y 心不全、房室中隔欠損症術後、21トリソミー
県立柏原病院より
- 8/15 5y 急性脳症 県立淡路医療センターより
- 9/25 1y 急性脳症 徳島赤十字病院より
- 10/21 2m 頭蓋内出血、胆道閉鎖症
公立豊岡病院より
- 10/21 1m 腫瘍崩壊症候群、急性リンパ性白血病
鳥取大学病院より
- 11/15 3y 墜落外傷、重症頭部外傷、脳挫傷、
急性硬膜外血腫 製鉄記念広畑病院より

4) 主な症例

1	人工換気療法	82
2	緊急手術	71
	消化器系	40
	脳神経系	16
3	交通外傷	23
4	脳低温・平温療法	35
5	血液浄化	5
6	到着時心肺停止	23

5) 外科系緊急協力科 (含 重複)

小児外科	260	泌尿器科	64
脳外科	124	放射線科	86
麻酔科	53	耳鼻科	16
形成外科	43	眼科	7
整形外科	34	精神科・指導相談	3
心外循環器	94	歯科	3

6) 救急センター入院 最重症患者住所

	2015年	
	数	%
神戸・三田	155	54.4
阪神	22	7.7
東播磨	36	12.6
北播磨	27	9.5
西播磨	11	3.9
但馬	5	1.8
柏原	6	2.1
淡路	3	1.1
県外	20	7.0
不明	0	0.0
計	285	100.0

3. 代謝・内分泌科

1. スタッフ

部長（科長）	郷司 克己
医長	尾崎 佳代
フェロー	日外 祐理

2. 診療活動

代謝内分泌科は小児における大きな特性である成長と成熟にかかわる疾患、すなわち低身長症、肥満、糖尿病、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、思春期発来異常、性分化異常などを対象としている。本年度の新規外来患者数は235名であった。施設としては日本内分泌学会の認定教育施設に認定され、内分泌専門医を目指す小児科医の研修支援を行なっている。

また、当科においては遺伝工学的手法を駆使して診療にあたるのが社会的要請に合致することと考え分子生物学的手法を用いた解析に努めている。本年度は遺伝子診断により診断が確定した非古典型21水酸化酵素欠損症患者の副腎皮質機能評価、複合型下垂体機能低下症における病因遺伝子解析などにおいて臨床と直結する成果が得られた。今後も神戸大学小児科とも協力しながら、分子生物学的手法を用いた解析、研究を臨床の場に役立てたいと考えている。

外来患者（新患）

	患者数
低身長症	90
甲状腺疾患	23
性腺疾患	48
副腎	1
糖代謝異常	18
肥満	5
マススクリーニング クレチン症	10
先天代謝異常症	7
先天性副腎過形成	2
その他	31
計	235

入院患者

	患者数
低身長症	15
糖代謝異常	17
性腺疾患	3
甲状腺疾患	2
副腎疾患	0
その他	9
計	46

4. リウマチ・アレルギー科

1. 人事異動

【スタッフ】

科長 ～ 8月 三好 麻里
 9月～ 中岸 保夫
 医長 中岸 保夫
 医長 笠井 和子

【非常勤】

9月～ 三好 麻里
 9月～ 岡藤 郁夫（神戸市立医療センター中央市民病院 小児科医長）
 9月～ 田中 裕也（神戸市立医療センター中央市民病院 小児科副医長）

【フェロー】

～ 3月 水田 麻雄

本年9月に三好が科長を退任し、中岸が科長に就任した。三好は引き続きスーパーバイザーとして週2回勤務している。三好の科長退任と当院移転後の病病連携のため、アレルギー部門の診療応援として岡藤先生と田中先生の勤務が開始された。リウマチ科は中岸、アレルギー科は笠井を中心とし、診療を行っている。また水田は小児リウマチ疾患の研究のため、4月から金沢大学小児科に所属し当科との共同研究に携わっている。

2. 人事異動

リウマチ科では、若年性特発性関節炎（JIA）、全身性エリテマトーデス、若年性皮膚筋炎などの膠原病、自己炎症性疾患、川崎病や高安動脈炎に代表される血管炎症候群などを対象としている。小児リウマチ疾患への標準的な診断・治療のみならず、JIAや自己炎症性疾患への生物学的製剤投与など特殊治療の診療実績も蓄積してきた。地域の中心的病院としての役割だけでなく、近畿・四国各地からの相談も増えてきている。施設としては日本リウマチ学会の認定教育施設・小児リウマチ専門医研修施設に認定されており、学会での教育活動など後進の育成にも引き続き尽力していく。

一方アレルギー科では、食物アレルギー、気管支喘息、アトピー性皮膚炎などへの標準的な治療だけではなく、金属・薬物アレルギーなどの診断や免疫療法などの特殊治療にも取り組んできた。本年終盤に開始した入院負荷試験など、地域の要請に合致する診療を進めていくとともに、アレルギー疾患に関わる医師や看護師、栄養士、薬剤師などの教育にも積極的に取り組んでいく予定である。

1) 外来初診患者数

1. リウマチ性疾患	
若年性特発性関節炎	22
皮膚筋炎	2
SLE	1
川崎病	1
自己炎症性疾患	4
その他のリウマチ性疾患	11
その他	11

2. アレルギー疾患	
食物アレルギー	16
アトピー性皮膚炎	9
気管支喘息	6
その他	4

2) 入院患者数

若年性特発性関節炎	8
皮膚筋炎	8
川崎病	11
高安動脈炎	2
その他のリウマチ性疾患	1
食物アレルギー	4
気管支喘息	2

3) 外来食物負荷試験 144件

5. 脳神経内科

1. 人事異動

【スタッフ】

医長（科長）	永瀬 裕朗（-2015年9月退職）
医長（科長）	丸山 あずさ（2015年10月-）
医長	豊嶋 大作（2015年10月赴任）
医長	藤田 杏子（2014年4月- 休職）

【フェロー】

田中 司

【2015年専攻医】

1月	上村 和也
2-3月	橋本 興人
6月	瓦野 昌大
8-9月	上村 和也
12月	山口 宏

本年は永瀬が9月末で神戸大学に異動、豊嶋が神戸大学から当科に赴任した。藤田が留学のため休職中であり、スタッフ2名、フェロー1名の3人体制で診療を担当した。また児玉荘一先生に引き続き週1回スーパーバイズをお願いしていたが、10月からは児玉先生、永瀬に月2回ずつ診療応援や専攻医教育、臨床研究のアドバイスなどをお願いしている。

2. 活動状況

診療活動は、脳神経内科外来初診290名・発達行動小児科外来初診患者は18名、外来延べ人数3440名であった。また入院患者延べ人数は1816名であった。県内の中核機関としての役割を、引き続き担っていきたいと考えている。発達障害や心身症に対応している発達行動小児科外来は、永瀬の異動により2015年10月から休診にしているが、2016年5月新病院移転後には総合診療科外来にて再開予定としている。また永瀬が神戸大学に異動したことにより、こども病院と神戸大学での厳密な診療連携を構築していく予定である。

当科で重点的に取り組んでいる集中治療領域における連続脳波モニタリングは125例に対して行った。PICUにおいて意識障害やけいれん重積の小児の脳波をリアルタイムでモニタリング体制がとれるのは兵庫県下では当院だけであり、全国的にみてもその実施件数はトップレベルである。引き続き急性脳症や重症頭部外傷などの重篤な症例の管理の質の向上に取り組んでいく予定である。またビデオ下発作時脳波検査は13例に行った。新病院では、ビデオ脳波が出来る環境が整うため、積極的にてんかん発作の確認を行っていきたいと考えている。

学術活動についても引き続き尽力している。急性脳症に対する臨床研究については、こども病院のデータを神戸大学にて解析し、学会報告やpublicationの準備をしている。その他の業績については別項を参照していただきたい。

脳神経内科外来

初診患者 290 例

(疑い疾患名を含む、一部重複あり。)

発作性疾患 173

てんかん	108
ウェスト症候群	6
熱性けいれん	36
泣き入りひきつけ	4
不随意運動	7

感染性・炎症性疾患 35

急性脳炎・脳症	34
---------	----

自己免疫性神経疾患 8

多発性硬化症・CIS	5
ADEM	2

発達障害 47

精神遅滞	37
広汎性発達障害	7
ADHD	5

心身症 等 34

チック	4
頭痛	9
摂食障害	8
睡眠障害	2
転換性障害	7

その他

脳性麻痺	12
大頭症・小頭症	5
脳血管疾患	5
神経皮膚症候群	5
神経筋疾患	2
頭部外傷	2

検査

連続脳波モニタリング	125 件
ビデオ下発作時脳波	13 件

発達行動小児科外来初診患者 18 例

広汎性発達障害	9
精神遅滞	2
注意欠陥多動障害	2
心身症	5

(疑い疾患名を含む、一部重複あり)

6. 血液・腫瘍内科

【人事】

2013年4月から当科の診療を支え、特に緩和医療やフォローアップといった分野で大きく貢献した矢内友子医師が2015年3月に退職した。同じ3月には産休中だった神前愛子医師が復帰し、また4月からフェローの斎藤敦郎医師が正規採用となったが、実質的にスタッフは1人減となった。短期ローテーターは割愛する。

部長（小児がん医療センター長）	小阪嘉之
部長（科長）	川崎圭一郎
部長	長谷川大一郎
医長	石田敏章
医長	神前愛子
医長	斎藤敦郎
フェロー	植村優
フェロー	高藤哲
フェロー	二野菜々子
フェロー	横井健人

【診療活動】

新患数と造血細胞移植数に関してはそれぞれ表1、表2を参照されたい。新患数は血液腫瘍性疾患、非悪性の血液疾患を中心に増加しており、やはり全国屈指の症例数である。近隣のいくつかの小児がん診療病院が、それぞれ専門医の退職で診療を縮小した影響も考えられる。今後もゆるやかな集約化が進むと思われ、小児がん拠点病院としての当院小児がん医療センターの役割は大きい。また造血細胞移植症例も昨年より若干増加し、小児科単科の施設の移植数としてはやはり多い。

上記の通り、矢内友子医師が退職したため、月1回の長期フォローアップ外来は神前愛子医師が引き継ぎ、主に造血細胞移植後の症例を対象に代謝・内分泌科や循環器内科他の協力を得て行っている。小児がん拠点病院としてこの分野も当院への期待は大きく、今後も徐々に対象疾患を広げる等、拡充に努めたい。

また2017年度に小児がんに重点を置いた新粒子線治療施設が整備されるのに先立ち、たつの市の兵庫県粒子線医療センターと協力し、5例の小児例に対して陽子線治療を実施した。小児に特有の課題はいくつか残るものの、双方のコメディカルスタッフを含めた総員の協力体制の下、全体的には安全裏に施行できた。この5例の治療を通じて問題点を抽出・検討し、2016年以降の、さらには2017年新粒子線治療施設でのよりよい陽子線治療に結びつけていきたい。

このような多忙な臨床の業務と並行して、積極的に内外の学会・研究会で発表を行っている。詳細は業績の項目を参照されたい。また当該外科系科、放射線科、病理科と合同で毎週腫瘍カンファレンスを開催し各科と一体になった集学的医療を推進している。対外的には県内の小児がん診療病院会議、近畿ブロックの小児がん拠点病院会議、中国四国ネットワーク会議等を通して各施設との緊密な連携を図るとともに、兵庫県がん診療連携協議会に参加するなどして成人領域のがん拠点病院とも連携を深めている。

2015年1月～12月 新患

血液腫瘍性疾患	急性リンパ性白血病	
	BCP	21
	T	2
	急性骨髄性白血病	
	AML (M2)	2
	AML (M7)	1
	慢性骨髄性白血病 (CML)	1
	若年性骨髄単球性白血病	1
	悪性リンパ腫	
	Burkitt	2
	DLBCL	1
	骨髄異形性症候群 (MDS)	
	RAEB	1
	RCMD	1
	Down	1
	Down 症 TAM	1
	ランゲルハンス細胞組織球症	6
	血球貪食性リンパ増殖性疾患 (HLH)	6
		47

固形腫瘍性疾患	髄芽腫	5
	MRT	1
	上衣腫	1
	頭蓋内胚細胞腫瘍	1
	神経膠芽腫	1
	髄膜腫	1
	神経芽腫	6
	網膜芽細胞種	3
	肝芽腫	3
	腎腫瘍	
	wilms 腫瘍	1
	ユーイング肉腫	1
	横紋筋肉腫	2
	頭蓋外胚細胞腫瘍	
	immature teratoma	2
	上咽頭癌	1
	未分化肉腫	1
	腭腫瘍	1
	固形その他	20
		51

血液疾患	自己免疫性溶血性貧血 (AIHA)	1
	遺伝性球状赤血球症 (HS)	3
	サラセミア	1
	血小板無力症	1
	特発性血小板減少性紫斑病	4
	血友病 A	5
	血友病 B	1
	再生不良性貧血	2
	先天性赤芽球ろう	1
	一過性赤芽球ろう	1
	自己免疫性好中球減少症	7
	好中球減少症	2
	X連鎖リンパ増殖症候群 (XLP)	1
	X連鎖無ガンマグロブリン血症	1
	血液その他	24
	(ドナー)	31
		86
	セカンドオピニオン	2

造血細胞移植一覧

	疾患名	年齢／性	病期	移植の種類	転帰
1	NBL	4/F	1st PR	APBSCT	担癌生存
2	AML	12/F	1st CR	UBMT	無病生存
3	ALL	10/F	2nd relapse	CBT	腫瘍死
4	CML	8/M	1st CR	RBMT	移植関連死
5	ALL	14/F	1st relapse	UBMT	移植関連死
6	NBL	6/F	1st PR	APBSCT	無病生存
7	ALL	5/M	2st CR	UBMT	無病生存
8	PNET	5/F	1st PR	APBSCT	担癌生存
9	ALL	8/F	2st CR	UBMT	無病生存
10	MBL	8/M	1st CR	APBSCT	無病生存
11	CGD	2/M	CGD	UBMT	無病生存
12	NBL	1/F	1st PR	APBSCT	無病生存
13	NBL	3/M	2nd CR	CBT	無病生存
14	AML	5/F	1st CR	CBT	無病生存
15	AML	11/M	1st CR	UBMT	無病生存
16	RMS	2/F	1st CR	APBSCT	無病生存
17	MBL	4/M	1st PR	APBSCT	担癌生存

7. 循環器内科

【スタッフ・フェロー】

スタッフ	城戸佐知子	専攻医	瓦野 昌大
	田中 敏克		神納 幸治
	藤田 秀樹		山口 宏
	富永 健太		
	佐藤 有美 (2015年4月から非常勤)		
	小川 禎治		
	亀井 直哉		

フェロー	古賀 千穂 (2015年3月まで)
	雪本 千恵 (2015年3月まで)
	三木 康暢
	祖父江俊樹
	谷口 由記
	平海 良美
	福田 旭伸

スタッフ7名、フェロー5名、他に専攻医数名。専攻医は1-4ヶ月ごとのローテーションで、主に入院患者管理、カテーテル検査の補助などに従事。心疾患患者の扱いに慣れ、心疾患の診断技術として主として心エコーの基礎を習得し、カテーテル検査の結果を読み、軽症では診断から手術適応の判断ができることを主たる目的とする。またフェローは1年単位の比較的長期間循環器診療に携わり、できる限りカテーテル検査、心エコー検査を単独でこなし、軽症から重症の疾患までの治療方針を自身の判断で立てられることが目標である。

【診療活動】

- (1) 外来：月曜日から金曜日まで週5日、午前・午後、基本1診。外来総患者数はのべ9147名、新規患者数は月曜日以外の毎日受け入れており、2015年の総新規患者数は614名で、新患・再診とも昨年に比べ増加傾向であった。外来での有疾患患者の主体は比較的軽症の疾患であり、内訳は心室中隔欠損(123)、心房中隔欠損(66)、肺動脈狭窄(35)、動脈管開存(23)、川崎病(既往含む)(10)、ファロー四徴症(4)、不整脈(40)、意識消失(44)、自律神経調節障害(35)など。カテーテル治療相談外来(木曜午前、担当：田中医師)や成人先天性心疾患外来(月曜午後、経過観察、妊娠・分娩の相談など、担当：城戸)、不整脈外来(木曜午後、担当：小川)など専門外来も紹介患者が増加傾向である。当院では外来枠の制限があるため、地域の病院での先天性心疾患外来が充実されることが望ましいが、従事可能な小児科循環器医の数が少なく、今後の大きな課題である。新病院に移転後には、2診で診療できるようになることが決定し、さらに受診患者数が増加すると予想される。成人に達した患者については、地域との医療連携の必要性を考慮に入れ、兵庫県立姫路循環器病センターなどでの診療応援(外来応援)を続ける一方、2013年1月からは神戸大学附属病院循環器内科において成人先天性心疾患部門を立ち上げ、協力体制を強化している。また胎児心疾患診断についても、産科外来において胎児心エコーを行っているほか、他院にて診療の応援を行い、医療連携にも重点を置いて取り組んでいる。

- (2) 入院：1年間の総入院患者数は464名で、昨年と比べ大幅に増加していた。カテーテル検査・治療目的の入院が増加したのに加え、新生児・乳児期の重症疾患患者も増加した。新生児・乳児期の入院は138名（内訳下表）で、心疾患の他に他疾患を合併する症例も多く、ICU滞在期間・入院期間は必然的に長くなっており、昨年に引き続き病棟運営上の問題となっている。
- (3) 生理検査：総心電図件数6808件、Master負荷心電図件数1379件、Holter心電図件数373件、トレッドミル負荷心電図は272件と昨年までと比べ、Master以外は大幅に増加している。心エコーは5826件（ICUや手術室、カテ室でのエコー件数を除く）と毎年増加傾向が続いている。胎児心エコーは242件（担当：佐藤医師、亀井医師 主として木曜日）。一昨年から始めたヘッドアップチルト検査は75件施行した。今後、さらなる件数の増加が予想される。
- (4) 心臓カテーテル検査・治療：総件数316件、カテーテル治療の件数は112件と大幅に増加した。術後の再狭窄に対する血管形成術を繰り返し行う症例が多かったことが影響していると考えられる。今後もこの傾向が続くと予想され、年々、治療を目的としたカテーテルの割合が増加している。

【その他の活動】

- (1) カンファレンス：月曜日に心臓外科との合同カンファレンス、木曜日にカテーテル検査および心エコー検討会、木曜日朝に心臓外科と合同の抄読会・検討会を行い、討議の時間をもっている。
- (2) 学会参加：小児循環器病学会、JPIC研究会、胎児循環器学会、成人先天性心疾患研究会、HOT研究会、川崎病研究会、日本循環器学会などへの参加。

【新規患者内訳】

1. 入院患者総数	464名	両大血管右室起始	20
A. 新生児期・乳児期	138	大動脈弓離断・大動脈縮窄	8
心室中隔欠損・房室中隔欠損	22	房室中隔欠損	9
心房中隔欠損	4	大血管転位	7
大動脈離断複合・縮窄複合	5	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖	7
両大血管右室起始	7	肺動脈狭窄	7
大血管転位	4	心膜・心筋疾患	7
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	2	大動脈弁疾患（狭窄・逆流）	8
ファロー四徴症、	7	川崎病・冠動脈後遺症	14
左心低形成症候群	13	総肺静脈環流異常	15
その他の単心室系疾患	31	両大血管右室起始・房室中隔欠損	0
総肺静脈還流異常	15	感染性心内膜炎	0
エプスタイン奇形	1	不整脈	3
大動脈肺動脈窓	2	エプスタイン奇形	0
三心房心	0	総動脈幹症	2
総動脈幹症	3	僧帽弁閉鎖不全	1
肺動脈閉鎖（心室中隔欠損を伴わない）	6	肺動脈弁欠損	3
肺動脈弁狭窄	1	肺高血圧	1
不整脈・心不全	4	大動脈・肺動脈瘻	0
大動脈弁狭窄	2	修正大血管転位	6
大動脈縮窄	1	その他	7
修正大血管転位	4		
心筋疾患	1	C. カテーテル治療（カテーテル総数316件）	112
その他	3	弁形成（大動脈弁・肺動脈弁）	9
		血管形成	46
B. 全入院患者の疾患内訳（カテーテル検査入院含む）	464	ステント留置術	5
フォンタン型手術関連疾患（いわゆる単心室型心臓）	128	コイル塞栓術（動脈管開存）	6
ファロー四徴症	20	コイル塞栓術（側副血管・動静脈瘻）	17
肺動脈閉鎖・心室中隔欠損	13	バルーン心房中隔裂開術	12
心室中隔欠損	12	心房中隔欠損閉鎖術（Amplatzer）	11
心房中隔欠損	17	動脈管開存閉鎖術（Amplatzer）	6
動脈管開存	11		

8. 腎臓内科

外来／入院診療については、白鳥孝俊医師（フェロー）、中川拓医師、神田杏子医師（救急集中治療科兼務）と田中亮二郎医師が担当した。また専攻医の中西啓太医師（1~3月）上村和也医師（4,5月）橋本興人（6,7月）谷澤直子（9月）、瓦野昌大（11月）が当科で研修した。平成27年の外来初診患者数190名、入院患者数は81名であった。

【活動状況】

ネフローゼ症候群、急性腎炎、IgA腎症、紫斑病性腎炎、遺伝性腎炎、その他慢性腎炎、全身性エリテマトーデス、溶血性尿毒症症候群などの急性腎不全、慢性腎不全、高血圧、尿路感染症、先天性腎尿路奇形、腎臓移植後、夜尿症等を対象としている。本年度はネフローゼ症候群や腎炎などに対して21例の腎生検を施行した。急性腎不全の患児に対しては集中治療科と協力して診療にあたった。低形成・異形成腎による慢性腎不全の患児3名に対して新規に腹膜透析を導入し、現在6名の慢性腎不全患児が外来維持腹膜透析を受けている。腎移植に関しては他院にお願いし、現在計5名の患者さんが外来にてフォロー中である。今後急性腎不全に対する血液浄化や慢性腎不全に対する在宅腹膜透析を積極的に押し進めたいと考えている。平成20年より厚生労働科学研究「小児保存期慢性腎臓病患者の長期予後の解明と腎不全進行抑制の治療法の確立」に参加し、本邦小児の新たな診断基準による小児慢性腎臓病（CKD）の実態把握のための調査研究や保存期の小児慢性腎臓病を対象とした多施設協同非盲検ランダム化比較試験を行ってきた。また平成20年より小児期発症の難治性ネフローゼ症候群に対する IDEC-C2B8 の多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験を医師主導治験として実施し、治験を終了した。治験結果に基づき平成26年8月にリツキシマブが難治性頻回再発型／ステロイド依存性ネフローゼ症候群に対して保険適用薬として承認された。現在は、「初発寛解後早期に再発する小児ステロイド感受性ネフローゼ症候群患者を対象とした標準治療と標準治療＋高用量ミゾリビン併用治療の多施設共同オープンランダム化比較試験」と「頻回再発型小児ネフローゼ症候群を対象としたタクロリムス治療とシクロスポリン治療の多施設共同非盲検ランダム化比較試験」、また先進医療Bとして「小児難治性頻回再発型／ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの多施設共同二重盲検プラセボ対照ランダム化比較試験」と「小児難治性頻回再発型／ステロイド依存性ネフローゼ症候群を対象としたリツキシマブ治療併用下でのミコフェノール酸モフェチルの薬物動態試験」の臨床研究に参加している。さらに平成25年より神戸市と協力して、「3歳児検尿の効果的方法と腎尿路奇形の早期発見に関する研究」を行っている。先天性腎尿路奇形は小児期腎不全の60%を占める重要な疾患である。このように当科では臨床研究・治験と疫学的研究を通して新しいエビデンス構築に向けて貢献している。平27年10月10日に第29回日本小児PD・HD研究会をシーサイドホテル舞子ビラ神戸にて開催した。「患児とともに－エキスパートをめざす－」をテーマに100名強の参加者があった。初めての全国規模の研究会の主催であったが無事盛況に終えることができた。院内活動としては、週1回英文抄読会を行い、最新の情報の収集に努めている。また平成18度より日本腎臓学会の研修教育施設にも指定されている。臨床研究のできる小児腎臓医を育てることを目標としている。

平成 27 年腎臓内科入院患者

疾患	入院数
ネフローゼ症候群	30 名
I g A 腎症	3 名
紫斑病性腎炎	3 名
巣状分節性糸球体硬化症	1 名
微小変化群	1 名
膜性増殖性糸球体腎炎	2 名
急性糸球体腎炎	4 名
尿細管間質性腎炎	1 名
慢性腎不全	13 名
複雑型尿路感染症	5 名
先天性尿路奇形	5 名
高血圧	1 名
ギッテルマン症候群	1 名
総排泄腔遺残	2 名
ネフロン癆	1 名
常染色体劣性多発性嚢胞腎	4 名
S L E	1 名
腎移植後	3 名

計 81 名

9. 精神神経科

【スタッフ】

常勤	関口典子 玉岡文子
非常勤	長谷川弘子（神戸市こども家庭センター） 松川悦之（松川診療所）

スタッフは4月より常勤1名から2名へ増員された。それに伴い木曜日以外は2診体制の診察が可能となった。非常勤医師は引き続き長谷川（月曜日）、松川（金曜日）が週1回半コマ外来を担当している。

4月から精神科所属の臨床心理士も1名月2回から3名各週1日へ増員され、言語聴覚士外来も月1回から月3回へ増加した。検査、評価、心理療法の待ち時間が大きく短縮され、より細やかな治療的関わりが可能となった。

【活動内容】

- 1) 対象疾患は、身体疾患など器質に由来する精神障害から、発達障害、ストレス関連障害を中心として多岐に渡る。ICD-XにおけるF-code（精神および行動の障害）ではF1（精神作用物質使用による精神および行動の障害）、F6（成人のパーソナリティおよび行動の障害）を除く全ての項目を網羅している。
- 2) 診療活動は外来診療が主である。常勤医師増員により新患予約枠を拡大し、新患患者の予約待ちは2ヶ月程度から2週間程度に短縮された。
- 3) 入院患者に対するリエゾンは、虐待、産後うつなど精神科医が必要とされている分野は多く、小児がんや救急患者の家族への支援を期待されることもある。病棟との連携をより緊密にしていくことが今後の課題である。
- 4) 児童精神科領域での啓蒙、教育研修として神戸大学発達科学部、神戸大学医学部精神医学教室での講義を行った。児童精神科領域に興味を持つ精神科医の見学を受けいれている。
- 5) 兵庫県の子どものこころの診療ネットワーク事業に参加し、兵庫県内の関連施設と連携している。

平成 27 年 新患分布

			1-2	3-5	6-8	9-11	12-17		
			幼児 前期	幼児 後期	学童 前期	学童 後期	中学 高校	18歳 以上	計
F0	F05	せん妄、アルコールおよび他の精神作用物質によらないもの		1		1			2
	F06	脳損傷、脳機能不全および身体疾患による他の精神障害					1		1
	F07	脳の疾患、損傷及び機能不全による人格及び行動の障害		1					1
F1	F19	多剤使用および他の精神作用物質使用による精神および行動の障害	1						1
F2	F23	急性一過性精神病性障害				1			1
F4	F40	恐怖症性不安障害					1		1
	F41	他の不安障害			1		4	2	7
	F42	強迫性障害			1	2	3	1	7
	F43	重度ストレス反応 [重度ストレスへの反応]および適応障害		3	5	3	17	5	33
	F44	解離性[転換性]障害			8	13	11		32
	F45	身体表現性障害		1	1	6	12		20
F5	F50	摂食障害					5		5
	F51	非器質性睡眠障害		1	1	2	4	1	9
	F53	産褥に関連した軽症の精神および行動の障害、他に分類できないもの						2	2
F6	F63	習慣および衝動の障害				1			1
F7	F70	軽度精神遅滞[知的障害]			2	4	4		10
	F71	中度[中等度]精神遅滞[知的障害]			1	1	1		3
	F72	重度精神遅滞[知的障害]					1	1	2
F8	F80	会話および言語の特異的発達障害		1			1		2
F9	F84	広汎性発達障害	1	16	23	14	7		61
	F90	多動性障害			4	3			7
	F91	行為障害			2	3	1		6
	F94	小児期および青年期に特異的に発症する社会的機能の障害			1		1		2
	F95	チック障害	1	1	3	2	1		8
	F98	小児期および青年期に通常発症する他の行動および情緒の障害		2	4				6
他		その他					1		1
計			3	27	57	56	76	12	231

10. 小児外科

小児外科スタッフ

副院長（科長）	前田貢作	（昭和 54 年卒）
部長	横井暁子	（平成 2 年卒）
部長	尾藤祐子	（平成 5 年卒、～ 5 月）
医長	福澤宏明	（平成 11 年卒）
医長	久松千恵子	（平成 12 年卒、6 月～）
医長	遠藤耕介	（平成 15 年卒）
医長	大片祐一	（平成 16 年卒）
医長	森田圭一	（平成 17 年卒）

小児外科フェロー・専攻医

フェロー	玉城昭彦	（平成 21 年卒）
フェロー	三島泰彦	（平成 22 年卒）

【人事異動】

4 月に三島泰彦医師が大分県立病院小児外科より赴任した。尾藤祐子医師が 5 月末で退職し、神戸大学小児外科（特命准教授・診療科長）に異動となり、久松千恵子医師が神戸大学小児外科（助教）より当院に赴任した。

【診療活動】

入院患者数 1087 名（前年度 850 名）に対して 914 件、日帰り手術患者数 242 名（前年度 227 名）に対して 242 件の手術を行った。全手術件数は 1156 件（前年度 1041 件）であった。

カンファレンスについては、術前・術後カンファレンス（各 1 回/週）、抄読会（1 回/週）、クリニカルカンファレンス（2 回/週）を行った。

【教育活動】

例年通り神戸大学と熊本大学の 5 - 6 年生を臨床実習生として受け入れた。また、2 週に 1 回 5 年生の BSL として各グループ 6 ~ 7 名の学生を受け入れた。本年は海外からの留学生の受け入れはなかった。

【学会活動】

日本小児外科学会、小児血液がん学会、日本周産期新生児学会、日本内視鏡手術手技研究会、日本小児呼吸器科研究会などで発表した。発表論文は邦文 12 編、英文 6 編であった。

1. 入院手術

914 例				
頭頸部	舌切除術 (巨大舌リンパ管種)	1	観血的腸重積整復術 3 腹腔鏡補助下 / メッケル憩室切除術 3 イレウス解除術・腸管切除術 14 Hirschsprung 病 / 類縁疾患 - 腹腔鏡補助下 / 経肛門 Soave 手術 4(1/3) 腹腔鏡補助下 / Swenson 手術 2(1/1) 直腸・結腸生検 1 人工肛門造設術 1 腸瘻造設・閉鎖・吻合 - 胎便性腹膜炎 1 特発性消化管穿孔 12 壊死性腸炎 1 開腹右半結腸切除 1 S 状結腸捻転解除術 2 消化管穿孔縫合閉鎖 1 腹腔鏡下虫垂切除術 15 開腹虫垂切除術 2 腹腔鏡補助下 / 重複腸管手術 2 人工肛門ポリープ切除 2	
	腫瘍摘出術 (Desmoid-type Fibromatosis)	1		
	甲状舌管嚢腫摘出術	7		
	梨状窩嚢腫摘出術	2		
	鰓弓遺残 異所性軟骨切除	1		
	頬皮嚢腫摘出	3		
	気道	声帯外方移動術 (Ejnell 法)		2
	声門下腔狭窄症	-		
	喉頭前方切開、T-tube 留置	4		
	喉頭前後方切開、T-tube 留置	2		
	肋軟骨グラフト、前方切開、T-tube 留置	1		
	肋軟骨グラフト、前後方切開、T-tube 留置	1		
	気管狭窄症	-		
	スライド気管形成術	9		
	切除端々吻合	1		
	気管軟化症	-		
	大動脈つり上げ術	1		
	胸骨切除	1		
	気管切開術	16		
	気管切開孔形成術	1		
	喉頭気管分離術	5		
	腕頭動脈離断術	4		
	腕頭動脈胸骨固定術 (つり上げ術)	2		
	ビデオ喉頭鏡下処置 (腫瘍生検など)	4		
肺	肺部分切除	8	直腸肛門 直腸肛門奇形 / 鎖肛 - PSARP 5 仙骨会陰式鎖肛根治術 (SP) 1 ASARP 1 肛門移動術 (Potts 法) 2 カットバック 1 人工肛門造設術 5 人工肛門閉鎖術 5 根治術後再肛門形成術 3 総排泄腔遺残症根治術 2 痔核・痔瘻手術 2 肛門粘膜脱切除 2 肛門周囲膿瘍手術 (切開排膿など) 4 便秘→直腸生検 3 摘便 7	
	肺葉切除	5		
	肺全摘	1		
	胸腔鏡下肺生検	1		
	肺エキスパンダー挿入・入れ替え	1		
胸壁・縦隔	漏斗胸	-	肝胆膵脾 先天性胆道拡張症 - 肝外胆管切除 肝管空腸吻合術 4 腹腔鏡下肝外胆管切除 肝管空腸吻合術 1 胆嚢嚢造設 1 腹腔鏡下胆嚢嚢造設 1 胆道閉鎖症 葛西手術 3 逆行性門脈造影・肝生検 1 腹腔鏡下 / 開腹胆嚢摘出術 2 膵腫瘍 - 膵体尾部切除、脾合併切除 1 膵膵吻合 1 膵仮性嚢胞ドレナージ 1	
		Nuss bar 挿入術		6
		Nuss bar 抜去術		6
		Ravitch 法		1
		鳩胸 Ravitch 法		1
	胸管結紮術	1		
横隔膜	先天性横隔膜ヘルニア	-	腹壁 臍帯・臍帯内ヘルニア - 一期的閉鎖 1 人工物 (ゴアテックス) による腹壁閉鎖 1 腹腔内洗浄、ゴアテックスによる再閉鎖 4 腹壁閉鎖 1 腹壁破裂 - サイロ形成術 2 サイロ後腹壁閉鎖術 2 鼠径ヘルニア根治術 / 陰嚢水腫手術 100 腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術 (LPEC) 6 臍ヘルニア手術 11 白線ヘルニア手術 2 腹壁癒痕ヘルニア手術 1	
		開胸直接閉鎖		1
		開腹直接閉鎖		3
		開腹パッチ閉鎖		1
		胸腔鏡下直接閉鎖		2
		胸腔鏡下直接閉鎖後再発→開腹直接閉鎖		1
食道	食道閉鎖症	-	泌尿・生殖器 尿管管遺残摘出術 1 卵巣腫瘍 - 腫瘍摘出術 / 付属器切除術 1	
		TEF 離断 食道食道吻合術		1
		食道食道吻合術		1
		TEF 離断 胃瘻造設術		1
		食道 banding 胃瘻造設術		1
		胸壁外食道延長術		2
		Gap 測定		1
	食道閉鎖症術後開胸止血術	1		
胃	開腹胃瘻造設術	14	十二指腸 十二指腸閉鎖・狭窄症手術 4 小腸・大腸 腸回転異常症手術 3 空腸閉鎖症根治術 1 腹腔鏡補助下腸重積整復術 3	
	腹腔鏡下胃瘻造設術	3		
	胃瘻再造設	1		
	胃瘻閉鎖術	2		
	開腹噴門形成術	13		
	腹腔鏡下噴門形成術	11		
	肥厚性幽門狭窄症手術	7		
	胃刺創縫合閉鎖	1		

	腫瘍核出術	2		縦隔洗浄ドレナージ	2
	会陰裂傷縫合	1		切開排膿・デブリードメント	2
腫瘍	肝芽腫	—		試験開腹術	6
		開腹腫瘍生検	2	試験腹腔鏡←大腿ヘルニア疑い	1
		腫瘍摘出術	3	開腹止血術	2
	神経芽腫	—		腹腔鏡下 / 開腹膿瘍ドレナージ	2
		開腹腫瘍生検	4	長期留置型 CV カテーテル留置	82
		腫瘍摘出術	4	長期留置型 CV カテーテル抜去	51
	腎芽腫	—		テンコフカテーテル留置	2
		腫瘍摘出術	2	気管支鏡検査・処置	187
	副腎褐色細胞腫	腹腔鏡下摘出術	1	気管支鏡下異物摘出	10
	その他の腫瘍生検		6	上部消化管内視鏡検査	45
	その他の腫瘍切除		5		
	リンパ管腫硬化療法		4		
	リンパ管腫切除		2		
皮膚・皮下腫瘍摘出術		3			
処置・検査	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	7		下部消化管内視鏡	12
	腹腔ドレナージ	4			
				EVL	1
				異物摘出	1
				バルーン拡張	25
				ERCp	1

2. 日帰り手術

242 例	
鼠径ヘルニア手術	205
臍ヘルニア手術	21
三輪-Gants	4
上部消化管内視鏡	3
精巣固定術	2
肉芽切除術	1
頸部リンパ節生検	1
CV カテ抜去	1
切開排膿	1
摘便	1
臍ポリープ切除	1
肛門刺激装置を用いた肛門位置の確認	1

3. 新生児手術

病名	術式	件数
左下咽頭梨状窩瘻	左下咽頭梨状窩瘻切除	1
咽頭嚢胞	嚢胞開窓術	1
嚢胞性肺疾患	左肺上葉切除術	1
	左肺上葉部分切除	1
左気胸	左肺部分切除術	1
右胸腔異物、両側胸水	右胸腔異物摘出、両側胸腔ドレナージ	1
先天性食道閉鎖症	気管食道瘻離断、食道食道吻合（一期的吻合）	1
	気管食道瘻離断	1
	胃瘻造設術、食道バンディング	1
先天性食道閉鎖症術後	胃瘻再造設	1
先天性食道閉鎖症術後、胸腔内出血	開胸止血術	1
先天性左横隔膜ヘルニア	開腹横隔膜ヘルニア修復術	3
	胸腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術	2
先天性右横隔膜ヘルニア（、左心低形成症候群）	開胸右横隔膜ヘルニア根治術（、PA banding）	1
肥厚性幽門狭窄症	幽門筋層切開術	1
先天性十二指腸閉鎖症・狭窄症	ダイヤモンド吻合術	3
先天性空腸閉鎖症	空腸空腸吻合	1
先天性空腸閉鎖症術後、イレウス	腸切除、再吻合術	1
先天性回腸閉鎖症	回腸回腸吻合	1
腸回転異常症	Ladd 手術	2

消化管穿孔	腸瘻造設術	2
消化管穿孔術後、腸閉塞	小腸瘻造設術	1
壊死性腸炎の疑い	試験開腹術	1
腸管重複症	回盲部切除術	1
鎖肛	人工肛門造設術	4
	肛門形成術	1
総排泄腔外反症	人工肛門造設術、腹壁閉鎖	1
胆道閉鎖症	葛西手術	1
先天性胆道拡張症	胆嚢瘻造設術	1
臍帯ヘルニア	ゴアテックスシートによる腹壁閉鎖	1
	腹腔内洗浄ドレナージ	2
	一期的根治術	1
腹壁破裂	サイロ造設術	2
	腹壁閉鎖術	2
鼠径ヘルニア	鼠径ヘルニア根治術	2
先天性気管狭窄症	気管支ファイバー検査	2
	計	51

4. 鏡視下手術

術式	件数
Nuss bar 挿入術	6
胸腔鏡下肺生検	1
胸腔鏡下後腹膜腫瘍生検	1
胸腔鏡下横隔膜ヘルニア修復術	2
胸腔鏡補助下右胸腔ドレナージ術	1
腹腔鏡下噴門形成術	11
腹腔鏡補助下胃瘻造設術	2
腹腔鏡補助下孤立性重複腸管切除	1
腹腔鏡補助下メッケル憩室切除	2
腹腔鏡補助下ヒルシュスプルング病根治術	2
腹腔鏡下腸重積整復	1
腹腔鏡下虫垂切除術	15
腹腔鏡補助下胆嚢瘻造設術、腹腔ドレナージ	1
腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
腹腔鏡下胆道拡張症手術	1
腹腔鏡下右副腎摘出術	1
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	6
腹腔鏡補助下腹膜透析カテーテル留置	1
腹腔鏡下膿瘍ドレナージ	1
試験腹腔鏡検査	2
ビデオ喉頭鏡下肉芽切除	1
ビデオ喉頭鏡下腫瘤生検	2
ビデオ喉頭鏡下声門部開大術	1
計	63

5. 研修医記録

三島泰彦医師

2015年4月～12月(9か月間)

	術式	症例数		うち	
		執刀	助手	新生児執刀	新生児助手
腹壁	サイロ造設術(腹壁破裂)	1		1	
	臍帯ヘルニア手術	1	4	1	1
	鼠径ヘルニア根治術	64	1	1	
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	1			
	臍ヘルニア手術	5			
	白線ヘルニア根治術	1			

頭頸胸部気道	スライド気管形成術		3		
	気管形成術(切除端端吻合)		1		
	C型食道閉鎖症根治術		1		1
	先天性横隔膜ヘルニア修復術		1		
	左肺上葉切除術		1		
	肺部分切除		1		
	リンパ管腫硬化療法	1			
	甲状舌管嚢胞切除術	3			
	左側頸部腫瘍摘出術		1		
	異所性軟骨切除(鰓弓遺残)	1			
	Nuss bar 挿入術	1	1		
	Nuss bar 抜去術	2			
	Ravitch 手術		1		
	胸腔ドレナージ・ドレーン留置	1	1		
	気管切開術	4	1		
	喉頭気管分離術		1		
	喉頭気管形成術		1		
	腕頭動脈離断術		1		
	硬性気管支鏡検査	2	25		
	硬性気管支鏡下異物摘出	1			
	気管支ファイバー下肉芽焼灼		1		
	声帯外方固定術(エーネル法)		1		
	ビデオ喉頭鏡下嚢胞開窓術		1		
気管切開口肉芽切除	1				

腹部	幽門筋層切開術	2			
	(開腹)噴門形成術	1	1		
	腹腔鏡下噴門形成術		5		
	(開腹)胃瘻造設術	2			
	腹腔鏡補助下胃瘻造設術	1			
	胃瘻再造設術		1		
	胃瘻閉鎖手術	1			
	Ladd 手術	1		1	
	(開腹)虫垂切除術	1			
	腹腔鏡下虫垂切除術	1			
	S状結腸捻転手術		1		
	イレウス解除術	2			

	人工肛門造設術	3		2	
	人工肛門閉鎖	1			
	鎖肛手術（カットバック）	1		1	
	総排泄腔遺残症根治術		1		
	ヒルシユスプルン病根治術		1		
	腹腔鏡補助下ヒルシユスプルング病根治術		1		
	三輪 - Gant's	1			
	卵巣嚢腫核出術	1			
	肝外側区域切除術		1		
	肝部分切除		1		
	肝生検		1		
	胆道拡張症手術		2		
	腫瘍摘出術（神経芽腫）	1	1		
	腫瘍摘出術（腎芽腫）		1		
	腫瘍生検術（肝芽腫）		1		
	上部消化管内視鏡検査		1		
	内視鏡下食道静脈瘤結紮術	1			
	内視鏡下食道バルーン拡張術	1	1		
	下部消化管内視鏡検査		2		

その他	皮下腫瘍摘出術	1			
	皮下腫瘍生検	1			
	中心静脈カテーテル留置(ヒックマンorプロビアック)	19	1		
	中心静脈カテーテル抜去(ヒックマンorプロビアック)	7			
	中心静脈ポート留置	1			
	中心静脈ポート抜去	1			
	腹腔鏡補助下腹膜透析カテーテル留置	1			
	ED チューブ留置		1		
	離解創閉鎖		1		
	摘便		1		

	合計	143	76	7	2
--	----	-----	----	---	---

11. 心臓血管外科

【スタッフ紹介】

部長（手術部長兼任） 大嶋 義博（昭和 57 年神戸大卒）、
神戸大学医学研究科医科学専攻外科系講座客員教授、
心臓血管外科専門医、同 修練指導者

医 長 圓尾 文子（平成 7 年神戸大卒）心臓血管外科専門医

医 長 長谷川 智巳（平成 8 年京都府立医大卒）心臓血管外科専門医

医 長 松久 弘典（平成 11 年神戸大卒）心臓血管外科専門医
専攻医（心臓血管外科修練医）

松島 峻介（平成 20 年大阪大卒）日本外科学会専門医

岩城 隆馬（平成 19 年愛媛大卒）日本外科学会専門医

山本 真由子（平成 24 年岩手医大卒）

【診療体制】

外来：月、水、金の午後 2 診

手術：月～金。

心臓センター開設後、外科・内科のより緊密な連携に加え、加古川西市民病院や神戸大学との地域連携、救急医療の強化も含め、新たな体制づくりが進んでいる。野田 伶先生は 27 年 4 月に社会保険中京病院へ転任、入れ替わりに山本先生が神戸大学より赴任した。県立淡路医療センター研修医当麻 遼先生が 5 月から 2 か月間、外科研修を行った。9 月に長谷川 智巳先生が集中治療専門医試験に合格、同時に ICU が集中治療専門医研修施設として認定（内定）された。新病院では長谷川先生を含めた集中治療専門医が CICU 管理に携わる予定である。

開心術件数に変化はないものの、全体の手術件数は前年度を上回った。胎児診断症例、特に、無脾症候群、左心低形成類似疾患の紹介が多く、それに伴って新生児の姑息症例が増加している。2014 年の体外循環を用いた手術は 189 例（新生児 23 例）、体外循環非使用の心臓手術は 63 例（新生児 45 例）、その他 52 例であった。在院死亡は 3 例で、胎児期より高度の房室弁逆流と肺静脈閉塞で生当日に開心術を要した例や肺合併症の併発例など、救命困難例であった。毎朝の麻酔科との術前カンファレンス、ICU カンファレンス、毎週月曜朝の術前検討会、夕方の循環器カンファレンス、金曜の術後検討会に加え、循環器科および複数科との audit meeting も定期的に行っている。

学会活動：英文、邦文論文が掲載あるいは投稿中で、海外学会、胸部外科学会、心臓血管外科学会、小児循環器学会、その他、多数の学会、研究会にて発表した。

術式 (疾患)	28 日未満			～ 1 歳未満			1 歳～ 17 歳			18 歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA													0		
CoA (simple)	1			1									2		
+VSD	1			2									3		
+DORV				1									1		
+AVSD													0		
+TGA													0		
+SV				1									1		
+others													0		
IAA (simple)													0		
+VSD				2									2		
+DORV													0		
+Truncus	1												1		
+TGA													0		
+SV													0		
+others				1									1		
Vascular ring				2			1						3		
PS				4			2						6		
PPA or critical PS	3			2			3						8		
TAPVR	3			3									6		
asplenia	4	1	2	1									5	2	2
PAPVR ± ASD							4						4		
ASD				1			12						13		
Cor triatriatum													0		
AVSD (partial)													0		
AVSD (complete)													0		
+TF or DORV							1						1		
+others													0		
VSD (I)				1			3						4		
VSD (II or IV)				16			8						24		
VSD (III)				1									1		
VSD + PS				3									3		
DCRV ± VSD							1						1		
Aneurysm of sinus Valsalva													0		
TF				3			6						9		
(SP shunt)													0		
PA + VSD (Rastelli)													0		
(SP shunt)													0		
(UF ± shunt)							1						1		
DORV				4			4						8		
TGA (simple)	2												2		
+ VSD													0		
+ VSD + PS													0		
corrected TGA							2						2		
Truncus arteriosus	1												1		
SV (SP shunt)	1			6									7		
(BDG)				11									11		
(Fontan)							8						8		
TA (SP shunt)													0		
(BDG)													0		
(Fontan)													0		
HLHS (Norwood)	3			8		1							11	1	1
(BDG)				6									6		
(Fontan)							1						1		
Aortic valve lesion (形成)							2						2		
(弁置換)							1						1		
SAS													0		
supra AS				1									1		
Mitral valve lesion (MR形成)				3			2						5		
(MR 弁置換)													0		
(MS 形成)				1									1		
(MS 弁置換)													0		
Ebstein													0		
Coronary disease													0		
その他	3			1									4		
再手術 VSD 再閉鎖													0		
PS 解除				2			1						3		
RV-PA 導管再置換							4						4		
(PVR を伴う)													0		
その他				9			2						11		
総数	23	1	2	97	0	1	69	0	0				189	1	3

術式 (疾患)	28 日未満			～ 1 歳未満			1 歳～ 17 歳			18 歳以上			総数		
	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡	症例	死亡	在院死亡
PDA	20			3									23		
CoA (simple)													0		
+VSD													0		
+DORV													0		
+AVSD													0		
+TGA													0		
+SV													0		
+others													0		
IAA (simple)													0		
+VSD	1												1		
+DORV													0		
+Truncus													0		
+TGA	1												1		
+SV													0		
+others	1												1		
Vascular ring	1			2									3		
PS													0		
PPA or critical PS	1												1		
TAPVR													0		
asplenia													0		
PAPVR ± ASD													0		
ASD													0		
Cor triatriatum													0		
AVSD (partial)													0		
AVSD (complete)	1			1									2		
+TF or DORV													0		
+others													0		
VSD (I)													0		
VSD (II or IV)	4			3									7		
VSD (III)													0		
VSD + PS													0		
DCRV ± VSD													0		
Aneurysm of sinus Valsalva													0		
TF	1			3									4		
PA + VSD													0		
DORV	2			2									4		
TGA (simple)													0		
+ VSD													0		
+ VSD + PS													0		
corrected TGA													0		
Truncus arteriosus													0		
SV (SP shunt)				3									3		
(PAB)	2												2		
TA (SP shunt)													0		
(BDG)													0		
(Fontan)													0		
HLHS (bil.PAB)	9												9		
(SP shunt 追加)													0		
Aortic valve lesion (形成)													0		
(弁置換)													0		
SAS													0		
supra AS													0		
Mitral valve lesion (MR形成)													0		
(MR 弁置換)													0		
(MS 形成)													0		
(MS 弁置換)													0		
Ebstein													0		
Coronary disease													0		
その他	1			1									2		
再手術													0		
VSD 再閉鎖													0		
PS 解除													0		
RV-PA 導管再置換													0		
(PVR を伴う)													0		
その他													0		
総数	45	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0

	症例数	死亡	在院死亡
皮下膿瘍、デブリードメント	5		
ペースメーカー植え込み	11		
ペースメーカー電池交換	1		
心嚢ドレナージ	5		
胸腔ドレナージ	6		
ECMO 装着 (ショック)	1		
ECMO 装着 (気管形成術等)	3		

横隔膜縫縮	6		
気管腕頭動脈瘻	3		
縦隔炎手術	4		
大動脈 / 肺動脈吊上げ	1		
気胸手術	1		
血腫除去	3		
その他	2		
総計	52		

12. 脳神経外科

2015年度の脳神経外科スタッフは長嶋達也（院長）、河村淳史（診療科長）、山元一樹（部長：～2015年9月30日）、小山淳二（医長：2015年12月1日～）、阿久津宣行（医長）、の指導医とローテーション医師とで診療に従事した。

専攻医として、2015年1月1日～3月31日は山川皓（医員）、2015年4月1日～9月30日は松尾和哉（医員）、2015年10月1日から山口陽二（医員）が脳神経外科専門医研修の一環として着任した。また、2014年10月1日～2015年9月30日まで東京医科大学八王子医療センター脳神経外科から大塚邦紀（フェロー）を国内留学医として迎えた。

診療活動では外来患者数の増加と共に、兵庫県下のみならず他府県からの紹介及びセカンドオピニオン例も増加している。当施設脳神経外科の特色は複数科との連携によるチーム医療であり、血液腫瘍内科・放射線治療科・臨床病理部との集学的治療を必要とする脳脊髄腫瘍症例、整形外科・泌尿器科・育児内科との治療および管理が必要な二分脊椎症例、形成外科合同の外科的治療を要する頭蓋顔面奇形症例、救急集中治療科をはじめ多数科との協力が必要な頭部外傷・多発外傷症例などを中心に積極的な治療に取り組んでいる。特に小児脳腫瘍に関しては小児がん拠点病院として全人的医療を実施するために必要な部署と連携して治療チームを編成し、2016年4月からの陽子線治療にも対応可能な体制を構築してきた。

各症例においては地域小児医療各方面と密な連絡・連携を保ちながら長期の追跡を行ない、成人した時点でのQOLの向上を目指しており、神経奇形、頭部外傷、脳腫瘍を中心に国際的な水準を維持する手術・治療成績を積み重ねていく所存である。

脳神経外科手術ナビゲーションが順調に稼働し、新型顕微鏡も導入したので困難な手術を支える施設面も充実した。今後も24時間365日、あらゆる小児の脳神経外科手術に対応するという体制を維持し続けたい。

その他の活動

- (1) カンファレンス；毎週水曜日 腫瘍治療検討会、月1回 二分脊椎カンファレンス、随時 頭部外傷カンファレンス
- (2) 学会参加；日本小児神経外科学会、脳神経外科学会学術総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳神経外科学会近畿支部学術集会、日本二分脊椎研究会、日本こども病院神経外科医会、日本脳卒中学会学術総会、日本脳腫瘍学会、日本小児血液・がん学会学術集会、日本脳腫瘍病理学会、日本神経内視鏡学会などへの参加

		件数	
	脳神経外科的手術の総数	139	
1	脳腫瘍	12	4 慢性硬膜下血腫
	摘出術	11	奇形
	開頭生検術	1	頭蓋・脳
	経蝶形骨洞手術		脊髄・脊椎
2	脳血管障害	7	5 水頭症
	バイパス手術	4	脳室シャント術
	開頭血腫除去術		内視鏡手術
	脳血管奇形手術	3	6 脊髄・脊椎
3	外傷	10	腫瘍
	急性硬膜外血腫	2	脊髄空洞症
	急性硬膜下血腫	3	7 その他
	減圧開頭術		8 血管内手術
			9 定位放射線治療

日本脳神経外科学会の分類による

医員 山川 皓
 研修期間 2015.1.1-2015.3.31
 指導医 長嶋 達也、河村 淳史、山元 一樹、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		3	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか			
開頭脳内血腫			
バイパス手術		1	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫		2	
頭蓋・脳奇形			
脊椎・脊髄奇形		1	
水頭症脳室シャント		3	
神経内視鏡手術			
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他		2	
血管内手術			
計		13	
合計			

フェロー 松尾 和哉
 研修期間 2015.4.1-2015.9.30
 指導医 長嶋 達也、河村 淳史、山元 一樹、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		2	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		1	
開頭脳内血腫			
バイパス手術		2	
急性硬膜外血腫			
急性硬膜下血腫			
慢性硬膜下血腫・水腫		2	
頭蓋・脳奇形		2	
脊椎・脊髄奇形		11	
水頭症脳室シャント		13	
神経内視鏡手術		3	
脊椎・脊髄腫瘍		3	
脊髄空洞症			
その他		2	
血管内手術		1	
計		42	
合計			

医員 山口 陽二
 研修期間 2015.10.1-2015.12.31
 指導医 長嶋 達也、河村 淳史、小山 淳二、阿久津 宣行

症例	執刀	第1助手	第2助手
脳腫瘍摘出術		4	
動脈瘤・脳動静脈奇形ほか		2	
開頭脳内血腫			
バイパス手術			
急性硬膜外血腫		1	
急性硬膜下血腫		2	
慢性硬膜下血腫・水腫		1	
頭蓋・脳奇形		1	
脊椎・脊髄奇形		3	
水頭症脳室シャント		6	
神経内視鏡手術		1	
脊椎・脊髄腫瘍		1	
脊髄空洞症			
その他		2	
血管内手術			
計		24	
合計			

13. 形成外科

2015年は4月に森本萌恵医師が住友病院に転出し、大阪府立母子保健総合医療センターより池村光之介医師が転入した。2013年のV-beamレーザー導入後、あざに対する日帰り手術件数が右肩上がりに増加しており、あらためてこの領域での需要の多さがうかがわれた。相変わらず学童期患者の夏休み手術希望が多く、病棟数・手術終了時間の関係で施行数を制限せざるを得ないのが積年の課題である。

年間の患者数及び手術件数

2015年1月1日～12月31日

形成外科新患者数 405名
 形成外科入院患者数 287名（延べ人数ではない）

形成外科手術件数

入院手術 全身麻酔 279件（合計279件）
 腰麻・伝達麻酔 0件
 局所麻酔・その他* 0件
 外来手術 全身麻酔 165件（合計406件）
 腰麻・伝達麻酔 0件
 局所麻酔・その他* 241件 *その他には無麻酔や分類不明を入れる

手術内容区分

区 分	件 数						計
	入 院 手 術			外 来 手 術			
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
I. 外傷	7					1	8
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷で全身管理を要する非手術例							
熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷の手術例	5						5
顔面軟部組織損傷	1					1	2
顔面骨折							0
頭部・頸部・体幹の外傷							0
上肢の外傷							0
下肢の外傷	1						1
外傷後の組織欠損（2次再建）							0
II. 先天異常	200			58		1	259
唇裂・口蓋裂	85			2		1	88
頭蓋・顎・顔面の先天異常	40			53			93
頸部の先天異常							0
四肢の先天異常	55			3			58
体幹（その他）の先天異常	20						20
III. 腫瘍	50			64		2	116
良性腫瘍（レーザー治療を除く）	50			64		2	116
悪性腫瘍							0
腫瘍の続発症							0
腫瘍切除後の組織欠損（一次再建）							0
腫瘍切除後の組織欠損（二次再建）							0
IV. 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	13			1			14
V. 難治性潰瘍	1						1
褥瘡	1						1
その他の潰瘍							0
VI. 炎症・変性疾患	1						1
VII. 美容（手術）							0
VIII. その他							0
Extra. レーザー治療	7			42		237	286
良性腫瘍でのレーザー治療例	7			42		237	286
美容処置でのレーザー治療例							0
大分類計	279	0	0	165	0	241	685

14. 整形外科

2015年度は3月末に武岡医師が転出し茨木医師が赴任した。10月からは大学より坂田医師が新たに加わり5人体制となった。新進気鋭の医師の加入は整形外科に新たなエネルギーをもたらすであろう。手術件数は241件とほぼ横ばいであった。

手術

	病名	術式	手術数
体 幹	斜 頸	切腱術	4
	側 弯 症 後 弯 症	矯正術、ロッド延長、病巣搔爬など	8
	脊 椎 疾 患 (側 弯 を 除 く)	頸椎固定術 ハロー装着など	2
股 関 節	先天性股関節脱臼など(麻痺性除く)	ソルター、観血的整復など	12
	ペ ル テ ス 病	大腿骨骨きり術	5
	骨 頭 す べ り	ピンニング	7
	麻痺性股関節脱臼、DDH以外の疾患など	筋解離術 (含む観血的整復術)、骨切りなど	1
足 部	先 天 性 内 反 足	アキレス腱切腱 (Ponseti)	31
		軟部組織解離術など	10
	麻 痺 性 変 形 (症 候 性)	軟部組織解離術など	20
	足 根 骨 癒 合 症	癒合部切除	2
下 肢	下 肢 先 天 性 疾 患 な ど	矯正術	2
	脚 長 差	延長, 矯正 (イリザロフ (含む Taylor Frame))	7
		成長抑止術 (含む8プレート)	18
	変 形 な ど	変形矯正 (回旋含む 創外固定以外)	4
	膝 蓋 骨 脱 臼	整復術	2
上 肢	上 肢 疾 患	矯正術など	3
外 傷	上腕骨の骨折 (顆上、外顆など)	整復固定術	8
	下 肢 骨 折	整復 固定	3
	骨 折 な ど	鋼線牽引	2
炎 症	化膿性関節炎 脊椎炎	病巣搔爬、洗浄 穿刺	3
	腫瘍 骨髓炎, LCH, 病態不明など	生検術 病巣搔爬	6
腫 瘍	腫 瘍	骨	9
		軟部	3
その他	多・合指 (趾) 症	余剰指 (趾) 切除	11
		指 (趾) 間形成	7
	癭 痕 拘 縮	形成術	2
	剛 直 母 指	腱鞘切開	6
	そ の 他		43
			241
	部 位	方法	
	股 関 節	アルトロ	34

15. 眼 科

本年度の眼科医師の異動は以下の通り。3月末に広瀬美樹研修医が、6月末に前田祥史専攻医がそれぞれ9ヶ月間、15ヶ月間の研修を終え、それぞれ新たな研修先に異動した。後任として4月に徳永敬司専攻医が7月に福永とも子専攻医が着任した。

新病院では電子カルテが導入されるが、外来患者数の多い眼科は電子カルテ化の影響がとりわけ大きいと言える。実際、患者数を維持するために他施設では眼科のみ紙カルテで運用されている例があり、また、神戸大学付属病院では眼科のみ当初は紙カルテを使用、数年の準備期間を経て漸く、電子カルテに移行したという事実もある。いずれも電子カルテが眼科の外来診療に及ぼす影響の大きさを示している。当科も例に漏れず、現在の外来患者数を電子カルテ導入後も維持していくことはかなりの難題である。最も基本的な対策として眼科部門システムを使用するが、各種検査機器について電子カルテのファイリングシステムに直結するインターフェースを持たないものも多く、特に視能訓練士が行う検査の大部分において手入力が必要になる。可能な項目全てにテンプレートを用意するなど、カルテ記載を含め入力効率化に繋がる部門システムの作り込みを行っている。

2015年 眼科 新患診療統計

病名	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	合計
		1～5ヶ月	6～11ヶ月	1～3歳	4～6歳	7～9歳	10～12歳	13歳以上	
屈折異常	0	11	4	182	134	62	51	25	469
斜視および疑い	0	18	21	151	82	35	21	11	339
未熟眼底	0	0	0	0	0	0	0	0	0
未熟児網膜症	0	24	4	0	2	0	0	0	30
眼瞼疾患	2	13	7	52	31	24	4	1	134
涙器疾患	0	14	11	9	0	0	0	0	34
結膜疾患	0	6	2	5	1	1	1	1	17
角膜・強膜疾患	0	10	4	18	9	6	0	0	47
ブドウ膜疾患	2	9	6	2	5	0	0	2	26
網膜・硝子体疾患	2	29	6	10	7	6	0	1	61
水晶体疾患	10	16	9	23	9	3	1	0	71
眼窩疾患	0	0	0	1	0	1	0	0	2
遺伝性疾患	0	0	0	0	1	0	0	0	1
視神経、視路傷害 (眼振ほか)	0	9	4	9	9	15	18	7	71
緑内障	2	9	4	12	9	5	1	4	46
外傷	0	1	1	1	0	0	1	0	4
症候群	0	1	2	5	2	0	1	0	11
心因性視力障害	0	0	0	0	3	6	6	0	15
腫瘍	0	4	1	4	2	1	1	0	13
その他	2	3	1	6	1	4	1	0	18
小計	20	177	87	490	307	169	107	52	1409

PAT (プリズム検査)	148名
矯正・その他の検査	11名
PL検査・TAC	373名
弱視訓練	2名
視野検査	213名 (414眼)
合計	747名

実習生受け入れ状況 (合計 6名)

学校名	人数	期間	実習場所
大阪滋慶学園 大阪医療福祉専門学校	2名	6月1日～7月2日(5週間)	外来及び手術室 (見学)
九州保健福祉大学 視機能療法学科	1名	5月11日～6月26日(7週間)	

(2) 入院手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
斜視	0	0	5	45	65	70	48	42	275
内反症	0	0	0	6	22	18	8	1	55
眼瞼下垂	0	0	0	0	1	0	0	0	1
眼瞼・眼窩疾患	0	0	1	5	5	1	1	0	13
結膜疾患(腫瘍)	0	0	0	1	1	0	0	0	2
角膜疾患	0	0	0	1	0	2	0	0	3
網膜疾患(腫瘍)	0	0	1	2	1	0	0	0	4
硝子体	0	2	0	0	0	0	0	0	2
鼻涙管閉鎖及び異常	0	0	0	3	0	1	0	0	4
眼瞼形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緑内障	0	1	1	4	1	1	0	0	8
白内障	0	4	4	8	12	7	3	1	39
未熟児網膜症	1	6	0	0	0	0	0	0	7
眼球振盪症	0	0	0	0	1	0	0	0	1
外傷・検査・その他	0	1	1	3	2	1	1	0	9
合計	1	14	13	78	111	101	61	44	423

(3) 日帰り手術

	新生児	乳児		幼児		学童		思春期	計
		前期	後期	前期	後期	前期	後期		
内反症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
霰粒腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
斜視	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検査									89
合計									89

16. 耳鼻咽喉科

1. 外来診療

今年も常勤医師1名（大津）、兼任医師1名（火・金曜、阪本）は変わらず診療を行った。約840名の新患の内訳としては、例年同様、滲出性中耳炎、反復性中耳炎、扁桃・アデノイド肥大、言葉の遅れの精査依頼などが多い。兵庫県耳鼻科医会の3歳児健診への新たな取り組みにより、言葉の遅れの精査依頼が増えている。新生児聴覚スクリーニング検査の普及に伴い、高度難聴のみならず軽中等度難聴児も早期発見されるようになり、乳児期からの補聴器装着開始児が増えた。早期からの聴覚支援学校との連携がますます重要となってきた。診察室の耳鼻科診療ユニットは1台しかないため、年間の外来診察延べ患者数6000人余は限界に達している。感音難聴児の聴覚管理について、地域の医療機関との役割分担が今後の課題である。

2. 手術・入院診療

手術については、他科入院中の併施症例や日帰り手術を合わせると、5年連続300件を超えた。引き続き増加傾向にある地域の医療機関からの紹介による手術対象例に対応すべく、手術枠増に努力したい。年少児の重症睡眠時無呼吸症候群に対する扁桃摘出、アデノイド切除術は周術期の呼吸管理が重要であり術後数日間挿管管理を要することもあり、麻酔科各医師とHCU看護スタッフの多大の協力に支えられている。限られたスタッフであり頸部手術には十分に対応できないが、医療安全に十分配慮しつつ手術治療に取り組みたい。

入院手術（併施含む）

扁桃摘出術	95
アデノイド切除術	82
鼓膜チューブ挿入術	52
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	2
がま腫ピシバニール注入	3
咽後膿瘍切開排膿術	1
鼻涙管チューブ挿入	4
その他	12
合計症例数（他科入院25名含）	151

日帰り手術（併施を含む）

鼓膜チューブ挿入術	205
鼓膜穿孔閉鎖術・鼓膜形成術	20
鼓膜肉芽切除術、鼓膜切開等	21
舌良性腫瘍切除術	2
舌小帯形成術	2
外耳道異物摘出術	1
合計症例数	235

3. 言語聴覚療法について

【人員】

昨年と同様、言語聴覚士（以下、ST）は正規職員3名、日々雇用1名であった。うち正規職員1名は柏原病院との兼務であるため、当院としては合計3.6名体制で業務をおこなった。

【主な業務】

①聴力検査（耳鼻科外来）②補聴器外来（耳鼻科外来）③言語評価および訓練（耳鼻科および形成外科外来、入院）④摂食機能療法（入院）である。

【診療保険点数、業務上の変化】

平成25年に兵庫県でも軽中等度難聴児に対する補聴器購入助成制度が開始され、補聴器外来の需要がさらに拡大することが予想された。そのため、補聴器外来の手順について見直しを行い、予約枠の拡充を図った。リハビリテーション業務については昨年同様、脳血管リハビリテーションⅠの施設基準を保った。

【業務詳細】

①聴力検査

一般病院では行うことの難しい聴性行動反応聴力検査や条件詮索反応聴力検査、遊戯聴力検査などをケースに合わせて実施している。さまざまな検査の結果、補聴器適応となれば、補聴器外来での予約をとるよう勧めている。

②補聴器外来

<耳鼻科>「ことばの遅れ」や「発音の異常」を主訴に来院されるケースに対して評価を行い、保護者へのアドバイスを行っている。症状の多くは、全般的な発達遅滞によることばの遅れや器質的な異常を持たない機能性構音障害である。近年は、発達に偏りのある広汎性発達障害と考えられるケースも増えているが、当院は医療機関であるため、療育指導については各関連機関へ紹介させていただいている。

<形成外科>唇顎口蓋裂児に対して週2日外来訓練日を設けている。発音指導だけでなく、適切な時期に教育機関に移行できるよう保護者へのアドバイスや、学校への連絡等、外部機関との連携も行っている。

<入院>脳損傷後の高次脳機能障害や構音障害の評価および訓練、気管切開カニューレ使用中（または抜管後）の発声・構音訓練、その他言語・コミュニケーションに遅れや困難さをもつ児に対してサイン言語導入訓練や語彙力向上を目的にした訓練等を実施している。退院後のフォローについては地域の訓練機関を紹介させていただいている。

④哺乳・摂食嚥下訓練

入院児を対象に行っている。食事を開始したが上手く進まない、何から始めていいのか悩む、試行錯誤しているような症例は依頼いただければ可能な限り対応している。訓練だけでなく、食具の選定、食形態の検討、姿勢のアドバイス等も行っている。

ST業務が多岐に渡るため、こども病院として何を提供していくべきか、平素よりスタッフ間で協議・確認している。来年度にはリハビリテーション科が標榜され、院内外からの期待も大きいものと思われるが、どのSTが担当しても質の高いリハビリテーションが提供できることを目標とし、スタッフ一同、更なる知識・技術習得に努めたい。

表1【H27年聴力検査関連業務件数】

検査項目	件数(件)
標準純音聴力検査	524
標準語音聴力検査	44
気導聴力検査	272
遊戯聴力検査	3079
補聴器1回目	47
補聴器2回目以降	349
計	4315

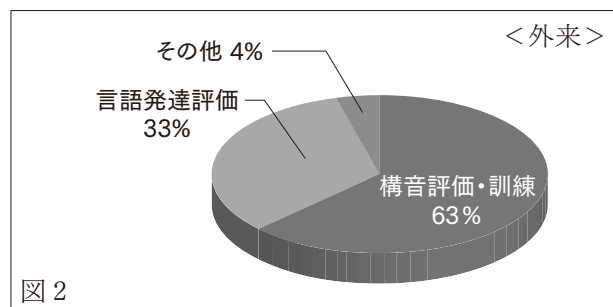
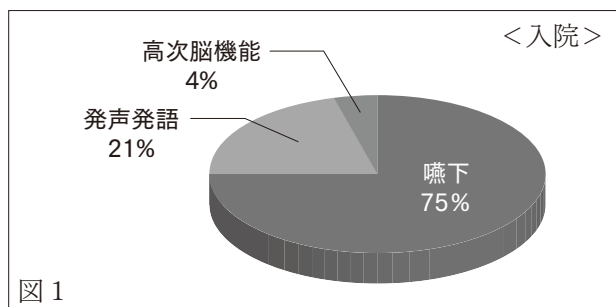
表2【H27年リハビリテーション関連業務件数および単位数】

脳血管リハ(I)	件数	単位数
入院	1824件	1526単位
外来	367件	823単位
計	1191件	2349単位

表3【診療科別ST依頼数】

H27(1月-12月) *下表の数字は(人)					
入院	循環器内科	26	外来	耳鼻咽喉科	34
	小児外科	24		形成外科	24
	救急治療科	15		(外来新患計)	58
	新生児科	12	/		
	脳神経外科	11			
	心臓血管外科	9			
	血液腫瘍科	7			
	総合診療科	3			
	腎臓内科	1			
	アレルギー科	1			
	(入院新患計)	109			
	年間新患(入・外合計) 167人				

【ST依頼内容内訳】



2015年度耳鼻咽喉科新患集計

	症例数	院内	耳鼻科	小児科	産科	健診	聾学校	その他	なし
言語発達遅滞	93	20	50	5	1	13	1	3	
構音障害	29	13	9	3		3			1
発達遅滞	10	6	3	1					
ダウン症	18	4	11	2		1			
耳介奇形・小耳症	1		1						
外耳道閉鎖・狭窄	8	5	1	1	1				
副耳	2	1		1					
先天性耳ろう孔	8		5	2	1				
外耳道異物	1		1						
耳垢栓塞	16	13		2		1			
急性中耳炎	12	11	1						
反復性中耳炎	1		1						
滲出性中耳炎	282	69	183	14	4	7	2	2	1
慢性中耳炎	4		4						
真珠腫性中耳炎	2		2						
先天性難聴(疑い含む)	186	53	63	26	25	13	2	1	3
ムンプス難聴(疑い含む)	6		6						
心因性難聴	34	1	33						
突発性難聴	1		1						
低音障害型難聴	1		1						
難聴	144	37	90	7	1	6	1	2	
難聴(疑い含む)	28	10	10	3		2		1	2
聾	3		3						
内耳奇形	8		8						
中耳奇形	2		2						
側頭骨骨折・耳小骨離断	3	3							
耳鳴	2		2						
めまい	2	1		1					
顔面神経麻痺・下口唇麻痺	12	3	2	7					
慢性鼻・副鼻腔炎	81	19	52	2	1			5	2
急性鼻・副鼻腔炎	9	6	1	1					1
アレルギー性鼻炎	58	6	43	4		1		4	
鼻出血	4	1	3						
鼻咽腔閉鎖不全	1			1					
後鼻孔閉鎖・狭窄	1	1							
後鼻孔ポリープ	1		1						
鼻骨骨折	1		1						
アデノイド肥大	153	20	108	17		3		5	
扁桃肥大	119	14	78	18		2		7	
扁桃炎	8	4	1	3					
睡眠時無呼吸症候群	126	13	83	21		3		6	
急性咽頭炎	3	3							
口唇粘液のう胞	1			1					
舌小帯短縮症	4		1	3					
唾石	1			1					
耳下腺炎	2	1		1					
耳下腺腫瘍・顎下腺腫瘍	4	1	2	1					
咽・喉頭異物	4	4							
喉頭軟化症	42	32	2	6		1		1	
反回神経麻痺	37	37							
声帯ポリープ・喉頭肉芽	9	5	4						
急性声門下喉頭炎	1	1							
嚥下障害	43	43							
喉頭浮腫	4	4							
正中顎のう胞・側顎のう胞	4		3					1	
顎部リンパ節炎	12	2	7	3					
口蓋裂	10	8	2						
感染症チェック	8	8							
新スク後精密検査	51	15	15	9	12				
小計	1721	498	900	167	46	56	6	38	10
健診	27		6	1		19		1	
その他症例	47	20	20	6				1	
合計症例数	1795	518	926	174	46	75	6	40	10
新患者数(重複除く)	841								

17. 泌尿器科

2015年3月に久松英治が退職し、4月から4人体制（杉多良文、中川賀清、奈良健平、清末晶子）で診療を行った。9月末に奈良が退職したので、10月からは3人体制となった。入院手術・日帰り手術ともに手術件数は例年通りで、大きな変化はなかった。2016年にはかねてから念願の尿路結石治療ができるHo-YAGレーザーの導入が予定されており、新病院での診療に役立てたい。

学術活動に関しては、日本泌尿器科学会（金沢）、日本小児外科学会（神戸）、日本小児泌尿器科学会（東京）等において、小児泌尿器科疾患の診断・治療に関する当院の手術成績などを発表した。（杉多記）

2015年度 手術実績

441

尿路系

VUR手術（開腹）	34
VUR手術（気膀胱）	1
デフラックス注入	8
膀胱尿管新吻合	7
尿管カテーテル抜去	31
腎盂形成	12
腹腔鏡下腎盂形成	2
内視尿道切開	1
腎尿管切除	2
腎瘻造設	4
内視鏡（膀胱鏡、腔鏡）	8
下部尿管尿管吻合	1
経尿道的切石	7
開腹切石	2
尿管瘤開窓	1
膀胱瘻造設	5
膀胱瘻閉鎖	1
腸管利用膀胱拡大	2
尿管管遺残切除	1
尿管カテーテル留置	2
瘻孔閉鎖	3
止血	1
計	136

性器系

外陰部形成	2
包茎手術	12
尿道下裂根治	57
ヘルニア手術	8
腹腔鏡下ヘルニア手術	6
陰嚢水腫根治術	17
顕微鏡下精巣静脈低位結紮術	3
精巣固定術	138
精巣捻転	7
停留精巣摘除	10
腹腔鏡下精巣血管結紮（F-S1期目）	3
腹腔鏡下精巣固定術（F-S2期目）	6
包皮形成術（逆Byars flap）	5
尿道下裂術後瘻孔閉鎖	7
外尿道口形成、切開	3
嚢腫切除	4
陰嚢形成	5
精巣腫瘍核出	1
陰嚢切開、血腫除去	2
腹腔鏡、精巣生検、精巣固定	1
陰嚢試験切開	1
腔形成	4
処女膜切除	1
外陰裂傷縫合	1
恥骨前瘻孔切除	1
計	305

入院	271
日帰り	170

18. 小児歯科

診療内容として、全身疾患を有する患児や心身障害児の齲蝕予防・治療を行うことが大きな柱となっていることに変化はない。特に院内において先天性の疾患を有する患児に対しては低年齢（乳前歯萌出時期）からの定期受診により歯科疾患予防を積極的に行っている。また、周術期における口腔管理が保険に組み込まれた背景より、歯科衛生士による口腔ケア介入、形成外科と共同で取り組んでいる唇顎口蓋裂児のホッツ床、術前顎矯正治療の患児の成長後の歯列矯正治療の症例は増加傾向にある。一方、摂食嚥下外来については現在休診中である。

人事面には変わりはなく、小児歯科は常勤歯科医師一名（曾根由美子）の体制をとっているが、2014年11月より2015年2月まで休職（産休）し、外来診療は本郷孝子歯科医師、石原順子歯科医師による非常勤体制となり、外来診察枠の縮小、手術実施困難となり大幅な患者数減となった。

新患内訳（2015）		院内紹介	院外紹介		紹介なし	計
			歯科	医科		
小児歯科関連	口腔内検診希望	19	3	2	1	25
	齲蝕	7	37	1	0	45
	乳歯晚期残存	4	1	0	0	5
	先天性歯	1	0	0	0	1
	その他	4	1	1	0	6
矯正歯科関連	不正咬合	14	3	1	0	18
	術前顎矯正	12	0	0	0	12
口腔外科関連	外傷	5	1	0	0	6
	埋伏歯・過剰歯	0	2	1	0	3
周術期口腔機能管理		49	0	0	0	49
その他（小児歯科以外）		3	0	0	0	3
計		118	48	6	1	173

全身麻酔下処置	歯科単独	他科合同	計
入院手術	0	7（顎矯正6）	7
外来手術	26	0	26
計	26	7	33

19. 麻酔科

1. 2015年の人事異動

常勤医である野々村医師が岡山大学に転出、上北医師が千船病院に転出、山根医師が災害医療センターに異動した。3名ともスタッフとして長期間麻酔科業務および専攻医の教育に専心していただいたとともに、いずれの医師も各種学会活動、論文執筆に精力的に取り組み、当院麻酔科からの情報発信に貢献していただいたことに感謝したい。

各大学所属医師の異動としては、法華医師、柘植医師が神戸大学に戻り、香川大学からは石橋医師、ついで國友医師を迎えた。大阪市大から舟井医師を、大阪医大から松波医師を迎えた。また、兵庫県立病院麻酔科総合研修システムにおいては山路医師（姫路循環器病センターに転出）、木山医師（尼崎医療センターに転出）、藤原医師（姫路循環器病センターから転入）、金城医師・横田医師・黒田医師（尼崎医療センターから転入）、福岡医師（がんセンターから転入）の異動があり、今やこの「兵庫県所属の麻酔科医」が非常に重要な役割を担っている。

公募採用医師は、桜橋病院から三浦医師を、小倉記念病院から森医師を迎えた。両名とも心臓循環器専門病院からの転入であり、即戦力として期待される。加藤医師が京都医療センターへ転出し、青木医師は起業した。そのほか、短期研修として中央市民病院から甲斐沼医師、長間医師、武田医師を、当院小児科から角医師を迎えた。

2015年12月の時点では香川、鈴木、高辻、大西、池島、三浦、末田、舟井、加藤、柘植、森、松波、藤原、黒田、福岡、國友の16名が従事している。

2. 活動状況と反省

2015年の総麻酔件数は4735件であった。これは手術室、放射線部門、病棟での麻酔件数の総計であるが、こうした麻酔業務以外に、中心静脈カテーテル挿入46件、病棟での気管挿管19件、その他6件の依頼があった。

症例の内容として新生児開心術、気管形成術、複数の合併症を持つ症例など、重症例が一定数あることは例年と変わりなく、高い専門性とマンパワーを必要とする状態が続いている。

本年は新病院への移転の準備もかねて、手術室業務の効率化と薬剤管理の精度向上を目指し、薬剤・物品カート交換制を導入することができた。これにより欠品や期限切れ薬剤の減少、セキュリティの向上、本来業務への集中などが可能となった。また麻酔物品のセット化も実現し、麻酔準備を省力化することができた。これらについては看護部、薬剤部、経理課、中材業者などの多大な協力をいただいたことにこの場を借りて感謝申し上げたい。麻酔という医療行為も多くの関係者の協力があってこそ成り立つということをあらためて認識するものである。

新病院においては現在の麻酔記録システムである ORSYS は終了し、富士通の麻酔記録システムに変更となるため、手術室看護師とともにその準備を進めてきた。学術面では、例年通り麻酔科関連学会にて発表を行ってきた。また、2018年に当院麻酔科が日本小児麻酔学会学術集会を主幹することになった。

3. 展望

「患者様に安全かつ快適に手術・麻酔を受けていただく」ことが麻酔科の理念である。次年度においては、まずは移転をスムーズに行い、新しい手術室の環境を整え、安全・快適に手術・麻酔を受けていただけるようにしたい。麻酔科医の、特にスタッフのマンパワーが不足しており、これまで通り麻酔科医の獲得に努めていくが、急な補充や増員が難しい中、安全を担保しながら業務の効率化、省力化に取り組む必要があると考えている。

診療統計

総麻酔件数（麻酔科管理症例数） 2015.1.1 ～ 12.31

4735 件

手術室で行われた局所麻酔・無麻酔症例：252 件

手術室で行われた麻酔科管理症例＋局所麻酔症例：3999 件

入院区分および麻酔の場所による内訳

入院手術の麻酔（手術室 1 ～ 7 室）	2759
日帰り手術の麻酔（日帰り手術室）	988
病棟での麻酔	618
放射線部門（アンギオ室、透視室）での麻酔	362
MR I 検査時の麻酔	8
計	4735

麻酔法による内訳

全身麻酔・吸入麻酔	2928
全身麻酔・静脈麻酔	1051
全身麻酔・吸入麻酔＋硬膜外麻酔	515
全身麻酔・静脈麻酔＋硬膜外麻酔	86
脊椎麻酔（脊髄くも膜下麻酔）	142
硬膜外麻酔	4
硬膜外麻酔＋脊椎麻酔	5
その他	4
全身麻酔 小計	4580
合計	4735

年齢別内訳

1ヶ月まで	145
12ヶ月まで	763
5歳まで	2010
18歳まで	1627
65歳まで	190
66歳以上	0
計	4735

病棟での関連業務

内容	件数
中心静脈カテーテル挿入	46
気管挿管・チューブ入れ替え	19
その他	6
合計	71

20. 新生児科

1. 医師の異動

前年より引き続いて秋田大輔、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人が在任した。のべ15年余り勤務した溝淵雅巳医師と3年間勤務した和田佳子医師はこれまでの経験を活かし新たな分野へ取り組むためそれぞれ静岡県立こども病院、愛仁会リハビリテーション病院へ異動した。新たに、他施設NICUにて新生児研修を終えたスタッフとして大久保沙紀、玉置祥子医師が着任した。新生児専門医取得目前であり即戦力として活躍している。岡山大学産婦人科より新生児管理研修として着任していた江口武志医師は6ヶ月間の研修を終え大学に帰局した。武岡恵美子医師はフェローとして、生田寿彦医師は後期研修医からフェローとなり新生児専門医をめざした研修を継続中である。産婦人科専門医である角健司医師はフェローとして新生児管理の研修をおこなっている。ローテート専攻医（後期研修医）として神納幸治、上月愛瑠、谷澤直子各医師が4-6か月研修をおこなった。

24時間365日の診療業務とフェロー、専攻医の研修教育を行うという当施設に課せられた使命を全うするにはスタッフの負担はやはり過剰と言わざるをえず、持続可能な診療教育体制の確保が急務である。

2. 診療活動

新生児病棟の診療統計は別表の通りであるが、総入院数は大きな経年傾向としては減少が続いている。特に多胎は13%の減少であった。一方、在胎28週未満の超早産児や出生体重1kg未満の超低出生体重児の入院数は、30例以上が続いている。少子化傾向と生殖補助技術の進歩による多胎妊娠の減少が入院数減少の要因として考えられるが、ハイリスク新生児数は変化がないという特徴であった。また、二次医療機関からの集学的治療を必要とする重症児の入院も引き続き多く、当施設の大きな使命と考え、積極的に受け入れて診療にあたった。

結果として院内出生児については死亡例は1例のみであり、当周産期医療センター設立以来の少なさとなった。新病院においてもより一層の医療レベル向上に努めたい。

本年も課題としては急性期以降も医療的ケアの継続を必要とする児の増加がある。在宅医療へのスムーズな移行のためには新生児部門だけでなく病院全体、地域医療機関、福祉施設、行政部門などとの連携が不可欠であるのは明らかである。新病院ではより具体的な解決策が講じられるように努力したい。

3. 研究学会活動

日常診療における疑問の解決、稀な疾患管理、治療法の工夫などをエビデンスとして世界に発信するために臨床研究として医療チーム全体で取り組んでいる。それらの結果は順次、国内外の多くの学会での発表や、英文、邦文論文投稿として積極的に行っている。

2015 年新生児科統計

I. 新生児病棟統計

1) 月別入院数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
44	31	42	45	54	41	41	37	39	35	36	47	492

2) 診療科別入院数

新生児科入院	467	新生児科からの転科	61
循環器内科	22	循環器内科	43
一般外科	2	一般外科	12
脳神経外科	1	脳神経外科	6

3) 入院形態と紹介医療機関地域

	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	中播磨	西播磨	北播磨	淡路	丹波	但馬	県外	
院外出生	180	120	5	1	32	5	0	0	4	2	2	0
一次搬送	131	95	4	1	31	0	0	0	0	0	0	0
(14日以上)	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
二次搬送	49	25	1	0	1	5	0	0	4	2	2	9
院内出生	312	202	13	1	41	6	2	19	5	0	2	21
緊急母体	90	60	6	0	16	0	0	4	3	0	1	0
非緊急母体	220	140	7	1	25	6	2	15	2	0	1	21
院内出生	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日齢14未満一次搬送+院内出生	443	297	17	2	72	6	2	19	5	0	2	21

II. 新生児科統計

対象：新生児科入院（日齢14未満一次搬送入院及び院内出生470症例，転科例を含む）

1) 院内出生と院外出生

出生体重	患者数	院内	率	帰院	産科	週数	患者数	院内	率	帰院	産科
500 g 未満	4	4	100%	0	0	22, 23	4	4	100%	0	0
500-749 g	11	11	100%	0	0	24, 25	12	12	100%	0	0
750-999 g	21	21	100%	0	0	26, 27	14	14	100%	0	0
1,000-1,499 g	27	27	100%	0	0	28, 29	10	10	100%	0	0
1,500-1,999 g	56	53	94.6%	0	0	30, 31	27	26	96%	0	0
2,000-2,499 g	97	84	86.6%	4	27	32, 33	25	25	100%	0	4
2,500 g 以上	227	112	49.3%	27	49	34-36	101	90	89.1%	1	17
計	443	312	70.4%	31	76	37 以上	250	131	52.4%	30	55
						計	443	312	70.4%	31	76

2) 分娩方法・出生前ステロイド

出生体重	患者数	帝切	率	ANS	率	週数	患者数	帝切	率	ANS	率
500 g 未満	4	1	25.0%	2	50%	22, 23	4	0	0.0%	3	75%
500-749 g	11	6	54.5%	10	91%	24, 25	12	6	50%	10	83%
750-999 g	21	19	90%	12	57%	26, 27	14	13	93%	7	50%
1,000-1,499 g	27	22	81.5%	14	52%	28, 29	10	9	90.0%	5	50%
1,500-1,999 g	56	46	82.1%	16	29%	30, 31	27	23	85.2%	16	59%
2,000-2,499 g	97	55	56.7%	9	9%	32, 33	25	15	60.0%	13	52%
2,500 g 以上	227	87	38.3%	4	2%	34-36	101	71	70.3%	10	10%
計	443	236	53.3%	67	15%	37 以上	250	99	39.6%	3	1%
						計	443	236	53.3%	67	15%

3) 生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率
500 g 未満	4	0	100%
500-749 g	11	0	100%
750-999 g	21	0	100%
1,000-1,499 g	27	0	100%
1,500-1,999 g	56	0	100%
2,000-2,499 g	97	1	99%
2,500 g 以上	227	0	100%
計	443	1	99.8%

週数	患者数	死亡数	生存率
22, 23	4	0	100%
24, 25	12	0	100%
26, 27	14	0	100%
28, 29	10	0	100%
30, 31	27	0	100%
32, 33	25	1	96%
34-36	101	0	100%
37 以上	250	0	100%
計	443	1	99.8%

4) 多胎割合 (品胎 2 組)

出生体重	患者数	多胎	率	品胎
500 g 未満	4	2	50.0%	0
500-749 g	11	5	45.5%	2
750-999 g	21	5	23.8%	0
1,000-1,499 g	27	10	37.0%	0
1,500-1,999 g	56	22	39.3%	3
2,000-2,499 g	97	27	27.8%	0
2,500 g 以上	227	12	5.3%	0
計	443	83	18.7%	5

週数	患者数	多胎	率	品胎
22, 23	4	2	50.0%	0
24, 25	12	5	41.7%	2
26, 27	14	5	35.7%	0
28, 29	10	2	20.0%	0
30, 31	27	14	51.9%	0
32, 33	25	8	32.0%	3
34-36	101	32	31.7%	0
37 以上	250	15	6.0%	0
計	443	83	18.7%	5

5) 人工呼吸管理の割合

出生体重	患者数	MV	率	HFO	CPAP
500 g 未満	4	4	100%	4	4
500-749 g	11	11	100%	8	11
750-999 g	21	17	81%	6	20
1,000-1,499 g	27	13	48.1%	0	21
1,500-1,999 g	56	14	25.0%	3	31
2,000-2,499 g	97	18	18.6%	2	29
2,500 g 以上	227	35	15.4%	5	53
計	443	112	25.3%	28	169

週数	患者数	MV	率	HFO	CPAP
22, 23	4	4	100%	4	4
24, 25	12	11	92%	8	12
26, 27	14	14	100%	5	14
28, 29	10	10	100%	1	7
30, 31	27	11	40.7%	3	24
32, 33	25	16	64.0%	0	21
34-36	101	21	20.8%	3	30
37 以上	250	36	14.4%	4	57
計	443	123	27.8%	28	169

6) 特殊治療

PDA 閉鎖術	12例 (+ 二次搬送 7 例)	生後ステロイド全身投与	17例
NO 吸入療法	17例	ステロイド吸入	0例
PD	0例	在宅酸素療法	18例
CHDF	0例	ROP レーザー	4例
ECMO	0例		

7) 新生児搬送出動回数 75 回

入院	67	分娩立合い	0
転院	8	時間外搬送	22

8) 多胎生存率, 死亡率

出生体重	患者数	死亡数	生存率	品胎
500 g 未満	2	0	-	2
500-749 g	5	0	100%	1
750-999 g	5	0	100%	0
1,000-1,499 g	10	0	100%	4
1,500-1,999 g	22	0	100%	1
2,000-2,499 g	27	0	100%	0
2,500 g 以上	12	0	100%	0
計	83	0	100%	8

週数	患者数	死亡数	生存率	品胎
22, 23	2	0	100%	0
24, 25	5	0	-	3
26, 27	5	0	100%	0
28, 29	2	0	100%	0
30, 31	14	0	100%	6
32, 33	8	0	100%	0
34-36	32	0	100%	0
37 以上	15	0	100%	0
計	83	0	100%	9

21. 産科

本年も大きなトラブルや事故もなく無事1年を終えることができ、産科スタッフ一同ならびに関連・関係各位に感謝致します。

当科は総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設で、MFICU 6床を含めて32床、陣痛室2室、分娩室3室、産科専用手術室1室、新生児科はNICU 15床、GCU 35床を有しています。4D超音波断層装置が3台あり、2人当直制（第2当直は院外医師）を行っています。また、近畿ブロック周産期医療広域連携事業における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、胎児発育不全、前期破水、多胎です。2015年臨床成績：分娩数290（妊娠22週未満死産8例含む）、出産児数338、生産児数315、死産児数23（妊娠22週未満死産8例、10児含む）、多胎43（双胎40、品胎3）、帝切数158（帝切率56%）、早産率54.6%、出生体重1,000g未満の児数45（率14.4%）、緊急母体搬送入院の受け入れ105件。また、35歳以上の高年妊娠が増加しています（33.0%）。

2010～2014年の厚労省周産期母子医療センター評価で5年連続産科、新生児科共にAでした。

当院は兵庫県の周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、空床がある限り母体搬送入院を受け入れております。胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています。2015年の超緊急帝切は4件でした。

当院は日本周産期新生児医学会専門医制度の母体胎児研修の基幹施設であり周産期新生児医学会専門医を育成しています。また、2015年に船越が日本産科婦人科学会の新制度による産婦人科指導医に認定されました。学会活動を奨励しており、本年も多数のアウトプットを示すことができました（研究業績参照）。

12月12日に兵庫県医師会館で「平成27年度兵庫県周産期医療研修会」を開催し、産科病棟助産師の杉友ユリがフォンタン術後妊婦3症例の看護経験を中心にした「先天性心疾患合併妊婦の医療連携」を発表し、神戸大学大学院医学研究科特命教授の森田宏紀先生に「神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成コースと産科補償制度原因分析委員会の取り組みについて」の特別講演をいただきました。

Journal of Obstetrics and Gynaecology Researchに掲載された中澤浩志フェローの論文「Factors affecting maternal serum magnesium levels during long-term magnesium sulfate tocolysis in singleton and twin pregnancy」が2016年3月8日の兵庫県産科婦人科学会学術委員会に於いて「兵庫県産科婦人科学会学会賞」に選考されました。当科の切迫早産治療の臨床データをまとめたものです。

2015年の病床稼働率は83.6%、緊急母体搬送の受け入れ率は66.7%でした。兵庫県の総合周産期母子医療センターは、2015年6月に県立尼崎総合医療センターが加わり6か所（神戸大学医学部附属病院、県立こども病院、神戸市立医療センター中央市民病院、兵庫医科大学病院、県立尼崎総合医療センター、姫路赤十字病院）になりました。近年、高年妊娠が増加しているため合併症を有する方が増え、そうした方は総合病院に併設された周産期センターを紹介されます。そうした関連で病床稼働率が低くなったのかもしれませんが。一方、産科の病床稼働率には波があります。病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールの困難な日が増加し、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。そのため、病状が落

ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へ戻っていただいております。2015年のバックトランスファー（紹介元へ戻れた方）は248名でした（外来レベルで行われたものも含む）。また、産科以外の成人を診る常勤の専門医がおりませんので、母体合併症に関しては神戸大学医学部附属病院や神戸医療センター中央市民病院等をご紹介します。

当科も常にマンパワー不足傾向にあり、現在のスタッフの退職や病気・事故で長期休暇を取得すると、たちまち診療レベルや当直体制を維持することができなくなってしまう。総合周産期母子医療センターは産科医師2名の当直体制が必要です。現在第1当直は院内医師、第2当直は院外医師（神戸大、医師会）に応援をいただいております。年末年始、5月の連休、学会シーズン等では第2当直医の確保に困難があり、院外医師の第2当直が見つからなければ院内医師が行わざるを得ません（その分、院内医師の負担が増えます）。また、症例が重なった時の応援業務と第2当直医来院までの居残り・翌早朝帰院後の早出のためオンコールの医師を立てています。医師公募も常に行っておりますが、産科医師不足のため苦戦を強いられています。

診療統計は次ページ以降の表をご覧ください。限られた医療資源の中で高いパフォーマンスを示すことができました。

今年も神戸赤十字病院から金高圭甫（5月）、福井智大（6月）、長谷川翔大（10月）、藤田紘（11月）、長尾佳映（2015年12月）、秋山亮（2016年1月）（敬称略）の6名が臨床研修医（2年目）として各1ヶ月間当科で研修を行いました。1ヶ月という短い期間ですが、大学病院のBSLでは経験できない貴重な研修ができたと思います。

放射線科医師と胎児MRIを撮影した症例の経過とMRIの読影、その後の経過を検討する「MRIカンファレンス」を月1回隔月で開催しております。読影報告書からだけでは伺えないMRIの読み方についてリアルに研修することができます。

人事：2015年1月1日神戸大学医学部附属病院から金子めぐみ専攻医が赴任し、船越 徹周産期医療センター次長、産科科長兼部長、佐本 崇部長、喜吉賢二医長、高松祐幸医長、牧志 綾医長、南谷智之医長、中澤浩志専攻医、金子めぐみ専攻医の8人で始まりました。

4月1日公募により森下紀医長（H20）、河崎あさひフェロー（H21）が入職し、10人体制になりました。船越は10年間務めた産科科長兼産科病棟医長を辞し、佐本が産科科長兼産科病棟医長に、中澤が専攻医からフェローになりました。

12月末に金子専攻医が神戸大学医学部附属病院へ異動し、9人体制になりました。

2006年から2015年までに公募で13人の医師が当院へ赴任し、3か月から3年間の研修を行いました。公募医師の中には在籍中に日本産科婦人科学会専門医（4名）や日本周産期新生児医学会専門医（1名）、母体保護法指定医（1名）を取得したものがおります。

1) 平成27年産科診療状況

入院患者数*	449
うち緊急母体搬送によるもの	105
紹介元へ戻すまたは他院紹介**	248
分娩母体数(22週以降)***	282
正期産	128
早産	154
過期産児	0
多胎妊娠	43
うち双胎	40
うち品胎	3
経膈分娩	124
うち吸引分娩	18
うち骨盤位牽出術	2
帝王切開術	158
出産児数(22週以降、死産含む)***	328
正期産児	135
早産児	193
過期産児	0
低出生体重児(2,500g未満)	211
巨大児(4,000g以上)	0
その他	
22週未満死産児****	10
22週以降死産児	13
D I C	2
自己血貯血回数	22

* 入院患者数は2015.1-12入院したもの
 ** 紹介元へ戻すまたは他院紹介は、外来で行なわれたものも含む
 *** 分娩母体数、出産児数は2015.1-12に出産したもの
 **** 単胎6、双胎2

2) 紹介元施設所在地別入院件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	15	3%
	西宮市	14	3%		神崎郡	0	0%
	芦屋市	4	1%		小計	15	3%
	小計	18	4%	西播磨	相生市	0	0%
阪神北	宝塚市	1	0%		たつの市	0	0%
	三田市	1	0%		赤穂市	1	0%
	川西市	0	0%		揖保郡	0	0%
	伊丹市	1	0%		赤穂郡	1	0%
	川辺郡	0	0%		佐用郡	0	0%
	小計	3	1%		宍粟市	0	0%
神戸市	須磨区	36	7%	但馬	小計	2	0%
	中央区	68	13%		豊岡市	3	1%
	西区	103	20%		美方郡	0	0%
	垂水区	22	4%		養父市	0	0%
	灘区	2	0%	朝来市	0	0%	
	東灘区	11	2%	小計	3	1%	
	北区	24	5%	丹波	篠山市	1	0%
	兵庫区	0	0%		丹波市	1	0%
	長田区	11	2%		小計	2	0%
	小計	277	54%	淡路	洲本市	4	1%
東播磨	明石市	56	11%		淡路市	1	0%
	加古川市	12	2%		南あわじ市	1	0%
	高砂市	4	1%	小計	6	1%	
	加古郡	0	0%	他府県	京都	5	1%
	小計	72	14%		大阪	5	1%
北播磨	西脇市	13	3%		鳥取	5	1%
	三木市	1	0%		高知	3	1%
	小野市	10	2%	他	5	1%	
	加西市	2	0%	計	23	5%	
	加東市	1	0%	海外	0	0%	
	多可郡	0	0%	院内紹介	1	0%	
	小計	27	5%	計	449	88%	

救急隊はその所属地域にカウントした

3) 取り扱い疾患（重複あり）

疾患名*	件数	率
切迫早産	219	49%
高年妊娠(35歳以上)	151	34%
胎児形態異常	128	29%
胎児発育不全	70	16%
多胎	56	12%
前期破水	55	12%
既往帝王切開	50	11%
羊水過多・過少	44	10%
妊娠高血圧症候群	40	9%
B群溶連菌保菌者	39	9%
羊水検査	36	8%
胎児機能不全	31	7%
絨毛膜羊膜炎・子宮内感染	29	6%
胎位異常	24	5%
子宮筋腫合併	15	3%
妊娠糖尿病	14	3%
他科合併症(GDM,甲状腺疾患以外)	13	3%
甲状腺疾患合併	9	2%
胎児水腫	9	2%
頸管無力症	5	1%
常位胎盤早期剥離	5	1%
双胎胎児発育不均衡	4	1%
その他	115	26%
計	1,161	259%

入院時、入院中に診断された疾患名

4) 入院時間帯

時間帯	件数	率
時間内	352	78%
平日日勤帯		
時間外	97	22%
平日夜勤帯	45	10%
休日日勤帯	19	4%
休日夜勤帯	33	7%
計	449	100%

6) 分娩時間帯（流産、死産含む）

時間帯	件数	率
時間内	158	54%
平日日勤帯		
時間外	132	46%
平日夜勤帯	72	25%
休日日勤帯	23	8%
休日夜勤帯	37	13%
計	290	100%

5) 入院時妊娠週数（母）

週数	件数	率	累積率
～21週	60	13%	13%
22～24週	38	8%	22%
25～28週	62	14%	36%
29～32週	90	20%	56%
33～36週	112	25%	81%
37週～	85	19%	100%
不明	0	0%	100%
産後	2	0%	100%
非妊娠	0	0%	100%
計	449	100%	

7) 帝王切開時間帯

時間帯	件数	率
時間内	111	70%
平日日勤帯		
時間外	47	30%
平日夜勤帯	19	12%
休日日勤帯	12	8%
休日夜勤帯	16	10%
計	158	100%

8) 分娩時妊娠週数（流産、死産含む）

週数	件数	率	累積率
～21週	8	3%	3%
22～24週	10	3%	6%
25～28週	22	8%	14%
29～32週	36	12%	26%
33～36週	86	30%	56%
37～41週	128	44%	100%
42週～	0	0%	100%
不明	0	0%	100%
計	290	100%	

9) 出産時児体重（流産、死産含む）

児体重	件数	率	累積率
～499g	20	6%	6%
500～999g	36	11%	17%
1000～1499g	28	8%	25%
1500～1999g	53	16%	41%
2000～2499g	86	25%	66%
2500～2999g	68	20%	86%
3000～3499g	38	11%	97%
3500～3999g	9	3%	100%
4000～4499g	0	0%	100%
計	338	100%	

10) 緊急母体搬送依頼電話受信状況

月	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率
1	17	4	24%
2	10	0	0%
3	10	1	10%
4	17	4	24%
5	10	3	30%
6	11	1	9%
7	11	6	55%
8	17	7	41%
9	11	1	9%
10	17	4	24%
11	15	4	27%
12	13	6	46%
不明	1	1	100%
計	160	42	26%

依頼件数には、結果的に外来受診となったものも含む

11) 年次別搬送受け入れ不能状況

年	依頼件数	受け入れ不能件数	受け入れ不能率	備考
平成6年	66	12	18%	10月開設(22床)
平成7年	240	38	16%	阪神・淡路大震災
平成8年	312	76	24%	
平成9年	340	111	33%	
平成10年	324	105	32%	
平成11年	326	55	17%	フルオープン(32床)
平成12年	362	100	28%	総合周産期センターに指定
平成13年	328	60	18%	
平成14年	394	110	28%	
平成15年	367	140	38%	
平成16年	298	126	42%	
平成17年	285	120	42%	MFICU 6床整備
平成18年	316	124	39%	空床情報ネットワーク整備
平成19年	285	91	32%	
平成20年	259	65	25%	
平成21年	279	88	32%	
平成22年	276	85	31%	
平成23年	256	96	38%	
平成24年	225	83	37%	
平成25年	232	42	26%	
平成26年	221	71	32%	
平成27年	160	42	26%	病床稼働率 83.6%

12) 搬送依頼施設所在地別受信件数

大分類	地区	件数	率	大分類	地区	件数	率	
阪神南	尼崎市	0	0%	中播磨	姫路市	0	0%	
	西宮市	5	2%		神埼郡	0	0%	
	芦屋市	0	0%		小計	0	0%	
	小計	5	2%		相生市	0	0%	
阪神北	宝塚市	0	0%	西播磨	赤穂市	0	0%	
	三田市	0	0%		宍粟市	0	0%	
	川西市	0	0%		たつの市	0	0%	
	伊丹市	0	0%		揖保郡	0	0%	
	川辺郡	0	0%		赤穂郡	0	0%	
	小計	0	0%		佐用郡	0	0%	
神戸市	須磨区	12	5%	但馬	小計	0	0%	
	中央区	18	8%		豊岡市	0	0%	
	西区	43	19%		養父市	0	0%	
	垂水区	10	4%		朝来市	0	0%	
	灘区	4	2%		美方郡	0	0%	
	東灘区	2	1%		小計	0	0%	
	北区	12	5%		丹波	篠山市	1	0%
	兵庫区	0	0%			丹波市	1	0%
	長田区	9	4%			小計	2	1%
	小計	110	47%		淡路	洲本市	5	2%
東播磨	明石市	25	11%	南あわじ市		0	0%	
	加古川市	1	0%	淡路市		2	1%	
	高砂市	1	0%	小計		7	3%	
	加古郡	0	0%	他府県	京都府	1	0%	
	小計	27	12%		鳥取県	1	0%	
北播磨	西脇市	1	0%		他	1	0%	
	三木市	2	1%	小計	3	1%		
	小野市	3	1%	海外	0	0%		
	加西市	0	0%	院内紹介	0	0%		
	加東市	0	0%	不明	0	0%		
	多可郡	0	0%	計	160	100%		
小計	6	3%						

救急隊はその所属地域にカウントした

13) 搬送依頼元施設種類別

施設種類	件数	率
総合周産期医療センター	3	2%
地域周産期医療センター	16	10%
一般病院	71	44%
診療所	65	41%
助産院	1	1%
救急隊	3	2%
他	0	0%
不明	1	1%
計	160	100%

14) 搬送依頼電話受信時刻

勤務帯		件数	率
時間内	平日・日勤帯	78	49%
	平日・夜勤帯	47	29%
時間外	休日・日勤帯	19	12%
	休日・夜勤帯	15	9%
不明		1	1%
計		160	100%

15) 搬送電話依頼時理由

搬送理由	件数	率
切迫早産	79	49%
前期破水	27	17%
妊娠高血圧症候群	13	8%
胎児機能不全	6	4%
胎児形態異常	4	3%
前置胎盤	4	3%
多胎	3	2%
切迫流産	2	1%
既往帝切	2	1%
胎児発育不全	2	1%
出血多量	2	1%
その他	11	7%
不明	5	3%
計	160	100%

主たる理由で分類

18) 受け入れ不能の理由

理由	件数	率
NICU 満床	2	5%
産科満床	17	40%
両方満床	0	0%
対象外	7	17%
その他	16	38%
不明	0	0%
計	42	100%

その他：当直医が手術中、分娩中、搬送受入中、症例が大量出血例

16) 搬送電話依頼時妊娠週数

妊娠週数	件数	率
22 週未満	16	10%
22 ～ 24 週	26	16%
25 ～ 28 週	29	18%
29 ～ 32 週	36	23%
33 ～ 36 週	39	24%
37 ～ 40 週	6	4%
41 週以降	0	0%
分娩後	0	0%
不明	8	5%
非妊娠	0	0%
計	160	100%

17) 受け入れ可否返事所要時間

所要時間	件数	累積率
～ 1 分	129	81%
～ 3 分	8	86%
～ 10 分	14	94%
～ 20 分	2	96%
～ 30 分	1	96%
～ 60 分	2	98%
～ 120 分	1	98%
～ 240 分	1	99%
不明	2	100%
計	160	100%

22. 放射線科

1. 人事異動

2015年度は人事異動なし。

従来通り放射線治療担当で副島俊典医師ががんセンターと兼務で週1回（金曜）、藤本雄介医師が月曜、木曜の週2日超音波検査担当で応援していただいている。

2. 2015年の動向

診療業務では超音波検査件数が年々増加しており今後もますます増えることとおもわれる。低侵襲で被ばくが無く、安価な検査であり、繰り返しいつでも行えるため小児では需要が多い。新病院では現在の2列稼働から3列稼働になる予定である。

新病院ではMRIが2台に増え、慢性的な検査待ちが解消される模様。こちらも被ばくが無く得られる情報も多いため読影件数がかなり増加すると予想される。特殊な撮像法や診断法などで研究面にも力を入れたい。

院内、院外の小児科医を対象とした放射線研修も軌道に乗っている。

新病院ではIVRにおいても尽力したい。

課題としては、新病院に向けて業務量やサービス向上に伴うマンパワーの確保がある。

放射線科読影件数（2015年）

CT 2770件

透視 330件

MRI 2206件

IVR 1件（エコー下肝生検）

RI 294件

単純写真 16件

他院持込画像の読影 329件

放射線治療（照射） 31人

超音波 5394件

研修医・専攻医指導記録

専攻医：富岡和美（小児科）

専攻医：吉田淳史（尼崎総合医療センター小児科）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：2015.1.1.～2015.3.31

研修期間：2015.8.1.～2015.11.30

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数

CT：91

CT：203

MRI：70

MRI：223

RI：0

RI：0

透視検査：0

透視検査：0

超音波検査：152

超音波検査：335

専攻医：瓦野昌大（小児科）

専攻医：内藤昭嘉（尼崎総合医療センター小児科）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：2015.7.1.～2015.9.30

研修期間：2015.12.1.～2016.3.31

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数（2015.12.31まで）

CT：177

CT：42

MRI：115

MRI：19

RI：0

RI：0

透視検査：0

透視検査：2

超音波検査：344

超音波検査：14

専攻医：神納幸治（小児科）

研修医：平林沙織（がんセンター）

研修科：放射線科

研修科：放射線科

研修期間：2015.10.1.～2015.12.31

研修期間：2015.5.1.～2015.6.30

指導医：赤坂好宣

指導医：赤坂好宣

読影件数

読影件数

CT：159

CT：109

MRI：98

MRI：107

RI：6

RI：0

透視検査：3

透視検査：0

超音波検査：262

超音波検査：104

専攻医：高橋知也（塚口病院小児科）

研修科：放射線科

研修期間：2015.1.1.～2015.3.31

指導医：赤坂好宣

読影件数

CT：

MRI：

RI：

透視検査：

超音波検査：

23. 病理診断科

病理診断科では、胎盤病理・死産児の剖検などの周産期の病理診断、ヒルシュスプルング病や嚢胞性肺疾患などの小児外科領域の病理診断、小児期の固形腫瘍の病理診断を主体として、小児期の病理診断全般を行っている。小児固形腫瘍は国立成育医療センターを中心とする小児固形腫瘍観察研究に登録、参加して、中央病理診断や分子生物学的診断を受けている。腎生検は、凍結検体を用いた蛍光免疫染色や電子顕微鏡の所見を加えた最終診断は腎臓内科が行っている。病理診断科では、検体のマクロ検索からミクロ検索までを一連の業務として取り組み、一例一例を大切に丁寧に診断することを心がけている。必要に応じて免疫染色や特殊染色、外部委託や小児固形腫瘍観察研究による分子生物学的検索、他施設へのコンサルテーション依頼等を行い、客観的で再現性のある標準化に則った病理診断を目指している。臨床カンファレンスを通じて、診断名のみならず所見の詳細を臨床に伝えることで診療に病理診断結果を活かしてもらえるように努めている。また病理診断は一時期の病変部のみを検索であるが、診療過程の全体を把握して病理診断にフィードバックしたいと考えている。大学のカンファレンスや全国の講習会や研究会に積極的に参加している。

2015年の動向

2015年8月～9月に小児科専攻医の橋本興人先生が病理診断科をローテートされた。日本病理学会小児腫瘍組織分類委員会小児腫瘍症例検討会での発表や検鏡、神経芽腫に関する論文作成、日常病理業務の見学と経験、神戸大学の勉強会に参加などを行った。

2015年8月6～9日の4日間、第40回細胞診断学セミナーを受講させて頂いた。

2013年から当院腎臓内科の主催で、神戸大学医学部附属病院病理部の原重雄先生を講師に招いた腎生検カンファレンスを開催している。2015年も3回の腎生検カンファレンスが行われた。

2015年3月9日にCPCが行われ、臨床報告は新生児科武岡恵美子先生が担当された。

平成27年10月1日より医療事故調査制度が施行され、制度に基づく剖検を1例行った。

2015年の件数

組織診断件数 1074件（うち迅速有り45件、胎盤282件、腎生検21件、その他）

細胞診断件数 146件

剖検件数 7件（産科死産児2件、新生児科2件、血液腫瘍科1件、救急集中治療科1件、他施設1件）

24. 看護部

看護部理念

命を守り、育てることに努力し、安心と満足が得られる看護の提供に努めます。

看護部のスローガン

「小児看護」→「笑児看護（しょうにかんご）」

「みる・まもる・つなぐ・つたえる」で、こどもと家族の輝く笑顔を引き出そう！！

看護部方針

- こどもの権利を守り、患者・家族の思いを尊重した看護を提供します。
- 看護の質の向上を目指し、安全と安心に繋がる看護を提供します。
- 患者を中心としたチーム医療の調整役として、主体的に行動します。
- 真の優しさと逞しさを備えた人間性を養い、自己研鑽に努めます。

看護の体制

- より安全で質の高い看護を提供することを目的とし、パートナーシップ・ナーシング・システム（PNS）看護提供方式への変更に取り組み、全部署日勤帯での PNS から導入を図っています。
- 患者様が治療や検査を理解し、確実に行えるように、プリパレーションやディストラクションを取り入れた看護を実践しています。
- 保育士と協働し、患者様の成長発達に応じた療育への支援を行っています。
- 患者様に少しでも快適で豊かな入院生活を送っていただけるよう様々なボランティアの皆様と季節折々の行事を実施しています。
- 看護系大学との事例検討会や共同研究を推進し、看護の向上に向けて取り組んでいます。

看護部目標

★新病院を目指して「共育・共働・共創」

1. PNS の定着と安全な看護の提供
2. 新病院への円滑な移転に向けての準備
3. 在宅支援・地域連携の強化

看護部の活動

看護部

新病院では重症集中系病床の増床に伴い、看護師も増員が必要で、新規採用看護師の育成と定着促進のために、教育担当看護師長と共に精神リエゾン専門看護師や臨床心理士が精神的フォローを行う体制作りをしました。また現在の業務の振り返りを行い、新病院での業務フロー作成を行いました。

一般外科主体病棟

在宅療養へ移行する患者・家族に、指導相談・地域医療連携部など多職種と積極的にカンファレンスを実施し退院支援を行った。安全・感染・防災の視点から、週1回の KYT カンファレンスの定着、KYT 新聞による周知を行いリスク感性の向上に努めました。

循環器 A 病棟

循環器、心臓血管外科、血液腫瘍科を主体とした患者が入院する病棟であり、心臓センター及び小児がんセンターとして、より専門的な治療への対応が求められた。看護師の教育体制の充実のために、日々の業務でパートナーシップ方式を取り入れ、OJT の強化を図り、安全で安心できる看護が提供できるよう努めている。

循環器 B 病棟

退院後の生活まで考えた援助が計画的に展開できるよう、日勤帯 PNS の定着を図っている。ペア間でリスク感性を高め、業務調整を行い、コミュニケーションを密にとりながら、安全・安楽な看護が提供できるよう進めている。

混合 A 病棟

糖尿病、腎臓疾患患者のセルフケア支援を他職種との連携を図り取り組んだ。患者の安全、教育を目的に PNS 導入し定着に向けた運営に努めた。教育、継続看護に向けた取り組みを次年度以降も継続する。

混合 B 病棟

「移行期支援」は腎臓内科医を中心に、混合 A 病棟や外来、他部門とも共にネフローゼ症候群の患者家族に対する親と子の教室を開催した。「退院支援」は、整形外科医と 1 週間に 1 回カンファレンスを持ち、治療方針を確認しながら、退院指導につなげた。「在宅支援」は、再入院時にも訪問看護ステーションと退院前カンファレンスを行い、院内外との看護連携に努めた。

血液主体病棟

今年度、抗がん薬曝露対策ガイドラインに沿って、当該科の抗がん薬の取り扱い看護手順を作成、看護の統一を実施することができた。また、PNS 看護体制に取り組み、看護の可視化、伝承、伝達に努め人材育成につなげることができ、新人の新人、ラダー I の看護観の形成につながった。小児がん拠点病院として、緩和ケア認定看護師を中心に緩和ケアの知識・技術向上に向けた学習会や、事例検討、多職種とのカンファレンスなどチーム医療を強化に取り組むことができた。

ICU

ICU の看護実践能力の向上を目指し、入室患者が増加している新生児に対する管理マニュアルや ICU に必要な特殊治療に対するマニュアルの改訂、標準予防策遵守率向上にむけた感染対策をチーム活動として取り組んだ。また、業務整理を行い、PNS が導入できた。

HCU・外科系一般病棟

ICU の後方病棟の役割を強化し、心臓外科術後の心臓血管外科や循環器科の患者を安全に受け入れた。在宅支援を強化し、家族とともに目標を共有しながら在宅への移行をすすめることができた。

NICU

PNS 導入後 3 年が経過し、今年度はパートナーシップマインドに力を入れ取り組みを行った。また、年間パートナーで年間目標を立案し、ラダーチェック・評価を通して人材育成を図った。認定看護師を中心として、産科・GCU との連携が図れるシステム作りの土台を作った。

GCU

受け持ち看護師の役割を通し、患者・家族によりよい看護の提供に努めた。長期入院患児や在宅医療を必要とする児も多く、退院スクリーニングシートを活用し、入院後早期から地域連携室と連携をとり、継続した退院支援に取り組んだ。

産科

外来通院中から受け持ち看護師が関わり、入院・分娩・育児と継続した看護を実践している。母乳外来では、

当院だけでなく、他院で分娩した母親も対象とし、母乳栄養指導だけでなく母親の精神面での支援や、育児不安の緩和に努めることができた。

手術室

WHO 指針の手術室安全チェックリストを用い、安全な手術への取り組みを他部門と連携し、チーム医療として取り組んでいる。また、周手術期の家族看護に視点を置き、術前・術中・術後訪問の検討を行い、推進している。

外来

安全な外来診療・看護の提供を目標とし、教育や、ヒヤリハットの共有、再発防止の取り組みを行なっている。在宅療養支援では、他部署との連携の強化と、看護相談外来の拡大を図り、個々のニーズに合わせた支援の取り組みを行なっている。

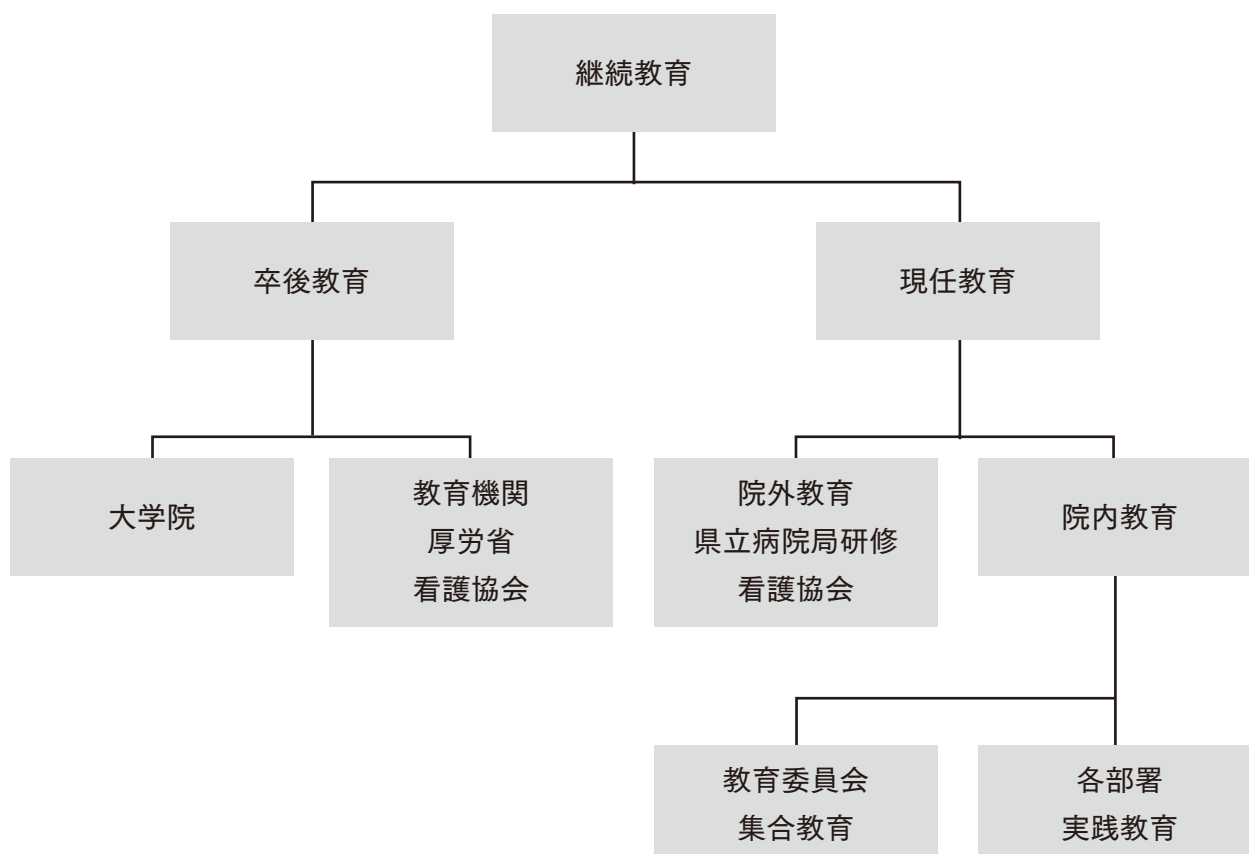
小児救急センター

高度集学的救急医療と同時に「子どもと家族を中心とした救急医療」をテーマに「つなぐ看護」を目指した。「カンファレンスの定着」「重症初療シミュレーション」「PNS 導入」に取り組んだ。

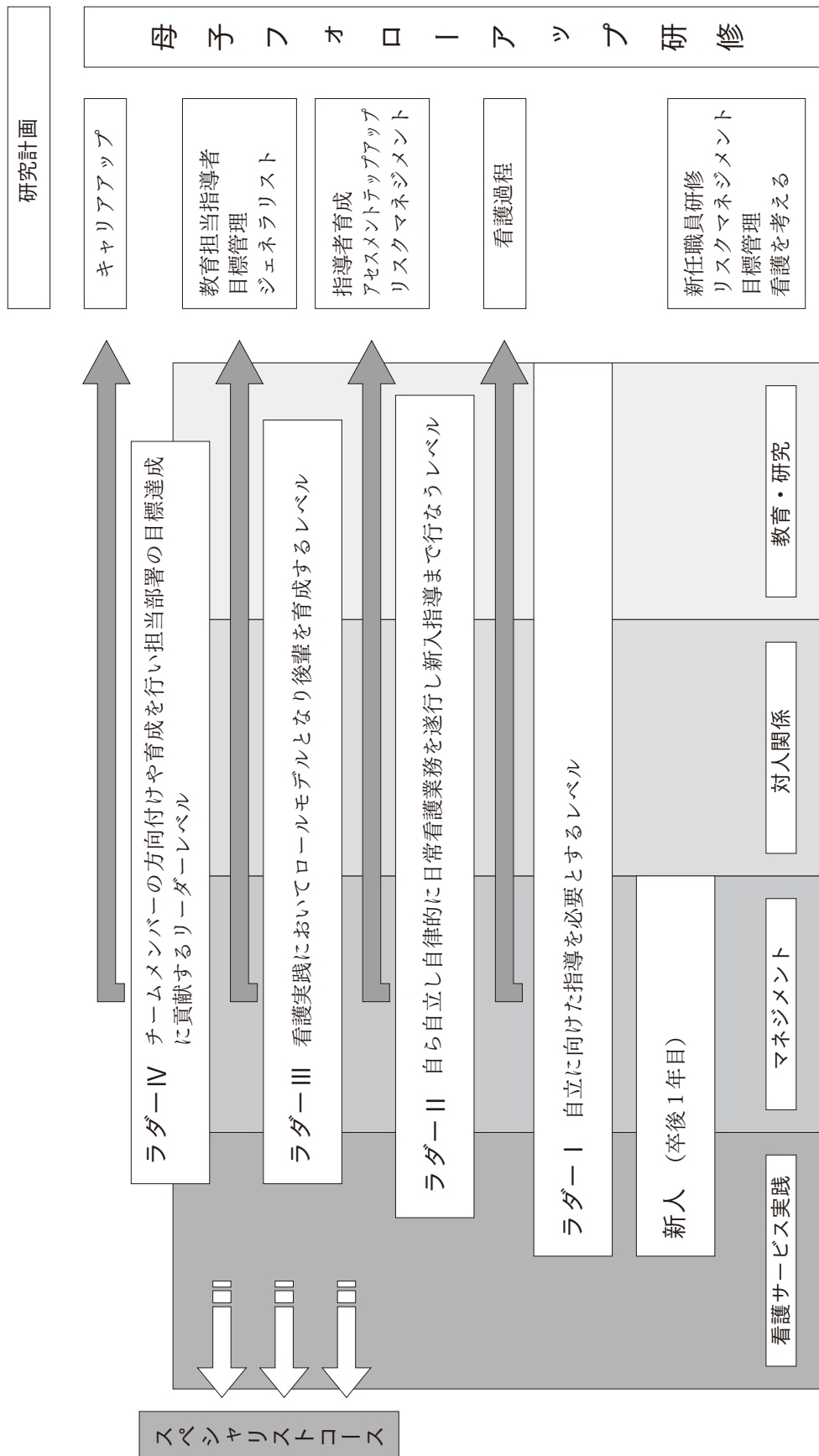
こども病院看護部教育方針

1. 高度専門的な母子看護の知識・技術をもち、エビデンスに基づいた看護実践ができる看護師の育成
2. こどもの権利を守り、患者家族の思いを尊重できる看護師の育成
3. チーム医療の調整役として行動できる看護師の育成
4. 研究的視点で看護実践の改善がはかれる看護師の育成

こども病院看護部継続教育の位置づけ



小児ジェネラリストの実践家として役割を認識し行動できる



看護部委員会

委員会名	開催回数	目標と活動内容
看護師長補佐会	11回	<p><目的> 各看護単位の円滑な運営と看護の質の向上をはかる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院としての課題達成に向けて率先して実行できる 2. 看護師として責任ある行動が取れるように人材育成する 3. 看護部委員会での活動を共有し各部署で周知できるようにする <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PNSの定着 <ol style="list-style-type: none"> ①パートナーシップマインド研修企画、運営 ②PNS院内評価基準の作成とPNS導入後の評価 2. 看護補助者と看護師の共同による看護補助者の安全な業務拡大 <ol style="list-style-type: none"> ①看護補助者研修の企画、運営 ②看護補助者のタイムスケジュールの見直し 3. 看護基準の作成、修正 4. インターンシップの運営 5. ふれあい看護体験の企画、運営 6. トライアルウィークの企画、運営 7. 委員会活動が各病棟で円滑に実践できるように情報共有と支援を実施
看護部教育委員会	12回	<p><目的> 看護職員のキャリア開発を支援するとともに、良質な看護を提供するための教育体系を整備、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 年間計画に沿って、集合教育を実施し、看護のおもしろさ・やりがい感を発見することができる研修を企画する 2. 教育委員が元気で、各病棟の教育支援ができるとともに、委員としての成長ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTとリンクした継続性のある教育の検討と実施 3. 看護師個々のキャリアに応じた支援の検討と実施
看護部教育担当者会	14回	<p><目的> 新人看護師を支援する教育体制を整備し、実践する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師が現場に順応し、各自のペースに合わせて目標を達成していけるよう支援できる 2. 教育担当者が、新人看護師やプリセプターへの指導・教育、研修企画・運営、問題解決に関する知識やスキルを高め、成長できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の院内集合研修の企画・運営・評価 2. OJTでの継続性のある新人看護師教育の検討と実施 3. 実施指導者・教育担当者の支援・育成 4. 全スタッフで新人看護師を育成する風土づくり・体制整備

<p>臨床指導者会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 臨床指導者の育成と学生の効果的な臨床実習ができる</p> <p><目標> 1. 学生指導を通して指導スキルの向上をはかり自己の成長につなげる 2. 患者の安全を確保し有効な実習を行える環境が提供できる。</p> <p><活動内容> 1. スキルアップをはかる方法の一つとして積極的に研修会参加ができた。対象の理解と学生の学びを支えるための支援者の姿勢などについて学び、伝達講習会を開催し、学びを共有した。 2. 実習目標が達成できるよう実習経過表の見直しを行い、教員と調整を行った。 3. 患者の安全については、実習前のオリエンテーションや日々の指導の中で安全に関する説明や、指導にあたるスタッフに安全に関する注意喚起を行った。 4. 学生カンファレンスへの参加や学生との振り返り時に、自分の看護観を話す事で、学生に看護の楽しさややり甲斐を伝えるように努めた。</p>
<p>業務・手順委員会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 業務を見直し、当院で必要な看護業務基準・手順を作成し、安全で安楽な標準化したケアを提供する</p> <p><目標> 1. 看護業務の見直しと改善策の検討 2. 各委員会と連携を図り、看護業務手順の作成及び修正を図る</p> <p><活動内容> 1. 統一した看護を提供でき、看護業務の標準化をはかるため、現在の業務内容やローカルルールの調査を行い、問題点を抽出した。 2. 業務内容やローカルルールの調査で問題が明確になった業務に関して業務改善を行い、改善内容を掲載した業務新聞を作成し、啓蒙に努めた。 3. マニュアルや指針の変更にあわせ20項目の看護業務手順の修正を行った。 4. 必要手順の作成を行った。</p>
<p>感染対策委員会</p>	<p>11 回</p>	<p><目的> 1. 各看護単位での感染対策の中心的役割を担う。 2. 各看護単位の感染対策を検討・改善し、感染対策に関する看護の質を向上させる。 3. ICC、ICT、ICN と連携し、院内の感染対策を推進する。</p> <p><目標> 1. 感染対策に対するスタッフの知識・技術が向上し、適切かつ確実に実践できる。 2. 流行性感染症、耐性菌などのアウトブレイクが発生しない。 3. 勉強会、研修会、学会参加などをとおして実践モデルとしての役割がとれる。</p> <p><活動内容> 1. 標準予防策の徹底 直接観察法と擦式アルコール製剤の使用量調査を実施し、手指衛生の遵守率と個人防護具の着用率の向上につながった。 2. 感染経路別予防策の徹底 ピクトグラムを活用に取り組み、感染経路別予防策の遵守率の向上に取り組んだ。 3. ベストプラクティスの作成に取り組み、オムツ交換のベストプラクティスが完成した。 4. SSI 予防策のバンドルを作成した。 5. 感染症・抗菌薬長期使用患者の把握、各種サーベイランスの結果をスタッフにフィードバックした。 6. 問題発生時には、ICT と連携を図り早期に対処した。 7. ICT ラウンドに同行して、感染対策の視点や他部署の状況を理解し、自部署の感染対策の還元を努めた。 8. チェックリストによる自己評価や院外研修会の自主的な参加等を通して、リンクナースとして必要な知識・技術の向上に努めた。</p>

<p>安全対策委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 看護事故防止対策を検討し、全看護職員のリスク感性向上に向けて取り組むことを目的とする</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリハット報告・事件事例を分析し対応策を検討することができる 2. 安全文化の醸成に向けた活動を推進することができる 3. 安全な療養環境が提供できる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒヤリハットの情報共有 2. 看護部安全マニュアルの改正 3. 安全ニュースの発行 4. 転倒・転落アセスメントシートの活用と看護基準・計画の導入 5. 安全な与薬に向け、チェックリストの活用と周知
<p>看護記録委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 電子カルテを見据え、看護の可視化と質評価につながる看護記録ができる</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 記録の監査を行うことでスタッフ全員が看護の見える記録ができるようになる 2. 看護基準・基準計画を見直し、適切な用語や表現に統一できる 3. 電子カルテに向けて帳票類を検討し整備する 4. 他部門と連携し院内略語集を改訂する <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質的監査・機械的監査の日程表を作成し、全病棟に配布した2. 機械的監査ツールを用いて2回/年スタッフ全員を対象に監査を行った 3. 「記録の日」を活用し、質的監査を項目を決めて行った 4. 監査結果について、ポスターにし病棟での啓蒙活動に活用した 5. 昨年度作成された看護基準・基準計画について、メディス・アウトカムマスターを使用し、用語の見直しを行った 6. 全病棟を回り、現在使用中の帳票類の確認を行った 7. 現在使用中の「院内略語集」について、削除するもの、新たに追加するもの、残すものと選別を行った
<p>クリニカルパス委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 電子カルテを見据え、院内クリニカルパス委員会と連動し、クリニカルパスを推進する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 電子カルテに向け、パス用語の標準化が出来る 2. バリエーション集計内容の質が向上する 3. 既存パスのアウトカム修正を行う事により適切なバリエーション分析を行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クリニカルパスモデルの作成に向けて、3つのパスの見直しに取り組んだ。 2. アウトカム設定方法について院内パス委員会と連携し、手順の文章化を進めた。 3. MEDIS標準マスターとBOMを用いて、パスに使われている用語の適合性を検討し、あいうえお順にした用語集を作成した。 4. 院内パスの方針を受けて、「適応基準」「除外基準」欄を設けたフォーマットの検討し考案できた。 5. 入院患者台帳の記載方法について啓蒙活動を行い、記入不備の減少に取り組んだ。 6. バリエーション集計を各部署で実施できるよう支援し、分析内容を委員会で定期的に報告できた。

<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の健康生活を支援する地域関係機関との連携の充実を図る 2. 在宅療法指導マニュアルの見直しを行う。 3. 看護連絡票の必要な情報が記載できる。 4. 退院支援システムを理解し、早期から院内連携を図り、スムーズな退院支援ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援スクリーニングシートの具体的な記載方法を提示し、スタッフ全員がスクリーニングできるようにした。 2. 訪問看護ステーションとの交流会を1回、事例検討会を1回行い、地域との連携を図り在宅支援を考えることができた。 3. 事例検討会を3回開催し、各病棟で情報共有を行った
<p>看護部地域連携委員会</p>	<p>11回</p>	<p><目的> 在宅療養支援に関する院内外の現状を知り、地域連携推進に取り組む</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子供の健康生活を支援する地域関係機関との連携の充実を図る 2. 在宅療法指導マニュアルの見直しを行う。 3. 看護連絡票の必要な情報が記載できる。 4. 退院支援システムを理解し、早期から院内連携を図り、スムーズな退院支援ができる <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 退院支援スクリーニングシートの具体的な記載方法を提示し、スタッフ全員がスクリーニングできるようにした。 2. 訪問看護ステーションとの交流会を1回、事例検討会を1回行い、地域との連携を図り在宅支援を考えることができた。 3. 事例検討会を3回開催し、各病棟で情報共有を行った
<p>看護部研究支援委員会</p>	<p>8回</p>	<p><目的> スタッフが看護研究を意欲的かつ適切に実施できるように、研究の全過程にわたって支援する</p> <p><目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の計画や実施において、スタッフが適切な倫理的配慮を行えるよう支援する 2. スタッフが、看護に関して科学的方法を用いて探求し、新しい知見を得るために、適切な指導と支援を行う <p><活動内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の倫理的配慮に対する指導・教育 2. 看護研究の計画・実施プロセスにおけるスタッフの支援

皮膚・排泄ケア部会	11回	<p><目的> 皮膚排泄における専門知識を習得し、ケアの質向上を図る</p> <p><目標> 1. ストーマケア、失禁ケア、創傷ケアなどの専門知識、技術を共有する 2. 各部署におけるストーマケア、失禁ケア、創傷ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p><活動内容> 1. WOCケア習得チェックリストの結果をふまえ、勉強会を開催し、各部署委員の知識・技術のレベルアップを図った。 2. 褥瘡予防リスクアセスメント用紙を活用し、アセスメント内容を分析し、日常生活自立度のめやすを作成した。正しいアセスメントができ、日々の看護に活用できるようにスタッフに周知した。 3. ストーマケア・C I Cの指導用のDVDを作成し、アンケートを行い、評価、修正を行った。今後、家族指導、スタッフの教育に使用していく。</p>
呼吸障害ケア部会	11回	<p><目的> 1. 呼吸障害における専門知識を習得する 2. 呼吸障害におけるケアの質の向上を図る</p> <p><目標> 1. 呼吸障害に関する最新知識・技術を学び、共有する 2. 各部署における呼吸ケアの現状や課題を検証し改善する</p> <p><活動内容> 1. 呼吸ケアに関するヒヤリハットの共有と対策の検討と実施 2. MEと協力し、呼吸器関連物品の管理方法の検討や統一、 3. 呼吸療法マニュアルの修正と項目（新マニュアル）の追加 4. 在宅療養マニュアルの呼吸ケアに関する項目の修正 5. 排痰装置の使用基準・マニュアルの作成 6. 勉強会の計画・実施</p>
摂食障害ケア部会	11回	<p><目的> 1. 摂食に関する最新の知識を学び、共有する 2. 事例検討を行い、質の高い看護を提供する</p> <p><目標> 1. 症例検討を通じて摂食ケアの考え方について学び、適切なケアを提供できる 2. 各委員が各部署における摂食ケアのレベルアップ方法を計画し、実践できる</p> <p><活動内容> 1. 委員が、摂食ケアについての基礎知識を習得できるよう上半期計画的に勉強会を行った 2. 毎月各部署から症例をあげ検討し、各部署での摂食に対する意識の向上につなげた 3. 摂食嚥下障害児への看護基準の評価修正を行った 4. S Tや病棟間の連携を行い、継続した摂食援助につなげた</p>

	研修会名	日程	時間	ねらい	参加数	講師
新人	フォロー研修①	子どもの看護・感染	4月3日(金)	1日	72名	風次長、栗林Ns、鳴滝CN、ネルコア、フィリップス、教育担当者
	フォロー研修②	安全・清潔ケア	4月6日(月)	1日	64名	藤田医療安全課長、教育担当者
	フォロー研修③	記録・与薬システム	4月7日(火)	1日	64名	武田看護師長、田原看護師長、奈須補佐、山口智子Ns、教育担当者
	フォロー研修④	輸液管理	4月17日(金)	1日	66名	テルモ、教育担当者
	フォロー研修⑤	呼吸生理・周手術・小児麻酔	5月15日(金)	1日	66名	藤原CN、木和田Ns、山口智子Ns、新井Ns、山岸検査技師、教育担当者
	フォロー研修⑥	救急蘇生	5月29日(金)	1日	70名	藤原CN、教育担当者
	フォロー研修⑦	子どもの権利・摂食・栄養	6月19日(金)	1日	68名	鎌田CN、森本CN、西川Ns、鳥井管理栄養士、教育担当者
	フォロー研修⑧	多重業務	7月17日(金)	1日	65名	教育担当者
	フォロー研修⑨	褥瘡・薬剤管理・プレパレーション	7月31日(金)	1日	66名	福井薬剤部次長、鎌田CN、茨木補佐、中田PT、放射線科医師・技師
	フォロー研修⑩	家族看護・輸血・CV/PI管理	8月4日(火)	1日	64名	本田CNS、大亀Ns、本浦Ns、野口検査技師、教育担当者
	フォロー研修⑪	継続看護・ストーマケア	9月18日(金)	1日	60名	橋本次長、鎌田CN、山本補佐、泊Ns、濱田看護師長、教育担当者
	フォロー研修⑫	看護過程	10月16日(金)	1日	53名	本田CNS、鳴滝CN、藤田医療安全課長、教育担当者
	フォロー研修⑬	臨時 静脈注射・情報管理	1月29日(金)	0.5 (PM)	55名	大亀Ns、薬剤師、笠井医師、鳴滝CN、藤田医療安全課長、二星CNS
既卒	外来研修	看護を考える	3月11日(火)	1日	55名	教育担当者
	他部署研修		6～8月	0.5～1日	53名	外来看護師、麻酔科医、新生児科医師、放射線技師、教育担当者他
	フィジカルアセスメント・救急蘇生研修		10～2月	各1～2日	55名	教育担当者他
	既卒者研修		11～12月	各1日	56名	藤原CN、呼吸ケア部会、教育担当者他
	家族看護と看護倫理		5月18日(月)	0.5 (PM)	11名	中村郁子次長、松田・山手・川田Ns
	ストレスマネジメント①		9月2日(水)	1日	43名	中谷CNS、教育委員
	ケーススタディ発表		10月23日(金)	0.5 (AM)	42名	大北正三CNS (淡路医療センター)、教育委員
	プリセプター研修 (導入編)		11月16日(月)	1日	41名	藤久保看護部部長、教育委員
	プリセプターフォロー①		2月6日(月)	0.5 (AM)	36名	佐藤看護師長、教育委員
	看護実践と看護倫理		6月1日(月)	0.5 (AM)	34名	佐藤看護師長、教育委員
	プリセプターフォロー②		7月28日(火)	1日	24名	濱田看護師長、教育委員
	リーダーシップ発表会		11月4日(水)	0.5 (AM)	35名	竹井看護師長、井谷Ns、教育委員
			12月1日(火)	0.5 (AM)	15名	教育委員

ラダーII・III	アンシエイトプリセプターフォロー①	7月7日(火)	0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師やプリセプターの成長を助けるための有効なかかわり方が理解できる 2. アンシエイトプリセプターとしての関わりを振り返り、今後活かすことができる 3. 病棟スタッフの指導を受けながら新人看護師・プリセプターの支援と教育ができる 	13名	濱田看護師長、教育委員
	アンシエイトプリセプターフォロー②(発表会)	2月8日(月)	0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人やプリセプターの成長に合わせた関わりができる 2. 新人やプリセプターへの支援や教育を振り返ることができる 	10名	教育委員
	ストレスマネジメント②	10月23日(金)	0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスマネジメント方法が理解、実施でき、ストレスコミュニケーションチームのストレスを最適化し、チームを活性化させるコミュニケーション方法が体得できる 	16名	大北正三CNS (淡路医療センター)、 教育委員
ラダーIII	リーダーシップ他部署研修	10~2月	2日	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーとしての自身の課題を明確にし、ステップアップの機会とする 	12名	教育委員他
	看護研究②	5月26日(火)	0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究としての基礎知識を得る 2. 研究的視点で実践をみることができ 3. 研究計画書について理解することができ 	23名	中谷・二星CNS、教育委員
	看護研究③	9月14日(月)	0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果的なプレゼンテーションの方法を知ることができる 2. 取り組んでいる研究の相談ができる 	19名	二星CNS、教育委員
看護研究	看護研究①	2月15日(月)	0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護的視点で実践を見ることができ 	21名	中谷・本田CNS、教育委員
	教育担当者研修①	12月18日(金)	0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人研修ガイドラインを理解し、管理者とともに新人教育計画の立案、実施、評価ができる 2. 教育担当者、アンシエイトとしての自己の役割を理解し、管理者の指導を受けながら新人の支援と教育ができる 3. シミュレーション研修について適切な企画・運営ができる、もしくは指導を受けながら実施できる 	32名	三宅一代准教授 (兵庫県大)、 中村郁子次長
	教育担当者研修②	1月18日(月)	0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 効果的なプレゼンテーションの方法を知ることができる 2. 取り組んでいる研究の相談ができる 	37名	瀬尾Ns、井谷CN、河内Ns
役割研修	ストーマケア①		0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児のストーマケアが適切にできるようになるために、小児のストーマ造設をする疾患や術前後のケア、ストーマ装具・皮膚保護材、スキンケアの原則とスキンケアについて理解する 	7名	鎌田CN
	救急・集中ケア		0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 適切なアセスメントと情報の共有、報告のスキルを身につけ、患者への適切なケアや治療につなげることで、児の急変や重症を防ぐことができる 	7名	藤原CN
	摂食・嚥下障害看護	7月29日(水) 9月29日(火) 1月26日(火)	0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 摂食嚥下の基本的なメカニズムについて知り、子どもにとっての食の意味や食行動の理解を深めることができる 2. 当院に入院中の子どもたちの摂食・嚥下障害の原因について理解・推測し、必要時、看護計画を立案及び実施・展開することができる 3. 各所属部署のリンクナーズの役割を担い、必要時、認定看護師へのコンサルテーションをし、共同して取り組むことができる 	6名	森本CN
スキルアップ研修	新生児看護		0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児期の生理学的適応過程を理解し、必要な看護について理解する 2. 親子の始まりを支えるための看護を理解する 3. 母乳育児支援の実践について理解する 4. デベロップメンタルケアやポジティブフィードバックなど、新生児の神経発達援助を理解する 5. 1)~4)をふまえ、疾病新生児の看護の実践について考えられる 	9名	井谷CN
	ストーマケア②	8月5日(水) 10月6日(火) 2月3日(水)	0.5 (AM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理が難しい小児のストーマケア (尿路ストーマ、ストーマ周囲に皮膚炎のあるストーマ、ストーマ合併症のあるストーマ) を適切に行うために、ケアの特徴と方法について理解する 	5名	鎌田CN
	感染管理		0.5 (PM)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラダーII以上の看護師の感染対策に対するレベルが向上する 2. 現場における感染対策の風土を改善する 	9名	鳴滝CN
静脈注射研修① 静脈注射研修②		7月2日(水) 9月2日(火) 1月16日(金)	70分 70分	<ol style="list-style-type: none"> 1. 静脈注射を安全に実施する基礎知識を習得する 	315名 300名	大納看護師長、坂本薬剤師、笠井医師、 進来医師、池村医師、鳴滝CN、 藤田医療安全課長

25. 薬剤部

1 薬剤部員異動

(平成27年4月1日付)

【転出者】	次長	合田 泰志	県立粒子線医療センター	(平成27年4月1日付)
	課長補佐	福田 朝恵	県立加古川医療センター	(平成27年4月1日付)
【退職者】	部長	西本 哲男		(平成27年3月31日付)
【転入者】	部長	加古 学	県立柏原病院	(平成27年4月1日付)
	次長	上田 里恵	県立姫路循環器病センター	(平成27年4月1日付)
	職員	阪本 有里恵	県立尼崎病院	(平成27年4月1日付)
	職員	小林 知世	新規採用者	(平成27年4月1日付)

2 平成27年活動報告

本年の主な取り組み概要を下記に記す。

(1) 薬剤部内での医薬品に係わるヒヤリハット防止への取組

「医療事故防止のための薬剤業務マニュアル」の輪読の他、特に若手職員にはリスク防止対策等の研修会を実施し、リスク防止意識の醸成を図った。さらに薬剤業務が適正に実施されているかを確認する目的で実践検証を実施する等、部員全員でヒヤリハット防止対策に取り組んだ。

(2) 治験への取組

院内治験審査委員会事務局として新規治験や継続中の治験の適否に携わった。さらに、小児治験ネットワークを介した治験（中央治験審査委員会で審議）にも積極的に参加し、より充実した治験業務が展開できた。

(3) 薬学生の長期実務実習及びレジデントの受け入れ

実務実習モデル・コアカリキュラムに基づき2名の薬学生を受入れ指導を行った。また、1名のレジデントの受け入れについては当院作成のレジデント研修マニュアル等で、病院薬剤師として必要な知識等を指導した。

(4) 部員の育成

薬剤部の活性化と個々の部員のモチベーションを高めるため、部内勉強会や薬剤管理指導症例報告会を定期的実施した。さらに学会等での発表や認定薬剤師等取得の支援をおこなった。

(5) 新病院構想への対応

こども病院建替整備に向けて、薬剤部員の意見等を集約し、薬剤部門及び医療情報システム等の仕様書策定等に携わった。また、設備関係においても詳細且つ継続的な検討を行っている。

3 来年の展望と予定

昨年度に引き続き、医療事故防止対策の充実やチーム医療の促進という観点から病棟薬剤師業務等を含め、今後新たな業務等を推進し、より積極的な薬物療法の推進に寄与していく。

また新病院建替整備においても、より充実したシステムや設備等の設置及び部内レイアウト等の検討・実施を行い円滑な建替計画の実施を推進する。

(1) 調剤件数

区 分	処方箋枚数	合 計			内 用 薬			外 用 薬		
		処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数	処方数	調剤数	延調剤数
入 院	38,856	67,963	77,961	358,874	53,177	63,175	324,895	14,786	14,786	33,979
外 来	8,098	18,897	61,815	407,949	15,565	58,483	382,681	3,332	3,332	25,268
計	46,954	86,860	139,776	766,823	68,742	121,658	707,576	18,118	18,118	59,247
一日平均	194.0	358.9	577.6	3,168.7	284.1	502.7	2,923.9	74.9	74.9	244.8

(2) 注射薬取扱件数

区 分	注 射 薬	
	処方箋枚数	延本数
入 院	120,137	731,238
外 来	6,240	8,843
計	126,377	740,081
一日平均	522.2	3,058.2

(3) 薬剤管理指導関係件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
薬剤管理指導	390	421	467	499	442	656	622	681	572	588	610	559	6507
麻薬加算	5	8	4	6	10	2	2	6	3	10	15	6	77
退院指導	65	84	78	77	75	84	93	108	89	81	77	87	998

(4) 薬剤情報提供料件数

診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
全 科	461	450	526	519	492	505	504	516	470	451	461	476	5,831

(5) 無菌製剤調製業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
抗がん剤	123	138	227	219	172	278	214	213	227	290	254	226	2,581
高カロリー	72	87	60	67	49	109	76	75	67	120	115	64	961
計	195	225	287	286	221	387	290	288	294	410	369	290	3,542

(6) TDM 件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
バンコマイシン	5	1	5	7	0	4	3	5	3	0	1	3	37

(7) 院内D I 業務

① 電子メールによる情報提供

送 信 日	件 名
2015.2.3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.320
2015.4.3	医薬品・医療機器等安全性情報 No.321
2015.5.1	医薬品・医療機器等安全性情報 No.322
2015.6.2	医薬品・医療機器等安全性情報 No.323
2015.7.10	医薬品・医療機器等安全性情報 No.324
2015.8.10	医薬品安全対策情報 No.242
2015.8.11	医薬品・医療機器等安全性情報 No.325
2015.9.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.326
2015.10.16	医薬品安全対策情報 No.243
2015.11.6	医薬品・医療機器等安全性情報 No.327
2015.11.26	医薬品安全対策情報 No.244
2015.12.18	医薬品・医療機器等安全性情報 No.328

② 主な問い合わせ内容

問 い 合 わ せ 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 注射薬配合変化について ・ 抗がん剤の適切な投与方法について ・ 注射薬溶解後の安定性について ・ 医薬品の副作用について ・ 注射薬のフィルター透過性について ・ 血液製剤の投与方法について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小児薬用量について ・ 内服薬の飲み易い飲み方について ・ 錠剤の粉砕可否について ・ 冷所保存医薬品の常温での安定性について ・ 注射薬の血管外漏出について ・ 食品と薬剤の相互作用について

(8) 院内製剤

① 内用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
内服用ルゴール液	330
0.1% ミダゾラムシロップ	2600

② 軟膏

製剤名	製剤量 (単位 /g)
バリアー	60000
10% テストステロン軟膏	1440
0.4% エストラジオール軟膏	1600

③ 外用液剤

製剤名	製剤量 (単位 /mL)
アセモトール	10000
1/2 カプトドロップ	1440
0.5% アトロピン点眼	180
25% グリセリン液	38600
耳垢水	100
食塩重層液	70
20% 硝酸銀	20
30% 硝酸銀	170
40% 硝酸銀	30
10% ピオクタニン青液	50
1% ピオクタニン青液	40
0.2% ピオクタニン青液	1100
30% アルコール	260
50% アルコール	260
ツェンテール液	20

④ 予製剤

製剤名	製剤量 (単位 /g)	製剤名	製剤量 (単位 /g)
(倍散→倍散)		ベラプロスト (× 50000)	13000
0.01% ジゴシン散	500	ヒドロクロチアジド散 (× 10)	1250
(錠→散)		フラジール散 (× 4)	0
インデラル (× 100)	1500	オキシブチニン散 (× 100)	2000
グリチロン散	1500	メキシチール散 (× 10)	1000
コートリル散 (× 20)	2400	ロンゲス散 (× 100)	5400
デカドロン散 (× 1000)	750	イムラン散 (× 10)	200
レバチオ散 (× 50)	13500		

26. 検査・放射線部（検査部門）

1. 人事異動

【転出者】

課長補佐	井手 敦子	県立がんセンター	(平成 27 年 4 月 1 日付)
課長補佐	四元 寿江	県立西宮病院	(平成 27 年 4 月 1 日付)

【転入者】

主 査	山本 美和	県立光風病院	(平成 27 年 4 月 1 日付)
職 員	橋本 恵美	県立淡路医療センター	(平成 27 年 4 月 1 日付)

【退職者】

担当課長補佐	石川 妙子	定年退職	(平成 27 年 3 月 31 日付)
--------	-------	------	---------------------

2. 活動報告

本年の主な取り組み概要を以下に示す

(1) 院内感染対策

- ・感染管理加算 I 取得の継続（JANIS 検査部門に参加）
- ・感染対策委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 1 2 回）

(2) 安全な輸血医療

- ・輸血管理料 I 取得の継続
- ・輸血療法委員会事務局として、本委員会を定期開催（年 6 回）
- ・「輸血について」新規採用看護師フォロー研修にて講演。
- ・輸血療法マニュアルの一部改訂
- ・輸血用血液製剤の有効利用（赤血球製剤廃棄率の低減化）を推進。赤血球製剤廃棄率は 0.8%（目標 2.7%）と低く、目標を達成した。

(3) 医療事故防止の強化

- ・医療安全目標の作成と推進
「指さし呼称、声だし確認」をテーマとし、生理は患者様の呼び出し時に、輸血は血液製剤払い出し時に、検体検査は検査入力時に声出し確認を実施した。
- ・検査システム及び検査機器について「時刻合わせ」を実施（医療事故調査精度への対応）した。月に一回定期的に確認するとした。

(4) 検査委員会活動

- ・臨床検査委員会を年 2 回開催
- ・日本臨床衛生検査技師会の「精度保証施設」の認証を取得
- ・検査部研修会（院内全体研修）の開催
 - ①グラム染色について ②感染症検査における遺伝子検査の役割

- ・外来採血業務の開始に向けて採血実習を開始。

(5) 新病院関連

各部門システムの仕様を確認し、円滑な運用を目的にシステムの構築を行った。
新規実施検査について、操作技術の修得と運用について関係部門と協議した。
移設機器の移設スケジュールを計画した。

(6) 人材育成

- ・学会（発表3名）や研修会への積極的に参加し、技術や知識を習得した。
- ・兵庫県立病院の相互利用による研修を実施し、技術の取得や運用改善を行った。
- ・業務達成度チェックリストの活用、「時間外検査領域」「採血業務」の達成度を評価し、研鑽に務めた。

(7) 検査技術科学専攻学生臨地実習の受け入れと指導

神戸大学医学部保健学科検査技術科	（1年次臨地実習	：	3名）
徳島大学医学部保健学科検査技術科	（3年次臨地実習	：	2名）

〈認定資格〉

超音波検査士（消化器）	3名	超音波検査士（循環器）	4名
認定血液検査技師	1名	認定輸血検査技師	1名
日本糖尿病療養指導士	1名	認定骨髄検査師	1名
細胞検査士	1名	臨床工学士	1名
第一種衛生管理者	1名		
衛生工学衛生管理者	1名		
特定化学物質及び四アルカリ鉛等作業主任者	2名		

3. 次年度の課題

・新病院関連

遺伝子検査など新規導入検査の知識・技術の修得
他部門との協力体制の強化による円滑な業務運用の構築
各部門の業務マニュアル及び検査の手引きの作製
救急・災害時の対応の構築

- ・外来採血業務へ検査技師が参画。技術の修得と患者対応を学ぶ。
- ・小児がん拠点病院に対応する臨床検査部門の充実（人材育成を中心に）
- ・輸血用血液製剤の効率的利用、赤血球製剤廃棄率の低減化の推進
- ・感染対策に関する情報の発信と院内周知の強化
- ・診療材料や運用の見直しによる経費削減の推進

(1) 平成 27 年臨床検査実施状況

メディスコードを用いた集計に変更

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
一 般	2,399	2,108	3,102	2,593	2,279	2,774	3,104	3,251	2,499	2,454	2,633	3,023	32,219
血 液	10,939	10,519	12,886	12,816	11,483	12,026	13,193	12,886	11,305	12,161	12,296	12,537	145,047
細 菌	2,423	2,160	2,441	2,280	2,337	2,575	2,570	2,180	2,070	2,051	2,057	2,460	27,604
血 清	4,982	4,632	6,011	5,422	5,071	6,927	5,854	5,712	4,869	5,075	5,133	5,212	64,900
生 化 学	43,365	40,580	50,594	50,518	45,518	48,060	52,707	51,654	45,147	46,756	47,062	49,044	571,005
病 理	152	127	168	147	125	130	168	110	96	172	150	132	1,677
生 理	1,385	1,325	1,955	1,667	1,321	1,521	1,660	1,987	1,458	1,400	1,257	1,504	18,440
職員検診	40	40	540	38	38	3,073	64	64	59	65	43	50	4,114
外部委託	2,679	2,793	3,649	3,628	2,644	3,491	3,666	3,770	2,906	2,828	3,192	2,951	38,197
合 計	68,364	64,284	81,346	79,109	70,816	80,577	82,986	81,614	70,409	72,962	73,823	76,913	903,203

(2) 平成 27 年時間外（日、当直）検査実施状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年度累計
項目数	2,645	2,241	2,536	2,829	3,233	2,311	2,872	2,506	2,710	2,676	2,939	3,164	32,662
対前年比	104.5%	113.9%	107.8%	102.2%	120.8%	91.7%	119.5%	94.0%	107.5%	101.0%	108.7%	97.8%	105.3%
患者数	1,103	933	1,081	1,144	1,360	960	1,205	1,035	1,113	1,100	1,223	1,342	13,599
対前年比	108.0%	119.5%	113.3%	102.4%	132.0%	93.8%	124.0%	94.8%	110.4%	106.2%	112.8%	101.2%	109.0%

(3) 平成 27 年血液製剤使用状況

製剤		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
RCC	購入数 単位数	209	211	262	300	265	327	308	220	246	212	232	255	3,047
	使用量 単位数	205	209	258	297	262	323	308	220	242	212	230	255	3,021
	廃棄量 単位数	4	2	4	3	3	4	0	0	4	0	2	0	26
	廃棄率 %	1.9	0.9	1.5	1.0	1.1	1.2	0.0	0.0	1.6	0.0	0.9	0.0	0.8
FFP	購入数 単位数	104	107	182	92	171	149	127	89	85	101	139	171	1,517
	使用量 単位数	104	107	180	92	171	149	127	89	85	101	136	164	1,505
	廃棄量 単位数	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	3	7	12
	廃棄率 %	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.2	4.1	0.6
PC	購入数 単位数	935	805	785	1,430	1,140	1,140	1,635	1,210	1,080	920	1,070	1,350	13,500
	使用量 単位数	935	805	785	1,420	1,140	1,130	1,635	1,210	1,080	920	1,070	1,340	13,470
	廃棄量 単位数	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	0	10	30
	廃棄率 %	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.2

細菌培養材料別検査件数（H27年）

材料	依頼件数
痰	611
気管洗浄液	739
咽頭粘液	1102
鼻腔粘液	1055
その他（呼吸器系）	75
口腔、気道又は呼吸器からの検体合計	3582
尿・カテーテル尿	1021
膣分泌物	599
悪露	161
子宮腔内	157
その他（泌尿器系）	12
泌尿器又は生殖器からの検体合計	1950
便	285
GBS 増菌	394
その他（消化器系）	7
消化管からの検体合計	686
血液	2308
髄液	126
胸・腹水	64
その他（穿刺液）	22
血液又は穿刺液検体合計	2520
IVH 先端	95
開放性膿・閉塞性膿	158
ドレーン排液	9
ドレーン先端	55
耳分泌物	14
眼分泌物	24
皮膚	298
臍部	16
創部	104
その他	405
その他検体合計	1178
トリコモナス	4
培養合計	9916

その他検査件数（H27年）

ウイルス迅速検査	1248
ウイルス以外の迅速検査	106
MRSA 検査	6721

病棟別検査件数（H27年）

病棟	依頼件数
一般外科病棟 4 B	207
循環器 A 病棟 5A	333
循環器 B 病棟 5B	256
混合病棟 6 A	91
混合病棟 6 B	78
血液病棟 7 F	1565
救急病棟	1019
産科病棟	947
ICU	735
HCU	407
NICU	2193
GCU	827
総合診療科	12
アレルギー科	4
脳神経内科	15
循環器科	56
腎臓内科	37
新生児科	15
血液・腫瘍科	67
小児外科	83
形成外科	9
整形外科	11
泌尿器科	60
耳鼻咽喉科	15
産科外来	450
心臓血管外科	3
救急集中治療科	650
眼科	5
代謝内分泌科	0
脳神経外科	1

分離菌内訳 (H27 年)

菌種	菌名	総件数	感受性報告件数	
グラム陽性菌	ブドウ球菌	S.aureus	511	449
		S.aureus (MRSA)	370	294
		S.epidermidis	41	41
		S.epidermidis (MRSE)	328	326
		その他の CNS	1845	115
	連鎖球菌	S.agalactiae	146	141
		S.pneumoniae	44	42
		Group G Strep	5	5
		Group A Strep	8	7
		その他の Viridans strep	1028	19
	腸球菌	その他の Streptococcus	9	3
		E.faecalis	157	157
		E.faecium	36	36
	その他	その他の腸球菌	509	7
		Bacillus sp.	37	9
		Corynebacterium sp.	399	6
グラム陰性菌	腸内細菌	Lactobacillus sp.	539	0
		K.pneumoniae	199	160
		E.coli	327	269
		E.cloacae	79	79
		E.aerogenes	33	33
		S.marcescens	52	48
		K.oxytoca	231	225
		P.mirabilis	10	9
		C.freundii	7	4
	非発酵菌 ブドウ糖	M.morganii	5	3
		P.aeruginosa	299	288
		A.baumann/haem	25	24
		B.cepacia	1	1
	その他	S.maltophilia	20	20
		H.influenzae	63	61
		M. (B) catarrhalis	53	52
Neiseria sp.		280	2	
真菌	G.vaginalis	72	0	
	C.albicans	161		
	C.glabrata	55		
	C.parapsilosis	37		
	C.tropicalis	4		
Fusarium sp.	2			

のべ件数

耐性菌検出状況（H27年）

菌名	件数
S.aureus (MRSA)	370
St.pneumoniae (PISP)	0
St.pneumoniae (PRSP)	0
H.influenzae (BLNAR)	0
H.influenzae (BLPACR)	0
E.coli ESBL	30
K.pneumoniae ESBL	2
K.oxytoca ESBL	0
P.mirabilis ESBL	0
P.aeruginosa MBL	0
E.coli MBL	0
K.pneumoniae MBL	0
K.oxytoca MBL	0
M.morganii MBL	0
P.aeruginosa MDRP	0
K.pneumoniae AmpC	3

のべ件数（重複あり）

MRSA サーベイ（H27年）

科・病棟	件数	陽性	陰性	陽性率
一般外科病棟 4B	65	21	44	32.3%
循環器A病棟 5A	142	25	117	17.6%
循環器B病棟 5B	115	35	80	30.4%
混合A病棟 6A	104	25	79	24.0%
混合B病棟 6B	121	50	71	41.3%
血液病棟 7F	164	1	163	0.6%
救急病棟	0	0	0	0.0%
I C U	47	7	40	14.9%
H C U	150	61	89	40.7%
N I C U	380	10	370	2.6%
G C U	689	45	644	6.5%
合計	1977	280	1679	14.2%

無菌材料検出菌 (H27 年)

材 料	件数	陽性件数	陽性率
静脈血	2054	121	5.9%
動脈血	257	20	7.8%
臍帯血	1	1	100.0%
髄液	128	8	6.3%
I V H 先端	95	22	23.2%
胸水	26	4	15.4%
腹水	43	15	34.9%
関節液	5	1	20.0%
穿刺液	5	0	0.0%
組織	1	1	100.0%
羊水	1	0	0.0%

血液培養検出菌	件数
S.aureus (MRSA)	11
S.aureus	9
S.epidermidis (MRSE)	19
S.epidermidis	4
その他 CNS	15
S.pneumoniae	2
腸球菌	12
Viridans strepto	7
その他 GPC	3
Bacillus sp.	11
Corynebacterium sp.	5
その他 GPR	1
GNC	2
E.coli	11
E.coli ESBL	3
K.pneumoniae	4
K.oxytoca	1
Paeruginosa	4
その他 GNR	6
H.influenzae	2
Campylobacter jejuni	1
Candida	8

IVH 先端培養検出菌	件数
S.aureus (MRSA)	5
S.aureus	2
S.epidermidis (MRSE)	6
その他 CNS	5
腸内細菌	2
Paeruginosa	1
Candida	1

髄液検出菌	件数
S.epidermidis (MRSE)	4
S.epidermidis	2
E.coli	1

細菌別薬剤感受性率 (H27年)

グラム陽性球菌

菌名	株数	ABPC	CEZ	CDTR	CMZ	MEP	GM	AMK	ABK	EM	CAM	AZM	CLDM	MINO	LVFX	VCM	TEIC	ST	LZD
S.aureus	202	1%	100%	99%	100%	100%	73%	99%	100%	62%	64%	63%	92%	99%	89%	100%	100%	100%	100%
S.aureus (MRSA)	145	0%	0%	0%	-	0%	72%	91%	98%	12%	12%	12%	31%	49%	18%	100%	100%	100%	100%
S.epidermidis	37	8%	100%	97%	100%	100%	84%	97%	-	65%	68%	68%	92%	97%	87%	100%	100%	95%	100%
S.epidermidis (MRSE)	249	0%	0%	0%	0%	0%	41%	90%	-	32%	32%	32%	63%	100%	35%	100%	100%	93%	100%
S.lugdunensis	15	0%	100%	100%	100%	100%	20%	100%	-	93%	93%	93%	93%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
S.lugdunen MRS	36	0%	0%	0%	0%	0%	11%	100%	-	83%	83%	83%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
Ec.faecalis	81	100%	-	-	-	67%	-	-	-	12%	-	-	-	15%	100%	100%	100%	-	100%
Ec.faecium	19	11%	-	-	-	-	-	-	-	7%	-	-	-	47%	21%	100%	100%	-	100%

肺炎球菌

菌名	株数	PCG	ABPC	A/S	CTM	CTX	CFPM	CFIX	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	EM	CAM	CLDM	LVFX	VCM	ST
St.pneumoniae (PSSP)	35	100%	-	-	59%	100%	100%	-	97%	82%	9%	9%	-	-	32%	100%	100%	91%
St.pneumoniae (PISP)	1	0%	-	-	0%	100%	100%	-	100%	0%	0%	0%	-	-	100%	100%	100%	100%
St.pneumoniae (PRSP)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

グラム陰性桿菌

菌名	株数	ABPC	PIPC	CEZ	CTX	CAZ	CFPM	CDTR	CFPN	FMOX	MEPM	GM	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST
E.coli	166	52%	62%	82%	90%	90%	99%	-	88%	91%	100%	92%	100%	98%	88%	100%	81%
E.coli ESBL	16	0%	0%	0%	0%	0%	0%	-	0%	100%	100%	81%	100%	94%	19%	-	63%
Kl.pneumoniae	69	4%	53%	91%	91%	91%	100%	-	89%	91%	100%	100%	100%	87%	96%	-	76%
Kl.pneum ESBL	2	0%	0%	0%	0%	0%	0%	-	0%	100%	100%	100%	100%	50%	100%	-	0%
Kl.pneumoniae \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kl.oxytoca	51	0%	26%	42%	100%	100%	100%	-	96%	100%	100%	100%	100%	94%	100%	-	96%
Kl.oxytoca ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Kl.oxytoca \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ent.cloacae	24	4%	67%	0%	58%	63%	96%	-	54%	0%	100%	100%	100%	92%	96%	-	92%
Ent.aerogenes	12	0%	50%	0%	50%	50%	100%	-	42%	17%	100%	100%	100%	100%	100%	-	100%
Ser.marcescens	29	0%	82%	0%	-	86%	100%	-	50%	71%	100%	96%	100%	96%	96%	-	96%
Prt.mirabilis	8	71%	71%	100%	100%	100%	100%	-	100%	100%	100%	100%	100%	0%	100%	-	57%
Prt.mirabilis ESBL	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Morg.morganii	4	0%	50%	0%	-	50%	100%	-	50%	100%	100%	100%	100%	50%	100%	-	50%
M.morganii \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

グラム陰性ブドウ糖非発酵菌

菌名	株数	PIPC	P/T	CAZ	CFPM	MEP	DRPM	S/C	GM	TOB	AMK	MINO	LVFX	CPFX	ST	FOM
Ps.aeruginosa	109	95%	97%	96%	95%	94%	96%	90%	87%	100%	100%	-	97%	97%	-	11%
Ps.aeruginosa \times タロ β +	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ps.aeruginosa MDRP	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Ac baumann/haem	9	78%	-	100%	89%	100%	100%	100%	78%	89%	100%	100%	89%	78%	100%	-
Ac.lwoffi	9	78%	-	89%	89%	100%	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	-
Steno.maltophilia	13	-	-	31%	-	-	-	-	-	-	-	100%	100%	-	100%	-
Burk.cepacia	1	-	-	100%	-	100%	-	-	-	-	-	100%	100%	-	0%	-

27. 検査・放射線部（放射線部門）

1. 人事異動 平成 27 年 4 月 1 日付

【転出者】	担当課長補佐	服部 真吾	県立加古川医療センターへ
	主査	藤井 友紀子	県立がんセンターへ
【転入者】	課長補佐	山下 哲也	県立がんセンターより
	職員	佐藤 衣莉	新規採用

2. 活動状況

1) 放射線検査業務実績

平成 27 年の放射線検査実績は、総検査件数 43,531 件で、前年より 2,241 件増加していた。ポータブル撮影と血管造影などの検査が増加したが、放射線治療と核医学検査が減少した。

2) 機器の更新

機器更新はなかったが、平成 28 年 5 月の新病院開院に向けて、MRI 装置、放射線治療位置付け用 CT 装置、C アーム X 線テレビ装置、フラットパネルディテクターシステム、パノラマ・セファロ X 線撮影装置、X 線骨密度測定装置、ポータブル撮影装置の仕様策定を行い機種が決定した。

3) 医療事故防止の取り組み

患者間違いや撮影間違いは重大な事故に発展する可能性があるため、その防止に向けて取り組んでいる。中でも、MRI 室へ磁性体持ち込むことがないように入念な確認や担当看護師に対して講習会を開催した。今後も、重大な事故に発展する事がないように、他職種と連携しさらなる取り組みを継続する。

4) 資質向上と教育

職員の資質向上を図るため、学会・研修会への積極的な参加と研究発表を行っている。

- ・学会・研修会発表 : 5 演題
- ・学会・研修会等への参加 : 全国自治体病院学会、放射線技師学術大会、小児放射線技術研究会、磁気共鳴医学会、成育医療研修会(診療放射線技師コース)、県立病院部会

< 認定資格 >

第 1 種放射線取扱主任者	1 名	放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	2 名	核医学専門技師	1 名
X 線 CT 認定技師	1 名	Ai 認定放射線技師	1 名
救急撮影認定技師	1 名	日本 DMAT 隊員	1 名
第 2 種放射線取扱主任者	1 名	第 1 種作業環境測定士	1 名

5) 新病院開設への取り組み

新病院開設への取り組みが進んでおり、更新機器の仕様策定を行いすべての装置が決定し設置が進んでいる。移設装置の日程調整や RIS のマスター作成、許可申請手続きなども進行中である。

3. 次年度の課題

開院に向かって、装置の安定稼働の実施に向け準備を行っている。新規導入機器の操作トレーニングや実際の運用など多数の課題に取り組む必要がある。医療事故防止については、部内の継続した取り組みに加え、他部署との連携に着目した安全な検査を目指した取り組みを進める。

(1) 放射線検査人数

区分		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
単純撮影	胸部撮影	外来	648	626	886	720	606	679	813	939	750	702	629	688	8686
		入院	150	141	192	158	114	147	151	176	143	158	136	123	1789
		計	798	767	1078	878	720	826	964	1115	893	860	765	811	10475
	外科撮影	外来	611	479	716	618	416	576	577	711	517	509	483	568	6781
		入院	131	108	130	151	110	161	178	155	148	148	123	116	1659
		計	742	587	846	769	526	737	755	866	665	657	606	684	8440
	ポータブル	外来													0
		入院	715	656	773	791	805	832	861	746	743	711	800	811	9244
		計	715	656	773	791	805	832	861	746	743	711	800	811	9244
	パノラマ・その他	外来	42	33	53	41	39	53	41	42	27	31	51	41	494
		入院	0	1	1	8	4	1	3	0	1	0	0	3	22
		計	42	34	54	49	43	54	44	42	28	31	51	44	516
単純撮影合計		外来	1301	1138	1655	1379	1061	1308	1431	1692	1294	1242	1163	1297	15961
		入院	996	906	1096	1108	1033	1141	1193	1077	1035	1017	1059	1053	12714
		計	2297	2044	2751	2487	2094	2449	2624	2769	2329	2259	2222	2350	28675
造影撮影	消化器	外来	17	13	11	16	13	26	27	21	28	18	17	23	230
		入院	29	18	17	16	25	18	23	23	27	32	31	27	286
		計	46	31	28	32	38	44	50	44	55	50	48	50	516
	脳血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	3	1	1	3	0	0	1	2	3	2	0	2	18
		計	3	1	1	3	0	0	1	2	3	2	0	2	18
	心臓血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	21	20	29	22	27	32	27	30	31	28	20	26	313
		計	21	20	29	22	27	32	27	30	31	28	20	26	313
	その他の血管	外来	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		入院	1	1	0	1	2	3	3	1	1	0	2	1	16
		計	1	1	0	1	2	3	3	1	1	0	2	1	16
	泌尿器系	外来	17	22	39	18	21	25	32	32	21	24	20	25	296
		入院	3	2	2	3	3	9	4	6	1	3	0	4	40
		計	20	24	41	21	24	34	36	38	22	27	20	29	336
	その他の造影	外来	3	0	3	2	1	0	0	1	1	0	0	0	11
		入院	2	5	1	4	0	2	2	4	5	6	5	3	39
		計	5	5	4	6	1	2	2	5	6	6	5	3	50
造影撮影合計		外来	37	35	53	36	35	51	59	54	50	42	37	48	537
		入院	59	47	50	49	57	64	60	66	68	71	58	63	712
		計	96	82	103	85	92	115	119	120	118	113	95	111	1249
CT撮影	外来	111	120	135	116	101	146	136	127	121	93	100	113	1419	
	入院	126	120	133	129	107	118	143	113	102	119	111	107	1428	
	計	237	240	268	245	208	264	279	240	223	212	211	220	2847	
MRI検査	外来	103	112	137	132	92	130	154	150	131	152	114	121	1528	
	入院	68	61	66	62	48	65	59	54	47	47	50	53	680	
	計	171	173	203	194	140	195	213	204	178	199	164	174	2208	
核医学検査	外来	16	11	33	18	12	11	23	35	14	15	10	11	209	
	入院	9	7	10	3	4	11	9	4	4	9	5	10	85	
	計	25	18	43	21	16	22	32	39	18	24	15	21	294	
放射線治療	外来	0	0	0	9	4	10	0	0	0	0	0	0	23	
	入院	52	64	50	64	75	14	14	33	67	38	1	72	544	
	計	52	64	50	73	79	24	14	33	67	38	1	72	567	
超音波検査	外来	281	282	403	319	294	313	416	511	360	335	266	360	4140	
	入院	69	54	67	75	54	76	70	79	53	60	76	74	807	
	計	350	336	470	394	348	389	486	590	413	395	342	434	4947	
PACS処理	外来	220	178	266	236	208	262	249	220	204	214	202	211	2670	
	入院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	計	220	178	266	236	208	262	249	220	204	214	202	211	2670	
骨塩定量	外来	8	1	4	5	6	9	4	7	3	9	1	3	60	
	入院	1	0	1	1	0	1	1	0	2	0	6	1	14	
	計	9	1	5	6	6	10	5	7	5	9	7	4	74	
総合計	外来	2077	1877	2686	2250	1813	2240	2472	2796	2177	2102	1893	2164	26547	
	入院	1380	1259	1473	1491	1378	1490	1549	1426	1378	1361	1366	1433	16984	
	計	3457	3136	4159	3741	3191	3730	4021	4222	3555	3463	3259	3597	43531	

(2) 機器別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
X線撮影装置(胸部)	798	767	1078	878	720	826	964	1115	893	860	765	811	10475
X線撮影装置(外科)	742	587	846	769	526	737	755	866	665	657	606	684	8440
ポータブルX線撮影装置	715	656	773	791	805	832	861	746	743	711	800	811	9244
泌尿器用X線TV装置	25	29	45	27	25	36	38	43	28	33	25	32	386
デジタルX線TV装置	46	31	28	32	38	44	50	44	55	50	48	50	516
X線C T装置	237	240	268	245	208	264	279	240	223	212	211	220	2847
M R I 装置	171	173	203	194	140	195	213	204	178	199	164	174	2208
放射線治療装置(リニアック)	52	64	50	73	79	24	14	33	67	38	1	72	567
ガンマカメラ装置(RI)	25	18	43	21	16	22	32	39	18	24	15	21	294
血管連続撮影装置	24	21	30	25	27	32	28	32	34	30	20	28	331

(3) 時間外 時間帯別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
日勤帯検査人数	201	168	154	155	250	151	174	196	228	185	221	255	2338
業務時間(時)	42	34	30	33	52	33	41	40	42	36	45	47	474
稼働日数	11	9	9	9	13	8	9	10	11	10	11	12	122
準夜帯検査人数	132	109	112	113	139	128	157	112	104	90	114	115	1425
業務時間(時)	45	37	40	38	48	40	55	37	37	34	13	38	461
稼働日数	29	27	30	28	29	28	30	29	29	29	26	29	343
深夜帯検査人数	28	26	29	31	35	27	40	37	37	27	38	53	408
業務時間(時)	13	12	14	14	16	12	18	18	18	12	17	24	187
稼働日数	16	13	18	17	18	16	16	20	20	17	17	26	214
検査人数(計)	361	303	295	299	424	306	371	345	369	302	373	423	4171
業務時間(計)	100	84	84	84	115	85	113	95	97	81	74	109	1122

(4) 時間外 検査種別検査人数

区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
ポータブル	232	198	218	221	334	214	266	271	293	228	293	329	3097
一般撮影	76	56	40	45	41	49	59	42	33	39	33	59	572
C T	43	45	34	29	40	40	39	26	38	31	41	31	437
T V	9	3	3	2	7	2	5	5	5	4	6	4	55
アンギオ	1	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	4
M R I	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	6
エコー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	361	303	295	299	424	306	371	345	369	302	373	423	4171

(5) 時間外 病棟別検査人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
H C U	19	17	8	17	17	21	25	31	38	18	24	28	263
N I C U	69	75	74	59	116	47	52	77	90	65	106	114	944
I C U	70	61	63	58	78	62	66	87	81	72	80	112	890
G C U	8	6	4	0	10	5	11	10	8	2	12	6	82
O P 室	16	15	16	24	20	33	34	17	24	18	22	16	255
産科	5	4	5	5	6	6	3	2	4	7	2	4	53
外来	0	3	0	2	2	0	0	0	0	0	2	2	11
救急	97	68	58	66	75	77	87	53	72	39	63	69	824
P I C U	39	31	44	34	61	33	63	35	28	48	46	38	500
一外4B	6	5	4	15	16	6	1	5	7	12	0	14	91
循環器5A	4	3	4	3	4	3	7	8	5	2	6	9	58
循環器5B	12	7	8	8	8	2	15	13	7	8	9	8	105
混合A	7	2	6	1	4	3	1	1	1	2	1	0	29
混合B	7	3	1	0	1	1	1	0	0	4	0	0	18
血液7F	2	3	0	7	6	7	5	6	4	5	0	3	48
合計	361	303	295	299	424	306	371	345	369	302	373	423	4171

28. 栄養管理部

1. 平成 27 年度の活動

平成 26 年の主な活動報告として以下の点が上げられる。

(主な活動報告)

- ・ N S T (チーム医療) の円滑な稼働
- ・ 医療事故防止対策に関する取り組み。(ひやりはっと報告)
- ・ 褥瘡対策委員会及びクリニカルパス委員会への積極的な参画
- ・ I T 化の推進 (給食オーダーリングシステムの安定稼働)
- ・ 患者給食のサービス向上のための給食イベントの開催「クリスマス・デザートバイキング食等の提供」等
- ・ 知識や技能の資質を向上させるための調理・栄養関係研修会への参加と課内研修会の充実
- ・ 栄養管理業務に関する研究の成果として学会等への積極的な参加と発表

2. これからの展望

平成 28 年に向けては、新病院移転業務を着実に実施し業務の安全な運営に努める、また、引き続き「安全な食事の提供」という栄養管理課の基盤業務と共に診療部門との更なる連携強化を図った栄養指導・相談を行うなど患者サービスの充実・向上に努める。

4. 給食

(1) 調製乳・食事月別延数

1) 患者

① 調製乳人数

(単位 人)

区分	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
調乳のみ人員 (人)		1,809	1,851	2,024	1,857	2,140	1,989	1,785	1,546	1,665	1,658	1,363	1,351	21,038	69.1
調乳食事人員:調乳(人)		263	237	280	276	200	211	286	237	250	199	232	231	2,902	9.5
小計		2,072	2,088	2,304	2,133	2,340	2,200	2,071	1,783	1,915	1,857	1,595	1,582	23,940	78.6
調乳・食事人員(食事)		611	510	505	580	470	563	507	438	501	610	611	609	6,515	21.4
計		2,683	2,598	2,809	2,713	2,810	2,763	2,578	2,221	2,416	2,467	2,206	2,191	30,455	100.0

(注) 調乳・食事人員・・・調乳(人) 調製乳と食事が重複するもの

② 調製乳種類及び本数

(単位 本)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	%
13% レーベンスミルク		11,957	11,144	11,363	12,191	12,078	12,171	12,359	11,577	11,495	11,882	9,829	9,875	137,921	58.7
15% LW		3,073	3,532	3,513	2,834	4,474	4,730	3,661	2,266	3,617	2,581	1,746	2,792	38,819	16.5
7% レーベンスミルク		217	196	217	210	217	210	217	217	14				1,715	
10% レーベンスミルク													8	8	
14% レーベンスミルク		36			0						22			58	
15% レーベンスミルク		583	321	1,085	828	981	281	45	45	256	297	288	85	5,095	
16% レーベンスミルク		209	271	295	63		28			6	18	78		968	
17% レーベンスミルク		612	581	660	446	390	436	178	228	22	353	627	206	4,739	
10% 滋養糖			471	529	481	504	538	578	560	615	663	289		5,228	
10% MA -1		658				560						22		1,240	
15% MA -1			97	210	375		311	253	106	393	203	222	184	2,354	
17% MA -1							65	241	9					315	
13% E赤ちゃん		623	434	503	79	72	337	71	18		56	81	185	2,459	
15% E赤ちゃん					154	24								178	
10% エレメンタルフォーミュラ												30		30	
13% エレメンタルフォーミュラ													201	201	
15% エレメンタルフォーミュラ													45	45	
17% エレメンタルフォーミュラ									15		15		20	50	
7% MCTフォーミュラ										38				38	
13% MCTフォーミュラ								30						30	
14% MCTフォーミュラ		52	207	230	383	401	189	539	820	433	842	541	855	5,492	
15% MCTフォーミュラ			18	18	30									66	
16% MCTフォーミュラ			108		45									153	
13% MM-5											27			27	
10% 低カリウム中リン				64							18			82	
15% 8806(低カリウム中リンフォーミュラ)		10	10				33	23				8		84	
15% (低カリウム低リン)		290	240	8	210	172	178	137	12					1,247	
14% 必脂 MCT (721)									409	280	207	208	178	1,282	
10% エレンタール		24											19	43	
13% エレンタール		10	58								1	27		96	

Ⅲ 診療統計

15% エレンタール							36		4	153	39	104	336	
16% エレンタール					12								12	
17% エレンタール											6		6	
18% エレンタール							48						48	
20% エレンタール					3					25	56	8	92	
22% エレンタール											10		10	
24% エレンタール											56		56	
26% エレンタール						6					35		41	
27% エレンタール				51	12					14	42	78	197	
7% エレンタールP	8												8	
10% エレンタールP	42		25	176	88				5	5			341	
12% エレンタールP								27					27	
13% エレンタールP	18		54	14		6			14	18		24	148	
14% エレンタールP								9	57				66	
15% エレンタールP			63	404	267	436	10		63	17	27	27	1,314	
16% エレンタールP									18				18	
17% エレンタールP										36		18	54	
18% エレンタールP	20					28				27			75	
19% エレンタールP										15		36	51	
20% エレンタールP	77	126	180	10	169	318	281	195	94	15	114	93	1,672	
21% エレンタールP						14				24		9	47	
22% エレンタールP		7								15			22	
23% エレンタールP										15			15	
24% エレンタールP							21			15			36	
25% エレンタールP	24										6		30	
26% エレンタールP										54	213	108	375	
マクトンオイル	501	18				3	80	22	6		243	279	1,152	
小計	300	292	72	310	274	370	599	312	127	214	151	163	3,184	
濃厚流動食	リソースジュニア	73	28	35	30								166	
	GFO	33	24	40	4	31	30	26	31	6		19	43	287
	アイソカルジュニア	754	699	888	856	604	461	477	484	506	637	639	313	7,318
	MA-8 プラス	638	665	691	591	550	540	736	495	659	595	546	568	7,274
	小計	1,498	1,416	1,654	1,481	1,185	1,031	1,239	1,010	1,171	1,232	1,204	924	15,045
													0	0
滅菌水	4	7		4	31	45	56	82	32	31	50	68	410	0.2
計	20,846	19,554	20,743	20,779	21,914	21,764	20,702	17,939	18,760	19,110	16,248	16,592	234,951	100.0
空瓶 大 200 c c	6,357	5,513	6,417	5,404	5,536	4,154	4,786	4,857	4,130	4,030	3,903	3,673	58,760	46.262
空瓶 小 100 c c	6,984	6,072	6,936	6,432	6,936	6,192	5,208	5,952	4,080	4,776	3,792	4,896	68,256	53.738
計	13,341	11,585	13,353	11,836	12,472	10,346	9,994	10,809	8,210	8,806	7,695	8,569	127,016	100.0

③ 患者食事数

(単位 食)

区 分		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
常食	学 童 食	1,514	1,878	2,504	2162	1,806	1,934	2,460	3,019	2,251	2,152	1,757	2,185	25,622
	妊 産 婦 食	1,196	1,401	1,729	1,863	1,650	1,698	2,071	2,093	1,825	2,295	2,292	2,013	22,126
	小 計	2,710	3,279	4,233	4,025	3,456	3,632	4,531	5,112	4,076	4,447	4,049	4,198	47,748
軟菜・幼児・離乳	幼 児 ・ 離 乳 食	2,867	2,843	3,060	3,189	2,857	3,187	2,959	2,577	2,563	3,103	3,162	2,910	35,277
	軟 菜 ・ 流 動 食	506	540	435	461	549	350	440	481	651	625	319	540	5,897
	小 計	3,373	3,383	3,495	3,650	3,406	3,537	3,399	3,058	3,214	3,728	3,481	3,450	41,174
非加算特別食	ペ ー ス ト 食	101	79	56	172	94	145	160	164	142	128	105	151	1,497
	ア レ ル ギ ー 食	477	470	604	646	503	695	954	1026	657	757	855	582	8,226
	自 由 食													0
	口 蓋 裂 食		10	47	35	32	9	85	33			16	49	316
	扁 摘 術 後 食	107	117	164	174	126	134	211	155	96	131	186	77	1,678
	移 植 対 応 食	190	151	135	127	238	305	447	483	461	509	413	521	3,980
	ク ロ ー ン 病 食													0
	低 残 査 食	29	30	5	1		4	9	1	43	81	54	6	263
	肥 満 食													0
	ケ ト ン 食					41	20							61
	減 塩 食													0
	そ の 他 特 別 食	430	402	393	352	348	241	393	481	400	412	260	350	4,462
	小 計	1,334	1,259	1,404	1,507	1,382	1,553	2,259	2,343	1,799	2,018	1,889	1,736	20,483
加算特別食	腎 臓 食	55	21	22	27	42	139	95	30	66	133	228	344	1,202
	肝 臓 食	31	26	29	235	86	82	93	120	56	87	62	203	1,110
	糖 尿 病 食	178	110	28	77	85	84	97	112	77	85	135	256	1,324
	乳 び 胸 食				39			17	16	22	57	25	39	215
	心 臓 食													0
	低 ナ ト リ ウ ム 食													0
	検 査 食 (加)													0
	妊 娠 中 毒 症 食	44	85	160	90	91	176	52	148	50	44	84	273	1,297
	妊 産 婦 糖 尿 病 食													0
	妊 産 婦 肝 臓 病 食													0
	高 尿 酸 血 症 食													0
小 計	308	242	239	468	304	481	354	426	271	406	534	1,115	5,148	
計	7,725	8,163	9,371	9,650	8,548	9,203	10,543	10,939	9,360	10,599	9,953	10,499	114,553	
保存食	保 存 食	186	168	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,190
	検 査 食	188	170	188	182	188	182	188	188	182	188	182	188	2,214
	小 計	374	338	374	362	374	362	374	374	362	374	362	374	4,404
合計	8,099	8,501	9,745	10,012	8,922	9,565	10,917	11,313	9,722	10,973	10,315	10,873	118,957	

④ おやつ数

(単位 食)

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
区分													
おやつ数	3,488	3,744	3,927	4,109	3,732	4,149	4,267	4,052	3,896	4,475	4,403	4,418	48,660

2) 患者外 (保育食)

食事数

(単位 食)

種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
保育児食	315	357	430	287	233	263	280	247	246	298	253	248	3,457

(2) 栄養指導月別種類別件数

(単位 食)

種類	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計
1型糖尿病		25	23	21	26	27	23	27	33	28	32	26	29	320
2型糖尿病		15	15	13	13	7	8	12	9	12	11	5	8	128
耐糖能異常		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ブラダーウィリー症候群		2	3	1	0	3	1	2	4	1	1	2	1	21
ターナー症候群		9	7	8	6	10	5	4	9	7	5	12	5	87
肥満		6	5	7	7	5	6	7	5	7	6	8	4	73
先天性心疾患(心不全)		3	1	1	1	2	1	0	1	2	2	1	0	15
腎性尿崩症		3	0	4	2	3	1	2	1	3	2	3	1	25
慢性腎不全		1	2	3	1	1	1	3	1	0	2	4	2	21
フェニルケトン尿症		1	2	3	1	2	3	2	3	0	3	2	3	25
ガラクトース血症		0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	3
胆道閉鎖症		0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	4
先天性胆道拡張症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
非アルコール性脂肪肝炎		1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
高アンモニア血症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
膵炎		0	1	1	1	0	0	1	1	0	3	2	1	11
脂質異常症		1	2	1	1	2	0	2	2	2	3	1	3	20
高脂血症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高尿酸血症		0	0	0	1	2	2	0	2	0	1	2	1	11
消化管障害		0	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4
便秘		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
ヒルシユスブルン病		0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
下痢		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
食物アレルギー		32	28	23	27	20	22	42	46	31	74	42	32	419
移植対応食		5	7	13	7	9	7	11	12	10	9	8	7	105
摂食障害(偏食含む)		1	2	1	4	4	1	1	2	3	3	2	1	25
摂食嚥下機能障害		0	0	0	1	0	1	3	2	0	0	0	2	9
体重増加不良		0	0	3	2	3	2	3	3	5	5	2	2	30
低身長		0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0	4
ビタミンD欠乏症		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
くる病		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
妊娠糖尿病		3	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	1	9
妊娠高血圧症候群		2	1	3	4	1	4	1	3	0	1	1	0	21
調乳(標準ミルク)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調乳(特殊ミルク)		0	0	2	0	1	1	1	0	2	0	1	1	9
調乳(高濃度ミルク)		0	0	2	4	1	0	0	0	0	0	4	0	11
離乳食		3	0	1	2	0	3	2	3	1	0	3	0	18
ペースト食		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ミキサー食(胃瘻)		0	1	3	1	0	3	2	4	2	1	2	3	22
食事調査		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
その他		2	5	3	10	7	5	2	4	2	2	2	3	47
件数 外来(件)		88	74	93	85	88	73	97	114	97	117	88	73	1,087
人数 外来(人)		162	152	192	180	173	148	194	246	186	237	172	150	2,192
件数 入院(件)		27	34	30	42	23	30	37	38	24	51	49	37	422
人数 入院(人)		52	68	54	79	39	56	73	68	50	102	102	69	812
合計(件)		115	108	123	127	111	103	134	152	121	168	137	110	1,509
合計(人)		214	220	246	259	212	204	267	314	236	339	274	219	3,004

29. 指導相談・地域医療連携部

I. 組織

27年は、在宅支援をさらに充実させるためMSW1名が増員され、スタッフが11名になった。

部長	宅見晃子（総合診療科医師）		
次長	橋本ひとみ（看護師）		
看護師	渡邊千恵	藤定睦子	
臨床心理判定員	宮崎美知恵	藤井美有	淀裕美子
ケースワーカー	野呂朝子（PSW）	小橋諒子（MSW）	
	松尾さおり（MSW）	河野佐和子（MSW）	

初診患者の予約は、予約センターが窓口となっており、委託業者3名が担当している。
再診の電話予約センター（午後のみ）は、委託業者2名が担当している。

II. 平成27年活動

<27年の主な活動>

1. 新たな紹介病院、診療所の登録
 - ① 病院訪問による紹介依頼
2. 広報活動の推進（ホームページ更新、年報作成、広報誌「げんきカエル」作成）
3. 在宅療養支援の推進
 - ① 訪問看護ステーションとの連携強化（カンファレンス開催）・研修会開催
 - ② 地域医療機関との連携強化（カンファレンス開催・病院訪問）
 - ③ 制度活用支援・医療機器等の購入支援
 - ④ 周産期センターからの退院児への支援
4. 院内各科の診療支援
 - ① 各科の発達フォロー支援（各種心理テスト）
 - ② 家族背景へのケースワーク
 - ③ 院内他部署への連絡調整・院外関係機関への連絡調整
5. 入院中の情緒不適応児への対応
 - ① 心理士の病棟への定期訪問・診療部回診・カンファレンスへの積極的参加
 - ② 児への心理評価・カウンセリング・プレイ療法
 - ③ 家族へのカウンセリング
 - ④ 病棟スタッフへの関わり方指導
6. 患者家族の不安への対応
7. 発達支援・養育支援
 - ① 虐待防止活動（委員会開催、地域との連携、家族支援）
 - ② 事故予防活動（外傷カンファレンス開催、症例集積、地域との連携）
 - ③ 発達相談、育児相談活動（評価、診断、関わり方指導）
8. 教育支援
 - ① わらび学級入級手続き
 - ② 教育機関とのカンファレンス

<今後の活動目標>

- ① 医療的ケアを必要とする児と家族が安心して在宅生活を送れるように支援する
- ② 高度専門医療機関としての役割の広報に務め、地域との連携を強化していく
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療機関の研修に貢献するよう努める
- ④ 疾病を抱えた子どもと家族の育児支援に努める
- ⑤ 事故予防・虐待予防を含めた子育て支援に努める
- ⑥ 子どもと家族の心理的不安の解消に努める
- ⑦ 小児がん拠点病院としての責務を果たすための支援に努める

表1 支援内容別業務統計

	内 容	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2014年
1	療養中の心理的・社会的問題の解決・調整援助	398	453	526	477	395	486	439	422	475	471	440	401	5383	4729
2	退院援助	57	46	32	56	65	45	51	63	44	28	14	47	548	614
3	社会復帰援助	1	0	2	3	3	2	1	0	0	0	4	0	16	7
4	受診・受療援助	43	30	40	35	16	23	22	36	26	28	17	22	338	413
5	経済的問題の解決・調整援助	54	38	46	35	35	49	66	51	31	44	37	31	517	771
6	地域活動	0	1	3	0	0	0	2	0	2	1	2	0	11	31
7	発達外来	20	18	21	17	11	13	17	16	15	12	9	4	173	245
8	養育支援(虐待予防を省く)	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	16
9	虐待・虐待予防関連	7	16	21	19	26	4	9	11	13	32	13	0	171	133
10	発達・発育指導	16	17	19	14	10	10	16	14	13	9	6	3	147	567
11	わらび学級入級手続き	1	0	0	7	6	2	3	1	3	0	4	3	30	11
12	一時保護	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	6	3
13	がん患者の社会的問題の解決・調整	40	40	41	66	62	78	99	54	45	49	35	46	655	548
14	その他	0	1	3	0	1	0	0	0	2	1	0	1	9	32
	合 計	637	660	755	730	630	712	729	668	669	676	582	559	8007	8120

表2 機関別延べ連絡調整数

	機 関	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2014年
15	院内他部門	529	588	602	647	572	601	616	558	570	545	465	514	6807	6187
16	家庭	407	420	449	413	368	452	457	416	395	432	337	358	4904	4918
17	教育関係機関	17	13	12	13	12	24	18	8	10	5	22	16	170	79
18	保健所・保健センター	42	29	32	28	38	55	71	75	83	59	39	38	589	351
19	福祉事務所	12	10	19	22	24	17	16	15	22	17	11	18	203	278
20	こどもセンター	15	35	38	33	39	25	28	19	12	38	21	28	331	210
21	児童福祉施設	13	14	14	13	5	16	11	11	13	17	23	25	175	146
22	訪問看護ステーション	36	39	52	31	44	53	66	55	63	63	47	30	579	651
23	地域医療機関	29	17	23	31	20	32	39	33	27	49	17	24	341	243
24	その他(医療機器業者、装具関係など)	36	44	44	51	51	53	52	46	67	47	34	17	542	648
	合 計	1136	1209	1285	1282	1173	1328	1374	1236	1262	1272	1016	1068	14641	13711

表3 心理療法・心理検査延べ数

	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2014年
25	カウンセリング	11	8	10	16	12	15	15	22	18	11	9	8	155	166
26	プレイセラピー	6	5	7	5	7	8	7	7	9	7	8	5	81	92
26	発達検査	30	35	27	37	42	42	32	43	31	32	32	27	410	382
28	知能検査	25	32	40	30	24	39	38	31	30	29	15	22	355	388
29	性格検査	8	15	21	7	3	10	7	18	15	12	9	8	133	168
30	その他の検査	4	15	12	11	8	15	6	16	11	10	12	8	128	152
31	がん患者の心理的ケア	63	97	108	110	113	85	96	72	58	90	57	73	1022	655
	合 計	147	207	225	216	209	214	201	209	172	191	142	151	2284	2003

表4 関連機関カンファレンス延べ数

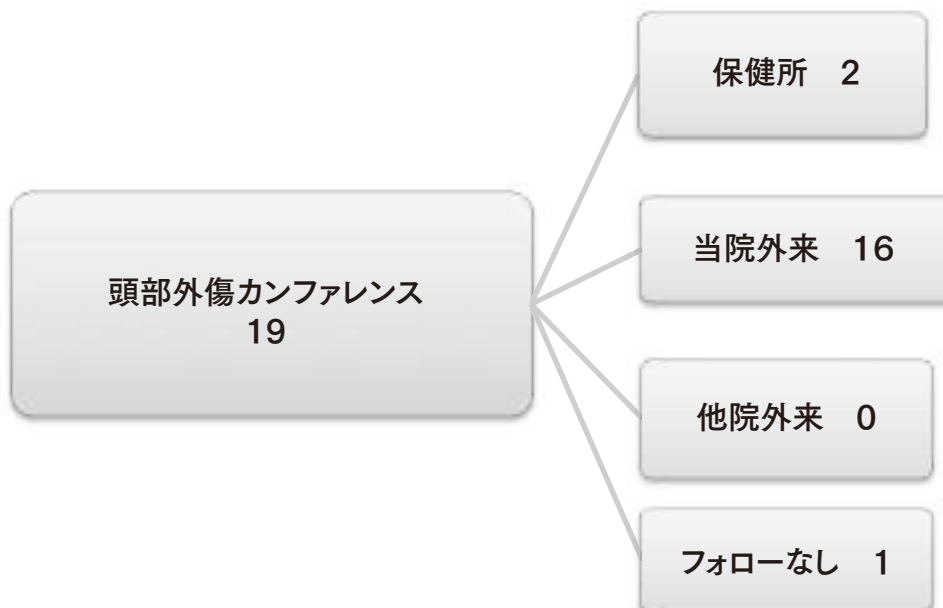
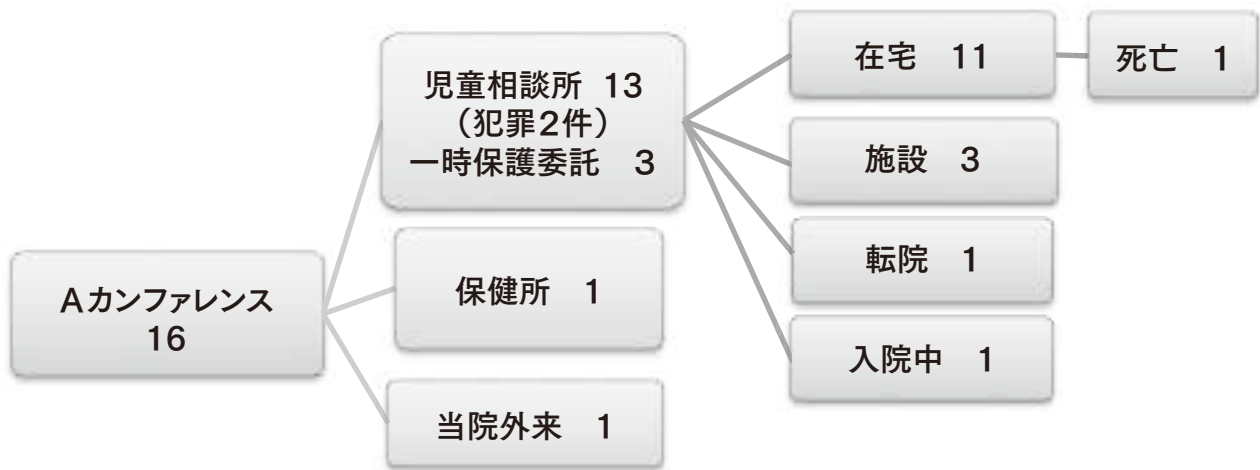
	項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	累計	2014年
1	被虐待児等症例検討会	2	2	4	3	1	0	1	0	1	1	2	1	18	21
2	頭部外傷カンファレンス	0	1	1	2	1	2	0	1	4	3	0	3	18	20
3	施設入所カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	3	6	5
4	在宅療養調整カンファレンス	3	4	7	1	2	4	5	4	2	3	3	0	38	53
5	教育機関カンファレンス	1	0	0	1	0	1	1	2	0	0	1	0	7	5
6	臓器提供Aカンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合 計	6	7	12	7	4	7	7	7	7	8	8	7	87	104

2015年1月～12月 Aカンファレンス 外傷（疾患）別処遇

	一時保護委託	児童相談所	保健所	外来のみ	合計
頭蓋骨骨折＋くも膜下出血	0	1	0	0	1
硬膜外血腫	0	0	0	0	0
硬膜外血腫＋頭蓋骨骨折	0	0	0	1	1
硬膜下血腫	1	4	1	0	6
硬膜下血腫＋頭蓋骨骨折	0	0	0	0	0
大腿骨骨折	0	2	0	0	2
腹部刺傷	0	1	0	0	1
溺水	0	1	0	0	1
心肺停止	0	1	0	0	1
ネグレクト	0	2	0	0	2
医療ネグレクト	1	0	0	0	1
薬物検出	0	1	0	0	1
顔面・頸部打撲	1	0	0	0	1
合計	3	13	1	1	18

2015年1月～12月入院

(2016年1月末現在)



III. 退院調整

退院・在宅療養支援者

2014年4月から入院早期から効果的な退院支援を進めるためのシステムで退院支援・調整に取り組んだ。退院支援スクリーニングシートでの依頼が病院内で浸透し、チームで退院支援・在宅療養支援への意識が高まった。

退院支援スクリーニングシート兼依頼書で当部のスタッフが介入した結果、長期入院患者の減少につながり、在宅療養患者が増加した。

表7 依頼書件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2014年
依頼書(4月からは主に外来患者)	2	8	5	13	5	12	14	6	5	7	9	9	95	240
退院支援スクリーニング兼依頼書	61	31	46	49	42	36	34	41	34	42	30	40	486	
合計	63	39	51	62	47	48	48	47	39	49	39	49	581	

表8 診療科別依頼件数

	2015年			2014年
	依頼書	スクリーニング	合計	
総合診療科	10	1	11	8
新生児科	0	292	292	26
脳神経内科	4	4	8	11
循環器内科	2	43	45	33
腎臓内科	0	0	0	1
代謝・内分泌科	0	1	1	3
血液・腫瘍内科	46	12	58	24
救急集中治療科	3	54	57	44
小児外科	0	46	46	39
心臓血管外科	0	11	11	17
脳神経外科	22	14	36	26
形成外科	0	1	1	1
整形外科	0	5	5	2
精神科	6	0	6	1
泌尿器科	0	2	2	2
産科	2	0	2	2
合計	95	486	581	240

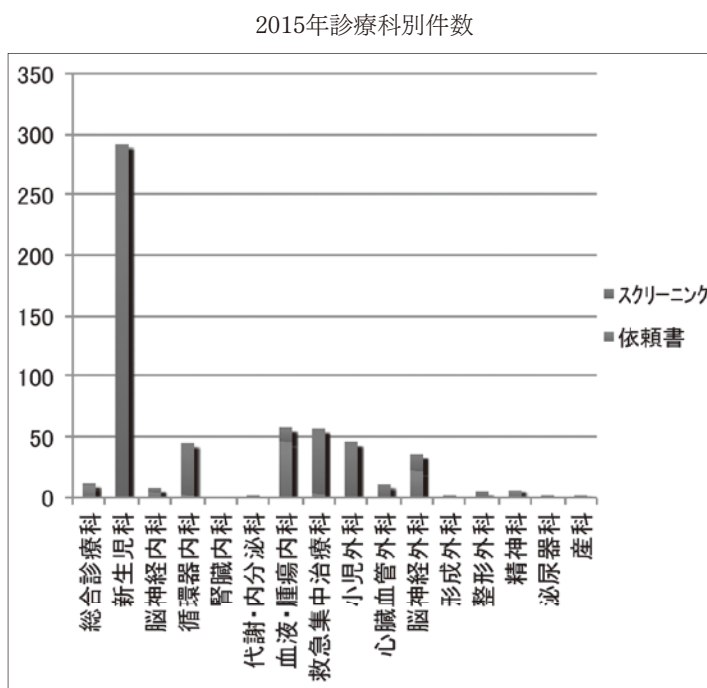


表9 新生児特定集中治療室の退院調整加算に関わった件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2014年
加算1 (600点)	24	10	10	19	21	14	14	12	14	17	12	17	184	130
加算2 (1200点)	6	6	6	8	11	8	4	12	2	6	1	1	71	67
算定できず	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	8
退院していない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
合計	30	16	16	28	33	22	18	24	16	23	13	18	257	219

257件の退院調整に関わったが、NICUから当日転室のために、支援計画書を作成したが診療報酬に結びつかない件数が2件あった。

IV. 長期入院患者

長期入院患児内訳（各月末人数）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4ヶ月～6ヶ月未満	4	6	9	9	7	6	6	6	8	9	4	5
6ヶ月～1年未満	8	8	8	9	12	11	8	6	7	5	10	4
1年～2年未満	6	7	5	6	6	7	8	10	7	4	5	5
2年～3年未満	4	4	3	3	3	4	4	4	3	4	2	2
3年～4年未満	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2
4年～5年未満	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0
5年～10年未満	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
10年～20年未満	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	2
20年以上	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計	33	36	36	36	37	36	34	34	33	30	31	24
2014年	32	36	36	37	35	35	32	28	26	30	30	29

長期入院患者の退院人数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2014年
4ヶ月～1年未満	1	2	2	1	3	3	6	4	5	3	2	8	40	50
1年～2年未満	1	0	2	0	0	0	0	0	2	2	0	0	7	8
2年～3年未満	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	3	3
3年～5年未満	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2
5年以上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0
合計	2	2	5	1	3	4	6	4	9	5	2	10	53	63
内訳														
在宅	2	2	3	1	3	3	6	4	6	4	2	8	44	54
転院	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	3
施設入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
死亡	0	0	1	0	0	1	0	0	2	1	0	1	6	5

V. わらび学級

病気療養のため、学校に行けない子どもたちに、神戸市立友生支援学校病弱児訪問学級（わらび学級）の教師がベッドサイドに訪問し、教育が受けられるようになっている。当部署で入級の説明から手続きをはじめ、主治医との面談、学校との連絡調整を行っている。

表 10 2015年度わらび学級在籍状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延べ人数	2014年
小学部	在籍数	19	20	16	17	17	18	16	15	16	14	17	17	202	167
中学部	在籍数	5	5	6	4	3	5	4	5	5	6	6	6	60	36
高等部	在籍数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	21	24
院内全体	在籍数	26	2	24	23	22	25	22	22	23	21	24	24	258	227

指導相談・地域医療連携部（予約センター）

1. 業務内容

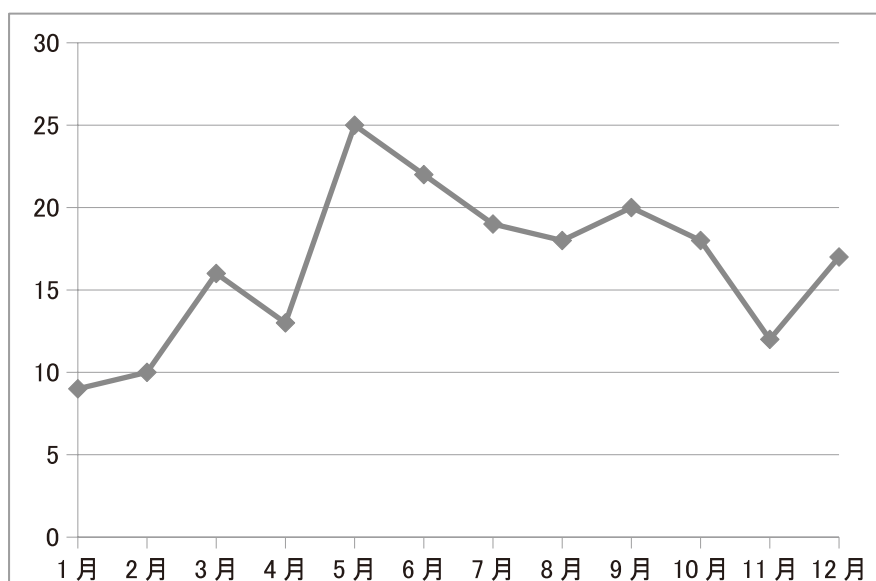
予約センターは委託職員が従事し、主に初診患者の予約業務と受診報告書の発送を行い、地域医療機関との連携を早く確実にしている。

延べ数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	2014年
メール相談対応数	9	12	10	17	7	14	9	8	5	3	5	9	108	121
（内訳）各科医師相談	2	5	4	5	2	4	1	2	3	0	1	3	32	34
地域医療連携で返答	7	7	6	12	5	10	8	6	2	3	4	6	76	87
セカンドオピニオン数	1	1	0	3	0	3	3	0	3	1	1	3	19	36
受診報告書発送数 （紹介状件数）	439	445	501	490	455	583	564	506	426	476	440	462	5787	5788
返書率	92.8	92.2	93.6	93.9	93.9	92.8	93.6	95.6	93.2	94.9	92.9	95.4	93.8%	93.6%
紹介医療機関新規登録件数	9	10	16	13	25	22	19	18	20	18	12	17	199	210
紹介状を持ち、直接来院 した患者の紹介元への文 書郵送件数（産科を省く）	1	0	3	5	1	1	1	2	2	3	2	0	21	14
FAX 予約数（地域連携）	400	402	464	458	409	549	524	465	395	439	420	433	5358	5334
FAX 予約内のキャンセル数	7	8	6	4	6	8	11	10	8	13	7	10	98	93

2. 紹介元新規医療機関

紹介元医療機関の登録件数は199件あった。2005年から地域医療連携業務を行い、2015年12月末で累計は4301件になった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
新規登録件	9	10	16	13	25	22	19	18	20	18	12	17



30. ME 室

【スタッフ紹介】

主査 横山 真司 体外循環技術認定士
 秋元 明日香
 三坂 勇介
 箕田 拓磨
 吉本 由衣

【業務実績】

医療機器管理業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
院内修理	17	15	12	17	18	12	16	21	19	32	22	17	218	18.1
依頼点検	9	19	15	30	14	19	16	10	11	22	15	7	187	15.5
定期点検	981	903	925	1024	945	1105	1028	1065	927	990	895	891	11679	973
メーカー修理・点検	0	0	0	0	1	1	2	1	1	3	2	1	12	1
病棟ラウンド	6	5	0	3	4	1	2	4	0	2	0	0	27	2.2
アンビュバルブ点検	196	129	121	171	134	164	180	145	147	155	148	126	1816	151
その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	8	10	0.8

臨床業務

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
体外循環	18	17	22	16	10	22	17	12	18	15	13	18	198	16.5
ECMO	0	1	1	1	2	2	2	1	1	0	0	3	14	1.1
人工心臓・ECMOスタンバイ	2	2	2	1	0	0	4	0	1	3	2	0	17	1.4
血液浄化療法	3	5	18	10	5	0	9	1	0	0	0	5	56	4.6
自己血回収	20	18	23	16	11	23	17	12	19	16	13	18	206	17.1
MEP	2	2	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	8	0.6
SPECTRA	0	0	0	2	2	2	2	1	1	2	5	0	17	1.4

※ ECMO：(回路交換回数)

各種委員会活動

仕様策定委員会

リスクマネジメント委員会

手術室運営委員会

感染対策委員会

呼吸ケア部会

31. 理学療法

理学療法はこども病院本館、周産期医療センター、小児救急医療センターに入院されている方を対象に実施している。疾患別では骨延長術後や大腿骨頭すべり症、ペルテス病などの小児整形疾患、白血病などの血液腫瘍内科疾患、頭部外傷や低酸素虚血性脳症などの中枢性疾患が大きな割合を占めており、各疾患術後の日常生活動作回復、呼吸機能改善、運動発達支援、廃用性症候群の予防などを目的としベッドサイドを中心に行っている。

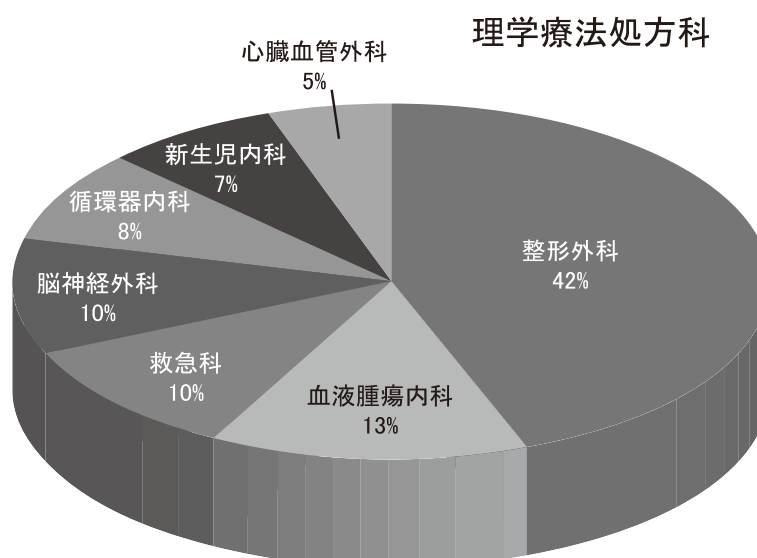
移転後の新病院では、理学療法室、作業療法室、言語聴覚療法室が整備され、リハビリテーション科として開設することになり、開院にむけての準備をすすめている。各職種及び他部門との連携を図りながら、より充実したリハビリテーションを提供できるように努めていきたい。

理学療法実施件数

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
166	186	198	270	288	298	302	292	290	288	290	288	3156

理学療法実施疾患：

整形疾患（骨折、大腿骨頭すべり症、骨延長術後、ペルテス病、骨形成疾患など）、脳性まひ、頭部外傷、低酸素虚血性脳症、新生児仮死、低出生体重児、蘇生後脳障害、遺伝子疾患、血液腫瘍内科疾患（白血病など）他。



32. 医療安全管理室

医療安全管理室は、医療安全部長を室長、管理局長、看護部長を副室長、副院長、診療部長、薬剤部長、医療安全対策担当課長、実働メンバーとして8名の総括リスクマネージャーと総務部長、総務部次長で構成され、院内の安全管理を担っている。

主な活動内容

1. ヒヤリハット報告書に基づく評価・対策の検討

- 1) 総括リスクマネージャー会議を毎日11時から院長在籍のもと院長室で開催し、送られてきたヒヤリハット報告書に基づき評価・分析、解決策の検討を行った。
- 2) 月1回のリスクマネジメント部会では、各部門が前月分のヒヤリハット内容と評価・対策を報告し、院内で起こったヒヤリハットについて集約し検討を行った。
- 3) リスクマネジメント部会での報告・検討結果を医療事故防止委員会に報告した。

2. コード99症例の情報の共有化を行うために、医療安全管理室よりメール配信を行った。

3. 院内ラウンドを1回/月（H27年7月より）行った。

4. Morbidity & Mortality カンファレンスにおいては、事前打ち合わせを行ったが、適切な症例はないと判断し今年度は開催を見合わせた。

5. ヒヤリハット報告

2015年のヒヤリハット報告件数は、2585件で前年度より384件の減少であった。レベル別報告数の割合はレベル0が3%減少し、レベル1が3%増加している。また、レベル3b以上の報告が1件あった。部門別にみると看護部からの報告件数が86%をしめ、診療部は5%と約0.2%（前年度より7件）増加した。

全体的に、ヒヤリハットレベルが、やや高くなる傾向もあり、今後は各部門のリスクマネージャーを中心に安全に対する意識を高め、リスク感性を向上させ、レベルの高いヒヤリハットを防止する。また、医療安全対策室とともに効果的な院内教育、研修会を開催する。

1) レベル別報告件数

レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b
931件 (36%)	1610件 (63%)	33件 (12%)	10件 (0.3%)	1件 (0%)

2) 部門別ヒヤリハット報告件数

診療部	看護部	検査部	放射線部	薬剤部	リハビリ	栄養指導課	医事課
127 (5%)	2223 (86%)	30 (1%)	97 (4%)	47 (2%)	17 (0.7%)	44 (2%)	0 (0%)

6. 主な改善に向けた取り組み

- 1) 薬剤の処方間違いについて、薬剤部から科長及びリスクマネージャーに紙面で報告し、診療科内、及び全診療科で情報を共有した。

- 2) アスバラ k を含む内服薬による ED チューブや NG チューブの閉塞が多発する為、アスバラ K 剤を注入する場合には、単剤の処方に変更し上澄み液のみを投与することにした。
- 3) 生理食塩水の 50cc のボトルと 100cc のボトルの形態が類似しており、払い出し間違いがあるため 50cc のボトルを他社に変更し形態（大きさ）で違いがわかるようにした。
- 4) 診療部のヒヤリハットの情報共有、および解決策の周知に向けて安全ニュースとしてメール配信を行った。
- 5) 薬剤の誤投与、患者間違いなど、ヒヤリハットが続くため、院内全体で「指差し呼称・声だし確認」の習慣化に向けて取り組んだ。

7. 医療安全研修会、勉強会の開催

3月10日	各部門の安全への取り組み報告会	参加者 159 名
4月3日	新規採用医師 医療安全オリエンテーション	参加者 30 名
4月16日	新規採用看護師 医療安全の基礎	参加者 64 名
5月26日	医療安全と医療コミュニケーション 講師：近畿大学医学部附属病院 辰巳陽一郎	参加者 189 名

8. 医療安全情報の提供

- 1) 日本機能評価機構からの医療安全情報の提供を月 1 回行った。
- 2) 院内、院外での重要なヒヤリハット事例を、医療安全ニュースとして発行し情報提供を行った。

33. 感染対策管理室

感染対策管理室は、感染対策委員会委員長を室長、診療部長、看護部次長を副室長とし、院長、総務部長、検査技師長、栄養指導課長、看護部長、医療安全対策担当課長、感染管理認定看護師の他、診療部6名、看護部4名、検査部3名、薬剤部1名、放射線部1名、臨床工学技士1名、リハビリ部門1名、医事企画課1名の計28名で構成され、院内の感染管理を担っている。このうち診療部4名、看護部3名、検査部1名、薬剤部1名の計9名が感染対策チーム（ICT）を結成し、実動部隊として活動している。

主な活動内容

1. 定期的な会議、ラウンドの実施

1) 院内感染対策委員会（毎月第2金曜日）

細菌・ウイルスの分離状況、抗菌薬（抗MRSA薬、カルバペネム系薬剤）の使用状況、ICT活動などについて報告し、検討が必要な事項について議論した。

2) ICT会議（毎週木曜日）

1週間の細菌・ウイルスの分離状況、院内で発生している感染症、市中の感染症の動向などを中心に議論した。

3) ICTラウンドの実施（毎週木曜日）

毎回2部署を対象とした。環境整備の状況、患者ケア場面の感染対策がマニュアルどおりに実施されているかチェックし、改善の必要な項目について毎週フィードバックした。第2週は抗菌薬の長期使用の状況を確認した。

2. 職員教育

研修会	開催日	参加人数
看護補助者オリエンテーション 「感染対策の基本」	計8回	13名
輸液ライン勉強会 「プラネクタについて」	1月（計2回）	計17名
全職員対象感染対策研修会 「個人防護具は、交換のタイミングと脱ぎ方が大事！」	3月13日	96名
	3月18日	129名
リネン業務職員対象研修会 「感染対策の基本」	3月30日	5名
新規採用医師感染対策オリエンテーション	4月1日	24名
全職員対象感染対策研修会 「アウトブレイクから学ぶ」	7月24日	203名
	8月3日	194名
全職員対象感染対策研修会 DVD 視聴会 「アウトブレイクから学ぶ」	10月（計6回）	計229名
抗菌薬勉強会 「抗菌薬の適正使用（小児科領域を中心に）」	7月28日	25名
リハビリ部門勉強会 「感染対策の基本」	7月29日	5名
第1回感染管理スキルアップ研修 「感染防止の基本、感染管理、抗菌薬適正使用、洗浄・消毒・滅菌」	8月5日	9名
第2回感染管理スキルアップ研修 「医療関連感染、病原微生物、職業感染」	10月6日	9名
保育士対象感染対策勉強会 「感染対策の基本」	11月25日	6名
トライやるウィーク「感染予防講習」	11月10日	8名

3. サーベイランス情報の配信（不定期）

神戸市の定点サーベイランスの情報、院内の分離菌週報をまとめて配信した。

4. 各種サーベイランスの実施

一般外科消化器手術 SSI サーベイランス（1月～）、AUR サーベイランス

5. 流行性ウイルスなどの感染症発生時の対応

6A：ロタウイルス腸炎のアウトブレイク（5月）、5A：ロタ・アデノウイルス腸炎のアウトブレイク（5～6月）、5B：ノロウイルス腸炎のアウトブレイク（12月）、その他疑い患者発生時に適宜対応した。

職員のインフルエンザ発症は44例（うち、患者の予防内服は3例）。

6. 感染対策に関する各種コンサルテーションへの対応

CVカテーテル感染を繰り返す患者に対する挿入部ケア（4月～7月）、SSIについて（7月）、CVトンネル感染について（8月）、衛生材料のリコール（10月）

7. 職業感染防止の活動

1) 流行性ウイルス感染症ワクチンプログラムとして、委託業務職員を含む全新規採用職員の抗体検査とワクチン接種を実施した。

【2015年に接種した流行性ウイルス感染症ワクチン】

	新規医師	新規看護師	新規その他	委託業務職員
抗体採血	16名	74名	42名	24名
麻疹	12名	37名	16名	6名
水痘	0	3名	2名	0名
風疹	0	2名	2名	4名
ムンプス	4名	28名	15名	6名
M R	5名	22名	7名	0名

2) 職員対象のインフルエンザワクチンの接種を行った。（11月）

943名に接種。接種率：病院職員 99.3%、委託職員 68.9%

3) 職員対象のB型肝炎ワクチンの接種を行った。

1クール（3回）接種：108名、ブースター（1回）接種：38名

4) 血液媒介ウイルス感染防止のため、針刺し・切創、血液・体液曝露について啓発活動を行うとともに、これらの事象発生時に迅速に対応した。

【2015年に発生した針刺し・切創、血液・体液曝露】

総件数：34件（日勤帯：28件、夜勤帯：6件）					
内容	針刺し 26件	切創 1件	咬創 2件	血液曝露 5件	
発生部署	手術室 12件	病棟 17件	採血室 3件	その他 2件	
受傷者	医師 11名	看護師 19名	患者 1名	その他 3名	
原因器材	注射針 13件	メス 3件	縫合針 6件	血液 5件	その他 5件

3. 啓発活動の実施

抗菌薬啓発週間（11月）、マスク着用令（2月5日）

4. ファシリティマネジメントとして、ファシリティ部門への助言と感染対策の強化

各種業務（清掃、リネン、滅菌）の定例会の開催、新病院移転準備

5. 感染防止対策加算に係る院外活動

加算1：神戸市立医療センター中央市民病院、神戸医療センターと連携。

相互ラウンド実施（7月）

加算2：みどり病院と連携。施設間カンファレンス（6・8・10月）、中央市民病院グループとの合同カンファレンス（11月）

6. その他

感染対策マニュアルの定期改訂（3月）・臨時改訂（11月）、栄養関連物品の管理方法見直し（6月）、経食道エコー管理方法の統一（8月）、手術室の喉頭鏡ブレードについて消毒方法変更（10月）、廃棄物の分別方法変更（11月）

34. 褥瘡管理室

褥瘡対策委員会は、委員長を形成外科医師、副委員長を看護部次長とし、委員として小児外科医師、17名の看護師、薬剤師、検査技師、管理栄養士、医事課職員により構成され、院内の褥瘡対策及び創傷ケアを検討し、トータルケアを行うことにより、創傷ケアの効果的な推進を図ることを目的としている。平成24年度より褥瘡管理者を置き、褥瘡ハイリスクケア患者ケア加算を導入した。

主な活動内容

1. 褥瘡対策状況

会議を月に1回行い、褥瘡対策に関する報告を行い、褥瘡対策委員で情報を共有し、褥瘡ケアの評価や対策の検討をおこなう。

1) 褥瘡発生率

3.2%（過去13年で5番目に高い値 過去の発生率は2.6%～4.0%）

褥瘡発生率 = 褥瘡発生数 ÷ 総新規入院数

2) 褥瘡推定発生率

1.6%（過去9年で1番低い値 過去の発生率は1.6～2.7%）

月の1日を調査日とし、

褥瘡推定発生率 = (調査日に褥瘡を保有する患者数 - 院外発生患者数) ÷ 調査日の入院患者数

3) 褥瘡リスクアセスメント実施数 7206件（月平均600.5件）

4) 褥瘡ハイリスク患者特定数 1011件（月平均84.3件）

5) 褥瘡予防治療計画件数 2969件（月平均247.4件）

6) 褥瘡ハイリスク患者ケア実施件数 1515件（月平均126.3件）

7) 褥瘡発生詳細

褥瘡発生件数 175件

褥瘡発生個数 210個（体圧による褥瘡は72個、医療機器関連圧迫創は138個）

褥瘡発生件数の多い部署 ICU（67件）手術室（33件）混合B（19件）救急（18件）

2. 褥瘡回診状況

全褥瘡対策対象患者の回診（総合褥瘡回診）を週1回、褥瘡ハイリスク患者ケア加算対象者の回診を週1回程度行い、褥瘡予防治療計画書をもとに、褥瘡予防、治療方法を評価・検討し、カンファレンスを実施している。

1) 総合褥瘡回診 回診回数48回 患者数3045名（のべ）

2) 褥瘡ハイリスク回診数 回診回数27回 患者数792名（のべ）

3) カンファレンス実施数 46回（月平均3.8回）

3. 新人看護師対象の褥瘡講義の実施

4. 領域別看護ケア向上委員会における事例検討と勉強会の実施

5. 各部署カンファレンスや病棟会における褥瘡勉強会の実施

35. がん相談支援室

がん相談支援室は、小児がんセンター長のもと、血液腫瘍科医師、小児看護専門看護師、医療ソーシャルワーカー、医師クラークの4名が小児がんに関する相談に応じている。

スタッフ

医師	石田敏章（血液腫瘍内科医師）
看護師	中谷扶美（小児看護専門看護師）
ケースワーカー	松尾さおり（MSW）
医師クラーク	今吉春奈

平成 27 年 主な活動内容

- 院内外の小児がんと診断された子どもと家族に対する対面相談、電話相談
 - 小児がんの病態、標準的治療法等小児がん診療等に関する一般的な情報の提供
 - 地域の医療機関及び医療従事者に関する事例の情報の収集、提供
 - 小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談
 - 地域における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、提供
 - その他の相談支援
- 院内外の医療従事者への小児がんに関する情報提供
 - 小児がん看護研修会の企画、運営（看護部、緩和ケアチームとの共同開催）
 - ピアサポーター養成研修協力（小児がんピアサポーター推進協議会主催）
 - 問い合わせに対する相談対応
- 小児がんを対象とする患者会との調整窓口
- 相談支援室会議
 - 月1回開催、小児がんに関する情報の共有、相談支援室の活動の評価・検討
- 小児がん中央機関、その他の小児がん拠点病院との連携体制強化
 - 国立成育医療研究センター主催「小児がん相談員専門研修」の修了
 - 小児がん拠点病院連絡協議会相談支援部会への出席、メーリングリストへの参加

平成 27 年 がん相談支援室相談対応件数

	会議資料	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
がん相談件数	相談総数	21	19	26	22	14	32	20	24	19	19	31	18	265
	1) 対面相談	20	18	26	21	13	29	18	23	15	19	29	17	248
	2) 電話相談	1	1	0	1	1	3	2	1	4	0	2	1	17

相談内容内訳	内容別相談件数													
小児がんの病態・小児がんに関する一般的な情報の提供	0	0	0	2	1	2	1	1	4	1	4	0	16	
診療実績・専門分野経歴など地域の医療機関・従事者に関する情報の収集・健供	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	0	5	
セカントオピニオンの提示が可能な医師の紹介	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	
小児がん患者の発育、教育及び療養上の相談	19	15	26	20	13	29	18	23	12	18	26	15	234	
地域の医療機関及び医療従事者等における小児がん診療の連携協力体制の事例に関する情報の収集、復供	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
地域の医療機関に対して相談支援に関する支援を行うこと	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他の支援に関すること	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	6	

IV 学会・研究・教育活動

1) 書籍

テーマ	所属科	発表者名	単著、共著の別	編者名	書籍名	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
新生児の貧血・多血、胎児赤芽球症(同種免疫性溶血性貧血)	血液・腫瘍内科	小坂嘉之			小児血液・腫瘍学テキスト				2015
14 循環器疾患 先天性心疾患の術後管理	循環器内科	城戸佐知子	単著	水口 雅、市橋 光、 崎山 弘	今日の小児治療指針第16版	509	510	医学書院	2015.7
総肺静脈還流異常	循環器内科	城戸佐知子	単著	丹羽 公一郎	成人先天性心疾患 第1版	250	256	メジカルビュー社	2015
Alport 症候群	腎臓内科	田中亮二郎		「小児内科」「小児外科」編集委員会	小児疾患診療のための病態生理 2 (改訂第5版)	542	547	東京医学書院	2015
二分脊椎	整形外科	薩摩真一	共著	水口 雅、市橋 光、 崎山 弘	今日の小児治療指針 第16版	800	800	医学書院	2015
第9章 外眼部疾患	眼科	野村耕治	単著	東 範行	小児眼科学	159	175	三輪書店	2015.10.25
気管狭窄	麻酔科	野々村智子・ 香川哲郎	共著	高崎真弓、他	まれな疾患の麻酔 A to Z	602	603	文光堂	2015.5
ライ症候群	麻酔科	野々村智子・ 香川哲郎	共著	高崎真弓、他	まれな疾患の麻酔 A to Z	658	659	文光堂	2015.5
腎血管性高血圧	麻酔科	野々村智子・ 香川哲郎	共著	高崎真弓、他	まれな疾患の麻酔 A to Z	314	315	文光堂	2015.5
妊娠悪阻	産科	牧志 綾	共著	中田雅彦	ペリnatalケア2015年新春増刊 イラストでハイリスク妊娠がわかる本	10	15	メディカ出版	2015
部門別の感染対策 新生児集中治療室(NICU)	看護部	鳴滝由佳	共著	五十嵐 隆	こどもの医療に携わる感染対策の 専門家がまとめた小児感染対策マ ニュアル			じほう	2015.12
小児ストーマケア ストーマ造設と合併症、 閉鎖術	看護部	鎌田直子	共著	溝上祐子監修	ナースのためのやさしくわかるス トーマケア	131	142	株式会社ナツメ社	2015.8
小児における医療者以 外のストーマケア	看護部	鎌田直子	共著	溝上祐子監修	ナースのためのやさしくわかるス トーマケア	158	158	株式会社ナツメ社	2015.8

2) 雑誌発表

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Parry Romberg syndrome に限局性強皮症を合併した 1 小児例	リウマチ科・アレルギー科	笠井 和子、水田 麻雄、中岸 保夫、阪本 浩一、三好 麻里、足立 厚子	小児リウマチ	6	1	69	72		2015
複雑心奇形を有する若年性特発性関節炎に対するトシリズマブの投与経験	リウマチ科・アレルギー科	水田 麻雄、笠井 和子、中岸 保夫、三好 麻里	小児リウマチ	6	1	49	52		2015
若年性特発性関節炎に対するメトトレキサート治療の現状 中堅小児リウマチ医の会におけるアンケート調査	リウマチ科・アレルギー科	清水 正樹、梅林 宏明、井上 祐三朗、笠井 和子、金子 詩子、菊地 雅子、木澤 敏毅、北川 好郎、久保田 知洋、鈴木 一雄、中岸 保夫、橋本 邦生、原 良紀、安村 純子、山崎 雄一	小児リウマチ	6	1	23	27		2015
【子どもの「成長・発達」「健康」「病気」～地域で生活する子どもを支えよう～】 症状から考える子どもの病気と看護 成人との比較を含めて 子どもの発熱	リウマチ科・アレルギー科	笠井 和子	小児看護	38	3	294	297		2015
Interleukin-18 for predicting the development of macrophage activation syndrome in systemic juvenile idiopathic arthritis.	リウマチ科・アレルギー科	Shimizu M, Nakagishi Y, Inoue N, Mizuta M, Ko G, Saikawa Y, Kubota T, Yamasaki Y, Takei S, Yachie A.	Clin Immunol.	160	2	277	281		2015
Serum IL-18 as a potential specific marker for differentiating systemic juvenile idiopathic arthritis from incomplete Kawasaki disease.	リウマチ科・アレルギー科	Takahara T, Shimizu M, Nakagishi Y, Kinjo N, Yachie A.	Rheumatol Int.	35	1	81	84		2015

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Clinical and laboratory features of fatal rapidly progressive interstitial lung disease associated with juvenile dermatomyositis.	リウマチ科・ アレルギー科	Kobayashi N, Takezaki S, Kobayashi I, Iwata N, Mori M, Nagai K, Nakano N, Miyoshi M, Kinjo N, Murata T, Masunaga K, Umebayashi H, Imagawa T, Agematsu K, Sato S, Kuwana M, Yamada M, Takei S, Yokota S, Koike K, Ariga T.	Rheumatology (Oxford).	54	5	784	791		2015
神経・筋疾患の処方 急性脳症の管理	脳神経内科	永瀬裕朗、竹田洋樹	小児科臨床	68	4	733	741		2015
Targeted temperature management of acute encephalopathy without AST elevation.	脳神経内科	Nishiyama M, Tanaka T, Fujita K, Maruyama A, Nagase H.	Brain Dev.	37	3	328	333		2015
Non-convulsive seizures in children with infection-related altered mental status.	脳神経内科	Fujita K, Nagase H, Nakagawa T, Saji Y, Maruyama A, Uetani Y.	Pediatr Int.	57	4	659	664		2015
Demographics and outcomes of patients with pediatric febrile convulsive status epilepticus.	脳神経内科	Nishiyama M, Nagase H, Tanaka T, Fujita K, Maruyama A, Toyoshima D, Nakagawa T, Taniguchi-Ikeda M, Morisada N, Takada S, Iijima K,	Pediatr Neurol.	52	5	499	503		2015
Somatic mosaicism of a CDKL5 mutation identified by next-generation sequencing.	脳神経内科	Kato T, Morisada N, Nagase H, Nishiyama M, Toyoshima D, Nakagawa T, Maruyama A, Fu XJ, Nozu K, Wada H, Takada S, Iijima K.	Brain Dev.	37	9	911	915		2015

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Allogeneic haematopoietic stem cell transplantation for infant acute lymphoblastic leukaemia with KMT2A (MLL) rearrangements: a retrospective study from the paediatric acute lymphoblastic leukaemia working group of the Japan Society for Haematopoietic Cell Transplantation.	血液腫瘍内科	Kato M, Hasegawa D, Koh K, Kato K, Takita J, Inagaki J, Yabe H, Goto H, Adachi S, Hayakawa A, Takeshita Y, Sawada A, Atsuta Y, Kato K.	Br J Haematol.	168	4	564	70		2015 Feb
Congenital mesoblastic nephroma with focal anaplastic lesion	血液腫瘍内科	Yoshida M, Okita H, Tanimoto T, Bitoh Y, Fukuzawa H, Yokoi A, Kozaki A, Kawasaki K, Akasaka Y.	Pathol Int.	65	9	507	509		2015 Mar 27
Comparison of a fludarabine and melphalan combination-based reduced toxicity conditioning with myeloablative conditioning by radiation and/or busulfan in acute myeloid leukemia in Japanese children and adolescents.	血液腫瘍内科	Ishida H, Adachi S, Hasegawa D, Okamoto Y, Goto H, Inagaki J, Inoue M, Koh K, Yabe H, Kawa K, Kato K, Atsuta Y, Kudo K.	Pediatr Blood Cancer.	62	5	883	889		2015 May
Comparison of transplantation with reduced and myeloablative conditioning for children with acute lymphoblastic leukemia.	血液腫瘍内科	Kato K, Kato M, Hasegawa D, Kawasaki H, Ishida H, Okamoto Y, Koh K, Inoue M, Inagaki J, Kato K, Sakamaki H, Yabe H, Kawa K, Suzuki R, Atsuta Y.	Blood.	125	8	1352	1354		2015 Feb 19
Involvement of aldehyde dehydrogenase 1A2 in the regulation of cancer stem cell properties in neuroblastoma.	血液腫瘍内科	Hartomo TB, Van Huyen Pham T, Yamamoto N, Hirase S, Hasegawa D, Kosaka Y, Matsuo M, Hayakawa A, Takeshima Y, Iijima K, Nishio H, Nishimura N.	Int J Oncol.	46	3	1089	1098		2015 Mar

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Mutations in Bruton's tyrosine kinase impair IgA responses.	血液腫瘍内科	Mitsuiki N, Yang X, Bartol SJ, Grosserichter-Wagener C, Kosaka Y, Takada H, Imai K, Kanegane H, Mizutani S, van der Burg M, van Zelm MC, Ohara O, Morio T.	Int J Hematol.	101	3	305	313		2015 Mar
Pharmacokinetics, efficacy, and safety of caspofungin in Japanese pediatric patients with invasive candidiasis and invasive aspergillosis.	血液腫瘍内科	Mori M, Imaizumi M, Ishiwada N, Kaneko T, Goto H, Kato K, Hara J, Kosaka Y, Koike K, Kawamoto H, Maeda N, Yoshinari T, Kishino H, Takahashi K, Kawahara S, Kartsonis NA, Komada Y.	J Infect Chemother.	21	6	421	426		2015 Jun
Differential expression of minimal residual disease markers in peripheral blood and bone marrow samples from high-risk neuroblastoma patients.	血液腫瘍内科	Nobuyuki Yamamoto, Aiko Kozaki, Tri Budi Hartomo, Tomoko Yanai, Daiichiro Hasegawa, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Masafumi Matsuo, Satoshi Hirase, Takeshi Mori, Akira Hayakawa, Kazumoto Iijima, Hisahide Nishio, and Noriyuki Nishimura.	Oncology Report,	10	5	3228	3232		2015 Nov

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Early detection of tumor relapse/ re-growth by consecutive minimal residual disease monitoring in two high-risk neuroblastoma patients.	血液腫瘍内科	Hirase S, Saitoh A, Hartomo Tri Budi, Kozaki A, Yanai T, Hasegawa D, Kawasaki K, Kosaka Y, Matsuo M, Yamamoto N, Mori T, Hayakawa A, Iijima K, Nishio H, Nishimura N.	Oncol Reports.						2015, in press.
Familial Hemophagocytic Lymphohistiocytosis Presenting as Hydrops Fetalis.	血液腫瘍内科	Iwatani S, Uemura K, Mizobuchi M, Yoshimoto S, Kawasaki K, Kosaka Y, Hori M, Yasumi T, Nakao H.	AJP Rep.	5	1	e22	24		2015 Apr
Protracted Administration of L-Asparaginase in Maintenance Phase Is the Risk Factor for Hyperglycemia in Older Patients with Pediatric Acute Lymphoblastic Leukemia.	血液腫瘍内科	Yoshida H, Imamura T, Saito AM, Takahashi Y, Suenobu S, Hasegawa D, Deguchi T, Hashii Y, Kawasaki H, Endo M, Hori H, Suzuki N, Kosaka Y, Kato K, Yumura-Yagi K, Hara J, Oda M, Sato A, Horibe K. Japan Association of Childhood Leukemia Study (JACLS).	PLoS One.	10	8	e0136428.			2015 Aug 28

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Absolute lymphocyte count at the end of induction therapy is a prognostic factor in childhood acute lymphoblastic leukemia	血液腫瘍内科	Satoshi Hirase, Daiichiro Hasegawa, Hironobu Takahashi, Kensuke Moriwaki, Atsuro Saito, Aiko Kozaki, Toshiaki Ishida, Tomoko Yanai, Keiichiro Kawasaki, Nobuyuki Yamamoto, Ikuko Kubokawa, Takeshi Mori, Akira Hayakawa, Noriyuki Nishimura, Hisahide Nishio, Kazumoto Iijima, and Yoshiyuki Kosaka.	International Journal of Hematology.	102	5	594	601		2015 Nov
Persistent clonal chromosomal abnormalities in a chronic myeloid leukemia patient.	血液腫瘍内科	Muraoka M, Washio K, Kanamitsu K, Kanazawa Y, Ishida T, Miyamura T, Chayama K, Nishiuchi R, Oda M, Shimada A.	Pediatr Int.						2015 Nov 5.
Comparison of long-term outcomes between children with aplastic anemia and refractory cytopenia of childhood who received immunosuppressive therapy with antithymocyte globulin and cyclosporine.	血液腫瘍内科	Hama A, Takahashi Y, Muramatsu H, Ito M, Narita A, Kosaka Y, Tsuchida M, Kobayashi R, Ito E, Yabe H, Ohga S, Ohara A, Kojima S.	Haematologica.	100	11	1426	1433		2015 Nov

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Identification of novel kinase fusion transcripts in paediatric B cell precursor acute lymphoblastic leukaemia with IKZF1 deletion.	血液腫瘍内科	Yano M, Imamura T, Asai D, Kiyokawa N, Nakabayashi K, Matsumoto K, Deguchi T, Hashii Y, Honda YK, Hasegawa D, Sasahara Y, Ishii M, Kosaka Y, Kato K, Shima M, Hori H, Yumura-Yagi K, Hara J, Oda M, Horibe K, Ichikawa H, Sato A.	Br J Haematol.	171	5	813	817		2015 Dec
Persistent clonal chromosomal abnormalities in a chronic myeloid leukemia patient.	血液腫瘍内科	Muraoka M, Washio K, Kanamitsu K, Kanazawa Y, Ishida T, Miyamura T, Chayama K, Nishiuchi R, Oda M, Shimada A.	Pediatr Int.						2015, in press.
Successful Reduced-Intensity Bone Marrow Transplantation in a Child with Severe Congenital Neutropenia Complicated by Severe Pneumonia.	血液腫瘍内科	Nanako Nino, Aiko Kozaki, Daiichiro Hasegawa, Go Ueda, Hironobu Takahashi, Kenji Miyata, Satoshi Ochi, Tatsuya Yamashita, Satoru Takafuji, Suguru Uemura, Takehito Yokoi, Atsuro Saito, Toshiaki Ishida, Keiichiro Kawasakil, Masao Kobayashi, Kazuhiro Nakamura, and Yoshiyuki Kosaka.	Rinsho Ketsueki,						2015, in press.

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Medulloblastoma with suprasellar solitary massive metastasis.	血液腫瘍内科	Hiroaki Nagashima, Tatsuya Nagashima, Atsufumi Kawamura, Kazuki Yamamoto, Makiko Yoshida, Daiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Eiji Kohmura.	Polish journal of neurology and neurosurgery						2015, in press.
Biopsy timing and Oxford classification variables in childhood/adolescent IgA nephropathy.	腎臓内科	Shima Y, Nakanishi K, Hama T, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Kaito H, Nozu k, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol	30		293	299		2015
Renal biopsy criterion in idiopathic nephrotic syndrome with microscopic hematuria at onset.	腎臓内科	Hama T, Nakanishi K, Shima Y, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Hamahira K, Tanaka R, Kaito H, Nozu k, Iijima K, Yoshikawa N.	Pediatr Nephrol	30		445	500		2015
Long-term outcome of childhood IgA Nephropathy with minimal proteinuria.	腎臓内科	Higa A., Shima Y, Hama T, Sato M, Mukaiyama H, Togawa H, Tanaka R, Nozu K, Sako M, Iijima K, Nakanishi K, Yoshikawa N	Pediatr Nephrol	30		2121	2127		2015
Growth impairment in children with pre-dialysis chronic kidney disease in Japan.	腎臓内科	Hamasaki Y, Ishikura K, Uemura O, Ito S, Wada N, Hattori M, Ohashi Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Honda M	Clin Exp Nephrol	19		1142	1148		2015

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Insignificant impact of VUR on the progression of CKD in children with CAKUT.	腎臓内科	Ishikura K, Uemura O, Hamasaki Y, Nakai H, Ito S, Harada R, Hattori M, Ohashi Y, Tanaka R, Nakanishi K, Kaneko T, Iijima K, Honda M	Pediatr Nephrol	31		105	112		2016
純型肺動脈閉鎖における冠動脈異常の合併と予後に関する検討	循環器内科、 心臓血管外科、 神戸循環器クリニック	新井千恵、田中敏克、 亀井直哉、小川慎治、 佐藤有美、富永健太、 藤田秀樹、城戸佐知子、 大鳴義博、山口真弘	日本小児循環器学会雑誌	31	6	309	312	日本小児循環器学会	2015
狭川論文に対するEditorial Comment	小児外科	前田貢作	心臓	47	11	1317			2015.11
気管・気管支軟化症の治療 気管軟化症に対する大動脈胸骨固定術(解説)	小児外科	前田貢作	日本小児呼吸器学会雑誌	26	1	91	96		2015.6
先天性気管狭窄症に対する内視鏡治療 特に新生児症例に対する気管支鏡下バルーン拡張術の有用性について	小児外科	前田貢作 小野滋	Medical Photonics		20	25	29	オプトロニクス社	2015.7
【周産期救急の初期対応:そのポイントとピットフォール 胎児・新生児編】 新生児編 疾患 いかにかに的確に対応するか 腹壁破裂・臍帯ヘルニア	小児外科	前田貢作	周産期医学	45	7	940	944	東京医学社	2015.7
【小児の気道異常】外科的介入を要する先天性気道疾患 病態の理解から治療戦略まで	小児外科	前田貢作	LISA	22	7	680	684		2015.7
【画像診断-はじめに何をどう読むか?】胸部 気管狭窄	小児外科	前田貢作	小児内科	47	6	917	923		2015.6
【トランジション】 先天性気管狭窄症の長期問題点	小児外科	横井暁子	小児外科	47	7	753	756	東京医学社	2015.7
気管食道科領域の小児気道疾患への対応 気管狭窄症の病態とその治療	小児外科	横井暁子	日本気管食道科学会会報	66	2	106	108		2015.4

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Pediatric Surgery	小児外科	Iwanaka T, Yamataka A, Uemura S, Okuyama H, Segawa O, Nio M, Yoshizawa J, Yagi M, Ieiri S, Uchida H, Koga H, Sato M, Soh H, Take H, Hirose R, Fukuzawa H, Mizuno M, Watanabe T.	Asian J Endosc Surg.	8	4	390	407		2015.11
Pathological Features of the Unilateral Favorable Histology Nephroblastoma with Relapse	小児外科	Fukuzawa H, Aoba T, Yoshida M, Iwafuchi H, Koike J, Kitagawa H, Urushihara N, Yokoi A, Maeda K	Fetal Pediatr Pathol.	34	6	383	390		2015.10
Thoracoscopic repair of a large neonatal congenital diaphragmatic hernia using Gerota's fascia	小児外科	Fukuzawa H, Tamaki A, Takemoto J, Morita K, Endo K, Iwade T, Yuichi O, Bitoh Y, Yokoi A, Maeda K	Asian J Endosc Surg.	8	2	219	222		2015.5
Laparoscopic repair of malrotation: what are the indications in neonates and children?	小児外科	Miyano G, Fukuzawa H, Morita K, Kaneshiro M, Miyake H, Nouse H, Yamoto M, Fukumoto K, Urushihara N	J Laparoendosc Adv Surg Tech A.	25	2	155	158		2015.2
先天性胆道拡張症術後の胆管および肝管に関連する合併症	小児外科	福澤宏明、武本 淳吉、玉城 昭彦、森田 圭一、岩出 珠幾、大井 祐一、遠藤 耕介、尾藤 祐子、横井 暁子、前田 眞作	日本小児外科学会雑誌	51	1	80	86		2015.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
【周産期の電話相談～テレフォントリ アージ～】新生児編 その他 陰囊 の大きさに左右差があるのですが	小児外科	大片祐一	周産期医学	45	11	1662		東京医学社	2015.11
【周産期の電話相談～テレフォントリ アージ～】新生児編 その他 また の所が腫れているのですか	小児外科	大片祐一	周産期医学	45	11	1661		東京医学社	2015.11
【エンジヨイ!症例報告:手術・治療の 工夫(1)】頸部から気管分岐部レベ ルに及ぶ食道重複症に対する頸部 切開アプローチ	小児外科	大片祐一、横井暁子、 尾藤祐子、福澤宏明、 園田真理、谷本光隆、 吉田拓哉、西島栄治、 前田貢作	小児外科	47	1	19	22	東京医学社	2015.11
胸腔鏡下に切除し得た限局型キヤッ スルマン病の一例	小児外科	遠藤耕介、横井暁子、 玉城昭彦、武本淳吉、 森田圭一、岩出珠幾、 大片祐一、福澤宏明、 尾藤祐子、前田貢作	小児外科学会雑誌	51	5	937	941	小児外科学会	2015
Severe acquired subglottic stenosis in children: analysis of clinical features and surgical outcomes based on the range of stenosis	小児外科	Morita K, Yokoi A, Bitoh Y, Fukuzawa H, Okata Y, Iwade T, Endo K, Takemoto J, Tamaki A, Maeda K	Ped Surg int	31	10	943	947	Springer	2015.10
Brain abscess in hepatopulmonary syndrome associated with biliary atresia	小児外科	Morita K, Fukuzawa H, Maeda K	Ped int	57	6	1187	1189	Wiley	2015.12
Aortic arch geometry after the Norwood procedure: The value of arch angle augmentation.	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Tanaka A, Noda R, Matsushima S.	J Thorac Cardiovasc Surg	150	2	358	366	Elsevier Inc.	2015.8
Clinical assessment of diastolic retrograde flow in the descending aorta for high-flow systemic-to- pulmonary artery shunting	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Tanaka T, Maruo A, Matsuhisa H	J Thorac Cardiovasc Surg					Elsevier Inc.	in press

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Dexmedetomidine in combination with midazolam after pediatric cardiac surgery.	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Maruo A, Matsuhisa H, Tanaka A, Noda R, Matsushima S	Asian Cardiovasc Thorac Ann	23	7	802	808	SAGE	2015.9
Supportive pericardial suspension for surgical airway management of tracheobronchomalacia in unilateral pulmonary agenesis	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Okata Y, Maruo A.	Ann Pediatr Surg	11		147	149	Wolters Kluwer Health, Inc.	2015.4
The left anterior extra-pleural approach for innominate artery transection in a patient with tracheostomy and a neurological disorder	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Bitoh Y, Iwaki R	Interact Cardiovasc Thorac Surg	20	5	685	686	Oxford University Press	2015.3
Surgical Repair of Total Anomalous Pulmonary Venous Connection in a Neonate With Mosaic Trisomy 8.	心臓血管外科	Hasegawa T, Oshima Y, Sato Y, Tanaka A.	World J Pediatr Congenit Heart Surg.					SAGE	in press
A Left Anterior Extrapleural Approach to Adjust Right Ventricle-Pulmonary Artery Shunt Flow Using Hemostatic Clips After the Norwood Operation	心臓血管外科	Matsushima S, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Matsuhisa H, Noda R, Iwaki R.	J Card Surg	30	6	532	534	Wiley Periodicals, Inc.	2015.4
日本小児循環器学会第11回教育セミナー 手術術式:緊急・準緊急姑息術のPoint	心臓血管外科	大嶋義博	日小循会誌	31	1	25	29	日本小児循環器学会	2015.1
Castleman病を伴う小児第3脳室内 chordoid meningiomaの1例	脳神経外科	藤田 祐一、長嶋 連也、河村 淳史、阿久津 宣行、山元 一樹、吉田 牧子、長谷川 大一郎、齋藤 敦郎	小児の脳神経	39	5	347	353	小児神経外科	2015.5
専門医試験をめざす症例問題トレーニング 小児整形外科疾患	整形外科	薩摩眞一	整形外科	66	6	573	580	南江堂	2015
Charcot-Marie-Tooth病に伴う足部変形に対する手術加療	整形外科	武岡由樹、薩摩眞一、小林大介	日本足の外科学会雑誌	36	1	37	40	日本足の外科学会	2015.9
Does Salter Innominate Osteotomy Predispose the Patient to Acetabular Retroversion in Adulthood?	整形外科	D Kobayashi, S Satsuma, M Kinugasa, R Kuroda, M Kurosaka	Clin Orthop Relat Res	473	5	1755	1762	springer	2015
Iwamoto-Fujii Ambassadorの報告	整形外科	小林大介	日本小児整形外科学会誌	24		130	133	日本小児整形外科学会誌	2015

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
High prevalence of CDH23 mutations in patients with congenital high-frequency sporadic or recessively inherited hearing loss.	耳鼻咽喉科	Mizutari K, Mutai H, Namba K, Miyanaga Y, Nakano A, Arimoto Y, Masuda S, Morimoto N, Sakamoto H, Kaga K, Matsunaga T	Orphanet J Rare Dis	10		60		BioMedCentral	2015.5
【咽喉頭異常感の疑問に答える】喉頭アレルギーマシンの関連について教えてください	耳鼻咽喉科	阪本浩一	JOHNS	31	1	29	34	東京医学社	2015.1
【こんなときの対応法がわかる】耳鼻咽喉科手術ガイド【口腔咽喉頭・唾液腺の手術 扁桃腺アデノイド手術】	耳鼻咽喉科	阪本 浩一	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	87	5	149	155	医学書院	2015.4
腹腔鏡下精巣固定術	泌尿器科	杉多良文・奈良健平・中川賀清・清末晶子・久松英治	Japanese Journal of Endourology	27	2	293	298	日本泌尿器内視鏡学会	2014.09
先天性および小児泌尿器科疾患 異所性尿管(尿管異所開口)いつも下着が湿っている女児です	泌尿器科	杉多良文	臨床泌尿器科	69	4	322	325	医学書院	2015.04
先天性および小児泌尿器科疾患 尿管瘤 水腎症の精査時に尿管瘤が指摘され受診した患児です	泌尿器科	杉多良文	臨床泌尿器科	69	4	318	321	医学書院	2015.04
Vanishing testisの病態と手術	泌尿器科	杉多良文・奈良健平・清末晶子・中川賀清	小児外科	47	8	857	860	東京医学書	2015.08
小児におけるカフ付き気管チューブのサイズ選択基準の検討	麻酔科	似内久美子、野村有紀、香川哲郎	麻酔	64	1	65	69	克誠堂	2015.1
小児の麻酔管理における注意点	麻酔科	末田彩	手術看護エクスパート	8	6	25	28	日総研	2015.3
こどもの予防接種と全身麻酔	麻酔科	山根悠、香川哲郎	臨床麻酔	39	7	989	993	真興交易	2015.7
ダウン症候群患児の麻酔管理	麻酔科	上北郁男、香川哲郎	日本小児麻酔学会雑誌	21	1	229	233	日本小児麻酔学会	2015.9
局所麻酔下に造設した胃瘻から逆行性に気管食道瘻へカテーテルを挿入した後に全身麻酔を導入したC型食道閉鎖の一症例	麻酔科	土居ゆみ、高辻小枝子、法華真衣、香川哲郎	日本小児麻酔学会雑誌	21	1	212	216	日本小児麻酔学会	2015.9
フェンタニル持続静注による小児術後鎮痛の副作用の検討	麻酔科	鹿原史寿子、香川哲郎、池島典之、高辻小枝子、末田彩	麻酔	64	8	799	803	克誠堂	2015.8

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
アセトアミノフェン 小児麻酔の場合 当院での静注薬使用経験から	麻酔科	法華真衣、上北郁男、 香川哲郎	LiSA	22	9	890	893	メディアカルサイエンスイ ンターナショナル	2015.9
Loeys-Dietz症候群に対して自己弁 温存大動脈基部手術を行った小児 の麻酔経験	麻酔科	山根悠、池島典之、 香川哲郎	日本心臓血管麻酔学会雑誌	19	1	37	41	日本心臓血管麻酔学会	2015.9
先天性内反足手術に対する単回注 入法による末梢神経ブロックの効果 消失後の疼痛－術式別検討	麻酔科	上北郁男、山根悠、 末田彩、大西広泰、 鈴木毅、香川哲郎	臨床麻酔	39	11	1521	1524	真興交易	2015.11
Cardiac arrest after thoracic paravertebral block with ropivacaine in a 6-year-old child	麻酔科	山根悠、香川哲郎	JA Clinical Reports	1		25		Springer	2015.12
Intraoperative red cell salvage during obstetric surgery in 50 Japanese women.	産科	Morikawa M, Kuramoto A, Nakayama M, Oguchi H, Hasegawa M, Funakoshi T, Furukawa S, Hirayama E, Kanagawa T, Kaji T, Kasai M, Konishi Y, Yamamoto S, Itakura A, Maeda M, Kobayashi T, Minakami H	Int J Gynaecol Obstet	128	3	256	259	International Federation of Gynecology and Obstetrics	2014
Factors affecting maternal serum magnesium levels during long-term magnesium sulfate tocolysis in singleton and twin pregnancy	産科	Nakazawa H, Uchida A, Minamitani T, Makishi A, Takamatsu Y, Kiyoshi K, Samoto T, Funakoshi T	J Obstetrics and Gynaecology Research	41	8	1178	1184	Japan Society of Obstetrics and Gynecology	2015
一絨毛膜二羊膜性双体に合併した 胎便性腹膜炎の一例	産科	南谷智之、喜吉賢二、 中澤浩志、 牧志 綾、高松祐幸、 佐本 崇、船越 徹	日本周産期 新生児医学雑誌	50	4	1327	1331	日本周産期・ 新生児医学会	2015

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
破水後7日間以上妊娠継続し、34週未滿で出生した児の短期予後決定因子 —出生時血中IL-6濃度の上昇程度による4分類の提示—	産科	中澤浩志、南谷智之、 牧志 綾、高松祐幸、 喜吉賢二、佐本 崇、 船越 徹	日本周産期 新生児医学会雑誌	51	4	1155	1160	日本周産期・ 新生児医学会	2015
[妊婦健診のすべて—週数別・大事なことを見逃さないためのチェックポイント]妊婦週数ごとの検診の実際 妊娠12から21週まで 診断と対応 妊婦糖尿病の診断	産科	船越 徹	臨床婦人科産科 増刊号	69	4	130	133	日本周産期・ 新生児医学会	2015
各疾患の超音波診断のポイントと所見. 13 泌尿器	放射線科	赤坂好宣	小児超音波のすべて			480	536	メジカルビュー	2015.12
小児診療における低侵襲・低被ばくのための画像診断法 4.腹部領域における診断のポイント	放射線科	赤坂好宣	インナービジョン	30	3	22	25	インナービジョン	2015.2

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Congenital mesoblastic nephroma with focal anaplastic lesion Letter to the Editor	Departments of 1Pathology, 2Pediatric Surgery, 3Oncology, and 4Radiology, Kobe Children's Hospital, Kobe, Japan 5Department of Pediatric Hematology and Oncology Research, National Research Institute for Child Health and Development, National Center for Child Health and Development, Tokyo, Japan	Makiko Yoshida ¹ M.D., Ph. D., Hajime Okita ⁵ M.D., Ph. D., Terutaka Tanimoto ² M.D., Yuko Bitoh ² M.D., Ph.D., Hiroaki Fukuzawa ² M.D., Akiko Yokoi ² M. D., Ph.D., Aiko Kozaki ³ M.D., Keiichiro Kawasaki ³ M.D., Ph.D., Yoshinobu Akasaka ⁴ M.D., Ph. D.	Pathology International	65	9	507	509	Japanese Society of Pathology and Wiley Publishing Asia Pty Ltd	2015.9.

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
Pathological Features of the Unilateral Favorable Histology Nephroblastoma with Relapse	1Department of Pediatric Surgery, Kobe Children's Hospital, Kobe, Japan; 2Division of Pediatric Surgery, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Japan; 3Department of Pathology, Kobe Children's Hospital, Kobe, Japan; 4Department of Pathology, Shizuoka Children's Hospital, Shizuoka, Japan; 5Department of Diagnostic Pathology, St. Marianna University School of Medicine, Kawasaki, Japan; 6Department of Pediatric Surgery, Shizuoka Children's Hospital, Shizuoka, Japan	Hiroaki Fukuzawa, ¹ Takeshi Aoba, ² Makiko Yoshida, ³ Hidetoshi Iwafuchi, ⁴ Junki Koike, ⁵ Hiroaki Kitagawa, ² Naoto Urushihara, ⁶ Akiko Yokoi, ¹ and Kosaku Maeda ¹	Fetal and Pediatric Pathology	34	6	383	390	Taylor & Francis	2015.11.

テーマ	所属科	発表者名	書籍名	第○巻	第○号	開始頁	終了頁	発行元	発行年月
左卵巣腫瘍の1例	1)病理診断科, 2)小児外科,3) 血液腫瘍科,4) 眼科,5)放射 線科	吉田牧子1), 大片祐一2), 横井暁子2), 前田貢作2), 二野菜々子3), 斎藤敦郎3), 長谷川大一郎3), 小阪嘉之3), 金井美智子4), 柳沢翠芳4), 野村耕治4), 上原栄理子5), 赤坂好宣5)	日本小児血液・がん学会雑誌	52	1	97	97	日本小児血液・がん 学会	2015.3.
小児の清潔間欠導尿(CIC)	看護部	鎌田直子	プロステラ	No.8		10	11	株式会社オーエムシー	2015.3
小児MRI検査の使用経歴ー鎮静・固定・撮影技術ーアンビエント使用によるアメニティ向上効果について	放射線部	射場智美	日本小児放射線技術研究会雑誌	40		23	26		2015.3

3) 学会発表

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
生後1か月で発症した先天性中枢性低換気症候群の1例	救急集中治療科	石田悠介、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第265回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2015.5.30
インフルエンザ関連神経症候群を呈した小児の臨床的特徴-2015-2015年シーズンでの検討	救急集中治療科	丸山あずさ、田中司、永瀬裕朗、竹田洋樹、上谷良行	第265回	日本小児科学会兵庫県 地方会	神戸	2015.5.30
難治性肺膿瘍から診断に至った嚙性肉芽腫症の一例	救急集中治療科	梶原伸介、石田悠介、辻真之介、楠元真由美、山口義道、竹田洋樹、上谷良行	第28回	近畿小児科学会	大阪	2015.3.1
緊急開頭外減圧術を必要とした脳梗塞の一例	救急集中治療科	山口宏、辻真之介、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、竹田洋樹、上谷良行、阿久津宣行、山元一樹、河村淳史	第28回	近畿小児科学会	大阪	2015.3.1
当院での小児科後期研修におけるプロフェッショナルリズムからの逸脱に対する行動変容プログラム	小児科	中岸保夫、丸山あずさ、石田敏章、小川補治、尾崎佳代、笠井和子、神前愛子、神田杏子、佐藤有美、溝淵雅巳、山口善道、上谷良行	第47回	日本医学教育学会大会	新潟	2015.7.24
類白血病反応を認め、画像上脳梗塞像を認めた百日咳脳症の一例	救急集中治療科	辻真之介、石田悠介、田中司、楠元真由美、梶原伸介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第29回	日本小児救急医学会 学術集会	大宮	2015.6.12-13
外来における抗菌剤適正使用に向けて～ガイドライン改訂への試み～	救急集中治療科	梶原伸介、笠井正志	第29回	日本小児救急医学会 学術集会	大宮	2015.6.12-13
小児院内心術停止における心電図初期波形の解析—J-NRCP	救急集中治療科	楠元真由美、福原信一、竹田洋樹、上谷良行、徳平夏子、藤原直樹、本間順、清水直樹	第29回	日本小児救急医学会 学術集会	大宮	2015.6.12-13
当院で過去3年間に受診した小児熱傷患者の検討	救急集中治療科	梶原伸介、石田悠介、辻真之介、山口義道、福原信一、竹田洋樹、上谷良行	第29回	日本小児救急医学会 学術集会	大宮	2015.6.12-13
小児の重症度評価、軽度頭部外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成26年度	兵庫県医師会 小児初期救急医療研修会	神戸	2015.2.22
小児の重症度評価、軽度頭部外傷	救急集中治療科	上谷良行	平成27年度	兵庫県医師会 小児初期救急医療研修会	神戸	2015.11.29
非古典型21水酸化酵素欠損症男子—思春期における副腎皮質機能評価—	代謝・内分泌科	日外祐理、尾崎佳代、郷司克己、飯島一誠	第49回	日本小児内分泌学会 学術総会	東京	2015.10.9
ランチョンセミナー：症例から学ぶ低リン血症性くる病	代謝・内分泌科	郷司克己	第49回	日本小児内分泌学会 学術総会	東京	2015.10.9
PROKR2にGly57Cysバリアントを認めた複合型下垂体機能低下症	代謝・内分泌科	日外祐理、尾崎佳代、郷司克己、飯島一誠	第25回	臨床内分泌代謝Update	東京	2015.11.27

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
偽性低アルドステロン症Ⅰ型と肥大型心筋症が併存した家系	代謝・内分泌科	尾崎佳代、日外祐理、郷司克己	第13回	県立病院学会	神戸	2015.9.5
シクロホスファミドパルス療法が奏功した血球貪食症候群を伴った若年性皮膚筋炎の1例	リウマチ科・アレルギー科	水田 麻雄、笠井 和子、中岸 保夫、三好 麻里	25	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	金沢	2015.10.9
全身型若年性特発性関節炎と川崎病の鑑別と重症度判定における血清フェリチン値の臨床的有用性	リウマチ科・アレルギー科	水田 麻雄、清水正樹、井上なつみ、谷内江昭宏、笠井和子、中岸保夫、濱平陽史、高原賢守	25	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	金沢	2015.10.9
シンボゾウム3 バイオ時代における若年性特発性関節炎の管理のポイント	リウマチ科・アレルギー科	中岸 保夫、久保田 知洋、原 良紀、清水 正樹	25	日本小児リウマチ学会 総会・学術集会	金沢	2015.10.9
限局性强皮症を伴った好酸球性筋膜炎の1女児例	リウマチ科・アレルギー科	神納 幸治、水田 麻雄、笠井 和子、中岸 保夫、三好 麻里	118	日本小児科学会学術集会	大阪	2015.4.17
当院での小児科後期研修におけるプロフェッショナルリズムからの逸脱に対する行動変容プログラム	小児科専門医教育 研修部会	中岸保夫、丸山あずさ、石田敏章、小川禎治、尾崎佳代、笠井和子、神前愛子、神田杏子、佐藤有美、溝淵雅巳、山口善道、上谷良行	47	日本医学教育学会大会	新潟	2015.7.24
Short and long-term outcome in children with acute encephalopathy.	脳神経内科	Masahiro Nishiyama, Hiroaki Nagase, Tsukasa Tanaka, Kyoko Fujita, Azusa Maruyama, Daisuke Toyoshima, Taku Nakagawa, Naoya Morisada, Satoshi Takada, and Kazumoto Iijima	The 13th	Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	Taipei	2015.5.14-5.17
Effects of protocol-based management for severe febrile seizures on neurological outcome	脳神経内科	Hiroaki Nagase, Tsukasa Tanaka, Masahiro Nishiyama, Kyoko Fujita, Azusa Maruyama	The 13th	Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	Taipei	2015.5.14-5.17
急性脳症後ろ向きコホート研究 劇症型急性脳症を予測する発症後6時間以内の血液検査	脳神経内科	田中司、西山将広、藤田杏子、丸山あずさ、永瀬裕朗	第57回	日本小児神経学会 学術集会	大阪	2015.5.28-5.30
幼児期に発症した多発性硬化症の4例	脳神経内科	西山将広、永瀬裕朗、田中司、丸山あずさ、豊嶋大作、中川卓、森貞直哉、親里嘉展、佐伯啓介、高田哲、飯島一誠	第57回	日本小児神経学会 学術集会	大阪	2015.5.28-5.30
発症から24時間経過後に脳平温療法を導入し後遺症なく経過した急性脳症の1例	脳神経内科	富岡和美、田中司、丸山あずさ、永瀬裕朗	第57回	日本小児神経学会 学術集会	大阪	2015.5.28-5.30
Cytogenetic and clinical characterization of 4 patients with chromosome 15q duplication	脳神経内科	Mieko Yoshioka, Takeshi Yoshida, Azusa Maruyama, Hiroaki Nagase	第57回	日本小児神経学会 学術集会	大阪	2015.5.28-5.30
インフルエンザ関連神経症候群を呈した小児の臨床的特徴-2015-2015年シーズンでの検討	脳神経内科	丸山あずさ、田中司、永瀬裕朗、竹田洋樹、上谷良行	第265回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2015.5.30
ワークシヨップ3「神経救急とてんかん」小児救急集中治療領域における非けいれん性発作(重積状態)	脳神経内科	丸山あずさ、永瀬裕朗	第49回	日本てんかん学会 学術集会	長崎	2015.10.30-10.31

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
結節性硬化症の現状	脳神経内科	豊嶋大作		奈良県結節性硬化症最新治療セミナー	橿原	2015.12.17
両親の治療拒否後に全身多発転移を来した網膜芽細胞腫の1例	血液・腫瘍内科	高藤 哲、植村 優、横井健人、二野菜々子、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之、野村耕治、大山知樹、上原栄理子、赤坂好宣、吉田牧子	第8回	兵庫県 tumor board	神戸市	2015.1.16
右心房内進展を伴った肝芽腫の一例	血液・腫瘍内科	高藤 哲、二野菜々子、植村優、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	平成26年度	JPLT 総会・研究会	東京	2015.1.25
パネルディスカッション：同種造血幹細胞移植：移植前処置について	血液・腫瘍内科	長谷川大一郎	第2回	Hematopoietic Stem Cell Transplantation Seminar	神戸市	2015.1.30
難治性消化管間葉系腫瘍（GIST）の一例	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎、二野菜々子、高藤 哲、植村優、横井健人、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		小児がんカンファレンス	大阪市	2015.1.31
治療中に中枢神経浸潤を来した Double hit lymphoma/leukemia の一例	血液・腫瘍内科	植村優、矢内友子、高藤 哲、二野菜々子、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第5回	近畿若手小児血液クラブ	大阪市	2015.2.13
リコンビナント第IX因子製剤の持続投与により側彎症手術を施行し得た血友病Bの一例	血液・腫瘍内科	高藤 哲、川崎圭一郎、植村優1、二野菜々子1、横井健人1、齋藤敦郎1、神前愛子1、石田敏章1、矢内友子1、長谷川大一郎1、小林大介2、薩摩真一2、小阪 嘉之		近畿小児がん研究会	京都市	2015.2.14
異なる血球減少症を経時的に発症した1例	血液・腫瘍内科	横井健人、石田敏章、二野菜々子、高藤 哲、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		若葉小児臨床研究会	神戸市	2015.2.21
治療中に中枢神経浸潤を来した Double hit leukemia/leukemia の一例	血液・腫瘍内科	植村優、矢内友子、高藤 哲、二野菜々子、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第54回	神戸血液病研究会	神戸市	2015.2.21
腫瘍生検術後の flare-up が診断契機となった進行性骨化性線維形成症（FOP）の一例	血液・腫瘍内科	石田敏章、横井健人、二野菜々子、高藤 哲、植村優、齋藤敦郎、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		近畿小児科学会	大阪市	2015.3.1
同種骨髄移植後に重篤なITPを合併したRCCの一例 Severe immune thrombocytopenic purpura following allogeneic bone marrow transplantation for refractory cytopenia of childhood	血液・腫瘍内科	高藤 哲、川崎圭一郎、二野菜々子、横井健人、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、赤坂好宣、吉田牧子、小阪 嘉之	第37回	日本造血細胞移植学会	神戸市	2015.3.5-7
非典型的な慢性活動性EBV感染症に発症したB細胞リンパ増殖症に対して同種造血幹細胞移植を施行した思春期男子 Bone marrow transplantation for B-cell lymphoproliferative disorder with atypical chronic active EBV infection	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎、長谷川大一郎、二野菜々子、高藤 哲、横井健人、植村優、神前愛子、石田敏章、矢内友子、川崎圭一郎、横井暁子、赤坂好宣、吉田牧子、小阪 嘉之	第37回	日本造血細胞移植学会	神戸市	2015.3.5-7

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Outcome of infantile hemophagocytic lymphohistiocytosis: A single institution experience	血液・腫瘍内科	Takehito YOKOI, Daichiro HASEGAWA, Toshiaki ISHIDA, Tomoko YANAI, Keiichiro KAWASAKI, Hitomi Sakai, Masami Mizobuchi, Seiji YOSHIMOTO, Hideto NAKAO, Yoshiyuki KOSAKA.	第 118 回	日本小児科学会	大阪市	2015.4.17-19
Neuroblastoma minimal residual disease markers are differentially expressed in peripheral blood and bone marrow samples	血液・腫瘍内科	Suguru Uemura, Nobuyuki Yamamoto, Aiko Kozaki, Tomoko Yanai, Daichiro Hasegawa, Keiichiro Hasegawa, Yoshiyuki Kosaka, Akira Hayakawa, Kazutomo Iijima, Hisahide Nishio, Noriyuki Nishimura		11th Asian Society of Pediatric Research 2015	大阪市	2015.4.15-18
Two high-risk neuroblastoma cases with early detection of tumor relapse/re-growth by consecutive minimal residual disease monitoring	血液・腫瘍内科	Atsuro Saito, Satoshi Hirase, Aiko Kozaki, Tomoko Yanai, Daichiro Hasegawa, Keiichiro Kawasaki, Yoshiyuki Kosaka, Akira Hayakawa, Kazumoto Iijima, Hisahide Nishio, Noriyuki Nishimura		11th Asian Society of Pediatric Research 2015	大阪市	2015.4.15-18
腸管と交通を認めた悪性リンパ腫の一例	血液・腫瘍内科	浅井芳江、後藤隆文、中原康雄、片山修一、豊岡晃輔、東村千寿、都地友紘、藤井将義、石田敏章	第 52 回	日本小児外科学会 学術州会	神戸市	2015.5.29
3 度の同種造血幹細胞移植後に Azacitidine による維持療法が奏功している AML の 1 例	血液・腫瘍内科	瓦野昌大、石田敏章、横井健人、二野菜々子、高藤哲、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		兵庫県血液疾患症例 検討会	神戸市	2015.6.5
家族性血球貪食性リンパ組織球 3 型の双胎例	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎 1、長谷川大一郎 1、二野菜々子 1、高藤哲 1、横井健人 1、植村優 1、神前愛子 1、石田敏章 1、川崎圭一郎 1、吉田牧子 2、小阪嘉之 1 兵庫県立こども病院血液・腫瘍内科 1、 同病理診療科 2		PID 研究会	大阪市	2015.7.10
3 度の同種造血幹細胞移植後に Azacitidine 維持療法が奏功している AML の 1 例	血液・腫瘍内科	横井健人、石田敏章、二野菜々子、高藤哲、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之		白血病懇話会	神戸市	2015.7.11
JPLSG B-12 治療中に精神神経症状をきたした急性リンパ性白血病症例の検討	血液・腫瘍内科	二野菜々子、植村優、高藤哲、横井健人、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、川崎圭一郎、関口典子、小阪嘉之	第 4 回	CCLSG/JACLS 夏季セミナー	長崎市	2015.7.11-12
JACLS 治療研究の歴史	血液・腫瘍内科	長谷川大一郎	第 4 回	CCLSG/JACLS 夏季セミナー	長崎市	2015.7.11-12
PBSCT 後に維持療法として brentuximab vedotin 投与を行った再発 anaplastic large cell lymphoma の一例	血液・腫瘍内科	高藤哲、川崎圭一郎、二野菜々子、横井健人、植村優、齋藤敦郎、神前愛子、石田敏章、長谷川大一郎、小阪嘉之	第 68 回	小児がんカンファレンス	大阪市	2015.8.22
特別講演：当院における脳腫瘍の化学療法、特に自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法について—新規前処置法 TMC (Topo + L-PAM + CY) 療法の提案—	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第 9 回	関東小児脳腫瘍 カンファレンス	東京都	2015.8.22

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
治療終了8か月後に初診時と同一の46,XX,t(11;19)(q23;p13.1)異常が出現したにもかかわらず、光学顕微鏡的には寛解を維持している急性骨髄性白血病(M5a)の一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、齋藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、横井健人、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之		近畿若手小児血液クラブ	大阪市	2015.9.25
治療終了8か月後に初診時と同一の染色体異常が出現したにもかかわらず、光学顕微鏡的には寛解を維持している急性骨髄性白血病の一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、齋藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、横井健人、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第55回	神戸血液病研究会	神戸市	2015.10.3
治療終了8か月後に初診時と同一の染色体異常が出現したにもかかわらず、光学顕微鏡的には寛解を維持している急性骨髄性白血病の一例	血液・腫瘍内科	植村優、長谷川大一郎、齋藤敦郎、二野菜々子、高藤哲、横井健人、神前愛子、石田敏章、川崎圭一郎、小阪嘉之	第55回	神戸血液病研究会	神戸市	2015.10.3
Involvement of DENN domain protein DENND2A in the progression of neuroblastoma	血液・腫瘍内科	Nobuyuki Yamamoto1, Daichiro Hasegawa2, Noriyuki Nishimura	第74回	日本癌学会	名古屋	2015.10.8-10
Role of Rab6B and Rab28 in the progression of neuroblastoma	血液・腫瘍内科	Noriyuki Nishimura1, Nobuyuki Yamamoto1, Daichiro Hasegawa	第74回	日本癌学会	名古屋	2015.10.8-10
High prevalence of TT virus in childhood hematopoietic stem cell transplant recipients	血液・腫瘍内科	Suguru UEMURA1, Daichiro HASEGAWA1, Aiko KOZAKI1, Nanako NINOI, Satoru TAKAFUJII, Takehito YOKOI1, Atsuro SAITO1, Toshiaki ISHIDA1, Tomoko YANAI1, Keiichiro KAWASAKI1, Kimimari ITO2 and Yoshiyuki KOSAKAI	第77回	日本血液学会総会	金沢市	2015.8.16-18
Eculizumab for transplantation-associated atypical hemolytic uremic syndrome	血液・腫瘍内科	Nanako NINOI1, Daichiro HASEGAWA1, Atsuro SAITO1, Suguru UEMURA1, Satoru TAKAFUJII, Takehito YOKOI1, Aiko KOZAKI1, Toshiaki ISHIDA1, Tomoko YANAI1, Keiichiro KAWASAKI1, Takahiro YASUMI2, Naoki SAKATA3, Yasufumi OHTSUKA4, Satoshi HIRASE5, Takeshi MORI5, Naoya MORISADA5, Noriyuki NISHIMURA5, Taku NAKAGAWA6, Kyoko KANDA6, Ryojiro TANAKA6, and Yoshiyuki KOSAKAI	第77回	日本血液学会総会	金沢市	2015.8.16-18
血友病治療の今後	血液・腫瘍内科	小阪嘉之		Hemophilia Meet the Expert in Hyogo	神戸市	2015.11.21
多発転移を認めた小児GISTの1例	血液・腫瘍内科	二野菜々子、齋藤敦郎、高藤哲、植村優、横井健人、神前愛子、石田敏章、矢内友子、長谷川大一郎、川崎圭一郎、小阪嘉之	第2回	兵庫県小児がん治療講演会	神戸市	2015.11.20

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Radical radiation therapy for bone and bone marrow metastasis as initial therapy of the high-risk neuroblastoma	血液・腫瘍内科	Department of Radiology, Kobe Children's Hospital Toshinori Soejima, Yoshinobu Akasaka Department of Hematologic Oncology, Kobe Children's Hospital Yoshiyuki Kosaka, Keiichiro Kawasaki, Daichiro Hasegawa, Yuko Yanai, Toshiaki Ishida Department of Radiation Oncology, Hyogo Cancer Center Kayoko Tsujino, Yosuke Ota, Yoko Matsumoto, Hiroki Kawaguchi	第 28 回	日本放射線腫瘍学会	前橋市	2015.11.19-21
寛解導入療法時の L-アスパラギナーゼ投与における トロンピン・プラスミン生成試験を用いた凝固線溶 評価	血液・腫瘍内科	石原 卓1)、野上 恵嗣1)、竹下 泰史1)、 越智 聡史1)、石田敏章2)、小坂 嘉之2)、 澤田 明久3)、井上 雅美3)、嶋 綴倫1) 1、奈良県立医科大学小児科、 2、兵庫県立子ども病院血液・腫瘍内科、 3、大阪府立母子保健総合医療センター血液・腫瘍科	第 57 回	日本小児血液・ がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
再発又は治療不応性神経芽腫患者を対象とした Perifosine の第 I 相臨床試験	血液・腫瘍内科	齋藤敦郎、七野浩之、河本博、陳基明、 松本公一、加藤剛二、麦島秀雄 1、兵庫県立子ども病院小児がん医療センター血液・腫瘍内科 2、国立国際医療研究センター小児科 3、国立がん研究センター中央病院小児腫瘍科 4、日本大学医学部附属板橋病院小児科 5、国立成育医療研究センター小児がんセンター 6、名古屋第一赤十字病院小児医療センター血液腫瘍科 7、川越予防医療センター・クリニック小児科	第 57 回	日本小児血液・ がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
Pediatric wild-type gastrointestinal stromal tumor presenting with lung metastasis: Sporadic or Carney's triad?	血液・腫瘍内科	Nanako NINO1, Atsuro SAITO1, Daiichiro HASEGAWA1, Suguru UEMURAI, Satoru TAKAFUJII, Takehito YOKOI1, Aiko KOZAKII, Toshiaki ISHIDA1, Keiichiro KAWASAKII, Akiko YOKOI2, Kosaku MAEDA2, Yoshinobu AKASAKA3, Maiko YOSHIDA4, and Yoshiyuki KOSAKAI 1Department of Hematology/Oncology, 2Pediatric Surgery, 3Radiology, 4Pathology, Kobe Children's Hospital	第 57 回	日本小児血液・ がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Differential expression of minimal residual disease markers in peripheral blood and bone marrow samples from high-risk neuroblastoma patients	血液・腫瘍内科	Suguru Uemura1, Nobuyuki Yamamoto2, Aiko Kozaki1, Nanako Nino1, Satoru Takafuji1, Takehito Yokoi1, Atsuro Saito1, Toshiaki Ishida1, Daiichiro Hasegawa1, Keiichiro Kawasaki1, Yoshiyuki Kosaka1, Satoshi Hirase2, Takeshi Mori2, Akira Hayakawa2, Kazumoto Iijima2, Hisahide Nishio2, 3, and Noriyuki Nishimura2 1Department of Hematology and Oncology, Kobe Children's Hospital, Departments of 2Pediatrics, and 3Epidemiology, Kobe University Graduate School of Medicine.	第 57 回	日本小児血液・がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
Intragenic amplification of PAX5 in pediatric B-cell precursor acute lymphoblastic leukemia	血液・腫瘍内科	Mio Yano, Toshihiko Imamura, Yuika Yamashita, Kentarou Ohki, Daisuke Asai, Takao Deguchi, Yoshiko Hashii, Hironobu Takahashi, Rie Kanai, Shuhei Yajima, Yoshiyuki Kosaka, Keiko Nomura, Atsushi Kikutani, Atsushi Manabe, Atsushi Sato	第 57 回	日本小児血液・がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
自家末梢血幹細胞移植後に brentuximab vedotin による維持療法を施行した CD30 陽性未分化大細胞リンパ腫の小児例	血液・腫瘍内科	高藤 哲、石田敏章、川崎圭一郎、植村 優、二野菜々子、横井健人、斎藤敦郎、神前愛子、長谷川大一郎、小阪 嘉之	第 57 回	日本小児血液・がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
治療初期の放射線照射と肉腫型化学療法法の併用が有効であった急速進行性 AT/RT の 1 例	血液・腫瘍内科	横井健人 石田敏章 二野菜々子 高藤 哲 植村 優 斎藤敦郎 神前愛子 長谷川大一郎 河村淳史 川崎圭一郎 長嶋達也 小阪嘉之	第 57 回	日本小児血液・がん学会総会	甲府市	2015.11.27-29
シンポジウム教育セッション 小児血液疾患における rTM の役割	血液・腫瘍内科	小阪嘉之	第 57 回	日本小児血液・がん学会総会	甲府市	2015.11.27
播種性 Fusarium solani 感染症を合併した急性リンパ性白血病の一例	血液・腫瘍内科	斎藤敦郎、植村 優、長谷川 大一郎、横井 健人、高藤 哲、二野 菜々子、神前 愛子、石田 敏章、川崎 圭一郎、小阪 嘉之	第 75 回	兵庫県白血病懇話会	神戸市	2015.12.12
発症時ネフローゼ症候群を呈する小児 IgA 腎症 (NS-Ig AN) の検討	腎臓内科	島 友子、中西 浩一、濱 武継、佐藤 匡、向山 弘展、戸川 寛子、貝藤裕史、野津 寛大、田中 亮二郎、飯島 一誠、吉川 徳茂	第 38 回	IgA 腎症研究会	東京	2015.1.24
妊娠中にアゾンジオオテラシン I I 受容体拮抗剤 (ARB) を内服していた母体から出生し、胎児病 (fetopathy) が疑われた 1 例	腎臓内科	中西 啓太、白鳥 孝俊、中川 拓、神田 杏子、吉田 牧子、生田 寿彦、芳本 誠司、田中 亮二郎	第 265 回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2015.5.30
小児ネフローゼ症候群におけるミゾリピンの薬物動態に関する検討	腎臓内科	神田 杏子、白鳥 孝俊、中川 拓、田中 亮二郎	第 58 回	日本腎臓学会学術総会	名古屋	2015.6.5-7
小児特発性膜性腎症と PLA2R の関係	腎臓内科	中川 拓、白鳥 孝俊、神田 杏子、田中 亮二郎	第 58 回	日本腎臓学会学術総会	名古屋	2015.6.5-7
当院におけるびまん性メサネフログラム細胞増殖の臨床像	腎臓内科	白鳥 孝俊、中川 拓、神田 杏子、田中 亮二郎	第 58 回	日本腎臓学会学術総会	名古屋	2015.6.5-7

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
発症時ネフローゼ症候群を呈する小児IgA腎症 (NS-IgAN) の検討	腎臓内科	島友子、中西浩一、濱武継、佐藤匡、向山弘展、戸川寛子、目藤裕史、野津亮二、飯島一誠、吉川徳茂	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
日本人における早産低出生体重児と小児期発症慢性腎臓病の関連	腎臓内科	平野大志、石倉健司、上村治、瀧崎祐子、中井秀郎、伊藤亮一、原涼子、服部元史、大橋靖雄、田中亮二、中西浩一、金子徹治、飯島一誠、本田雅敏	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
小児特発性膜性腎症とPLA2Rの関連	腎臓内科	中川拓、白鳥孝俊、神田杏子、吉田牧子、忍頂寺毅史、野津寛大、飯島一誠、原重雄、田中亮二	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
当院におけるびまん性メサネフログロム細胞増殖の臨床像	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
小児ネフローゼ症候群におけるミゾリピンの薬物動態に関する検討	腎臓内科	神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、田中亮二	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
神戸市における8歳児検尿による先天性腎尿路奇形早期発見の試み～中間報告～	腎臓内科	田中亮二、本田雅敏	第50回	日本小児腎臓病学会学術集会	神戸	2015.6.18-20
腎臓内科領域での移行期医療の現状について	腎臓内科	神田杏子、吉矢邦彦、宮本幹、田中亮二、原章二	第60回	日本透析医学会学術集会・総会	横浜	2015.6.26-28
家族内で同時期に紫斑病性腎炎 (HSPN) を発症した3症例	腎臓内科	神田杏子、白鳥孝俊、中川拓、港敏則、田中亮二	第266回	日本小児科学会兵庫県地方会	姫路	2015.9.26
Comprehensive analysis for CAKUT with target gene sequencing panel	腎臓内科	森貞直哉、庄野朱美、野津寛大、叶明娟、神田祥一郎、井藤奈央子、亀井宏一、伊藤秀一、山本勝輔、里村徹一、田中亮二、西尾久英、飯島一誠	第60回	日本人類遺伝学会	東京	2015.10.14-17
Childhood IgA nephropathy with nephrotic syndrome (NS-IgAN) at onset	腎臓内科	Yuko Shima, Koichi Nakanishi, Taketsugu Hama, Masashi Sato, Hironobu Mukaiyama, Hiroko Togawa, Hiroshi Kaito, Kandai Nozu, Ryojiro Tanaka, Kazumoto Iijima, Norishige Yoshikawa		American Society of Nephrology, Annual Meeting and Scientific Exposition	San Diego, USA	Nov 5-8, 2015
Alagille 症候群を疑い、早期に腹膜透析を開始した1乳児例	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二	第37回	日本小児腎不全学会学術集会	石川	2015.11.26,27
初発の特発性小児ネフローゼ症候群に対するブレドニゾロンによる眼圧への影響と薬学的介入	腎臓内科	愛甲佳未、羽井佳奈、坂本有里恵、三輪祐太郎、上田里恵、福井由美子、田中亮二、加古学	第37回	日本小児腎不全学会学術集会	石川	2015.11.26,27
Alagille 症候群を疑い、早期に腹膜透析を開始した1乳児例	腎臓内科	白鳥孝俊、中川拓、神田杏子、田中亮二	第21回	日本腹膜透析学会	仙台	2015.11.28,29

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
外科的治療を要した小児気管狭窄症の全国調査	外科	前田眞作	第26回	日本小児呼吸器学会	倉敷	2015.10.23-24
重症先天性気管狭窄症に対する診断と治療	小児外科	前田眞作	第51回	日本小児周産期新生児学会総会	福岡	2015.7.10-12
IDRF 陽性化学療法不応性の low-risk 神経芽細胞腫の一例	外科	横井 暁子、玉城 昭彦、二野 菜々子、斉藤 敦郎、長谷川 大一郎、赤坂 好宣、吉田 牧子、前田 眞作、福澤 宏明、遠藤 耕介、大川 祐一、森田 圭一、三島 泰彦、小阪 嘉之	第57回	日本小児血液・がん学会	山梨	2015.11.27-29
新生児短腸症の最前線 消化管機能障害を有する低出生体重児の短腸症候群に対する戦略	外科	横井 暁子、低出生体重児消化管機能障害の疾患概念確立にむけた疫学調査研究班	第51回	日本小児周産期新生児学会総会	福岡	2015.7.10-12
先天性気管狭窄症における予後因子の検討	外科	横井 暁子、玉城 昭彦、武本 淳吉、森田 圭一、岩出 珠幾、大川 祐一、遠藤 耕介、福澤 宏明、尾藤 祐子、前田 眞作、西島 栄治	第52回	日本小児外科学会総会	神戸	2015.5.28 -30
先天性横隔膜ヘルニア、幽門閉鎖に対して外科治療を行った臓器位置異常を伴う 8 trisomy の一例	外科	尾藤 祐子、大川 祐一、遠藤 耕介、岩出 珠幾、武本 淳吉、福澤 宏明、横井 暁子、前田 眞作、佐藤 有美	第51回	日本小児周産期新生児学会総会	福岡	2015.7.10-12
急性虫垂炎、腸重積、メッケル憩室	小児外科	福澤宏明	第31回	日本小児外科学会卒後教育セミナー	神戸	2015.5.30-31
先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡手術と開腹手術の短期成績—同一施設の同一期間における比較—	小児外科	福澤宏明	第52回	日本小児外科学会総会	神戸	2015.5.28 -30
がま腫に類似した特異な小児下顎類比嚢胞	小児外科	福澤宏明	第52回	日本小児外科学会総会	神戸	2015.5.28 -30
胆道穿孔をきたした先天性胆道拡張症における膽管胆管合流形態の検討	小児外科	福澤宏明	第115回	日本外科学会総会	名古屋	2015.4.16 - 18
小児胆・胆管合流異常における共通管の拡張は分流手術後も残存する	小児外科	福澤宏明	第38回	日本胆・胆道合流異常研究会	新潟	2015.9.12
どのように技術認定を取得したか —成人外科から見た小児内視鏡手術—	小児外科	福澤宏明	第28回	日本内視鏡外科学会総会	大阪	2015.12.10 - 12
小児下顎嚢胞性疾患に対する嚢胞内視鏡検査	小児外科	福澤宏明	第28回	日本内視鏡外科学会総会	大阪	2015.12.10 - 13
胸腔羊水腔シャントチューブ留置後の胸腔内遺残カテーテル摘出術に関する検討	小児外科	大川 祐一、玉城 昭彦、武本 淳吉、森田 圭一、岩出 珠幾、遠藤 耕介、福澤 宏明、尾藤 祐子、横井 暁子、牧志 綾、喜吉 賢二、芳本 誠司、中尾 秀人、前田 眞作	第51回	日本小児周産期新生児学会総会	福岡	2015.7.10-12

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
小児気管・気管支軟化症の重症度に関連する因子とその予後に関する後方視的検討	小児外科	大片祐一、尾藤祐子、森田圭一、玉城昭彦、武本淳吉、岩出珠幾、遠藤耕介、福澤宏明、長谷川智巳、大嶋義博、横井暁子、前田貢作	第52回	日本小児外科学会総会	神戸	2015.5.28 -30
硬性気管支鏡下に粘液栓除去術を行った plastic bronchitis (鏝型気管支炎) の2例	小児外科	大片祐一、前田貢作、三島泰彦、玉置昭彦、森田圭一、遠藤耕介、久松千恵子、福澤宏明、横井暁子、祖父江俊樹、富永健太、田中敏克	第26回	小児呼吸器外科研究会	倉敷	2015.10.24
化学療法が著効し、根治切除術が可能となった心房内腫瘍を伴う肝芽腫の1例	小児外科	遠藤耕介	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸	2015.5.29
当院における進行肝芽腫症例の後方視的検討	小児外科	遠藤耕介	第53回	日本小児外科学会 学術集会	神戸	2015.5.29
術前腹部USでは否定的と考えられたが、術中胆道造影にて確定診断に至った胆道閉鎖症の1例	小児外科	遠藤耕介	第42回	胆道閉鎖症研究会	東京	2015.11.07
当施設で長期管理を行っている congenital hypogangltonosis の1例	小児外科	森田圭一、尾藤祐子、福澤宏明、大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、玉城昭彦、前田貢作	第30回	日本静脈経腸栄養 学会学術集会	神戸	2015.2.12
後天性声門下空狭管症に対する喉頭気管形成術の手術成績	小児外科	森田圭一、尾藤祐子、福澤宏明、大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、玉城昭彦、前田貢作	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸	2015.5.30
ビデオ喉頭内視鏡を用いて切除を行った後天性声門下嚢胞の1例	小児外科	森田圭一、横井暁子、尾藤祐子、福澤宏明、大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、玉城昭彦、前田貢作	第48回	日本小児呼吸器学会	倉敷	2015.10.23
ビデオ喉頭内視鏡を用いて切除を行った後天性声門下嚢胞の1例	小児外科	森田圭一、横井暁子、尾藤祐子、福澤宏明、大片祐一、岩出珠幾、遠藤耕介、武本淳吉、玉城昭彦、前田貢作	第35回	日本小児内視鏡・手術 手技研究会	熊本	2015.10.29
ショック状態で搬送された小腸軸捻転の1救命例	外科	玉城昭彦	264	日本小児科学会 兵庫県地方会	尼崎市	2015.2.14
気管形成の術後鎮静管理における抑肝散の使用経験	外科	玉城昭彦	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸市	2015.5.28
胸腔鏡下に切除しえた上縦隔発生の限局型キヤッサルマン病の1例	外科	玉城昭彦	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸市	2015.5.29
治療に難渋している顔面頸部リンパ管腫の1例	外科	玉城昭彦	第31回	日本小児外科学会 秋期シンポジウム	熊本市	2015.10.31
心肺蘇生後に発症した乳児特発性結腸破裂の1例	小児外科	三島泰彦	第51回	日本小児外科学会 近畿地方会	京都	2015.8.22
急性虫垂炎に対する単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術の有用性	小児外科	三島泰彦	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸	2015.5.28-30

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
体肺動脈短絡術の術後管理における下行大動脈拡張期逆行性血流測定の有用性	心臓血管外科・循環器科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、田中敏克	第 45 回	日本心臓血管外科学会学術総会	京都	2015.2.16
小児大動脈弁形成術の遠隔成績	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、山口眞弘、大北裕	第 45 回	日本心臓血管外科学会学術総会	京都	2015.2.16
左心低形成症候群における肺動脈狭窄のリスク因子と臨床的影響	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田脩、岩城隆馬	第 45 回	日本心臓血管外科学会学術総会	京都	2015.2.16-18
300g 台の超低出生体重児に対する動脈管手術の経験	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、中尾秀人、芳本誠司	第 264 回	日本小児科学会兵庫県地方会	尼崎	2015.2.14
成人期右室流出路再手術に伴う合併症	心臓血管外科・循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、田中敏克、城戸佐知子	第 29 回	日本小児循環器学会近畿・中四国地方会	大阪	2015.3.8
Clinical outcome of in ventricular patients associated with airway obstructions	心臓血管外科	A. Maruo, Y. Oshima, T. Hasegawa, H. Matsuhisa, R. Noda, R. Iwaki, S. Matsushima	第 23 回	Annual meeting of the Asian society for cardiovascular and thoracic surgery	香港	2015.5.11-14
パッチ補填 modified Warden 手術の成績	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第 58 回	日本胸部外科学会関西地方会	岡山	2015.6.12-13
先天性気管狭窄症手術における換気補助手段に関する検討	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介	第 58 回	関西胸部外科学会学術集会	岡山	2015.6.13
ECMO 補助中に左前胸部小切開アプローチによる左房脱血追加を行った激症型心筋炎の 1 例	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田脩、岩城隆馬、松島峻介	第 58 回	関西胸部外科学会学術集会	岡山	2015.6.12
小児右室流出路再建におけるウシ由来弁付グラフト“コンテグラ”の使用経験	心臓血管外科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第 65 回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2015.6.26
学術総会内での女性医師セッション、やめませんか？	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介	第 44 回	日本小児循環器学会総会	東京	2015.7.16-18
Recent results of TAPVC in univentricular patients with heterotaxy syndrome	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介	第 50 回	日本小児循環器学会総会	東京	2015.7.16-18
当院における PAIVS に対する治療戦略の変遷	心臓血管外科・循環器科	長谷川智巳、大嶋義博、圓尾文子、松久弘典、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、田中敏克、亀井直哉、雪本千恵	第 51 回	日本小児循環器学会総会学術集会	東京	2015.7.18
小児期先天性大動脈弁狭窄症に対する遠隔成績	心臓血管外科・循環器科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、野田脩、岩城隆馬、松島峻介、田中敏克、城戸佐知子、山口眞弘	第 51 回	日本小児循環器学会総会学術集会	東京	2015.7.17

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
ECMO 補助におけるカニュレーション部位別の問題と工夫	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、野田怡、岩城隆馬	第 51 回	日本小児循環器学会 総会学術集会	東京	2015.7.16-18
広範な左室-冠動脈結合を有する HLHS に対する Beating-Heart Surgery	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第 15 回	小児心臓手術手技研究会	東京	2015.7.16
心室中隔欠損を伴わない肺動脈欠損の 1 例	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子、田中敏克、亀井直敬、三木康暢	第 266 回	日本小児科学会 兵庫県地方会	姫路	2015.9.26
Recent results of univentricular patients with heterotaxy syndrome	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第 68 回	日本胸部外科学会	神戸	2015.10.17-20
Results of Surgery for Truncus Arteriosus based on Primary Repair Strategy	心臓血管外科	圓尾文子、大嶋義博、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第 68 回	日本胸部外科学会	神戸	2015.10.17-20
TAPVC における肺静脈還流スペース：MDC1 による検討	心臓血管外科	松久弘典、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、岩城隆馬、松島峻介、山本真由子	第 68 回	日本胸部外科学会 定期学術集会	神戸	2015.10.18
Yasui 手術における心内修復の至適時期と右室流出路前方 V 字再建の有用性	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第 68 回	日本胸部外科学会 定期学術集会	神戸	2015.10.17-20
先天性僧帽弁狭窄症の早期乳児例	心臓血管外科	松島峻介、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、山本真由子	第 60 回	神戸心臓外科研究会	神戸	2015.11.4
体肺動脈短絡術後における下行大動脈拡張期逆行性血流測定の有用性	心臓血管外科・ 循環器科	長谷川智巳、田中敏克、大嶋義博、富永健太、佐藤有美、祖父江俊樹	第 1 回	日本小児循環器 集中治療研究会	静岡	2015.11.14
公開セミナー 全国心臓病の子どもを守る会兵庫県支部設立 50 周年記念事業 講演会 子どもの心臓手術の今	心臓血管外科	大嶋義博			神戸	2015.11.15
先天性横隔膜ヘルニアを合併した左心低形成症候群の 1 例	心臓血管外科	山本真由子、大嶋義博、圓尾文子、長谷川智巳、松久弘典、岩城隆馬、松島峻介	第 66 回	兵庫県心臓外科懇話会	神戸	2015.11.27
Long-term results of arterial switch operation for transposition of the great artery and aortic arch obstruction	心臓血管外科	Matsuhisa H, Oshima Y, Maruo A, Hasegawa T, Iwaki R, Matsushima S, Yamamoto M, Yamaguchi M		World Society of Pediatric and Congenital Heart Surgery Kyoto Symposium	Kyoto	2015.11.28
小児脳腫瘍について	脳神経外科	河村淳史	第 6 回	脳腫瘍患者・家族のための勉強会 in 関西	大阪	2015.2.7
経鼻内視鏡手術における narrow band imaging の有用性	脳神経外科	阿久津宣行	第 11 回	警視倶楽部	名古屋	2015.3.14

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
Treatment of Infantile Brain Tumors	Dept. of Neurosurgery	Tatsuya Nagashima	1st	Congress of Asian-Australasian Society for Pediatric Neurosurgery and Inaugural Meeting	Taipei	2015.3.20
小児脳梗塞の検討	脳神経外科	阿久津宣行	第40回	日本脳卒中学会総会	広島	2015.3.27
外減圧を必要とした小児脳梗塞の1例	脳神経外科	阿久津宣行	第69回	日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会	大阪	2015.4.18
出生時より認めた希少な腰仙部未熟奇形腫の1例	脳神経外科	山川皓	第69回	日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会	大阪	2015.4.18
当施設における退形成髄芽腫の治療と予後	脳神経外科	河村淳史	第12回	神戸脳腫瘍 カンファレンス	神戸	2015.4.28
小児もやもや病に対する間接的血行再建術	脳神経外科	阿久津宣行	第43回	日本小児神経 外科学会学術集会	下関	2015.6.12
当施設における1歳未満の後頭蓋窩奇形腫に対する治療経験	脳神経外科	河村淳史	第43回	日本小児神経 外科学会学術集会	下関	2015.6.13
脊髄腫瘍修復術後水頭症患児のシャント機能不全についての検討	脳神経外科	大塚邦紀	第43回	日本小児神経 外科学会学術集会	下関	2015.6.13
皮膚異常を伴わない脊髄脂肪腫についての検討	脳神経外科	大塚邦紀	第32回	日本二分脊椎研究会	大阪	2015.7.4
小児に発症した稀少な Epithelioid glioblastoma	脳神経外科	松尾和哉	第45回	兵庫県脳神経 外科医懇話会	神戸	2015.7.11
少子化時代のこども病院と小児脳神経外科	脳神経外科	長嶋達也	第30回	日本脳神経外科 国際フォーラム	淡路	2015.7.24
小児脳腫瘍の治療	脳神経外科	長嶋達也	第20回	四国脳神経外科 カンファレンス	普通寺	2015.8.22
小児に発症した Epithelioid glioblastoma の1例	脳神経外科	松尾和哉	第70回	日本脳神経外科学会 近畿支部学術集会	大阪	2015.9.5
皮膚異常を伴わない脊髄脂肪腫についての検討	脳神経外科	大塚邦紀	第13回	兵庫県立病院学会	西宮	2015.9.5

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
若年性一側上肢筋萎縮症の一手術例	脳神経外科	阿久津宣行	第72回	近畿青靱外科研究会	大阪	2015.10.3
非外傷性小児脳内出血症例の検討	脳神経外科	大塚邦紀	第74回	日本脳神経外科学会 学術総会	札幌	2015.10.14
当施設における退形成髄芽腫の治療経験	脳神経外科	河村淳史	第74回	日本脳神経外科学会 学術総会	札幌	2015.10.14
2歳未満児の慢性硬膜下血腫に対する穿頭血腫除去術の再手術率	脳神経外科	松尾和哉	第74回	日本脳神経外科学会 学術総会	札幌	2015.10.15
透明中隔穿孔を認めた新生児脳室内出血後の片側性水頭症の一例	脳神経外科	阿久津宣行	第22回	日本神経内視鏡学会 学術集会	仙台	2015.11.5
小児鞍上部くも膜嚢胞—Ventriculocystostomyの有効性—	脳神経外科	大塚邦紀	第22回	日本神経内視鏡学会 学術集会	仙台	2015.11.6
当施設における1歳未満の後頭蓋窩奇形腫に対する治療	脳神経外科	河村淳史	第57回	日本小児血液・ がん学会学術集会	甲府	2015.11.27
脊髄外科との境界領域の手術についての検討	脳神経外科	長嶋達也	第34回	日本こども病院神経 外科医会	新潟	2015.11.28
1歳未満の後頭蓋窩未熟奇形腫に対する治療と予後	脳神経外科	河村淳史	第33回	日本脳腫瘍学会学術集会	京都	2015.12.6
2012年から2015年の間に当院で経験した小児後頭蓋窩腫瘍の特徴	脳神経外科	山口 陽二	2015年度	神戸大学医学部脳神経 外科同門会学術集会	神戸	2015.12.13
扁桃腺摘出後鼻咽腔狭窄の一例	形成外科	進来壘、大山知樹、森本萌恵	第108回	関西形成外科科学会	大阪	2018/12/22
皮膚瘻死を生じた小児点滴漏れの3例	形成外科	進来壘、大山知樹、池村光之介	第109回	関西形成外科科学会	京都	2019/3/9
Experiences of secondary Furlow's palatoplasty after velar adhesion in cleft lip and palate patients	形成外科	Rui Suzuki Tomoki Oyama Kounosuke Ikemura	16th	Congress of international society of craniofacial surgery	Chiba	2019/9/15
先天性内反足 —保存治療可能な症例の予測因子—	整形外科	薩摩真一、小林大介、衣笠真紀、武岡由樹	88	日本整形外科学会	神戸	2015/5/21-5/24
Comparison of the result of treatment between the Ponsseti method and the conventional method for congenital club foot	整形外科	Shinichi Satsuma, Daisuke Kobayashi, Maki kinugasa		APPOS	香港	2015.6.5-7

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
不安定性大腿骨頭すべり症治療の現状と今！やるべきこと！	整形外科	薩摩真一	54	日本小児股関節研究会	東京	2015.6.26-27
小児扁平足の手術療法	整形外科	薩摩真一、茨木一行、小林大介、坂田亮介	40	日本足の外科学会	千葉	2015.10.29-30
先天性内反足の治療—なぜ今 Ponseti 法なのか—	整形外科	薩摩真一		沖縄整形外科フォーラム	沖縄	2015.6.1
歩容異常をきたす学童期整形外科疾患とその対応	整形外科	薩摩真一		北播磨運動器疾患研究会	小野	2015.11.14
歩き方や姿勢が気になったらどう対応すればよい？	整形外科	薩摩真一		園医・校医と養護教諭の懇談会	神戸	2015.11.26
Iwamoto-Fujii Ambassador 2015 の報告	整形外科	小林大介	26 回	日本小児整形外科学会	岐阜	2015.12.4-5
臼蓋形成不全の自然経過 一片側性脱臼の健側を利用した検討—	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀	54 回	日本小児股関節研究会	東京	2015.6.26-27
腓骨列形成不全に対する下腿延長術の問題点	整形外科	小林大介、薩摩真一、衣笠真紀、武岡由樹	28 回	日本創外固定、骨延長学会	東京	2015.3.20 - 21
軽微な外力により頸椎不安定性を生じた 1 例	整形外科	武岡由樹、宇野耕吉、薩摩真一、小林大介、鈴木哲平、衣笠真紀	第 55 回	近畿小児整形外科懇話会	奈良	2015.1.24
繰り返し橈骨頭脱臼を生じた Ollier 病の一例	整形外科	武岡由樹、小林大介、薩摩真一、衣笠真紀	第 28 回	日本創外固定・骨延長学会	東京	2015.3.20-3.21
両側股関節脱臼の 2 例	整形外科	茨木一行、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第 54 回	日本小児股関節研究会	東京	2015.6.26
外反扁平足に対し観血的治療を行った 1 例	整形外科	茨木一行、薩摩真一、小林大介、衣笠真紀	第 56 回	近畿小児整形外科懇話会	大阪	2015.7.25
Ponseti 法後の遺残変形・再発に対する手術療法	整形外科	茨木一行、薩摩真一、小林大介、坂田亮介	第 26 回	日本小児整形外科学会	岐阜	2015.12.5
知らないではすまされない小児整形外科疾患 — 診断と治療 —	整形外科	小林大介		鳥取県整形外科勤務医会学術講演会	米子	2015.2.21
眼位性眼振に対する Anderson 法の治療成績	眼科	前田祥史、徳永敬司、柳沢翠芳、野村耕治	第 71 回	日本弱視斜視学会	神戸	2015.7.4

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
当院における最近3年間の未熟児網膜症の診療状況	眼科	柳沢翠芳、徳永敬司、前田祥史、野村耕治	第40回	日本小児眼科学会	神戸	2015.7.4
弱視の診断と治療	眼科	野村耕治	第358回	熊本県眼科医会研修会	熊本	2015.9.5
兵庫県立こども病院における軽中等度難聴児補聴器購入費助成制度の現況	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一	第179回	日本耳鼻咽喉科学会兵庫県地方部会学術講演会	姫路	2015.03.29
当科における軽中等度難聴児補聴器購入費助成制度の現況	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一	第10回	日本小児耳鼻咽喉科学会	軽井沢	2015.05.08-09
哺乳期に経口摂取中断を余儀なくされた先天性心疾患児に対する哺乳・経口再開支援の経験	耳鼻咽喉科	住友亜佐子、小松岳、仲宗根幸子、雪本千恵、阪本浩一、大津雅秀	第16回	日本語聴覚学会	仙台	2015.06.26-27
VF評価を利用し哺乳支援を行った無舌症と口峡の狭小を呈した乳児例	耳鼻咽喉科	小松岳、住友亜佐子、仲宗根幸子、高木のぶ子、森岡江里、田中義之、和田佳子、阪本浩一、大津雅秀	第16回	日本語聴覚学会	仙台	2015.06.26-27
兵庫県立こども病院における軽中等度難聴児補聴器購入費助成制度の現況	耳鼻咽喉科	大津雅秀、阪本浩一、住友亜佐子、小松岳、仲宗根幸子、北畑奈緒	第13回	県立病院学会学会	神戸	2015.09.05
軽中度難聴児補聴器購入費助成制度開始に伴う補聴器外来の見直し	耳鼻咽喉科	住友亜佐子、小松岳、仲宗根幸子、北畑奈緒、阪本浩一、大津雅秀	第13回	県立病院学会学会	神戸	2015.09.05
難乳中期に頭部外傷により摂食嚥下障害を呈した乳児例	耳鼻咽喉科	小松岳、住友亜佐子、仲宗根幸子、北畑奈緒、中田潔樹、竹田洋樹、河村淳史、阪本浩一、大津雅秀	第13回	県立病院学会学会	神戸	2015.09.05
発見が遅れた中等度・高度難聴児への対応と言語発達の一考察	耳鼻咽喉科	仲宗根幸子、住友亜佐子、小松岳、北畑奈緒、阪本浩一、大津雅秀	第13回	県立病院学会学会	神戸	2015.09.05
無舌症と口峡の狭小を呈した乳児に対する哺乳支援の経験	耳鼻咽喉科	小松岳、住友亜佐子、高木のぶ子、田中義之、和田佳子、阪本浩一、大津雅秀	第21回	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	京都	2015.09.11-12
新生児期及び乳幼児健診における聴覚検査の意義について	耳鼻咽喉科	大津雅秀	平成26年度	新生児聴覚検査医師等研修会	神戸市	2015.12.24
精密聴力検査の実際と難聴の治療	耳鼻咽喉科	大津雅秀	平成26年度	新生児聴覚検査医師等研修会	神戸市	2015.12.24
乳幼児聴力検査におけるSTの視点～長期ビジョンを踏まえて～	耳鼻咽喉科	住友亜佐子	平成26年度	新生児聴覚検査医師等研修会	神戸市	2015.12.24
こどもの耳の病気	耳鼻咽喉科	阪本浩一	平成27年	耳の日の講演会	加古川	2015.3.7

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
喉頭アレルギー診断基準の有用性と問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一、古閑紀雄、寛島ゆりえ	第27回	日本喉頭科学会	東京	2015.4.9-10
当科における3歳未満の扁桃腺アブノイド手術の現況	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第10回	日本小児耳鼻科学会	軽井沢	2015.5.8-9
ADHAを伴う小児心因性難聴の3例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第116回	日本耳鼻咽喉科	東京	2015.5.21-23
パネルディスカッション「小児OSA手術の現状と展望：診断・手術適応から術後フォローまで」兵庫県立こども病院耳鼻咽喉科での現状	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第4回	Sleep Surgery 研究会	大阪	2015.9.11
学童期の難聴について：滲出性中耳炎と心因性難聴	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第13回	東播耳鼻科研究会	加古川	2015.9.17
ミトコンドリアDNA7445変異を伴った中等度感音難聴の1例	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第25回	日本耳鼻科学会	長崎	2015.10.8-10
喉頭アレルギーの鑑別診断：慢性咳嗽・咽喉頭異常感を訴え耳鼻咽喉科外来を受診した症例より	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第17回	日本咳嗽研究会	大阪	2015.10.10
発見の遅れた中等度高度感音難聴児の問題点	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第60回	日本音声言語医学会	名古屋	2015.10.15-16
心因性難聴に感音難聴の合併した小児例	耳鼻咽喉科	阪本浩一、大津雅秀	第60回	日本聴覚医学会	東京	2015.10.22-23
アレルギーの最新治療：鼻のアレルギー・喉のアレルギー：スギ花粉症の積極的最近治療「舌下免疫療法」	耳鼻咽喉科	阪本浩一	第7回	県かこ県民フォーラム	加古川	2015.11.7
小児に対する膀胱皮膚瘻造設 - 当科における15年の経験	泌尿器科	久松英治・清末晶子・奈良健平・中川賀清・杉多良文	第103回	日本泌尿器科学会総会	金沢市	2015.4.20
Covered cloacal exstrophy に伴う膀胱内陰茎に対する手術経験	泌尿器科	清末晶子・久松英治・奈良健平・杉多良文	第103回	日本泌尿器科学会総会	金沢市	2015.4.20
小児性腺の救急 ～急性陰嚢症～	泌尿器科	杉多良文	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸市	2015.5.28
骨盤内に位置した腎盂尿管移行部通過障害に対して下腹部横切開による腎盂形成術を行った3例	泌尿器科	中川賀清・清末晶子・奈良健平・久松英治・杉多良文	第52回	日本小児外科学会 学術集会	神戸市	2015.5.30
小児利尿レノグラムにおける Post micturition image の経験	泌尿器科	清末晶子・奈良健平・久松英治・中川賀清・杉多良文	第24回	日本小児泌尿器科 学会総会	東京都	2015.7.2

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
腸管利用尿路再建術後の尿路結石の検討	泌尿器科	奈良健平・清末晶子・久松英治・中川賀清・杉多良文	第24回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2015.7.2
包皮肉様膜を用いて free graft を包む尿道下裂修復術の近位尿道下裂に対する成績	泌尿器科	杉多良文・中川賀清・清末晶子・奈良健平・久松英治	第24回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2015.7.3
小児に対する膀胱皮膚瘻造設：当科における15年の経験	泌尿器科	久松英治・清末晶子・奈良健平・中川賀清・杉多良文	第24回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2015.7.3
インフォームドコンセントを極めるーどんな難しい手術でも両親に安心してもらいます	泌尿器科	杉多良文	第24回	日本小児泌尿器科学会総会	東京都	2015.7.3
包皮肉様膜を用いて free graft を包む尿道下裂修復術の近位尿道下裂に対する成績	泌尿器科	杉多良文・清末晶子・奈良健平・中川賀清	第65回	日本泌尿器科学会中部総会	岐阜市	2015.10.24
小児利尿レノグラムにおける Post micturition image の経験	泌尿器科	清末晶子・久松英治・奈良健平・中川賀清・杉多良文	第65回	日本泌尿器科学会中部総会	岐阜市	2015.10.24
外来で遭遇する小児泌尿器疾患 - 水腎症 -	泌尿器科	杉多良文・清末晶子・奈良健平・中川賀清	第65回	日本泌尿器科学会中部総会	岐阜市	2015.10.25
小児の神経ブロック～基本的なブロックの実際～	麻酔科	香川哲郎	15	麻酔科学インターセミナー	北海道	2015.2.6
小児の胸部傍脊椎ブロックにおいてロピバカイン注 入後に心停止を起こした一例	麻酔科	山根悠、香川哲郎	2	日本区域麻酔学会	高崎	2015.4.25
下腿延長術（イリザロフ法）に対する術後鎮痛法の 変遷ー7年間、62例の経験	麻酔科	末田彩、香川哲郎、鈴木毅、大西広泰、池島典之、上北郁男、山根悠	2	日本区域麻酔学会	高崎	2015.4.25
先天性内反足手術に対する単回末梢神経ブロックの 効果消失後の疼痛・・・術式別検討	麻酔科	上北郁男、山根悠、末田彩、池島典之、大西広泰、鈴木毅、香川哲郎	2	日本区域麻酔学会	高崎	2015.4.25
帝王切開術におけるくも膜下モルヒネ 100 μ g または 150 μ g 投与時の有害事象および鎮痛効果の比較	麻酔科	青木 保尚、鈴木毅、柘植 江里香、山根悠、香川 哲郎	62	日本麻酔科学会	神戸	2015.5.29
小児鼠径ヘルニアに対する腹横筋膜面ブロックのブ ロック施行位置による効果の検討	麻酔科	加藤 啓洋、末田 彩、大西 広泰、香川 哲郎	62	日本麻酔科学会	神戸	2015.5.28
Postoperative analgesia after lower limb distraction osteogenesis	麻酔科	末田彩		カナダ麻酔学会	オタワ	2015.6
小児用大容量低圧カフ付きチューブの使用経験	麻酔科	舟井優介、三浦由紀子、森悠、加藤啓洋、柘植江里香、香川哲郎	21	日本小児麻酔学会	東京	2015.8.30

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
エイプトレート® による骨端抑止術後の術後疼痛の要因とその対策について	麻酔科	上北郁男、藤原孝志、松波小百合、石橋直子、横田航志、金城永明、鈴木毅、香川哲郎	21	日本小児麻酔学会	東京	2015.8.29
Total cavopulmonary connection (TCPC) 術後患者の帝王切開の麻酔経験	麻酔科	柘植江里香、加藤啓洋、金城永明、池島典之	35	日本臨床麻酔学会	横浜	2015.10.21
総合周産期母子医療センターに胎児疾患にて母体搬送された児の合併疾患と急性期管理	新生児科	芳本誠司、生田寿彦、秋田大輔、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 118 回	日本小児科学会	大阪	2015.4.17-19
重症慢性肺疾患罹患児における心電図経時的変化	新生児科	芳本誠司、江口武志、生田寿彦、武岡恵美子、秋田大輔、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、中尾秀人	第 51 回	日本周産期新生児医学学会	福岡	2015.7.10-12
在宅酸素療法にて退院した重症慢性肺疾患罹患児の修正 1 歳 6 か月時予後	新生児科	芳本誠司、生田寿彦、武岡恵美子、浅野貴大、玉置祥子、大久保沙紀、坂井仁美、中尾秀人	第 51 回	日本周産期新生児医学学会	福岡	2015.7.10-12
精巣捻転症との鑑別が困難であった新生児副腎出血に合併した陰嚢血腫の一例	新生児科	和田佳子、福澤宏明、江口武志、生田寿彦、武岡恵美子、秋田大輔、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人、前田眞作	第 51 回	日本周産期新生児医学学会	福岡	2015.7.10-12
慢性肺疾患の増悪期におけるサーファクタント洗浄・補充療法の有効性	新生児科	秋田大輔、生田寿彦、江口武志、武岡恵美子、坂井仁美、和田佳子、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 51 回	日本周産期新生児医学学会	福岡	2015.7.10-12
母体硫酸マグネシウム投与が未熟動脈管閉存症に対するインドメタシン投与の治療効果に及ぼす影響	新生児科	玉置祥子、芳本誠司、生田寿彦、武岡恵美子、大久保沙紀、秋田大輔、坂井仁美、中尾秀人	第 60 回	日本新生児育成医学学会	盛岡	2015.10.23-25
無水カフェイン導入前後での当科の超早産児に対する無呼吸管理の変化	新生児科	大久保沙紀、坂井仁美、生田寿彦、武岡恵美子、玉置祥子、秋田大輔、芳本誠司、中尾秀人	第 60 回	日本新生児育成医学学会	盛岡	2015.10.23-25
大動脈縮窄症を合併した超低出生体重児の 1 救命例	新生児科	武岡恵美子、生田寿彦、玉置祥子、大久保沙紀、秋田大輔、坂井仁美、芳本誠司、中尾秀人	第 60 回	日本新生児育成医学学会	盛岡	2015.10.23-25
一絨毛膜二羊膜双胎一児死亡後の生存児に多嚢胞性脳軟化症と腎萎縮を認めた一例	新生児科	武岡恵美子、江口武志、生田寿彦、秋田大輔、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人	第 51 回	日本周産期新生児医学学会	福岡	2015.7.10-12
静脈一静脈方式体外式膜型人工肺により管理した先天性横隔膜ヘルニア 2 症例	新生児科	生田寿彦	第 265 回	日本小児科学会 兵庫県地方会	神戸	2015.5.30
胎児水腫で出生し、血球貪食制リンパ組織球症と診断した早産児の一例	新生児科	生田寿彦、矢内友子、植村優、秋田大輔、和田佳子、坂井仁美、溝淵雅巳、芳本誠司、中尾秀人、小坂嘉之	第 28 回	近畿小児科学会	大阪	2015.3.1
兵庫県の産科補償制度請求症例の発生状況	産科	船越徹		近畿産婦人科学会日産婦医学会 委員会母子保健部会	大阪	2015.2.7

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
妊娠 22～26 週に分娩となった症例の分析と超早産期の切迫早産管理	産科	船越徹	第 2 回	神戸市立医療センター 中央市民病院 総合周産期医療センター 一オナーカンファレンス	神戸	2015.2.14
平成 25 年兵庫県周産期医療システム母体紹介 ・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成 26 年度	家族計画・母体保護法 指導者 講習会に伴う伝達講習会	神戸	2015.2.22
妊娠 32 週に子宮破裂を来した腹腔鏡下子宮筋腫核出後妊娠の一例	産科	南谷智之、金子めぐみ、中澤浩志、牧志、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	平成 26 年度	周産期医療事例検討会	神戸	2015.2.28
平成 25 年兵庫県周産期医療システム母体紹介 ・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成 26 年度	周産期母子医療センター 連絡懇談会	神戸	2015.2.28
平成 25 年兵庫県周産期医療システム母体紹介 ・搬送情報提供書集計結果について	産科	船越徹	平成 26 年度	家族計画・母体保護法 指導者 講習会に伴う伝達講習会	尼崎	2015.3.5
早産と正期産における胎児心拍数波形 5 段階レベル分類と分娩監視の検討	産科	船越徹、内田明子、中澤浩志、南谷智之、牧志、船越 徹、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇	第 67 回	日本産科婦人科学会 学術講演会	横浜	2015.4.9-12
超緊急帝王切開—勤務帯による手術成績の速いとアシード—シスを呈する因子の抽出—	産科	中澤浩志、内田明子、南谷智之、牧志、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	第 67 回	日本産科婦人科学会 学術講演会	横浜	2015.4.9-12
Trisomy13,18,21 の発見契機に関する検討	産科	内田明子、中澤浩志、南谷智之、牧志、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越 徹	第 67 回	日本産科婦人科学会 学術講演会	横浜	2015.4.9-12
全新生児を対象とした尿サイトメガロウイルススクリーニングの臨床的有用性	産科	西田浩輔 1)、森岡一朗 1)、出口雅士 2)、谷村肇司 2)、平久進也 2)、梶名康彦 2)、船越 徹、大橋正伸 3)、山田秀人 2) 1) 神戸大学小児科 2) 神戸大産婦人科 3) なでしこレディースホスピタル	第 67 回	日本産科婦人科学会 学術講演会	横浜	2015.4.9-12
重症発育不全児における短期予後の出生前リスク層別化分類	産科	吉田 彩 1)、梅原永能 1)、笹原 淳 2)、小澤克典 3)、田中 啓 4)、種元智洋 5)、市塚清健 6)、石川浩史 7)、村越 毅 8)、喜吉賢二、石井桂介 2)、左合治彦 1) 1) 国立成育医療研究センター、2) 大阪府立母子保健総合医療センター、3) 宮城県立こども病院、4) 昭和 大、5) 杏林大、6) 慈恵医大、7) 神奈川県立こども医療センター、8) 聖隷浜松病院	第 67 回	日本産科婦人科学会 学術講演会	横浜	2015.4.9-12

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
重症発育不全児のSCA低身長発症頻度および周産期予後因子に関する後方視的コホート研究	産科	「重症胎児発育不全児の胎内管理指針の作成に関する研究」研究班 喜吉賢二、石井桂介、小澤克典、市塚清健、田中啓、種元智洋、左合治彦、梅原永能、吉田彩、石川浩史、村越毅、笹原淳	第67回	日本産科婦人科学会 術講演会	横浜	2015.4.9-12
The study of the fetal atrioventricular block	産科	T. Minamitani, M. Kaneko, H. Nakazawa, A. Makishi, Y. Takamatsu, K. Kiyoshi, T. Samoto, T. Funakoshi	24TH	ASIAN & OCEANIC CONGRESS OF OBSTETRICS & GYNAECOLOGY	Kuching, Malaysia	2015.6.3-6
胎盤胎児面から羊水腔に突出する充実性腫瘍を認めた緊急母体搬送の一例	産科	中澤浩志、金子めぐみ、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第89回	兵庫県産科婦人科学会 学術集会	神戸	2015.6.7
当院で行っている胎児治療	産科	金子めぐみ	第213回	こども病院症例検討会	神戸	2015.6.11
広範な前縦隔リンパ管腫の胎児期ならびに新生児期の画像診断	産科	中澤浩志、金子めぐみ、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第132回	近畿産科婦人科学会 学術集会	神戸	2015.6.27-28
診断に苦慮した妊娠32週子宮筋腫核出後子宮破裂の一例	産科	南谷智之、金子めぐみ、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第132回	近畿産科婦人科学会 学術集会	神戸	2015.6.27-28
過去10年間に当科で管理した妊娠22週以降の死産の検討	産科	船越徹	第132回	近畿産科婦人科学会 学術集会	神戸	2015.6.27-28
フォントーン手術後母体の周産期管理経験	産科	金子めぐみ、喜吉賢二、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第132回	近畿産科婦人科学会 学術集会	神戸	2015.6.27-28
過去10年間に当科で管理した妊娠22週以降の死産の検討	産科	船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12
75gOGTT施行理由の検討	産科	喜吉賢二、金子めぐみ、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12
胎児胸水に対する胸腔羊水腔シャント留置後に著明な胸郭変形をきたした一例	産科	牧志綾、金子めぐみ、中澤浩志、南谷智之、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12
切迫早産における硫酸マグネシウム長期投与中の母体血中マグネシウム濃度推定式の妥当性	産科	中澤浩志、金子めぐみ、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12
フォントーン術後母体の周産期管理経験	産科	金子めぐみ、喜吉賢二、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、佐本崇、船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12
当院で経験した胎児徐脈性不整脈の検討	産科	南谷智之、金子めぐみ、中澤浩志、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第51回	日本周産期新生児医学 学会学術集会	福岡	2015.7.10-12

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
新生児尿スクリーニングと抗ウイルス薬治療導入後の症候性先天性サイトメガロウイルス感染児の後遺症発生率	産科	西田浩輔 1)、森岡一朗 1)、香田 翼 1)、長坂美和子 1)、岩谷壮太 1)、出口雅士 2)、谷村憲司 2)、平久 進 2)、船越徹、大橋正伸 3)、飯島一誠 1)、山田秀人 2) 1) 神戸大学小児科 2) 神戸大産婦人科 3) なでしこレディースホスピタル	第 51 回	日本周産期新生児医学 会学術集会	福岡	2015.7.10-12
一絨毛膜胎盤を有する品胎妊娠における胎児間輸血症候群の頻度と周産期予後	産科	佐藤由佳 1)、石井桂介 1)、横山 妙 2)、喜吉賢二、中山聡一朗 3)、米谷直人 1)、光田信明 1)、村越 毅 2) 1) 大阪府立母子保健総合医療センター産科、 2) 聖隷浜松病院周産期科、 3) 徳島大学産婦人科	第 51 回	日本周産期新生児医学 会学術集会	福岡	2015.7.10-12
胸腔羊水腔シャントチューブ留置後の胸腔内遺残カテーテル摘出術に関する検討	産科	大片祐一 1)、武本淳吉 1)、遠藤 耕介 1)、岩出珠幾 1)、福澤宏明 1)、尾藤祐子 1)、横井 晴子 1)、喜吉賢二、芳本誠司 2)、中尾秀人 2)、前田眞作 1) 1) 兵庫県立こども病院外科、2) 同新生児科	第 51 回	周産期新生児医学会	福岡	2015.7.10-12
CTG の基礎と判読・分娩管理	産科	船越徹	2015 年度	周産期に携わる方のため の研修 兵庫県看護 協会	神戸	2015.9.18
高齢妊婦における Nulliparous women with a term, singleton baby in a vertex position delivered by cesarean section: NSTV の検討	産科	船越徹	第 133 回	近畿産科婦人科学会学 術集会 周産期研究部会	西宮	2015.10.25
胎児甲状腺腫における超音波診断および羊水中 TSH の有用性を示した一例	産科	金子めぐみ、佐本崇、中澤浩志、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、船越徹	第 38 回	日本母体胎児医学会	別府市	2015.10.29
MCA-PSV の上昇を認めず診断困難であった AFFH の一例	産科	南谷智之、金子めぐみ、中澤 浩志、河崎あさひ、森下 紀、牧志 綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本 崇、船越 徹	第 38 回	日本母体胎児医学会	別府市	2015.10.29
胎盤胎児面から羊水腔に突出する赤索性腫瘍を認められた緊急母体搬送の 1 例；超音波検査と胎盤病理検査の有用性	産科	中澤浩志、金子めぐみ、河崎あさひ、森下紀、南谷智之、牧志綾、高松祐幸、喜吉賢二、佐本崇、船越徹	第 38 回	日本母体胎児医学会	別府市	2015.10.29
The same disorder: clinical differences between pediatric cases and adult cases	Department of radiology	Y. Akasaka	15	asia oceanic society of pediatric radiology annual meeting	Tokyo	2015.6.10
小児の画像診断あれこれ：エコー検査を中心に	放射線科	赤坂好宣	42	TOY イメージフォーラム	京都	2015.6.5

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
両側網膜芽細胞腫治療中に発生した両側卵巣腫瘍の1例	1) 兵庫県立こども病院 病理診断科, 2) 同 小児外科, 3) 同 血液腫瘍科, 4) 同 放射線科	吉田牧子 1)、橋本興人 1)、大川祐一 2)、横井腕子 2)、二野菜々子 3)、斎藤敦郎 3)、長谷川大一郎 3)、赤坂好宣 4)	第 104 回	日本病理学会総会	名古屋	2015.4.30-5.2
胃腫瘍の1例	病理診断科	橋本興人、吉田牧子	2015 年度	日本小児腫瘍組織分類委員会症例検討会	東京	2015.8.28
巨大腹部腫瘍で発見された ganglioneuroblastoma の2例	病理診断科	吉田牧子、橋本興人	第 35 回	日本小児病理研究会	東京	2015.8.29
Epithelioid sarcoma の1例	兵庫県立こども病院 病理診断科 1)、脳神経外科 2)、血液腫瘍科 3)、放射線科 4)	吉田牧子 1)、河村淳史 2)、長嶋達也 2)、矢内友子 3)、植村慶 3)、川崎圭一郎 3)、小阪嘉之 3)、上原栄理子 4)、赤坂好宣 4)	第 74 回	関西小児病理研究会	大阪	2015.12.26
学童・思春期の慢性腎疾患児が捉える課題に対するセルフケア能力向上を促す看護介入	混合 B 病棟	栗林佑季	第 25 回	日本小児看護学会 学術集会	千葉市	2015.7.25 ~ 26
疾患や治療に対する関心に着目した看護介入によりセルフケア能力が向上した慢性腎疾患児の事例	混合 B 病棟	栗林佑季	第 29 回	日本小児 PD・HD 研究会	神戸市	2015.10.10
一般病棟における麻酔導入時のディストラクションの効果	看護部 7 階	奥田早苗・瀬戸純一・佐々木麻衣・刈谷友紀・宗和里美	第 12 回	兵庫県立病院学会分科会	神戸市	2015.9.5
DPNS 看護体制で中堅看護師の疲弊感を自己効力感に変化させる	看護部 7 階	宗和里美	第 47 回	日本看護学会 看護管理	福岡市	2015.9.8
A 病院 NICU における母乳育児支援の評価と課題	NICU	田村美季	第 25 回	日本新生児看護学会 学術集会	岩手	2015.10.24.25
Correlation of items of "Resilience Related to Illness Experiences" in school-aged children, adolescents and adults with congenital heart disease	看護部	Kaori Nio, Seiki Fujisawa, Masahiro Haraguchi, Hitomi Takada	第 4 回	World Academy of Nursing Science (WANS 世界看護科学学会)	Hannover, Germany	2015.10.14 ~ 10.17
低出生体重児のスキケア	看護部	鎌田直子	平成 26 年度	愛育会周産期医療研修会 NICU 編	岡山	2015.1.20
A 小児専門病院における医療関連機器圧迫創傷の現状	看護部	鎌田直子	第 12 回	日本褥瘡学会近畿地方会	大阪	2015.3.8
創傷管理の実際 (褥瘡予防・治療過程・ドレッシング材)	看護部	鎌田直子	第 20 回	日本小児ストーマ・排泄管理セミナー	新潟	2015.6.26

演題名	所属科	発表者名	第〇回	学会名	開催都市名	開催年月日
A 小児専門病院における超低出生体重児のストーマケアの実態調査	看護部	鎌田直子	第 29 回	日本小児ストーマ・排泄管理研究会	新潟	2015.6.27
Nursing Care and Medical Support for Incontinence Children	看護部	鎌田直子		International Children's Continence Society Educational course 2015	岐阜	2015.6.29
コンセンサスシンポジウム Medical Device Related Pressure Ulcer 予防・管理に関する対策指針策定に向けて 小児関連機器	看護部	鎌田直子	第 17 回	日本褥瘡学会	仙台	2015.8.29
小児のストーマケア	看護部	鎌田直子	平成27年度	山陽学園皮膚・排泄ケア認定看護師研修	岡山	2015.10.7
小児の失禁ケア	看護部	鎌田直子	平成27年度	山陽学園皮膚・排泄ケア認定看護師研修	岡山	2015.10.26
小児ストーマケア	看護部	鎌田直子	第 37 回	関西ストーマケア講習会	神戸	2015.10.25
看護ワークショップ がん化学療法を受ける子どもの皮膚障害への看護—快適なスキンケアを旨指す— がん化学療法を受ける子どもへの皮膚障害への看護～ 中心静脈カテーテル挿入部周囲皮膚炎のケア	看護部	鎌田直子	第 57 回	日本小児がん看護学会	甲府	2015・11・28
小児消化管ストーマ術前ケア	看護部	鎌田直子	第 6 回	近畿小児WOCケア勉強会	京都	2015.12.12
保育所におけるストーマ研修会の評価と課題	看護部	鎌田直子	第 26 回	近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	京都	2015.12.12
委託等業務職員を含む全職員を対象とした、流行性ウイルス感染症ワクチンプログラムの構築	感染対策委員会	鳴滝 由佳、竹田 洋樹、小阪 嘉之	第 30 回	日本環境感染症学会学術集会	神戸	2015.2.21
当院における新生児無呼吸症候群に対する無水カフェイン製剤の使用状況について	薬剤部	中山 淳司	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸	2015.9.5
カプセル抗がん剤溶解方法についての薬剤指導文書の有用性	薬剤部	永井 浩章	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸	2015.9.5
NICU における薬剤師活動について	薬剤部	三輪 祐太郎	第 54 回	自治体病院学会	札幌	2015.10.8
クロファラビン・エトポシド・シクロフォスファミド併用療法における副作用調査	薬剤部	赤松 則子	第 25 回	日本医療薬学会	横浜	2015.11.22

演題名	所属科	発表者名	第○回	学会名	開催都市名	開催年月日
初発の特発性小児ネフローゼ症候群に対するブレドニゾンによる眠圧への影響と薬学的介入	薬剤部	愛甲佳未	第 37 回	日本小児腎不全学会	石川	2015.11.26
小児がん化学療法におけるホスアプレピタントメグルミンの制吐効果と安全性について	薬剤部	蟬川由美	第 37 回	日本病院薬剤師会近畿学術	神戸	2016.1.24
こども病院における先天性 QT 延長症候群の精密検査について	検査放射線部	大島佳那子、橋本恵美、山本正子、溝根尚子、藤本恵子、山岸真代、松尾美也子	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸市	2015.9.5
こども病院血液検査室におけるフローサイトメトリの取り組み	検査放射線部	瀧本良美、山田知明、佐野恵子、野口啓子、千田園子、松尾美也子	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸市	2015.9.5
新生児聴覚スクリーニング検査の実際 ～検査技師の立場から～	検査放射線部	山本正子		平成 27 年度新生児先天性代謝異常検査及び新生児聴覚検査研修	神戸市	2015.12.24
うちの救急 こども病院編	放射線部	原誠	第 43 回	画像評価部会	神戸	2015.1.24
小児先天性疾患	放射線部	藤井友紀子	第 42 回	CT 部会	加古川	2015.2.21
カテーテルを留置しない小児利尿剤レノグラム検査について	放射線部	北坂佳之	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸	2015.9.5
小児 MRI 検査における Pediatric head-spine coil の有用性について	放射線部	沼田憲作	第 13 回	兵庫県立病院学会	神戸	2015.9.5
カテーテルを留置しない小児利尿剤レノグラム検査について	放射線部	北坂佳之	第 54 回	全国自治体病院学会	函館	2015.10.8-9

4) 報道

テーマ	所属科	発表者名	報道媒体	報道年月日
耳かき、しすぎないで 事故の4割は0-5歳児	耳鼻科	阪本浩一	朝日新聞	2015.11.2
(どうしました) ひどい目やに、病気かも？ 子育て情報ランド 「子どもの成長 (スキミング)」	眼科 指導相談・地域医 療連携部	野村耕治 宅見晃子	朝日新聞 (全国版) サンテレビ	2015.12.15 2015.9.12

5) 実習生・研修生受け入れ状況

①実習生

診療部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部	6年次学外実習	1	6.22～7.3	小児救急医療センター
兵庫県立西宮病院	初期研修医	1	9.1～10.31	小児救急医療センター
神戸大学医学部医学科・保健学科 神戸薬科大学薬学部	1年次学生合同初期体験実習	7	9.9	小児救急医療センター・指導相談地域連携部・薬剤部・検査部・看護部
神戸総合医療専門学校	言語聴覚士学生実習	1	10.19～11.27	耳鼻咽喉科および形成外科外来手術室見学
神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科		2名	4.15～5.19	歯科外来・他

看護部

学校名	実習名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学 看護学部	総合看護 (小児)	10	5.25～6.19	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B、HCU)
	総合看護 (母性)	2	5.25～6.19	産科病棟、GCU
	生涯広域看護	8	6.29～7.10	産科病棟、GCU
	生涯広域看護	8	7.13～7.24	産科病棟、GCU
	実践研究 (4 回生)	8	8.3～9.30	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、4 B、HCU、外来)
	生涯広域看護	17	7.13～7.24	病棟 (6 A、6 B、5 A、5 B、4 B、HCU)
	生涯広域看護	18	10.5～10.16	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、4 B、HCU)
	生涯広域看護	18	10.19～10.30	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、5 B、HCU)
	生涯広域看護	18	11.2～11.13	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、6 B、HCU)
	生涯広域看護	18	11.16～11.27	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、7 B、HCU)
	生涯広域看護	18	11.30～12.11	病棟 (7 F、6 B、5 A、5 B、8 B、HCU)
	生涯広域看護	9	10.19～10.30	産科病棟、GCU
	生涯広域看護	8	11.2～11.13	産科病棟、GCU
	生涯広域看護	9	11.16～11.27	産科病棟、GCU
生涯広域看護	8	11.30～12.11	産科病棟、GCU	

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所	
兵庫県立総合衛生学院 看護学科	小児看護学 (看護学科全日制)	5	6.16~6.25	病棟 (6 A、5 A)	
	小児看護学 (看護学科全日制)	15	7.28~8.7	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B)	
	小児看護学 (看護学科全日制)	17	8.25~9.4	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B)	
	小児看護学 (看護学科定時制)	6	5.12~5.22	病棟 (6 A、6 B)	
	小児看護学 (看護学科定時制)	12	9.8~9.18	病棟 (7 F、5 A、5 B、4 B)	
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	9.14~9.16	産科病棟	
	母性看護学 (看護学科定時制)	6	10.13~10.15	産科病棟	
	体出生児の看護	4	9.29~10.1	GCU	
	体出生児の看護	4	1.6~1.8	GCU	
	体出生児の看護	4	1.12~1.14	GCU	
神戸常磐大学 看護学部	課題別総合実習 (4回生)	8	6.29~7.7	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B)	
	小児看護学	9	8.13~8.14	病棟 (7 F、6 A、6 B、5 A、5 B、4 B)	
	統合実習	7	8.17~8.28	病棟 (6 B、5 A、5 B、4 B)	
	こども看護	6	9.14~10.1	病棟 (6 A、6 B)	
	こども看護	3	10.5~10.9	病棟 (6 A)	
	こども看護	3	10.19~10.23	病棟 (6 A)	
	こども看護	3	11.2~11.6	病棟 (6 A)	
	こども看護	3	11.16~11.20	病棟 (6 A)	
	こども看護	3	11.24~12.4	病棟 (6 A)	
	こども看護	3	12.7~12.11	病棟 (6 A)	
神戸市看護大学 学部	こども看護	7	1.18~1.22	病棟 (6 A、6 B)	
	ウィメンズヘルス看護	22	10.5~10.29(2日間、2~3名ずつ)	GCU	
	博士前期課程小児看護学特講演習	1	6.15~3.31	GCU、外来	
	小児病棟保育実習	2	8.17~8.28	病棟 (7 F、4 B)	
	小児病棟保育実習	2	8.31~9.11	病棟 (6 A、5 B)	
	小児病棟保育実習	1	2.15 ~2.26	6A	
	見学実習	49	8.28		
	見学実習	39	2.9		
	川崎医療短期大学 保育学科				
	姫路獨協大学 こども保健学科	見学実習			
見学実習					
松江総合医療専門学校 看護学科	見学実習				
	見学実習				
阪奈中央看護学校 看護学科	見学実習				
	見学実習				

薬剂部

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫医療大学 薬学部	薬学生実務実習	1	9.28～12.13	薬剂部と主な部署
神戸薬科大学	薬学生実務実習	1	9.28～12.13	薬剂部と主な部署

検査・放射線部（検査）

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
神戸大学医学部保健学科 検査技術学専攻	臨地実習	1	1.15	検査部
神戸大学医学部保健学科 検査技術学専攻	臨地実習	2	1.16	検査部
徳島大学医学部保健学科 検査技術科学専攻	臨地実習	2	3.16	検査部

栄養管理課

学 校 名	実 習 名	実習生数	実習期間	実習場所
兵庫県立大学 環境人間学部	臨床栄養臨地実習、給食経営管理臨地実習	4	2.16～2.27	栄養管理課
同志社女子大学 生活科学部	臨床栄養学臨地・校外実習	3	3.2～3.13	栄養管理課
神戸女子大学 家政学部	臨床栄養学臨地実習	4	2.2～2.13	栄養管理課
神戸女子大学 家政学部	臨床栄養学臨地実習	2	6.22～7.3	栄養管理課
神戸女子大学 家政学部	臨床栄養学臨地実習	4	7.6～7.17	栄養管理課
神戸女子大学 家政学部	臨床栄養学臨地実習	2	8.17～8.28	栄養管理課
神戸女子大学 家政学部	臨床栄養学臨地実習	4	8.31～9.11	栄養管理課
神戸学院大学 栄養学部	管理栄養士臨地実習	2	6.22～7.3	栄養管理課
神戸学院大学 栄養学部	管理栄養士臨地実習	2	8.17～8.28	栄養管理課
武庫川女子大学 生活環境学部	臨床栄養学実習	2	6.1～6.12	栄養管理課

②研修生
診療部

依頼元	研修科	研修生数	研修期間	研修場所
神戸赤十字病院 卒後臨床研修委員会	産科研修	6	1ヶ月ずつ	産科病棟、外来、手術室など
尼崎総合医療センター	放射線科研修	2	4ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など
塚口病院	放射線科研修	1	4ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など
がんセンター	放射線科研修	1	2ヶ月	読影室、超音波室、透視検査室など

看護部

依頼元	研修名	研修生数	研修期間	研修場所
山陽学園大学看護研修センター	皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程	6	12.4、12.21、12.28	病棟、ストマは移設外来

6) 長期院外研修

看護部

研修先施設名	研修名	研修者名	研修期間
北里大学	新生児集中ケア認定看護師教育課程	梁 京玉	10.1～3.25
日本看護協会 神戸研修センター	感染管理認定看護師教育課程	穂満 茜	8.31～3.9

6. 研修 (2015年)

1) 公開研修会

名称	主催	開催日	時間	場所	院内参加数	院外参加数	合計	テーマ	発表者 / 担当
第204回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月8日	17:45～18:30	研修室AB	31	1	32	『当院における頭部外傷のまとめ』	
第205回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	1月22日	17:45～18:30	研修室AB	24	0	24	『小児救急・集中治療領域における連続脳波モニタリング』	
第206回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	2月12日	17:45～18:30	研修室AB	25	2	27	『小児の失神の実際』	
第207回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	2月26日	17:45～18:30	研修室AB	13	2	15	『眼科における先天性眼振の管理と治療』	
第208回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	3月12日	17:45～18:30	研修室AB	33	3	36	『知っているのと役に立つ小児呼吸器疾患の画像』	
第209回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	4月9日	17:45～18:30	研修室AB	28	1	29	『兵庫県立こども病院における日帰り手術』	
第210回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	4月23日	17:45～18:30	研修室AB	30	0	30	『当院での胚芽腫治療経験』	
第211回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	5月14日	17:45～18:30	研修室AB	0	0	0	中止	
第212回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	5月28日	17:45～18:30	研修室AB	26	1	27	『致死性と言われる骨系統疾患の管理について』	
第213回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	6月11日	17:45～18:30	研修室AB	27	4	31	『当院で行っている胎児治療』	
第214回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	6月25日	17:45～18:30	研修室AB	32	2	34	『兵庫県立こども病院における鏡視下手術の現況』	
第215回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	9月10日	17:45～18:30	研修室AB	18	2	20	『当科における軽中等度難聴児補聴器購入費助成制度 利用の現況 ～新生児聴覚スクリーニング検査後の精密聴力検 査とあわせて～』	
第216回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	9月24日	17:45～18:30	研修室AB	24	2	26	『食物アレルギーの‘これ食べてもいいですか?’に 答えるー軽症から重症までー』	
第217回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月8日	17:45～18:30	研修室AB	22	0	22	『小児の骨折 初期診療のポイント』	
第218回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	10月22日	17:45～18:30	研修室AB	36	5	41	『発達に気になる児への評価と支援の流れ』	
第219回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月12日	17:45～18:30	研修室AB	17	0	17	『腎臓内科での移行期支援の取り組み』	

第220回こども病院 症例検討会	研修教育委員会	11月26日	17:45～18:30	研修室AB	33	1	34	『なんともなく気になる児への関わり -軽度発達障害を考える-』 1) 先天性心疾患合併妊婦への医療連携 2) 当院にお ける新生児呼吸管理—新生児組成から慢性期管理ま で—3) 特別講演「神戸大学エキスパートメディカル スタッフ育成コースと産科医療補償制度原因分析委 員会の取組について」	鳥井 隆志
平成27年度兵庫県 周産期医療研修会	産科・新生児科	12月12日	14:00～17:30	兵庫県 医師会館					
兵庫県看護協会ラ ダーII研修	兵庫県看護協 会	1月19日		兵庫県看護 協会				看護に活かす栄養管理の基礎と実践	鳥井 隆志
全国こども病院 NSTの会	こども病院	2月11日		こども病院 研修室	17	52	69	全国こども病院NSTの会 JSPEN2015予演会	鳥井 隆志
第4回糖尿病栄養指 導技術を考える会	糖尿病栄養指 導技術を考え る会	6月7日		堂島リバー フォーラム				病院栄養士のMBA 体験記	鳥井 隆志
第4回糖尿病栄養指 導技術を考える会	糖尿病栄養指 導技術を考え る会	6月7日		堂島リバー フォーラム				食事・栄養療法への取り組み 症例検討&グループディスカッション	鳥井 隆志
こども病院 看護 部新人職員研修	こども病院	6月19日		こども病院				小児の栄養管理について	鳥井 隆志
県立西宮病院 NST 専門療法士臨床実 習	県立西宮病院	6月24日		県立西宮病院				小児の栄養管理(講義)と症例検討(グループワーク) について	鳥井 隆志
腎臓内科親と子の 教室	こども病院	8月8日		こども病院		22	22	その症状 食事に関係しているかも	鳥井 隆志
和歌山県栄養士会 生涯学習	和歌山県栄養 士会			県民交流プ ラザ和歌山 ビック愛				調査研究・研究方法・研究発表 知識や技術の習得デ ータ解析、プレゼンテーションを学ぼう	鳥井 隆志
摂食部会スキルア ップ研修会	こども病院	9月29日		こども病院				小児の栄養管理(摂食嚥下に関する最近の話題)	鳥井 隆志

2) 院内全体研修

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	講師 / 発表者	所属
平成 27 年度放射線安全研修会	放射線安全委員会	7月31日	15:30～17:00	研修室AB	66	①放射線の人体への影響 ②MRI検査の安全性について ③核医学検査について ④放射線被ばくについて ⑤放射線治療について	赤坂好宣 沼田憲作 芦原龍彦 原 誠 原 誠	
MRI検査の安全対策研修会	放射線部	11月26日	17:30～19:00	研修室D	20	MRI検査担当看護師へのMRI検査の安全対策	沼田憲作	診療部、看護部 薬 劑 部、 検査部放射線 部、栄養管理 課、リハビリ
医療安全研修会	医療安全対策室	3月10日	17:30～18:30	研修室AB	159名	各部門の安全への取り組み報告会	各リスク マネージャー	
医療安全研修会	医療安全対策室	5月26日	17:30～19:00	研修室AB	189名	医療安全と医療コミュニケーション	辰巴陽一郎	近畿大学医学 部附属病院
第3回 検査部研修会	検査部	11月5日	17:30～18:30	研修室AB	39	グラム染色について 他	河村 規子	検査部
輸血療法委員会研修会	輸血療法委員会	11月10日	17:30～18:50	研修室AB	47	安全な輸血	橋本 誠	神戸大学医学 部附属病院
全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	3月13日	17:30～18:30	研修室AB	96	個人防護具は、交換のタイミングと脱ぎ方が大事!	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	3月18日	17:30～18:30	研修室AB	129	個人防護具は、交換のタイミングと脱ぎ方が大事!	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	7月24日	17:30～18:30	研修室AB	203	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会	感染対策委員会	8月3日	17:30～18:30	研修室AB	194	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会 DVD視聴会	感染対策委員会	10月5日	①12:00～12:45 ②14:00～14:45 ③17:30～18:15	研修室AB	①26 ②36 ③28	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会 DVD視聴会	感染対策委員会	10月9日	17:30～18:15	研修室AB	32	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会 DVD視聴会	感染対策委員会	10月15日	17:30～18:15	研修室AB	55	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
全職員対象感染対策研修会 DVD視聴会	感染対策委員会	10月20日	17:30～18:15	研修室AB	52	アウトブレイクから学ぶ	感染対策チーム	感染対策委員会
抗菌薬勉強会	感染対策委員会	7月28日	17:30～18:30	研修室AB	25	抗菌薬の適正使用(小児科領域を中心に)	大岡均至	神戸医療センター

3) 複数科合同カンファレンス

名称	対象科	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	手術・麻酔担当医
麻酔科・心臓外科・循環器科 合同カンファレンス	麻酔科、心臓外科、循環器内科、看護師、臨床 工学技士	通年、毎日	7:55～8:10	ICU	15	当日の心臓外科症例についてのカンファレンス	
ICUカンファレンス	心臓外科・ICU患者関連部署	毎日	10:30～11:00	ICU	約10	ICU患者についてのカンファレンス	
心臓外科術前症例検討会	心臓外科・臨床工学士・手術室看護師	毎週月曜日	8:15～9:00	本館4階 カンファレ ンスルーム	約10	その週の心臓外科手術症例についての術前カン ファレンス	
循環器カンファレンス	循環器科・心臓外科・麻酔科	毎週月曜日	17:00～	本館4階 カンファレ ンスルーム	約15	心臓カテーテル検査症例や手術検討症例につい てのカンファレンス	
循環器抄読会	循環器科・心臓外科	隔週木曜日	8:30～9:00	本館4階 カンファレ ンスルーム	約15	最近の小児循環器関連の文献より	
心臓外科術後症例検討会	心臓外科・臨床工学士	毎週金曜日	8:15～9:00	本館4階 カンファレ ンスルーム	約10	一週間の心臓外科手術症例についての術後カン ファレンス	
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、 神戸大学小児科、病理	1月6日	17:30～19:00	研修室C	25	1) 骨肉腫胸腔内再発 (9歳女児) 2) 神経芽腫 (5歳女児) 3) 神経芽腫疑い、多発骨転移 (6歳女児) 4) 小脳腫瘍 (8歳女児) 5) 脳腫瘍 (4歳女児)	
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 形成外科、病理	1月20日	17:30～18:30	研修室C	25	1) 脊柱管内腫瘍 (0歳5カ月男児) 2) 腹壁腫瘍 (2歳男児) 3) 左網膜芽腫 (0歳7カ月男児) 4) Wilms腫瘍 (6歳女児) 5) 神経芽腫 (6歳女児) 6) 肝芽腫 (0歳4カ月女児)	
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 形成外科、麻酔科、病理	1月27日	17:30～18:40	研修室C	25	1) 髄芽腫 (4歳女児) 2) 脳腫瘍 (17歳男児) 3) 右網膜芽腫 (5歳女児) 4) 腹壁腫瘍 (2歳男児) 5) Wilms tumor (9歳女児) 6) 肝芽腫 (0歳4カ月女児)	
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、眼科、 耳鼻科、病理	2月3日	17:30～18:50	研修室C	21	1) 小脳腫瘍 (8歳女児) 2) 頰部腫瘍 (13歳女児) 3) 左副腎神経芽腫 (6歳女児) 4) 神経芽腫、stage4 (10歳女児) 5) 肝芽腫 (0歳4カ月女児)	
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	2月9日	17:30～18:00	研修室C	23	1) 頭蓋骨腫瘍 (13歳女児) 2) 神経芽腫 (2歳男児) 3) 肝芽腫 (6歳男児)	

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、形成外科、耳鼻科、病理	2月17日	18:00～20:00	研修室C	26	<ul style="list-style-type: none"> 1) Epithelioid sarcoma (18歳女児) 2) 右大腿部痛 (16歳男児) 3) 頸部腫瘍 (13歳女児) 4) 神経芽腫再発 (2歳男児) 5) 小脳腫瘍 (8歳女児) 6) 右小脳腫瘍 (8歳男児) 7) テスモイド型線維腫 8) Wilms腫瘍 (6歳女児) 9) DLBCL (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	2月24日	17:30～18:00	研修室C	24	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右網膜芽腫 (2歳女児) 2) 小脳腫瘍 (8歳男児) 3) テント上腫瘍 (11歳)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、整形外科、病理	3月3日	17:30～18:00	研修室C	22	<ul style="list-style-type: none"> 1) LCH (4歳女児) 2) 左網膜芽腫 (0歳8カ月児) 3) Medulloblastoma (8歳男児) 4) Wilms腫瘍 (6歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	3月10日	17:30～18:00	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳上衣腫 (8歳女児) 2) 上咽頭がんstage3 (13歳女児) 3) 右網膜芽腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	3月17日	18:30～20:00	研修室C	18	<ul style="list-style-type: none"> 1) Epithelioid sarcoma (18歳女児) 2) 神経芽腫stage4 (4歳女児) 3) 神経芽腫 (6歳女児) 4) 頭蓋骨腫瘍疑い (1歳5カ月女児) 5) テント上脳腫瘍 (11歳男児) 6) 視神経腫、間脳症候群 (6歳男児) 7) immature teratoma (0歳7カ月男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	3月23日	17:30～18:45	研修室C	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 髄膜腫 (13歳女児) 2) 右骨盤Ewing sarcoma (16歳女児) 3) neuroblastoma, stage4 (0歳8カ月女児) 4) neuroblastoma疑い (1歳5カ月女児) 5) 肝芽腫、Beckwith-Wiedemann (0歳6カ月女児) 6) 前額部腫瘍 (1歳6カ月女児) 7) 神経芽腫stage4 (10歳3カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	3月31日	17:30～18:45	研修室C	23	<ul style="list-style-type: none"> 1) Epithelioid glioblastoma (11歳男児) 2) fibromatosis (7歳女児) 3) 神経芽腫stage4 (4歳女児) 4) 前額部腫瘍 (1歳6カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	4月7日	17:30～18:20	研修室C	21	<ul style="list-style-type: none"> 1) 小脳anaplastic ependymoma (8歳女児) 2) Neuroblastoma (1歳6カ月女児) 3) 神経芽腫 (6歳女児) 4) 右網膜芽腫 (5歳1カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、腎臓内科、病理	4月14日	17:30～18:00	研修室C	17	<ul style="list-style-type: none"> 1) 肝芽腫 (0歳7カ月女児) 2) 左基底腫瘍 (19歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	4月21日	17:30～18:00	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 左網膜芽細胞腫 (3歳女児) 2) 声門下腫瘍

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、病理	4月27日	17:30～19:00	研修室C	21	1) 右骨盤Ewing sarcoma (16歳女児) 2) fibromatosis (7歳女児) 3) 声門下腫瘍 (1歳4カ月男児) 4) 神経芽腫 (6歳女児) 5) 右網膜芽細胞腫 (2歳女児) 6) 左網膜芽細胞腫 (0歳10カ月時)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科	4月29日	16:00～16:30	救急 カンファレ ンスルーム	14	1) 腹部腫瘍 (0歳9カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、 代謝内分泌科、耳鼻科、病理	5月12日	18:00～19:00	研修室C	21	1) 褐色細胞腫、von Hippel Lindau病 (9歳女 児) 2) 肝腫瘍 (0歳8カ月女児) 3) 腹部腫瘍 (0歳9カ月女児) 4) 悪性リンパ腫疑い (13歳男児) 5) 左網膜芽細胞腫 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	5月19日	17:30～17:50	研修室C	12	1) 神経線維腫症 (11歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	5月21日	16:00～16:15	救急 カンファレ ンスルーム	11	1) 腹腔内腫瘍、多発肺転移 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	5月25日	19:20～19:50	研修室C	13	1) 神経芽腫stage4 (4歳女児) 2) 腹腔内腫瘍 (0歳2カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 病理	6月2日	17:30～18:15	研修室C	17	1) immature teratoma (0歳10カ月男児) 2) 腹腔内腫瘍、腹膜播種、多発肺転移 (2歳女 児) 3) 右網膜芽腫 (5歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	6月9日	17:30～18:30	研修室C	15	1) 神経芽腫 (6歳女児) 2) 神経芽腫stage4 (4歳女児) 3) 腹腔内腫瘍 (2歳女児) 4) Wilms腫瘍 (6歳女児) 5) 左網膜芽細胞腫 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 病理	6月16日	17:30～18:30	研修室C	16	1) 髓芽腫 (8歳男児) 2) 脳幹部glioma (7歳男児) 3) 神経芽腫stage4 (6歳女児) 4) 右頬粘膜炎横紋筋肉腫 (20歳男性) 5) 顎下部腫瘍 (15歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	6月22日	17:30～18:20	研修室C	20	1) 左副腎腫瘍 (2歳男児) 2) 肝腫瘍疑い (1歳3カ月女児) 3) 右網膜芽腫 (0歳4カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 整形外科、病理	6月30日	17:30～18:30	研修室C	21	1) 骨腫瘍 (5歳6カ月女児) 2) 小脳腫瘍 (4歳0カ月男児) 3) 肝腫瘍 (1歳3カ月女児) 4) 神経芽腫疑い (16歳女児) 5) 甲状腺腫瘍 (7歳男児) 6) 右網膜芽腫 (0歳4カ月女児) 左網膜芽細胞腫 (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、泌尿器科、 病理	7月7日	17:30～18:00	研修室C	15	1) 膀胱腫瘍 (3歳8カ月女児) 2) 小脳退形成上衣腫 (9歳女児) 3) PNET (4歳男児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科 病理	7月14日	17:30～18:25	研修室C	15	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右大腿骨骨腫瘍疑い (5歳児) 2) DLBCL (14歳男児) 3) 回盲部リンパ腫 (10歳女児) 4) 髄芽腫 (4歳男児) 5) Epithelioid glioblastoma (12歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	7月20日	17:30～18:15	研修室C	17	<ul style="list-style-type: none"> 1) 左副腎腫瘍 (2歳男児) 2) 腹部腫瘍 (1歳女児) 3) 脾腫瘍 (13歳女児) 4) 右網膜芽腫 (1歳4カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	7月28日	18:30～19:00	研修室C	13	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右側頭部腫瘍 (3歳女児) 2) 脊柱管内腫瘍 (1歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、代謝内科、 眼科、病理	8月11日	17:30～19:00	研修室C	21	<ul style="list-style-type: none"> 1) 難治性皮疹 (1歳男児) 2) 褐色細胞腫、VHL病 (9歳女児) 3) 脾腫瘍 (13歳女児) 4) 左頸部腫瘍 (7歳女児) 5) NF1、腹腔内腫瘍 (11歳男児) 6) 左網膜芽腫 (4歳男児) 7) 右網膜芽腫 (0歳5カ月女児) 8) 右網膜芽腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	8月18日	17:30～18:30	研修室C	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 腹部腫瘍 (1歳女児) 2) 左頸部腫瘍 (7歳女児) 3) 右網膜芽腫 (1歳4カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	8月25日	18:15～18:45	研修室C	15	<ul style="list-style-type: none"> 1) 頭蓋内胚細胞性腫瘍 (13歳女児) 2) LCH (1歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、 泌尿器科、病理	9月1日	17:30～18:10	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) 腹部腫瘍 (1歳女児) 2) PNET (5歳男児) 3) 横紋筋肉腫 (2歳女児) 4) 肝腫瘍疑い (13歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	9月8日	17:30～18:00	研修室C	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 肝腫瘍 (2歳女児) 2) 左網膜芽細胞腫 (1歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	9月15日	17:30～18:40	研修室C	20	<ul style="list-style-type: none"> 1) anaplastic medulloblastoma (9歳男児) 2) 肝芽腫 (2歳女児) 3) 神経芽腫 (7歳女児) 4) 横紋筋肉腫 (2歳女児) 5) 腹部腫瘍 (1歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、 病理	9月23日	17:30～18:30	研修室C	15	<ul style="list-style-type: none"> 1) 左眼窩腫瘍 (3歳女児) 2) 未熟奇形腫 (1歳男児) 3) ATRT治療後 (3歳男児) 4) 鞍上部germinoma中間リスク群 (18歳女児) 5) 神経芽腫 (1歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、病理	9月28日	17:30～18:00	研修室C	13	<ul style="list-style-type: none"> 1) PNET (4歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、眼科、病理	10月6日	17:15～18:15	研修室C	19	<ul style="list-style-type: none"> 1) 右網膜芽腫 (0歳7カ月女児) 2) 腹腔内腫瘍 (8歳女児) 3) 神経芽腫 (2歳男児) 4) 皮下腫瘍 (1歳男児) 5) 後縦隔～後腹膜腫瘍 (19歳男性)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、脳外科、眼科、病理	10月13日	17:40～18:00	研修室C	17	1) 小脳腫瘍 (4歳女児) 2) 右網膜芽腫 (2歳女児) 3) 左眼窩腫瘍 (3歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	10月20日	17:30～18:30	研修室C	19	1) LCH疑い (5歳児) 2) 小脳芽腫 (5歳男児) 3) 縦隔卵黄嚢腫瘍 (9歳女児) 4) 神経芽腫 (2歳男児) 5) 肝芽腫 (2歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	10月26日	17:30～18:30	研修室C	15	1) 髓芽腫 (4歳女児) 2) 縦隔卵黄嚢腫瘍 (9歳女児) 3) 左卵巢腫瘍 (8歳女児) 4) 神経芽腫 (1歳男児) 5) リンパ腫の疑い (14歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、整形外科、耳鼻科、病理	11月3日	17:30～18:30	研修室C	17	1) 頰部腫瘍 (3歳男児) 2) 左胛骨腫瘍 (5歳女児) 3) 神経芽腫 (1歳男児) 4) 腹部腫瘍 (1歳女児) 5) ALCL第2再発疑い (15歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	11月10日	17:30～18:30	研修室C	17	1) 頰部リンパ節腫脹 (14歳女児) 2) 肝芽腫 (2歳女児) 3) 肝内腫瘍 (0歳3カ月児) 4) 腎芽腫疑い (6歳児) 5) 退形成上衣腫 (7歳男児) 6) 頭部腫瘍性病変 (0歳9カ月児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、形成外科、病理	11月17日	17:30～18:30	研修室C	25	1) Epithelioid sarcoma (19歳女性) 2) 腎芽腫疑い (6歳4カ月女児) 3) LCH (0歳9カ月男児) 4) AT/RT (3歳7カ月男児) 5) 頭蓋内胚細胞性腫瘍 (13歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、病理	11月23日	17:30～18:10	研修室C	16	1) 肝芽腫 (2歳3カ月女児) 2) 胸部陰影 (15歳男児) 3) immature teratoma (1歳男児) 4) 神経膠芽腫 (9歳女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、眼科、病理	12月1日	17:30～18:40	研修室C	26	1) 右肩甲骨下腫瘍 (4歳女児) 2) Neuroblastoma (2歳女児) 3) 神経膠芽腫 (9歳女児) 4) 腎芽腫疑い (6歳女児) 5) 神経芽腫 (7歳女児) 6) 後縦隔腫瘍 (9歳女児) 7) 右網膜芽腫 (0歳9カ月女児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、耳鼻科、病理	12月8日	16:40～17:00	放射線読影室	13	1) 耳前部腫瘍 (14歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、形成外科、病理	12月8日	17:20～18:30	研修室C	17	1) infantile myofibromatosis (0歳6カ月男児) 2) 右肩甲骨下腫瘍 (4歳女児) 3) 髓芽腫 (4歳男児) 4) 肝内多発腫瘍 (0歳5カ月男児) 5) 後腹膜腫瘍 (2歳5カ月男児) 6) 神経芽腫 (2歳女児)

腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、眼科、病理	12月15日	18:30～19:30	研修室C	19	1) 右網膜芽細胞腫 (2歳7カ月男児) 2) PNET (13歳男児) 3) ソケイ部リンパ節腫大 (2歳男児) 4) 胸部異常陰影 (15歳男児) 5) 横紋筋肉腫 (19歳男児) 6) 神経芽腫 (2歳男児)
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、病理	12月17日	12:30～12:50	救急カンファレンスルーム	8	1) 肝内多発腫瘍
腫瘍カンファレンス	血液腫瘍科、放射線科、外科、脳外科、整形外科、病理	12月21日	17:30～18:30	研修室C	24	1) 右肩甲骨下腫瘍 (4歳女児) 2) 小脳ependymoma (9歳女児) 3) 髄芽腫 (9歳男児) 4) 小脳髄芽腫 (4歳女児) 5) 神経膠芽腫 (9歳女児)
周産期カンファレンス	産科、新生児科、小児外科、病理診断科、看護師、検査技師、薬剤部	毎月 (月が休日の場合は火)	16:30～16:55	産科外来指導室	18～21	未分娩の症例提示と新生児の経過報告
ウィークエンドカンファレンス	産科、看護師、薬剤部	毎金 (金が休日の場合は木)	16:00～16:25	産科病棟 語所	8～10	産科入院症例の検討
MRIカンファレンス	産科、放射線科	隔月の最終週の月か金	17:00～17:40	放射線科 読影室	10～12	胎児MRI撮影症例の提示と読影、新生児の画像紹介
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	4月24日	15:35～16:50	整形外科 ギブス室	11	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者13名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	8月7日	15:40～16:30	整形外科 ギブス室	13	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者14名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	10月30日	15:35～16:25	整形外科 ギブス室	7	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者15名
二分脊椎外来カンファレンス	脳神経外科 整形外科 泌尿器科 皮膚・排泄ケア認定看護師	12月25日	15:35～16:45	整形外科 ギブス室	8	二分脊椎外来を受診した新規患者および要観察患者の情報共有 対象患者19名
医療者カンファレンス	血液内科	7月10日	15:40～16:10	6A	8名	脳腫瘍患者の支援について
医療者カンファレンス	脳外科	10月19日	9:30～10:00	6A	8名	長期入院患者の他施設以降に関して
医療者カンファレンス	血液内科	2月1日	15:00～15:40	6A	9名	脳腫瘍患者の支援について
医療者カンファレンス	血液内科	2月22日	15:30～16:10	6A	6名	同上

4) 部署別勉強会・カンファレンス

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
第1回こども病院精神科心理検査・カウンセリング勉強会	精神科	7月26日	14:00～16:00	指導相談部こあらの部屋	12	注意欠陥多動性障害の検査所見	高橋 明日香
第2回こども病院精神科心理検査・カウンセリング勉強会	精神科	8月29日	14:00～16:00	指導相談部こあらの部屋	10	バウムテストの見方	田代 伸也
第3回こども病院精神科心理検査・カウンセリング勉強会	精神科	10月18日	14:00～16:00	指導相談部こあらの部屋	10	強迫性障害の検査所見	河合 麻衣子
第4回こども病院精神科心理検査・カウンセリング勉強会	精神科	11月15日	14:00～16:00	指導相談部こあらの部屋	10	心因性遺棄症の検査所見	淀谷 美子
第5回こども病院精神科心理検査・カウンセリング勉強会	精神科	12月13日	14:00～16:00	指導相談部こあらの部屋	10	広汎性発達障害の検査所見	高橋 明日香
心臓センター第1回勉強会	心臓センター	2月27日	18:00-19:30	研修室AB	約40名		
麻酔科カンファレンス	麻酔科	毎日	8:30～9:00	手術室内麻酔科医控室	16	毎日の麻酔症例についての検討	麻酔科統括
心臓センター勉強会	心臓センター	12月4日	17:30～18:30	研修室AB	看護師12名 医師1名	フアンタン型手術に向かう患者の移行期支援としてのドーズ・オブ・カレッジR	本田・坂本・西川
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/5	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	2015研究計画	和田 佳子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/7	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	陰嚢内血腫を呈した副腎出血	角 健司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/12	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	難治性胸水を合併したNoonan類縁疾患	江口 武志
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/14	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	pneumatoceleの1例	武岡 恵美子
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/19	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	VLBW児のMRI研究	生田 寿彦
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/21	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	TOFの1例	神納 幸治
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/26	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	インドメタシン投与後の小腸穿孔	角 健司
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/1/28	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	CLDに対するSTA洗浄投与	秋田 大輔
新生児クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/2/2	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	黄疸研究	坂井 仁美

新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/2/4	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	副腎不全研究	和田 佳子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/2/9	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	呼吸障害を伴った先天性甲状腺機能低下症	江口 武志
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/2/11	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	MD双胎で一児IUGFDの生存児	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/2/16	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9		秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/4	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	UC基準値の妥当性について	坂井 仁美
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/9	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9		和田 佳子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/11	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	呼吸障害を伴った先天性甲状腺機能低下症	江口 武志
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/16	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	日齢1に肺出血を来した27週超早产児	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/18	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	VLBW児のMRIでの側脳室拡大と予後	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/23	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	PDAの治療介入	神納 幸治
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/3/25	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ルーチン PDA	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/1	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	オリエンテーション	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/6	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	V-V ECMOにより管理した先天性横隔膜ヘルニアの1例	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/8	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ルーチン CLD	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/13	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ルーチン 黄疸	坂井 仁美
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/15	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ルーチン apnea	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/20	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	GALDを疑う一例	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/22	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	血液型不適合妊娠	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/27	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	TTTSの1例	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/4/29	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	CLDの1例	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/6	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	TAPS	上月 愛瑠
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/11	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	消化管穿孔	秋田 大輔

新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/13	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ECMOを施行した横隔膜ヘルニア	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/18	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	Prader-Willi症候群	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/20	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	先天異常症候群	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/5/25	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	致死性と言われる骨系統疾患の管理	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/1	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	遷延性低Ca血症を来したlate pretermの児	上月 愛留
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/3	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ルーチン CLLD	坂井 仁美
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/8	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	血管腫に対するβ blocker	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/15	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	先天性CMV感染	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/17	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	母体MgSO4投与とINDOの効果の関連性	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/22	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	CLDに対してHOTを導入した児の1歳半での予後	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/24	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	GI療法	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/6/29	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	肺出血	上月 愛留
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/1	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	遷延する呼吸障害を合併した先天性甲状腺機能低下症の2例	江口 武志
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/1	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	大動脈縮管を合併した超早産児の1例	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/6	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	CLD罹患児における心電図変化	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/8	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	VLBW児のMRIでの側脳室拡大と予後	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/13	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	甲状腺疾患合併妊娠	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/15	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	レボチロキニンナトリウム内服を契機の晩期循環不全	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/20	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	副腎出血を合併したBeckwith-Wiedeman症候群	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/22	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	Noonan-like-syndorome	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/27	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	TAPS	上月 愛留
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/7/29	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	IVHと肝不全にて死亡した1例	武岡 恵美子

新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/3	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	黄疸研究	坂井 仁美
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/5	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	9	ピエローバロバン症候群	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/10	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	術後乳糜胸水	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/12	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	VLBWで出生した18trisomy	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/17	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	重症CLDを呈した22週で出生したELBW	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/19	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	HFO管理におけるVtHf	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/24	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	黄疸研究	坂井 仁美
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/8/26	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	TAFD	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/2	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	胆汁うっ滞	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/7	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	PIHとFGR	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/9	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	羊水過多と経口摂取不良の児	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/14	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	両側気胸と頭蓋内出血を来した超早产児	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/16	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	日本小児科学会 予演会	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/23	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	TAPSの1例	上月 愛留
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/28	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	CCAMの1例	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/9/30	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	代謝性アシドーシスが遷延したMdtwin	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/7	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	胎便関連性腸閉塞	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/12	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	大動脈縮窄症を合併した超低出生体重児	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/14	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	HOT導入の上退院したCLD児の1歳半時の予後	芳本 誠司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/19	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	母体MgSO4投与とINDOの効果の関連性	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/21	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	呼吸障害の管理	谷澤 直子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/26	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	PROM	角 健司

新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/10/28	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	超早産児へのGI療法	秋田 大輔
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/4	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	動脈管早期閉鎖	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/9	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	乳び胸水を合併した早産児	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/11	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	重症CLDで一酸化窒素吸入療法を施行した児	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/16	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	13トリソミーの慢性期管理	武岡 恵美子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/18	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	ABO不適合	谷澤 直子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/23	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	胎児水腫の一例	大久保 沙紀
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/11/30	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	脊髄髄膜瘤の一例	角 健司
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/12/2	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	CLDのCTでのスコアリング	玉置 祥子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/12/7	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	羊水過少シークエンスの一例	生田 寿彦
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/12/14	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	血友病	谷澤 直子
新生児 クリニカルカンファレンス	新生児科	2011/12/24	8:00-9:00	NICUカンファレンスルーム	10	先天性乳糜胸の一例	生田 寿彦
産科抄読会	産科	毎金	8:20~8:40	産科病棟医師控え室	7~8	英文医学雑誌から産科関連論文の紹介	
産科症例検討会	産科	年に数回	8:20~8:40	産科病棟医師控え室	7~8	管理に難渋した症例の検討	
産科勉強会1	産科	年に数回	17:30~18:30	産科外来指導室	12~15	若手医師による看護師に対する産科代表的疾患の総説	
産科勉強会2	産科	年に数回	17:30~18:30	産科外来指導室	12~15	医師による看護師に対するCTGや切迫早産の講義	
第1回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	5月21日	17:45~18:02	救急カンファレンス室	14	症例要約シートの書き方	山口 善道
第2回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	6月18日	17:45~18:01	救急カンファレンス室	13	予防接種	楠元 真由美
第3回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	7月16日	17:45~18:00	救急カンファレンス室	12	乳幼児の発達 評価と支援の仕方	宅見 晃子
第4回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	8月20日	17:30~18:00	救急カンファレンス室	9	乳幼児の発達 評価と支援の仕方-その2	宅見 晃子
第5回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	9月17日	17:30~18:00	救急カンファレンス室	25	腹部超音波の基礎-ハンズオンもやります-	山口 善道
第6回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	10月15日	17:45~18:00	救急カンファレンス室	11	腹痛と群酵素上昇を繰り返した胆管拡張症例について~その原因に迫る!	稲熊 洋祐 福澤 宏明
第7回小児科専攻医勉強会	小児科専門医教育研修部会	11月19日	17:30~18:00	救急カンファレンス室	11	ビビらずに聞いてほしい! 小児がんの基礎	石田 敏章

リネン業務職員対象研修会	感染対策委員会	3月30日	15:00～16:00	4F会議室	5	感染対策の基本	鳴滝 由佳
新規採用医師 感染対策オリエンテーション	感染対策委員会	4月1日	9:30～10:00	研修室A	24	感染対策の基本	小坂 嘉之 鳴滝 由佳
リハビリ部門勉強会	感染対策委員会	7月29日	11:00～12:00	耳鼻科	5	感染対策の基本	鳴滝 由佳
薬剤部勉強会	薬剤部	1月21日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「アネメトロ点滴静注液」	
薬剤部勉強会	薬剤部	1月28日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「エネーボ配合経腸用液」	
薬剤部勉強会	薬剤部	2月18日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「イラリス皮下注用」	
薬剤部勉強会	薬剤部	3月4日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「エポルト点滴静注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月10日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「ジローラスタ皮下注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	6月17日	17:30～18:00	薬剤部		症例報告会 「クロファアラピン注を使用した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月8日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「サムスカ錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	7月28日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「メナクトラ注」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月12日	17:30～18:00	薬剤部		症例報告会 「末梢からのアザシチジン投与により投与部位痛が発生した症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	8月25日	17:30～18:30	薬剤部		製品勉強会 「レグバラ錠」	
薬剤部勉強会	薬剤部	10月14日	17:30～18:00	薬剤部		症例報告会 「内服アドヒアランス不良患者への指導について」	
薬剤部勉強会	薬剤部	11月11日	17:30～18:00	薬剤部		症例報告会 「NST介入により栄養状態の改善が見られた症例」	
薬剤部勉強会	薬剤部	12月16日	17:30～18:00	薬剤部		薬剤師専門教育研修報告（がん領域）	
検査部勉強会	検査部	1月27日	16:30～17:30	検査部	11	先天性QT延長症候群と負荷心電図の関係	藤本
検査部勉強会	検査部	2月24日	16:30～17:30	検査部	15	迅速検査について	大島
検査部勉強会	検査部	6月23日	16:30～17:15	検査部	9	慢性骨髓性白血病の診断と治療	アリストルマヤーズ
検査部勉強会	検査部	6月29日	16:30～17:15	検査部	11	標準採血法がドラインと採血時の注意点について	ゴロ
検査部勉強会	検査部	7月27日	16:30～17:15	検査部	6	輸血用血液製剤について	野口
検査部勉強会	検査部	8月25日	16:30～17:00	検査部	10	先天性QT延長症候群の精密検査・プロサーサイトメトリー	大島・瀧本
検査部勉強会	検査部	8月27日	16:00～16:30	検査部	12	巨大腹部腫瘍で発見されたganglioneuroblastomaの2例	橋本・吉田
検査部勉強会	検査部	9月29日	16:30～17:10	検査部	8	細菌検査の基礎と感染対策の必要な耐性菌	河村
検査部勉強会	検査部	10月27日	16:30～17:00	検査部	9	メトトレキサートについて	積水
検査部勉強会	検査部	11月4日	16:30～17:30	検査部	11	新病院の注意点	石橋・駒井
検査部勉強会	検査部	11月19日	16:30～17:30	検査部	9	採血技術について	泊（看護部）
検査部勉強会	検査部	11月24日	16:30～17:10	検査部	7	睡眠時無呼吸症候群について	7kg*
検査部勉強会	検査部	11月25日	16:30～17:30	検査部	9	採血技術について	泊（看護部）
検査部勉強会	検査部	12月22日	16:30～17:15	検査部	14	採血技術について	神田（診療部）
放射線部勉強会	放射線部	1月30日	16:30～17:30	放射線技師室	9	CアームX線TV装置について	東芝
MEカンファレンス	ME	毎日	8:30～9:00	ME室	5	臨床業務、医療機器管理業務についての検討、情報交換	

看護部署内勉強会（2015年度）

名称	主催	開催日	時間	場所	参加数	テーマ	発表者/担当
輸液ライン勉強会	感染対策委員会 医療安全対策 委員会	1月27日	①14:00～14:30 ②14:30～15:00	6F 5F	①10 ②7	プラネクタについて	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	1月5日	11:00～11:45	研修室AB	2	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	2月16日	11:00～11:45	研修室AB	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	4月16日	11:00～11:45	研修室A	2	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	5月1日	11:00～11:45	研修室A	2	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	6月1日	11:00～12:00	4F会議室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	8月1日	11:00～12:00	研修室AB	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	9月1日	11:00～12:00	7F会議室	1	感染対策の基本	鳴滝由佳
看護補助者オリエンテーション	感染対策委員会	10月1日	11:00～12:00	4F会議室	3	感染対策の基本	鳴滝由佳
第1回感染管理スキルアップ研修	看護部	8月5日	8:30～12:30	研修室AB	9	感染防止の基本、感染管理、抗菌薬の適正使用、 洗浄・消毒・滅菌	鳴滝由佳 梶原伸介
第2回感染管理スキルアップ研修	看護部	10月6日	13:30～17:15	研修室AB	9	医療関連感染、病原微生物、職業感染	鳴滝由佳 河村規子
保育士対象感染対策勉強会	感染対策委員会	11月25日	14:30～15:15	7F学習室	6	感染対策の基本	鳴滝由佳
トライやるウィーク 講習	看護部	11月10日	9:30～10:30	研修室AB	8	感染予防講習	鳴滝由佳

勉強会			循環器B病棟	4月21日	17:45～18:45	第一会議室	4	リフレクション（リーダー役割を経験して）	石塚
新人勉強会			循環器B病棟	5月20日	8:30～17:15	5B	6	呼吸管理①	植山
新人勉強会			循環器B病棟	6月9日	17:45～19:00	5B	6	社会人基礎力①	木和田
勉強会			循環器B病棟	6月17日	18:13～18:30	研修室AB	23	ベビーマッサージ	大原
事例検討			循環器B病棟	7月27日	18:00～18:50	研修室C	25	RCA分析	田口
新人勉強会			循環器B病棟	7月30日	17:45～19:00	5B	7	心不全	藤井・川端・林
事例検討			循環器B病棟	8月11日	17:40～18:40	研修室D	22	家族看護	西川・大原・石本
勉強会			循環器B病棟	8月27日	8:45～17:15	5B	5	呼吸管理②	松木
新人勉強会			循環器B病棟	9月18日	17:35～18:45	5B	5	ドレーン管理	林
新人勉強会			循環器B病棟	10月17日	17:45～18:45	5B	3	新生児	佐藤
勉強会			循環器B病棟	10月23日	18:25～18:45	研修室C	24	SOAP	林
新人勉強会			循環器B病棟	11月18日	17:45～19:00	5B	3	社会人基礎力②	木和田
勉強会			循環器B病棟	11月21日	17:45～19:00	第一会議室	3	社会人基礎力 循環器の知識	石塚
勉強会			循環器B病棟	11月25日	17:15～18:00	産科相談室	23	成人教育について	西川
事例検討			循環器B病棟	12月7日	17:50～18:20	第一会議室	11	振り返り	植山

勉強会	一般外科主体 病棟	10月7日	18:00～19:00	研修室C	24	小児の気道狭窄症 診断と外科治療	前田医師/ 黒木 松本
勉強会	一般外科主体 病棟	10月23日	17:30～18:30	4A側会議室	4	胸腔ドレナージ	村上 藤原
勉強会	一般外科主体 病棟	10月29日	17:30～18:30	4A側会議室	4	気管切開	高田 朴
勉強会	一般外科主体 病棟	11月16日	17:30～18:30	研修室D	16	胆道閉鎖症の病態と治療について	横井医師/ 松本 能見
勉強会	一般外科主体 病棟	平28年1月20日	17:30～18:30	4A側会議室	4	人工呼吸器管理	大中 廣富
勉強会	一般外科主体 病棟	2月23日	16:40～17:40	4A側会議室	7	人工呼吸器管理	大中
研修報告会	5A・5B	12月15日	17:30～18:30	研修室AB	15	放射線看護研修、粒子線看護研修を受けて	東谷・古賀
勉強会	5A	5月21日	18:35～19:05	7階会議室	24	白血病等の初発時の観察・アセスメントの視点、ケアについて	後藤
勉強会	5A	6月18日	18:00～18:30	7階会議室	22	化学療法への取り扱いについて	大野、足立、 後藤
勉強会	5A	7月16日	18:15～18:45	7階会議室	18	腫瘍崩壊症候群と化学療法副作用症状と看護	林、鈴木、後 藤
勉強会	5A	8月20日	18:20～18:50	研修室C	20	致死性不整脈時の対応～12誘導・DC～	岡本、安井、 山手
勉強会	5A	9月24日	18:15～18:45	7階会議室	20	骨髄移植後の合併症とケア	山中、大川、 後藤
勉強会	5A	10月15日	18:20～18:50	7階会議室	23	安全カンファレンス～内服処方・投与忘れのヒヤリについて～	河南
勉強会	5A	11月19日	18:15～18:45	7階会議室	22	倫理カンファレンス～疼痛コントロール(プラセボ)について～	竹村、本田
勉強会	5A	12月17日	17:45～18:05	7階会議室	27	症状マネジメント～疼痛の評価・緩和について～	池田

勉強会	5A	1月21日	17:50～19:00	4A病棟	21	蘇生急変シミュレーション	池田、岡本、河島
勉強会	5A	2月18日	17:40～18:10	産科外来室	20	急変場面の振り返りについて	東谷、大野、山中
勉強会	ファイリッブスレスピロニクス合同会社	5月20日	17:30～18:30	外来カンファレンス室	10	呼吸器 トリロジー説明会	ファイリッブス
勉強会	キンキキ酸器	5月25日	17:30～18:30	会議室1	12	呼吸器 HT50/HT70	キンキキ酸器
勉強会	混合B病棟	10月14日	17:30～18:30	研修室D	12	アセスメントの見える看護記録を目指して	栗林佑季
勉強会	混合B病棟	10月28日	17:30～18:30	会議室1	8	脳腫瘍についての概論	河村医師
勉強会	混合B病棟	11月17日	17:30～18:30	混合B病棟	8	火災災害訓練シミュレーション	災害ケア係
勉強会	血液主体病棟	4月23日	17:45～18:45	7F	10	化学療法概論	後藤
勉強会	血液主体病棟	5月23日	17:45～18:45	7F	8	成長発達	井戸
勉強会	血液主体病棟	6月25日	17:45～18:45	7F	10	白血病	加藤・瀬戸
勉強会	血液主体病棟	7月21日	17:45～18:45	7F	9	脳腫瘍・悪性リンパ腫	佐々木・福田
勉強会	血液主体病棟	8月4日	17:45～18:45	7F	8	抗がん剤暴露について	後藤
勉強会	血液主体病棟	8月20日	17:45～18:45	7F	8	発熱時の看護	井戸・加藤
勉強会	血液主体病棟	9月23日	17:30～18:30	7F	28	多職種との連携	症呂地
勉強会	血液主体病棟	10月1日	17:30～18:30	7F	8	疼痛緩和	刈谷

勉強会		血液主体病棟	10月14日	17:45～18:45	7F	10	化学療法抗がん薬曝露予防ガイドライン	後藤
勉強会		血液主体病棟	10月23日	17:30～18:15	7F	11	移植看護	松野
勉強会		血液主体病棟	10月28日	17:30～18:15	7F	8	全身麻酔看護	近藤
勉強会		血液主体病棟	11月9日	17:45～18:45	7F	7	尿崩症看護	田中
勉強会		血液主体病棟	1月12日	17:30～18:15	7F	12	移植看護①	松野
勉強会		血液主体病棟	2月22日	17:30～18:30	7F	6	呼吸器管理	松野
勉強会		血液主体病棟	2月22日	17:00～18:00	7F	15	摂食障害の看護	近藤
勉強会		血液主体病棟	2月29日	17:15～18:15	7F	15	移植看護②	福田、瀬戸
混合病棟、HCU、OP室合同勉強会		混合病棟	10月13日	17:30～19:00	研修室C	32	耳鼻科 扁桃摘出術、アデノイド摘出術について	教育委員
新生児看護勉強会（新生児看護師）		6A病棟	12月21日	17:30～18:50	研修室C	19	18トリソミー患者の看護について	補佐
NICU1年目勉強会		NICU プリセプター会	6月25日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	7	NICUにおける救急蘇生	和久
NICU1年目勉強会		NICU プリセプター会	7月17日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	8	呼吸管理中の児のケア	石井・田村
NICU1年目勉強会		NICU プリセプター会	8月4日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	7	外科疾患（鎮肛・下部消化管閉鎖）	和久
NICU1年目勉強会		NICU プリセプター会	9月18日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	6	安全管理（KYT）	門野
NICU1年目勉強会		NICU プリセプター会	10月16日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	7	入院受け	田村・京谷

NICU1年目勉強会	NICU アプリセプター会	12月17日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	9	経験の少ない日常生活援助技術の習得	井谷・プリセ プター
NICU1年目勉強会	NICU アプリセプター会	1月29日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	7	入院受け振り返り	門野・京谷
NICU1年目勉強会	NICU アプリセプター会	3月1日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	6	看護観	井谷・石井
PNSマインド研修	NICU	9月11日	17:30～18:00	病棟カン ファレン スルーム	25	PNSマインドについて	看護師長補佐
母乳勉強会	NICU	10月9日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	12	母乳基礎	ワーキングG
母乳勉強会	NICU	11月16日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	12	カンガルケア	ワーキングG
母乳勉強会	NICU	1月28日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	12	母乳トラブル 搾乳器	ワーキングG
母乳勉強会	NICU	2月29日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	24	母乳について	ワーキングG
2年目勉強会	NICU	1月23日	17:30～18:30	病棟カン ファレン スルーム	7	2年目処置勉強会(胸腔ドレナージ)	2年目
ラダー勉強会	NICU	1月26日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム	7	4年目事例検討	高野
ラダー勉強会	NICU	3月9日	17:30～19:00	病棟カン ファレン スルーム		4年目事例検討	武田

V ボランティア

ボランティア受け入れ状況（2015年）

ボランティアの状況

ボランティア名	内容	活動人数	活動日	活動場所
神戸市生活指導研究会 こども病院ボランティアグループ	看護用品、医療材料、保育材料の作成	19	毎週月・金	ボランティア室で毎回3名が交代で活動
こども病院ボランティアグループ	子どもの遊び相手、本の読み聞かせ、 外来での患者・家族の受診介助(案内・移動の介助)	14	毎週月～金	病棟・外来

イベントボランティアの状況

アロマセラピー	妊産婦のリラクゼーションセラピーマッサージ (代表：田中美早)	22名	11回	産科外来
クリニックラウン	笑いやユーモアを届けるコミュニケーション (NPO 法人日本クリニックラウン協会)	12名	8回/年	本館病棟・HCU・外来
株式会社 Meister	サッカー選手（岡崎慎司）病院訪問	5名	6月22日	病棟
神戸女子大学須磨キャンパス キッズリーダー部	たなばた会	13名	7月2日	研修室 AB
ゆかこヴォーリンスクール	バイオリンスクールの生徒による演奏会	29名	8月10日	m092469
フルート奏者 竹内 愉美子、 ピアノ奏者 長谷川慶子	フルートとピアノコンサート	2名	10月30日	周産期センター玄関ホール
ライオンズクラブ主催	サンタさん訪問（クリスマス会）	10名	12月16日	研修室 AB
神戸女子大学ボランティアグループ	クリスマス会	13名	12月24日	研修室 AB
NPO 法人兵庫県子ども文化振興協会	おはなし会	3名	1月28日	産科外来 本館病棟・HCU・外来 病棟 研修室 AB m092469 周産期センター玄関ホール 研修室 AB 研修室 AB

